聖書に導かれて
南無妙法蓮華経

1	義人による福音書	H26 年
2	ニッポン人への手紙	H26 年
3	報愛抄	H29 年 3 月
4	真子へ　千華へ	H30 年 3 月
5	エホバ（神）として	Ｒ元年 9 月
6	エホバ（神）として 2	Ｒ２年１月

愛の理解力は神から与えられる。

義人
令和２年

新約聖書

ヨハネの第一の手紙
第３章

わたしたちが神の子とよばれるには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたち、すでに神の子なのである。
世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。

２　愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものになることを知っている。その御姿（みすがた）を見るからである。

３　彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあらわれるように自らをきよくする。

4　すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。
罪は不法である。

5　あなたが知っているとおり、彼は罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんら罪がない。

6　すべて彼におる者は、罪を犯さない。すべて罪を犯すものは彼を見たこともなく、知ったこともない者である。

7　子たちよ。だれにも惑わされてはいけない。彼が義人であると同様に、義を行うのは義人である。

私が神、再臨したイエスであることを信じてほしい。私は自覚と聖書の導きによって生きています。私は世に問いたい。ルサンチマン（恨み）からではなく、人々を弱いとか強いとかに分ける価値観を、もう一度再確認してほしい。後ろからぼっ立て、競争に仕向け、苦しむ人々の姿を見て、悦に入っているのはサタンです。勝つためにはどんな汚いことでもする。負けたものには容赦ない侮辱。そんな世界はもう終わりにしないといけません。どうか皆様のおおらかな賛意をください。私は私の書きものが世に流布されることが唯一サタンへの対抗手段であると訴えます。真実の愛があるからです。ここに共鳴した善人に神の国、不老不死、永遠の命が約束されるでしょう。　すべての経緯が判明します。神の国は近い。永遠の命を確かなものにするため、愛を確実なものにする。すべてはひとりひとりの信仰にある。私を信じて下さい。私は多くの方々が福音にふれ、幸せになり、神の義、愛に、涙も消え去ってゆくことを望んでいます。欲望から放れ、美しい想いを抱くこと、大事です。不完全な人達も誠意と思いやり、信仰

によって神の義を抱き、完全円満な姿、成仏と呼ばれる境涯へと誘われてゆきます。日蓮は久遠元初の仏であり創造主（神）です。つまりイエスと日蓮は同一の存在。復活と成仏、同様に愛に包まれた暖かい境界にあります。私、梶原義人はその名の通り、煩悩が燃え盛る、火事の原野にひとり立つ正義の男です。皆様に真実の信仰を掴んでいただきたい。一人でも多くの人が神の王国の住人になれるよう衷心より願う次第であります。私は三位一体の支持者です。聖霊は固定観念から放れ自由に生きていくことの大切さを体感によって知らせてきます。そして聖書とのダイアローグ（対話）は私にとっての神への自覚を促す基本です。すべての完結が私、義人によってなされるということです。人々の不安を煽るような終末論は展開致しません。ただ何かが生まれ起こるはずです。それだけは確かです。皆様と共に幸福へと歩んでゆきたいです。本物の信仰を抱いて。「子たちよ、誰も惑わされてはならない。彼が義人であると同様に義を行なうものは義人である」（ヨハネの第一の手紙　３章７節）ご覧下さりありがとうございます。「義人の想い」と銘打って、これにて私のあいさつに代えさせて頂きたいと思います。尚、私の他の作品もＰＤＦ（電子書籍）で無料開

放しています。是非、そちらへと宜しくお願い申し上げます。この小道が広く大きな愛の街道となり皆さまの幸福に必ずや貢献されると信じて疑いありません。では、いざ、よろしく。

義人

義人による
福音書

（精神科閉鎖病棟にて）

孤独を味合わないと真の友情は分からない。善とは自由にある。仏とは価値ではからないということである。現段階では善人は尊厳死を迎え悪人は炉でやかれる。

義人は全宇宙の中のひとりであるが、世に命をうける縁からみれば奇跡でもなんでもない不思議だが定められたものである

愚痴も悪口も客観的に利他の心で行えば正義感のあらわれとなる

悪い世を終わらせることは神の自分勝手であろうか、まだ明らかにされていない

三界は我が有、ユダヤから世界へ、日本から宇宙へ宇宙全体を悪から救う、サタンに仏性はあるだろう。しかし本質はかわらない

義人は来るものは拒まなかったが外部とのつながりを断って自分を見つめた

要求ばかりするのは帝王でありサタンからでたものである。神の子は与えることを大切にする

魂の改革には常不軽菩薩のこころが大切である。石を投げられれば逃げまた仏性を拝む、その実践が世を明るくした

人の心は複雑だが世の社会体制もどんどん難しくなり混迷してきている

人の心が単純化されたのはまずく体制をシンプルなものに変えなければならない

義人は駄目人間からスタートした、絶望に至り、そこからまた始まった。イエスは愛と正義に満ちて義人を苦しめた

民は花が咲くよう草が生えるよう教化されていった

親よりも子供が正しいこともある、義人はまた人の権利を尊重し対機説法を試みた。しかしひとびとは原理を説くだけでは回心しなかった

人々は何のために働いているのか分からなくなり、金銭を目的としていった

理想をすて自らのエゴの為の結婚にはしった人もいる

夫婦間の会話もなく錯覚の愛に甘んじている人もいる

心に神仏がいないから人は孤独でありさみしく思う、地道に成仏へと歩もう。

楽しい。一緒にいるだけでいいという結婚が本当

であろう

義人はイエスのことを思い殺した。そして一体となった。これで子殺しの罪は清められた

注意深いことは神の心にかなうが神経質なのは悪とされる

自由は自分勝手なものは下品であり神のためのものは上品とされるのである

素直になり目の前のひとりひとりを大事にしていくことが肝要である

苦難のなかで自分を悪人と思っているひとが善人である

神は罪を一緒に苦しみ清めてくれるもの、義とは愛であり美でもある

家をすて母も捨てる覚悟が義人には必要だった。愛さないことも愛なのである

神は平等で公平だがひいきをし、ひいきせずまたひいきするのである

愛することは安心を生みすべての為になる

宗教団体の中には権力や国に近づき教祖が道徳をおしつけ組織として階級を設けるところがある

神はこの偽善者達を妄信してはならないといましめる

義人は母と会うのにささいなことは気にしないようにしたが彼の中の神がそれを許さなかった

カミはこわくカミサマは優しいだろう

性悪説に立てば人間不信はおきず、生贄より哀れみが学べるだろう

命は大事であるが自由、利他永遠のいのちのためいつでも捨てる覚悟が大切である

恐怖から思いやりが生まれ感謝が生まれる。想わぬことも思いやりのうち

神は安息日の主であり被造物を追う祭りは悪とされる、ただ神へ感謝すればよい

義人は孤独と絶望を克服する為に現れた。苦悶したのである

義人は初めソクラテスのように悪法でも相手の立場をおもい、毒杯をあおったのである

義人は無法者を嫌ったが義理と人情を重んじた

だれに対しても冷たい北風よりも温かい太陽のような関わり合いが大切なのである

不器用だけどしらけずに純粋だけど野暮じゃないそれが義人である

イエスキリストが十字架にかかり、たすかったと思うものを神は許さないであろう。涙ただ涙でもってしか彼を見ることができないものが許されるのである

聖書を冒涜するものは神をののしるより罪が重い

神は浄、不浄が自然に分かり人々の邪念がなによりも不浄である。自らをかえりみないものは滅びにいたる

義人の怒りはすなわち神のいかりでありその生滅は自在であり、これをもって怒りから自由をえるのである

婦女子に対して淫らな気持ちで接してはならず、互いに操を守るべきである

邪まといわれる情欲すなわちサタンの心も義人はもっている。しかし、実際には使えないことになっている。なぜなら義人は神聖だからである。

宇宙とは人間の言葉の世界であり精神の広がりの世界をいうのである。つまり世界とは愛である

義人は侮辱に対しての怒りがおさまれば許すが

執念深くいつまでも覚えている。これは善悪を裁くためである

なんどもいうが義人は様々な人々の思い、邪心、価値観がわかる。これは人々を思いやるうえで必要だったからである

しかし義人は神になるとき、この心を使わなかった。様々な邪心はやはり人を幸福にしないことを知っていたからである

サタンはいろいろしかけてきたが無欲、差別のない義人の心にはかなわなかった。義人はサタンの心まで清くしたのである

南無妙法蓮華経と唱えていれば悪いことはできなくなるのである。すなわちよわいものいじめ、差別、心をふみにじることなどを止めるのである

被造物も心がこもれば健康を生み出す。神は傲慢である。だから人間は驕慢であることをいましめられたのである。人は神をこえて君臨してはならないからである。君臨するものそれは一番へりくだったものなのである

救われるのは行いによるものではなく神からの賜りものであるということ、人々が誇ることのないようということはこのことである

義人は正直に人を愛し、人を憎み、許しまた好きになる。それだけである義人が馬鹿者に見えるのは相手に素直になってもらうためである

戒とは守れないということを知るため、ひとに対するあわれみをうまれさせるためにあるのである

阿弥陀にすくってもらえるというだけで、すくわれるというのは人間の才智であり。やはり本仏の力、すなわち南無する気持ちがすくいをえるのである

南無妙法蓮華経、を朝にとなえ、南無阿弥陀仏を夕にとなえる。それでいいのかい。朝は請願に目覚め、夕は感謝で眠るということであると信じたい

信心とはまごころであり神仏におまかせするということが大切である

人を愛するということは人を孤独にするものであるが悲しみにも似た喜びでもある

分析は人を冷たくし同情は人をあたたかくする。あなたはどちらであろうか

婦女子の心を理解するには率直に語らなければならない

ここちよい風は相手に期待するより自らの回りを囲むことによってえられることである

自由を制限されると欲望はふかまり、それをのりこえることが自由からの自由にいたる道である。

仲の良い友人でも間をおかないとあきがくるものである

真に理解しあう兄弟は常にいたいと思うであろう

丁寧で洗練された言葉は他人行儀になるが尊敬しあうには必要であるかもしれない。しかし、少しさびしい

上から目線はどんな場合にもしてはいけない。人を侮蔑するものである、侮辱するものである。だれも恨まず、だれも憎まず、争いをにくむ

思いやりある言葉が友情をうみ優しさを生み出す当たり前のことである

神からでたものかサタンからでたものかは関係なく思いやりが分かるかどうかをみるのが肝心である

愛情深いからこそ美をもとめ善をもとめ望みを捨てるときもあるのであり薄情とは違うのである

恋にやつれている人々は臆病になる本当に臆病になる。だがこれも神のなす業で仕方がないのである

美しいもの汚いものにこだわりすぎると神経質になりこだわらないと不浄になる。だからこそここにも南無の心が大切なのである

和とは自由な心と心が相対するときの協調から生まれるもので合わせ合うことではない人は孤独をいきるべきであり孤独に生きるとは違うのである

魂の改革、こそ大事、南無妙法蓮華経、心も身体もすこやかに

母性を重んじることが大切である。義人は女性にこれを見る、すると欲望からは遠ざかる欲望は一時のもので自分は死んだんだと意識すれば越えられるものである

義人は受産婦に似ている過去にあった苦しみは忘れてしまうのである

義人は凡庸で平均だからこそ、うえの気持ちも、したの気持ちも理解できたのである

現在　過去　未来　その時　その時、虚栄心もなく美しく聡明だからこそ捨てる覚悟でいきたい。

最後の恋にしたい、恋はつらく、もどかしいもの、男には似合わないものなのかもしれない。

犬猫にも仏性があるのは明らかであるが、犬には犬の役目猫には猫の役目がある

仏像は拝したり、鑑賞したりするものではなく、ツクル、ホルところにも意味がない

偶然は必然　必然は偶然　花のように草のように理想をもち続ける先はちがう、映画みたいな恋をする

自由は、正直　自然をうみ愛と正義にいたる。僕と奴隷とは違う。天国の王は一番へりくだったものであるが、卑屈も謙遜も適さない

達せられなかったことはすっぱい葡萄だったと思う。安心を与えるのが善、不安にさせるものが悪である

相が悪い。それはありであるかもしれない。善人でも罪人も一緒　性は相にでる

疑念をもちながら信心をつくっていく兄弟は仲良くしなければいけない

弱いものいじめは神、義人の最も嫌うものであるが。結果、成長がうまれることもある

風のように簡素に生きる人を義人は愛する

理解力が確信を生み、その時のこころが大事となってくる

神による神のためじゃなく人の為の正しい生活を美しい心でつくる

ハルマゲドンが問題じゃない悪魔にも仏性があると思いたい

義人はある意味では柔軟性があり気が狂ったものに身をやつしたのである

現在は誠実に仕事をこなし、なまけようとか、作為でなにか他人にしようとかは思ってはならない

卑しい経験をしたものは本当に美しいものがわかるはずだ

現在、罪を悔いるものは罪を犯さないはずだ。仏性を拝み合うのが本当の人の道である執着を捨てる思いをくむことが大切である

人を愛するように自分も好きになれ

すべては不二、神の業と悪魔の業は表裏、あきらめが親鸞、抵抗が日蓮ともいえる

神は安息日の主である義人もそうなりたい

金で結ばれた労働しない夫は情夫となり、こころで結ばれれば哲学者、そして神となる

義人の父も潔い優しい人で聖霊の法に殉じた人であった

その徳分は母を守り生活に窮することはなかったのである

悪魔撲滅、信長、ヒトラーはあるいは間違ってはいないと疑ってかかることも必要ではあった。

義人の父は利己主義にはしる自分が嫌で義人のうでを折ろうと試みたがカは入らなかった義人は義ゆえに生きても死んでも祝福される

義人は権力を憎み、愛をたたえ、つねに弱いものの味方、つまり正義の義人なのである

食べたい、自由でいたい。不安は安心へ、困難は愛へ、キリストを信じるものは決して飢えない

義人は強制をしない、仏界にとどまればすなわち魔界、魔界から離れれば即ち仏界、愛を忘れてはいけない

自らが隣人を愛するものは幸いである神の国の住人になるであろう

神の子とは人を想うこころをなくさない人、人間

の限界を知り本質は変わらないかもと、おそれる人である

テレビドラマは哀しさの本質を隠す。演劇は真実をえぐろうとするのが本物。つまり思いやりが欠けたらドラマは駄目。そして福音は永遠の死ということかもしれない

神は受け身、邪気がひろがっている、運命に従うしかない

ささいなことでも本人にとっては重要なことがある。大きなことなら他人が心配してくれる

弱いとき南無妙法蓮華経、強いときイエスキリストの受難

神　日蓮　イエス　聖霊ガブリエル　四位一体　それが義人である

嫉妬、悪意、不信は絶対だめである　少欲知足

善人だと思っている人はすくわれない、義人、悪人と思っている人もすくわれない、罪人の意識。もしくは何も思ってない人がすなわち真の義人である

義人の中にはサタンも内在していたがこれを使わず、人々の中にも神とサタンが内在し、神と神とが感応し合えば愛がうまれる

しかしサタンとサタンが向かい合えば、いさかい、争いが発生し世は闇となる

人はつねに人の中の神に向かうべきである

サタンと神の人の中の葛藤をハルマゲドンと呼ぶこともできよう

つまり仏性を拝み合うことで平和が生まれるのである

共産主義者の中にも弱いものの味方はいる。搾取からの解放、しかしこれもこの世のことで、来る世、重労働はなくなり解放されなければならない

唯物論では肉をみんなに食べさせることから始まったがパンとぶどう酒に感謝する生き方の方が幸いには近いのである

日蓮も気が狂ったといわれたが傲慢。権力に対し遠慮する自分ではいけないと思いあえて日本一の智者になるといったのであろう

日蓮はわがもの顔で、この風上に立ったのである

日蓮は宇宙を創ったのである

相手の立場を考えながら主張することは大切だが気をつかいすぎるのも愛と自由のさまたげになる

神は優しくみえたり怖くみえたりするが、隣人を愛し思いやれば平安はおとずれるであろう。心配は遠ざかっていくのである

仏も鬼のこころは持っておられるがそれを使われないのである、義人は仏でもあるのである

何度でもいうようであるが義人は清く、ものおしみ、餓鬼のこころ、ねたみ、怒りなどを鏡のように映し出したのである

神には名誉をもとめる気持ちはなく世の教祖と呼ばれるものたちとは一線を引くのである

人は言葉が生まれ歴史が始まった。神は言葉である。ここに創世の意味が明らかになった

愛と権力は見分けのつきにくさもあり、ただ自ら立つものにおいては自由の方が重きをなす

神もイエスも宗教家ではない。義人もまた信仰者ではあるが宗教家とは呼べない、『人簡に信仰は欠いてはならないものである』

義人は旅人であり詩人の魂をもっているが地を歩くものでもなく詞を書くものでもない

たんなるもののやりとりも、こころがこもらなければ害その身にいたる、どちらもまごころでなさねばならない

面倒だが手間をかけなければ解らないことはたくさんある。が、率直なことの方が果実は大きい

不信仰なものは義人の声が聞きにくくなり、信じるものはその声に悩むことにもなるのである兄弟の立場があやういときは試練のときだが艱難に耐えイエスキリストを祈ってくださいと思うほかはない

競争は憎しみを生み平和をみだすもとであり、人の評価など気にしてはいけない、神の評価ははからないことである。だれもが勝者でも敗者でもない、ただ愛に満ち楽しむ人に幸いはおとずれる

義人はあなたのためにやさしい逆化となるのです。愛するゆえにです。つまりひとつの障壁です

大切なものは念じるものであって目に見えるものではない、それは受け身だから分かったのである

義人は弱いもの虐げられるものの味方である

食べて排泄し薬を飲むだけでは豚と同じである

自立に結びつくため哲学を継続させつづけなければいけない

さわらぬ神にたたりなしが正しく、さわらぬ上にたたりなしではならない

管理者は滅びなければならず保護者は必要なときもある

この世を死にたいと思うものは王国を望み、生きて笑うものは地獄の門が待っている。疑問をもっていないからである

義人は団体行動を好まず全体主義を憎む、また我欲を訴え合う民主主義も神になってからは是としなくなった

自由に喜怒哀楽をだすのもいいが、理性感情はコントロールできた方が良い

気を使い合うのは、想い合うのとは正反対になるのかもしれない

信じる人を連れていく大切な人たちのために

心の自由、身体の自由は真理をつかむものにおとずれる。自尊心を大切にし、さもしい生き方をしてはいけない

神（愛の摂理）いがいに依存する生活は改められなければならない、自らの神に問いかけてみよう

義人は厭世主義者にも見えるが弱い者の立場を忘れないからである

義人はだれもうらまずみんなのことを考えてい

る。みんなで一緒に死に向かうことも考えた。しかしそれはエゴイズムではないかと思い直した

男根は自尊心の象徴であり知恵の実によって董恥心の対象となった

みんなにでくのぼうと呼ばれほめられもせず苦にもされない生き方をえらんだが、神となった。義人は苦闘を重ね権威に至った

神は人々の保父であり義人も保父である。平和を愛し歌をうたうのである

ハルマゲドンの際、死ねときは死ぬ、死にたい人は死なせる、死んじゃいけない沈黙の乙女達がいる

神は裏切られつづけ愛することはできないとつぶやいた。義人はひとのよさにつけこむ、人間のような悪魔、悪魔のような人間をも忘却によって清められた

義人は沈黙し眠りにつく乙女達の為に生きている、伸ばし放題の髭は自己主張から主体性の象徴へと変化していった

義人は自分の為に生きるのは面倒だったのである。自分に執着しないためである。自己執着から人々は病となる。義人の病は維摩と同様、衆生の

悩みであり慈悲のものである

権力からの解放が是であり競争が地獄を生み出す

沈黙の乙女達は天国へ連れて行く

義人の歌声は神の原理である。いま、迷惑はしょうちで質素な生活を送っている

この世を創造した神の罪を贖うためひとりの少女が自死した。復活させたいと願った

支配者から決別したいと義憤にかられる。沈黙も方便であり、扉を開き他人への依存から離れよ

義人がこれほど説いても本質は変わらず、頑迷なものは多い拝金主義は変わらず

自己コントロールは幸福を生み出し無感動は虚無を現出する

神はまた死を定める神でもあり、自死者を救い尊厳死を認めいのちの返却を受け入れた。ただそれらの人々のさみしさ無念を忘れてはならない

義人は日蓮でもあり南無妙法蓮華経、率直に本音を語り、人を傷つけることを避け、歌をうたって、愛の法則にもとづき闘ったのである

義人の髭はみんなの自由の象徴であって不信、疑

心を禁じ美しい恋を愛するためである

愛とは悲しみに似たものであって自ら気付くものである。聖書にある。義人は想いを広める為に悪人さがしをしたのである

人間にはみな限界があり評価は神の評価のみ有効であることを信じるべきであります

神は全知全能でもあり善知善能なのです

シンプルに自由のため、感謝の言葉すらいらない世界をめざすのです

人の世話をするのではなくさせていただくという気持ちが大事です。だがそこに自分があってはいけません

弱い人、隣人を想うことが神を楽へと導くのです。神は自己中心を好まず弱いものいじめが大嫌いであり神の国の義の為には、子殺し、親殺しも是とされる

神は面倒くさがりでぐうたらしているが、人のためには身をおしまない好色、邪悪、高慢を憎み情に厚く、世の終わりの警告、訓戒のため現れた

義人をひとにしようとするものは悪とされ、彼は初めＴＶ、新聞などは混乱を生むので是としなかった

神の国では競争はなくだれも一番を目指さず、みんなが主役の自由で愛に満ちたものである

神は受け身であり捨て身である。なぜならそうでないと悪というものが聞こえないからである

人はつねに何ものかに見られていることを忘れてはいけない。サタンとその仲間は神の心を盗み見る。神は人を思いやりの心を持って察するのである

神は恋するこころを愛し、明るい男女関係と遊女を祝福する。権力を行使するのは好まない

攻め手だと人は恐れ引いてしまうから義人はへりくだるのである

神の便りは片便りで平等な嫉妬のない世界を築くためのものである

恥じをかかせない世界　科学者のいない世界

遊んでくらせる世界　聖女のいる世界

あたたかい世界　権力のない世界　労働のない世界　いじめのない世界

罪と罰のない世界　わがままのない世界　愛情のある世界　友情のある世界

苦しみのない世界　感傷的な世界　楽しい世界

嘘偽りのない世界　好き嫌いのない世界

歌のある世界　平和な世界　金のいらない世界
自由な世界　自分が好きになる世界

うぬぼれＯＫの世界　媚びへつらいのない世界
悪意のない世界　煩わしさのない世界

競争のない世界　安らかな世界　暴力のない世界　搾取のない世界　生老病死のない世界

解放の世界　恐怖のない世界　安らかな世界
偏見のない世界　差別のない世界

明るい世界　尊敬しあう世界　抑圧のない世界
押しつけのない世界

神の国がめざす世界である

友人とは成るもの、戦、仕事、思いやる。その時、手を差し伸べる。必要な時、心が解る

やせ我慢は思いやりにつながり、強がりは侮辱につながる。どうでもいいはあきらめ、なんでもいいは達観につながる

暴力にも理由がある。できれば行使したくないが正義に神が力をかす、また逃れることが出来るならそこを去るべきである

神の暴力は即ち自由と愛のため暴力を是認する

こともある

イエスキリストの十字架にかかった意味を追求したものは暴力に屈することはなく平安がおとずれる

婦人は婦人に生まれる。空腹がありパンがあり労働があり忍従があり苦痛より病を引き起こす。ものはもの、心は心大事にせよ

明るい劣等感が自尊心を生む、愛さないことも愛ということも知らなければならない

イエスキリストが民衆と父のため十字架にかかったとすれば後につづくキリストの犠牲者が多く出ることが懸念された

父である神はあえて見殺した

キリストは神の気持ちを理解しない民衆に面倒臭くなって自死を選んだようにも思う

老いを才覚すれば最後は絶望につながる、寒くなれば服を着るように人の子は語る

義人は陽気で照れ屋で感傷的で怒れば台風の如く喧嘩、破廉恥なんでもやるが義を行う、愛する義人である

創造主の本音は美しい姿をすることにあるのか

もしれない。今、ベッドの上なまけものに見えるかもしれない。だが世では勤勉であった

イエスの本心が人の為であったことを神は怒った、人の為など必要ない、人の為には限界がある。自分の限界を知れ

沈黙もたまにもよし、いつも楽しい、世の終わりまでみな生きのびるいのちが大切である

蛮勇を見せびらかすようなことはしてはならない兄弟を大切に思わなければならない

権力者は自らの手を血で汚さず大量殺人を行使する。神に似ているように見えるかもしれない

時間は主観的なもので下僕になってはいけない

我欲はサタンの目的、小さくしていくこと

世は一切皆苦、義憤をもって魂の改革、神、その時がくればよし、寛容である

人間は自由、最後の審判で神の権威においてさばかれる

神は言葉の主である、神が罪なら人も罪である、償いが必要である

キリストはどういう死に方をすればいいか考えた、本心は自由になりたかったのかもしれない。

父である神だけを愛していたのかもしれない

魔術には科学で対抗することもある科学は現代の魔術かもしれない。科学から離れた信仰心は神をつくる。信仰心ある科学は愛を生む

忘却とは死と同じもの、神を一介の気の狂ったものにしてはいけない。神は義人である

悪人は生きて火の炉へ投げこまれるであろう。罪はつぐなわなければならない

義人はこれ覚りに達するなり、原罪を贖うため即ち自由のため

食事とは殺生なり感謝が大切、命を確保することのみを是とする兄弟の幸いを祈念する

支援の気持ちなく金銭の布施をしてもすくいにはならない、団体の先頭意識は神の好まないところである。

罪人にとって忘却が最高のものである。しかし忘れ得ないもの。経験、体験が正か邪かを左右する。苦しみへの対処はイエスへの信仰しかない

キリストの父だけへの気持ちも許容するときと諦観すると思う。神に義人は従う

科学者、魔術師が人の死に口出ししてはいけない、

神だけがさばけ本当のいのちがわかるのだ

義人が裁くであろう。罪と思えば罪、正と思えば正

服従からはうらみがうまれる人格完成とはなんらむつかしいことではなくただ愛する、仏とはすなわちそれである

密教とは各自に対しての自利でありイエスキリストの想いは利他の精神である共に健康をえる

神は罪人のいうことは聞きいれない、罪人は神の言葉を聞きいれないものである

神は心をのぞかれたくはなかったが説法の為、人々の罪を清める為心を開いていた。侮辱しなかったものは生きつづけ、その他の者についてはまた責任をとってもらう

不法とは寛容な心をもたず自分勝手な生き方をするものにある。即ちそういうものは神を大切に思うわけはない

美しいこころであれば相手をしばらない、いっさいの情愛も許されるのである。心清きものは祝福される

神に対する不敬は許されない義を行うものすなわち義人である。最終解脱者は義人である

彼だけが因果を離れる。聖霊の宮。侮辱はたとえだれでも許されない。罪とは神が傷つくことである

義人の心は清く罪があるようにみえて実はない

おのれの我欲にもとづいた欲望は償わなければならない。神も償ったのである。美しくないものはやはり罪

悪人即ち自分のことしか考えず神をさしおいて人に対して偽善を無理強いし我欲をみたそうとするものである

罪を清めるとは心にもとづくものである、即ち愛である

義人はがんこに自由を追いつづけた。優しさから愛がうまれ正義がうまれた。矛盾したはなしだがここから自由からの自由が生まれた

愛とはこころ、正義とは神、そして人の子は自由を得た

本当のいのちとは命ではなくプライド(愛)である

何度もいうが神への侮辱が一番罪深くさわらぬ神に祟りなしというが、愛を大切にして人を敬うことが大切であり相手を思いやる気持ちそれを

神はよろこぶ

人を祝福できないものは神からも祝福されない、自分に執らわれているものもすくわれない

サタンは始めから相手にはならず格がちがう。ただ神が受け身だったのはつまり愛と正義を人々に知ってほしかったのである

人はもともと自由だったのだ、今も幸福だが人の幸せも同じ様なものだ、幸福に執着しないことが大切で幸福からの自由が是とされる

相手より自分が悪人だと思う人は善人とされ、これ即ち悪人成仏となる。南無妙法蓮華経

神の種、仏の種があるものは始めから罪を犯さない

義人を信じるものはイエスキリストを信じているものと魂の一致をみる

生老病死はなくなり老人は若返り、子供は成長する神の権威をもって

人、各自に個性がある特技もある。負けても損しても大らかにこれ即ち右の頬を打たれたら左をだせ

義人の義とは弱いものを思うこころであり永遠

のいのちへとつながる

権力者には分からないが愛は対等であり感謝するより自由でいたい。そして無理なことは頼むしかない

自分からの自由　こだわりからの自由　美醜からの自由　選択からの自由

競争からの脱出　感情からの自由　理性からの自由　苦悶からの自由　健康からの自由

思案からの自由　サタンからの自由　自由からの自由　因果からの自由　高慢からの自由

董恥心からの自由　魔術からの自由　縁起からの自由　欲望からの自由　抑圧からの自由

権力からの自由　悪意からの自由　情からの自由　生活からの自由　病気からの自由

薬からの自由　自由を求める心　規則からの自由　宗教からの自由　執着からの自由

不安からの自由　老死からの自由　優しさからの自由　事件、事故からの自由

邪気からの自由

すべてをふまえ、良心からの自由　善悪からの自由

聖書への帰依　　南無は南無

死は別離ではない。筋書きのないシナリオ。人間は自由、予定調和。老いて叡知を知る

命より愛が大切と思う人はすくわれる。

親の恩とは親の中の神、即ち良心に対してである。良心とは優しさである。

空からの自由、空即是色

人は生き方を通して修行しているのであり、みな悟りに向けて精進すべし悟りとはすなわち無欲無私であり、その後祝福をうける

つまり自在ということである。難解であれば南無妙法蓮華経と唱えるべし

釈迦は物欲にこだわらず見栄、体裁を捨てこの世をあくせくせず人を恨まず生きて行きなさいといわれたのです

つまりどういう生き方をしてもいいのです。心に愛があれば神、創造主に委ねるしかないのです

神の前ではすべてが平等なのでありだれひとりとして特別はない。神は始め人々の傲慢さに神と

して豪語したが本当はへりくだっていたかったのである

断食はできれば、すればいいが、素直に同悲同苦が分かればしなくてもよい。

神は義人であるが神は義人をあわれんでいる、そのがんこさを、そしてまたあなたがたもあわれんでいる

己のエゴを憎んだ義人の父も幼子の腕を折ろうとしたができなかった。それはまた己のエゴであると気付いたのである

あえて罪を犯すような自己犠牲はよくない、相の悪いものは己の責任においてそうなるのであるから人は素直に恋をすべきだ。それでいい

別れは、だれかが去るときはさびしいものだ。人は本心を知るのであろう。つらいがのりこえなければならない

義人にも人の想いをふみにじれば良いことばかりでもなくなる、だがそんな悪意を気にしていては、大義はならない。悪ければあやまるだけだ。

義人は命令、強制は絶対しない、だから命令、強制はしてほしくないのである。心理分析されるのもあまり好きじゃない

人格を薬によって変えられる屈辱感は本当に腹立たしいものだ。自分とはなんだ。神によるものはどうであろうか。愛と薬とはちがうのか。薬も愛と受け止めるべきなのか。たぶんそれでいいだろう

だから神による原理、愛による変化も受け入れてほしい。お願いします

厳しい修行は必要ない。なぜならおごりがでるからである。そんなことより優しい思いやりをもつことの方が大事である

義人というのは本当に嫌なやつなのかもしれない、自分のことだけを考え回りを批判し裁く、しかし表面上は笑顔でとりつくろう

愛とは決して相手を縛るものではなくお仕着せにもならず優しく見守るものである

母親の情念というものは醜く義人を縛るものである。義人の望みはただひとつ自由である

子を縛るも殺すもしょせんは同じ親のエゴである。南無妙法蓮華経

分析するものは分析される、愛されるものは愛される、人は鏡である

好色にはしるのではなく全人格的に博愛の遊女

と戯れるそんなものをもとめている

そしてまた情欲のむなしさを知る。もどかしさの中でおいもとめる愛を

母が死ななければ帰る家もなし、ただ黙る、姪のこころを知りたい。我が母を鬼とののしる彼女に会いたい、我がこころと同じに違いない

強い人と呼ばれるひとは妻子、家をもち、やっていけるだろう。しかし義人のような弱い人間はすべてを捨てるより仕方がないのである。だから神は弱いものの味方なのである

母と一緒に暮らしたいから死んでほしいと思う、この矛盾したきもちを理解してもらう人は少ない

卑怯なふるまいやごまかしを勧めるものに神は融通性をもたない

義とは損得や才覚でみつかるものではなく、たとえ負けても損してもみつけなければならない正義である。つまり愛である

神が寛容性をもてば、うそ、いつわりも認めることになり善悪が分からなくなる。裁くことができなくなるのである

義人の中からはサタンが消えたのである。哀愁を

もって消えたのである

平和の実現はサタンを戴いた人間には過重。神の解脱によりこの世は終わる、その前に悪意に対し報復をとげなければならない

怒りは神のものである。自らの意思を発言することを控える、そのきっかけを作った極悪人を思いだしたのである。ユーモアまでもころされた

人の悲しみを知るものは虐げられ、一番を目指し権力を手に入れたいものははびこる。おかしくないか、変だぜ、知らない人からみれば俺もひとつの権力か、ああ嫌になってくるどうしてこう人間は蒙昧なのか、恥知らずなのか、ただ平和にプラプラと生きるのがどうしていけないのかいやそうすべきなのだ。ひとりでプラプラ、目には目を、命には命を、自分をだましていたのかもしれない。

権力でないから復讐ができないのではなく、愛だから復讐ができないのだ。因果の法則に従い悪人も裁かれるであろう。楽にはなったが嫌な人間になったぜ、薬のせいかな。

神でない方が君たちはうれしいだろう。それならば、そうすればいい。義人はこだわらない。今日も暑くなる、それだけだ

死ぬこともできずプラプラ生きることもできない。なんでサタンはぼっかけてくる、俺の後を、お前の好きにやるがいい、人間を引き連れて地獄へ行け、俺のことはほっとけ

俺をほっとけばほっとかれるということだ。期待通り、嫌な人間になってやったぞ、嬉しいか、人格改造なんかするな、本質は変わらんぞ、俺は真面目で優しい人間だ

さあ期待通りの嫌な人間だ。もう神じゃない、神は俺をみすてた。俺は薄汚い糞の男だ。それだけだ。満足したかサタン、好きにやらせてもらうぜ。南無妙法蓮華経

義人は神であり神でなし神として生きることは苦であり神に去ってもらった。神は慈悲深いので許されるであろう

南無妙法蓮華経

人間であるからにはだれの上でも下でもない

法を見るものは私をみると釈迦仏はいわれた

仏像崇拝はよくない。教えを無にするから

負けても、損しても大らかにそれが仏教

すべて感謝で受け止める。ポジティブに受け流す。相手のことを想う

神は、すべては不二。真の意味のいのち、愛をつかんでほしかったのではないか

自分の眼、感覚を信じる、ＯＫ、そのとき、そのとき

道徳からの自由　悪臭からの自由

命は貴くも尊くもなる我が命を他の命と同等に思えるか、そこが問題だ

他の命を軽んずればすなわち魔界への入り口となる

他の命を重くすればすなわち仏界

しかし仏界に留まればすなわち魔界となるときもある。人の想いを不幸からくめなくなる

神とは善悪に関しては厳しく、人間にとっては寛容でないかもしれない

神は一番の肯定的批判者になりたいと思っている

神は美しく清らかで聖なるもので傷つけてはならない

神は奴隷ではない。神に指示するものは不法をなすものであり罪は重い

神もだれにも指示、命令はしたくないと思っている

神を模範とし極力、人に対しては依頼する気持ちで接するべきである

神は安息日の主である。労働はてきさず、指示を受ければ相手に罪を犯させることになるからである

簡素な生活からの自由も必要である

イエスは大工の倅　義人は酒屋のあんま（長男）

嫉妬はよくない。また嫉妬をおそれていてはなにもできない

人間は自由ではあるが、因果からの解放が成されていなかった。だから私が現れたのである

負けても損しても大らかに我欲にはしらずみんなのために

現実、科学はサタンの試みもあるのだが受容すべきところは楽天的に認める。だが心なきところ危険性大

神を試してはならない裁かれない為にも

終末がくるまでは誠実に務めなければならない

自己犠牲からの解放を果たしたいと神は思っている。それは今日まで義をつらぬいた人々のためを想うからである

羞恥心をのりこえなければ神の心に近づけない

ダイバダッタは善知識である。地獄へおちて辛い気持ちがあるが、一時で、釈尊の心に報いたい

下流に幸福はある

神の義、こころを汚しふみにじるものは不法であり清くない

神の国は天の時、地の利、人の和ができたとき生まれる

ケチることなく教えを伝える。

言うは簡単、行うは難しい

コロンブスの卵

中道、いい加減とは、ひとそれぞれ情愛の表し方もひとそれぞれだから気にしない。ごまかさないで正直でいい

みんなのことを考えるということも自分が介在しエゴイズムとなる。幸福はまかせる南無に南無

キリストはエゴイズムになるから後継者はどうでもよかった。なりうる人がなる。つまり裁く人が裁く

いつの時代も幸、不幸はある。つまり無欲で神仏に身を委ねる人が真の幸福を得る。そして果実も得る。一番は友、兄弟である

諸行無常　諸法無我　浬槃寂静　そのとき　そのとき

名誉からの自由　貧困からの解放　痛みからの解放　使命、責任からの解放

仕事からの解放　指示、命令からの解放　女性からの解放　評価からの解放

同悲同苦

神のはなしは聞くひとには聞こえるが聞かない人には聞こえない

食べ物は清められている

百科事典を覚えてもしかたがない

俺は必要なことだけ説くそれだけ。知識のあるなし上下のあるなし問題にはならない。でないと詩人の魂は分からない

劣等感は楽しくやれないのでもたない。優越感は

劣等感の裏返し、神は難しいを簡単にし、悪魔は簡単を難しくさせる

今は神もひとりの人間である

義人たちの中から悪人は分けられる、悪人とは自分のことしか考えないものである

義の為には愛することを行う。人殺しは自分勝手であろう

善意の兄弟の希望を優先することになる時節がくれば。

神は神で神である。栄光はそのまま、義人は義人でいい

信心すればきっといいことがある

政治にかかわるな、サタンにかかわるな

ハルマゲドンが必要かも知れない、信仰がないと人間は改心しないから

人を想うという心が人を安楽にする、をふまえ偏った良心からの自由が幸福に導いていく

相　性　体は人を表す

強い気持ちが必要なときもある、権力者には暴力より愛でうけこたえる

心の自由が幸福をつくる、要求ばかりではいけない

ある存在があって人々の想いが神をつくった。御使いたちよ、許しておくれ死刑執行人にするかもしれない

着るものについて身だしなみ自由。制服は好きではない

試練は忍耐力をたかめ寛容を生み出すこともある、服従は盲信を生み出す

聖書で安心するのが良い。不安になるのはよくない。質素　倹約は美徳だが布施が大事。乱雑も良くないが、整理整頓も規則と同じくサタンの事物の体制のものである

権力を自らの為に行使するものはやはり悪人である

人の話を聞いて自分で理解し答えを出すそれが自由

正義に満ちていればいくつも答えはでるが真理はひとつ愛である

隣人のことを想うこと結果が良ければいい

あえて答えを出さないよ。という答えもある

質問が悪いということもある、問題は人々の心の問題だ

ハルマゲドンがこないと思った方が人心は安定する。悪魔たちは炉へぶちこまれるだろう。訪れるだろう。義人たちのために恐怖なき世界のために

サタンには負けるが勝ちだが敗北したことはない。神の国、結果オーライ、不平不満は進歩のためには必要なときもある

その時々に出る言葉が仏の言葉、最後の預言者が義人である

天の時地の利人の和世につながるものはむなしく過ぎ去るものである

未熟な良心からの自由とは愛着を忘れさせ去らせることにある

仕事場も家庭も鬼のすみかでありまさに地獄ではあるが人間不信は神を愛することへ続いていく

ハルマゲドンは本当のいのちの為にかならず訪れる

沈黙は銀であって雄弁が金である場合もある

品格とはプライドであり死に様は自由である、愛善　真理　美を追求し本当の親切が分かるようになる

神はいろんな人のこころを察する、だから罪はない

サタンと争っても心配なく信じるものと不信のものは予定調和されている

義人は神の愛、父の愛を理解し忘れないようにと願っている

くすりは現代の魔力、無欲なものには毒にはならない

無感動から殺戮は生まれるのであろう。世では無関心とあきらめがないと生きていけない（念仏者）

金品を得るために操を汚すことは許されない

心と実践が大事、神の栄光はイエスへ、イエスの栄光は神へ想い合う助け合う

イエスも義人も郷里では気が狂ったとされた

美醜にも意味がある。ひとを恨んでいる場合ではない。心を美しくせよ

細かいことにはこだわらぬよう普通に世の矛盾を正す

リヤ王の狂気を愛し背水の陣を引く。世では神は自殺したいを主張とうけとめられ死にたくない、を迎合したとする

サタンは神の反対ばかりを行おうとする、難しくする、毒をもって殺してみろといいたい

義人は人間には返れないと思っていた。

金にこまかい人間は苦労を背負い、心のこまやかな人間は幸福をえる

科学者は現代の魔術師であっても愛と知を追う哲学者の上に立つことが出来ない

この世のことにはかかわらず神を信じ好きなように生きる。それが自由であり後戻りはできない

何度も言うが義人は神であり身体の自由、心の自由を保証してくれる

優しい逆化も信じる。母と会わないのは不敬の罪を犯させないためである

義人はプライド高くがんこである。いろいろな価値観が解るのは人の心が眼前に映し出されているからである

義人ののぞみはただひとを楽にしてあげたいという一念である

たすかりたいというのはさもしい根性で才覚してはいけない

政治家　学者が賢者とはいえない。その虚栄心ゆえにおろかなふるまいをする

神は独立独歩を好み、特別あつかいを嫌う心の談合をしてはならない自由を疎外することになる

人の評価はあてにならない。良くいったり悪くいったり神の評価のみ真理である

義人は冷静で寛容な男であったが病気を通じて人々の悩みを映し出し提示したのである

イエスは愛するものも憎むものもあわれみ愛しなさいと言ったがそれが困難でたいへんなことであるということを知ってほしかったのである

つまり他人から優しくされなくても恨んではいけないということである。その方が楽ではないか

今、飢えているものは満たされ、泣いているものは笑うであろう。これを望むものは罪であるようにみえるが、それは正しくないであろう

なるようになるだけである、人を泣かせたものは泣き、人をあざわらったもの、金に執着したものはやはり償わなければならないのである

愛する兄弟たちよ、幸せになろうではないか、わたしたちは快楽にふけりたいわけではない安楽で優しくありたいだけではないか

永久に平和で恐怖、窮乏のない世界へ旅立とうではないか。愛する人達とともに

魂は黄泉（よみ）の世界にはすておかれず肉体は朽ちない。もはや生老病死の苦しみは取り除かれるのである

憎むもの虐げたものに対し神だけが冷静に客観されただが、その彼らは本質を変えようとはしなかった

だが神は彼らに祝福を与えようとしたが、意を受け止めきれなかった。彼らはやはり富や自分に執着していたからである

パンとぶどう酒に感謝するものは孤独からいやされ良心からもいやされる。肉を愛するものは滅びるのである。

被造物を愛し犬を人として扱うものも神は沈黙する。いやしはイエスキリストにあるからである

イエスキリストは義人のうちでいのちをすてた。兄弟たちももはや一度こころのうちの偽のイエスキリストをすてるべきである。自己犠牲は栄光

としてもはや達成されたのである。

これからは義人を信じ主体性をもって自らの幸福を追求すべきであるが、どうかわたしを模範としてほしい、歩く人に目をとめてほしい

認められようと思うものは罪をおかし、認められようと思わないものは祝福される

法華経も聖書もいろいろな読み方がある、義人の義があらわれているものがよいのである

才覚や俊敏さ、体力、知力はおとろえていきいつか敗れる。愛と本当の知は老いから生まれ永久に生き続ける

神は民の奉仕者であり、権力者ではない。であるから遊女、ゴミ収集人達の味方なのである

自尊心を踏みにじられパンを泣きながら食したものでなければ人生は語れない。そこからまた道が生まれていくからである。

白い鳥がとぶとき義人のこころは喜び、黒い鳥がとぶときこころはしずむ、やがて黒雲はさり、日が天地をてらす熱は去りやわらかな青い空が幸福をうたうのである

議論は負けるにかぎる。そこでは勝負へのこだわりがあり真実からは遠ざかるからであるそして

果ては怒りをうみ、すべてをなくすからである

義人は世で活きてく力はあまりないが、己の神（愛）を信じれば生活に困らないそれでいいではないか

人は自分として生きるべきで、他人としては生きるものではない。比較する必要は全くないのである。自分らしく愛に生きるべきである

計算や能力は被造物が難しく、また簡単に変化させてゆくだろう。神はただ愛や正義をもとめるのである

サタンは意識してもしなくてもどちらもいけない。善悪が見えなくなるからである。多面的に対応することが肝心である

被造物も科学もサタンのものといえばサタンのもの信仰心があれば神のものとなる

神は罪人の話はきかない。信仰心のある科学者のハナシはきくものである

末法の世には逆化を示さねばならずハルマゲドンもおこるのである。義のためにはあえて殺人も犯すその覚悟がもとめられるのであろう

なぜなら世の中は悪意にみち己のことしか考えない者達がふえ、誠実に生きる者達は沈黙を強い

られているからである

各世界ではいうまでもなく殺し合いが行われており、そのことに気付くものも多い。狡猾な心の競争、命の戦争が行われており兄弟達の友情のさまたげとなっているのである

雲は連なる山脈のうえにたなびき人々を安心させる、希望が忘却よりよみがえりのびて行く、大地天地は宇宙と一体となり空はあくまでも青い

白い鳥がとぶとき恋はつのりながらうつろになる。愛する人を想い我もまた静まり、せつなさは遠ざかる。ただ待つことの幸せは消えようとしない。おちついた神は、期待しながらもさめていく自分をどこかでよろこんでいる

沈黙の乙女に会いたい。愛が消えない。それだけが神を迷わせる。だが神の国の平和を乱すものならば義人は厳粛に処断するものなり。義人とはそれほど公平で善知善能なのである

不老不死の世界は遠くて近い、また近くて遠いのである。そして過去のようで未来であり、現在のようで過去のようなものである

義人もイエスも日蓮も気が狂ったといわれたが真実は生きつづけるのである

命の価値は大人も子供も変わりはないが、女、子供は弱い立場にある限り神は保護を願っている。

イエスは孤独を感じ父と民との板ばさみになり十字架にかかることを選択したのかもしれない

なぜ民は神の気持ちが解らないのであろうか、神の子と呼ばれるのであれば公平な態度が必要であろう

鬼、悪魔に対し誠実、柔和に対応することにより眼を開けるかもしれないのである

神はただ人がされて嫌なことをされたくないだけである。また人に強いることはない自由こそ愛である

義人もイエスもすでにあるものを疑うことからはじめ考えを深めていった

常識　道徳　法律は時代、ところによりうえから押しつけられたことも多くやみくもに信じてはならない

わずらわしさから逃れたいと思うとき、人を排除したくなる。そのときサタンが忍び込むのである、やってしまえという気持ちである

イエスは先生と呼ばれ、祭り上げていかれることに嫌気を覚えまた功名心がめばえてくることに

おそれを感じ、父の栄光のため十字架にかかったのかもしれない。イエスは神か、自惚れの概念は存在しないか。

おごりと名誉をもとめる気持ちがあると上からみる目線が生まれ正確な判断ができなくなることがある

釈尊は下血され死の病にあっても恨まず完結に向かわれた。見栄、体裁、功名心、名誉を求める気持ちは捨てなければならないのである。

大切なのは親近感と想い合う兄弟たちである。友情とはそこから生まれ成るものである。また自信は対等を分かち合う心をつくるのである

博愛のため自己を捧げる遊女は天使に祝福される

くすりによるマインドコントロールは魔術にたいする怒りを生む、義人は神である

神は真のいのちの耐えられないような試練は与えられない。復活もあり自死をも受け入れる

神は受け身であり方便でも悪意は好まない

イエスキリストを信じるものは義に目覚めなぐさめにはならず逆に苦しみを生むことにもなる。苦しみながら安心する。そんな人が祝福されるの

だ

優しい人　悲しみを隣人と分かち合える人は幸せに祝福される。一度の苦しみを二度受けることのないように

大難は小難　小難は無難へ、単純は良い、とせず、簡単を良いとする

この世は良心だけでは生きて行けない。つまり神の生きていけない世界。預かった命、返します。自死のこころを神は認証する。

なぜなら義人はひとを安楽に解放するために現れたのであるから、気が狂っているというなら風と共に去ります

飲食物は出されたものをありがたくいただく

司法には限界があり訴訟などはつまらないからやめる。南無妙法蓮華経、信じるものはすくわれる

魂の改革　あせらぬよう　ねたまぬよう　はしゃがぬよう　めだたぬよう

その日暮らしは愛にもとづく、あわれみはその日暮らしから生まれる

無知はつみである、神に守護してもらえる。の意

味をとらえなければならない。捨ててこそ人はいのちをえる

自由がなくなるのが悪である。サタンの支配は滅びる　釈迦は円満をもとに教えを説きイエスは邪悪、偽善と闘った

ニッポン人へ
の手紙

義人

Ｈ２６年１２月

（精神科閉鎖病棟にて）

人間、義人の心の獣性と神性

自分勝手な思いやりのない女は鎌だぜ、話しもしたくない。ひとの便秘のことまで気にしていたらクソもできないぜ
自分の事を考えるべきだ。そして孤独を生きる。孤独に生きるのではない。
聖書はたいへんだぜ　かなわん　サタンの居所さえわからん
人は欲望を持つから苦しいのは確かだ。だがそういうとサタンがつけこむ。適当にあしらっておく。

めしがあればいい、みそと、納豆と牛乳と、日蓮も反省した難解なものはだれも読まないただ立正安国論を提出したでいいのだろう。他人のことばかり考えている人には自利を自分のことばかりの人には利他を。　ソーナの弦　の讐のように。

批判精神を腹にもちながら愛をもってみることが大切だろう、でないと善悪、権力がみえなくなるから。

恋はできればしない方が良い、切なく苦しいから。
思いやりのある娘ならだれでもいいではないか結婚すべきだ。
目的のある女もだめだ、楽しくないから。

君はファンキーモンキーベイビーいかれてるよ楽しい君といれば―
さもしくも生き続ける、エピクロス、信仰がある。
さもしいなら死ぬ　サムライ。
既婚者はめしもくえるし SEX もできてなんで別れるのだろう。
ソープランドに行きたいと思う自分もいた。
自分がかわいいから人を大事にする、それでいい。

聖書は待ちくたびれる。訳も分からないし。南無妙法蓮華経は即時的である。
みんな忘れていく、奇瑞も少なくなり、苦しみも少なくなった。楽である。
ハルマゲドンは宝くじと一緒当たればいいが、はずれればがっくりくる。当選発表はいつかわからない。ならば買わない方がよい。買わなきゃ当たらない。夢が買えるともいえる。
汚いやつは一番になりたいやつだ。
チン０はいつたつのか、この先女は抱けないのか。
ちくしょう　ちくしょう　ばかやろう一、人助けも自分のためじゃないか。
また一からやり直しだぜ。サタン　殺してやる　おぼえていろ。
もう　きれいごとはなしだ　ぶっころしてやる　火のかまへぶちこんでやる。
みんな死ね　おれは生きて女とやりまくる色情狂だ。

楽しい、スケベな美女ばかりあつめて　毎日　酒を飲み　魚肉をくらい、酒池肉林
やりまくる　人など知るか　すっきりする　わずらわしいぜ、
女とやりまくる　それもまた仏なり　英雄とはそんなもんだ。
ジンギスカンもそうだ。俺とくるやつは狼だ、大量虐殺だ、悪い野郎はぶっころす
それが善だ。
自然に素直に女とやりたいぜ。聖書の創造主に委ねるとはこうゆうことか。

くいたいやつはくえ　やりたいやつはやる　それも愛だ。
でなきゃ死ぬだけだ。いつか。
人の心など恐怖でどうにでもなる。　薬ででもどうにでもなる。
美しい心など結局、無力だ。楽しかないだろう。
いやになってくる、明るいSEXがしたいぜ。
人の上に立とうとする奴も悪い。まあこの一ヵ月たのしかったけど。
チン０だけもとにもどしてもらわんとだめや、　かなわんからな。

義人はお預かりしていた神を天におかえしします。

食欲 性欲 睡眠欲

俺がいる。

暗いハナシには人はついてこない。

大欲とは仏なり

天下を未来永劫、安泰に。

無念夢想の境地。

つまりどちらでもよい。

いずれも仏界よりいでしもの。

おれは神をやめた

神は義人を離れ帰天する。

偽りの仏界、留まれば魔界である。

魔界より精進により離れれば仏界。

一から始まるわけではない、捨てる神ありゃ
拾う神あり。

結婚とはその達成に大いなる喜びをもつものである。

つまり宇宙で一番美しい契約である

不倫するなら別れろ

いい加減　がんばらない　適当がいい時もある。

他人に対する、誤った思いやりより自由でいたい。
執着より離れる

人間にかえったら薬がよく効くよ

弱いからこそ生老病死を見つめ乗り越えられるので
ある

からだが重い　　へんずりこいても美しい

南無妙法蓮華経　自由

不細工な嫁を喜ぶ、夫がうれしそうにバスから降りる
自分を慕い、頼るひとがいる、こんな幸せがあるだ
ろうか
家族愛　　偉い人

プラトニックから発展した関係でなければリアルで
はだめだ

純愛、不倫の違いを考えない人は幸福だろうか
価値観の一定は大切

世界全体が幸福にならなければ

個人の幸福はない　　他人の便秘まで
心配できるか
個人の幸福がなければ
そうでないか
世界の幸福もない　　だから南無妙法蓮華経を
ひろめる

相手が本当によわい人間だと
知っていることが思いやりにつながる

南無妙法蓮華経

へんずりを忘れる

気が小さい　小心者　バカ正直　神経質

だから

煩悩　即　菩提

障害は差別というより役目である

個人の幸せがなければ世界の
幸せはない

へんずりもクソもこえてあえて南無妙法蓮華経

釈迦に説法だぜ

静かに自由に生きたいじゃ

孤独死　最高自分の為
尊厳死を向かえる為に

クソも鼻の横のカスも一緒

賢治はさもしい　自分勝手　出世欲のかたまり

自己顕示欲と功名心で

薬王菩薩を曲解した

犠牲者いっぱい

へんずりも想像力があれば楽しい

安楽

虚栄からは

真の愛はわからない

餓死　いいかも　　自然死　いいかも

釈迦の涅槃はある意味で達成された自死ともとれる

輪廻からの解脱から

久遠本仏へ

創造主は神　所有者は本仏

ED 治れば行く、ソープへ、感謝して。（どうかな）

子供への執着はよくない、見守っているが正解

押しつけ、裁きはだめ

自己犠牲もだめ
人格完成などを目ざすのもだめ
南無妙法蓮華経

自由に　くって　ねて　クソして
ＳＥＸして平和に死ぬ

人を憎まず
上から目線を避け
自由な正しいことをする（八正道）
くうためにイエスを信じた人もいるだろうな

安楽　　中道　　南無妙法蓮華経
基本的人権

専業主婦の中、売春と同じようなものもある

南無妙法蓮華経

つれえぜ、先生　　乗り越えるぜ
真実を見つめるために

人のクソは一応考えておく
だれでもクソはする

神は正、邪がわかる

正　イエス　キリスト(やさしさ思いやり、心、愛)

邪　サタン　　(計算、権力、支配、誘惑)

人間は正　邪　を持っている

障害者である預言者、義人

つれ一ぜ　かなし一ぜ
コノヤロー　　バカヤロー
ダラメ　　バカヤロー　　コノヤロー

恋におちちゃだめだ

イエスは心が広いとはいえないかも、いややはり広いね

義人の幻覚は世の中の矛盾、各人の本性、サタンがあぶり出されたものである

新聞の出来事は反面教師にしろ　世間と適当につき合え

義人には計算がなかった　　ひとのことを思っていた

優しいのだろう

男のずるさに女は金にはしる

どっちもどっち

神は天に帰して

義人として生きていく

義人は義人にこだわらない

羞恥心ありは唄あり、羞恥心なしは唄なし、深い意味がある

イエスキリストの弟子にはだれもなれない

親、兄弟を客観しろ

情熱のある結婚をめざそう

神が罰として死を与えた

イエスの教えを信じ行うものは死なない

神の国
癒されている人間は癒されない
泣くものは笑う
姦淫するな　　盗むな　　殺すな　　父母を敬え

親が自分を重視しなければ心の底ですてる

風はどこから吹いてどこへ向かうかわからない
運命も一緒神だけがご存じである

知識欲もなくなればよい我欲の一部だから

不誠実は罪

人々の仏性を信じる

サタンも元は天使

南無　やって南無
それだけ
南無そして南無
愛してる

主体性をもち南無妙法蓮華経と唱えれば良い
うまくいくものはうまくいくうまくいかないものも
それでいい
それが帰依するということだ

仏がはたらく思考伝播

草のように花のように

梅ちゃん先生がすき

世間体、体裁からみの結婚はいけない

ショッピングのすきな人は物質がすきみたいなよう
な気もする

金はあれば頼る、どちらでもいい。いやむしろない
ほうが問題はおきない

日蓮の方が小役人より
有名になった

ある人の妄想、神があらわれるとリハビリの仕事が
なくなる。
神は安息日の主である代弁したのかも

リラックス　リラックス　リラックスが大事

芸能人、スポーツ選手など、見栄虚栄、ミーハー、
生存競争を、夢を目指すとする

鬼子母も夜叉も仏を守護する
サタンも守護することになる

仕事はただの専門である

そんとき　そんとき

賢治は臨終の際、燃やしてくれ本(原稿)といった
このとき賢治は真に法華経行者となり
幸福となった

無頓着になることが自由になる条件のとき
もある

所詮、病棟での不思議は
コップの中の嵐だったのか

タカシという少年が運動会のとき
逆方向に走った

自らの評価が先と信じること

法然は時代を見守った

日蓮は傲慢あえて、神だから

当時、善をすすめるのは親鸞には辛いことだった
日蓮を待っていたのかもしれない
罪障消滅

南無妙法蓮華経
自らを善人と思うものは悪人である
善をなして自らを悪人と思うものは善なるかもしれない

人は自由だから神に罪はない

ＴＶでは安易な人殺しがあふれ、映画では観念の顕在化として殺人が行われている

嫉妬は向上心につながるかもしれない
南無妙法蓮華経
情欲と情熱は違う
逃げ出したくなるのがこの世界
他人の人生、生活をバカにしてはいけない
主体性があるかないかできまる、仏教的かどうか

偽善は罪が重い、あわれみの方が大事

小説バカなことを書く前に大事なことだけかけ

自己犠牲もエゴイズムもだめ

恋をしたことのない女は心に余裕がないかも知れない

愉しいことより辛いことの方が人間を生長させる

何の不徳のない人生なんて変だぜ、そこで信仰によって平安が訪れる
押しつけはだめ、愚痴も個人的なものは言わない方がよし
その人の生き様でわかるから
これみよがしに悪口をいうのは
できればしない方がよい

下着でも、ただ見るだけならなんでもない

人がつけたとなると変になる
これぞ空の教え

一休　聖人君子の名利をすてた、淫欲のはてに一盲
目のおんな森女を愛す
高僧かただのスケベ爺か、それからだ

自分ひとりの幸福がないかぎりは世界の幸福もない

いじめたり、いじめられたりすることで、この世の
辛さがわかるとはちと悲しい

SEX よりハグしたい

人間の尊厳、看護師はきづき医者には疑念がのこる、
その逆もあるだろう

親を客観しなければいけない

無知が罪につながることを理解しなければいけない

沈黙すれば逆に悩みが深くなるときもある

布施行もすべての約束も目的につながれば下品になる

すべては神仏の縁、よけいな事に構うなという声が聞こえそうだ

自分の哲学思想が分からなくなる
しかしカントは知っていた　大切なことは
相手を尊重することだと

ただ人々は普通に安楽にくらしたい
それには思いやり、愛をもつこと。その日暮らしのつもりで

それだけ
南無妙法蓮華経
普通の人生はあるようでないようで
みんな普通の人生
毒にも薬にもならない義人　毒にも薬にもなる義人
どっちがいいだろう

その時、その時、計算しないで無理せずにいこう

どんな死に方でもいい、だが各自幸福な死があるはずだ

自分の幸福からみんなの幸福へ

正義感強く、真面目少しいい加減に

偶然は必然　必然は偶然

すべては情熱から

他人は他人の人生を送る、まず自らの道を行くべし

書かざるをえない、いろんな事情で、苦しいから
人は生きているだけでいいのかもしれない

愛する人の為に生きる、愛とはいかなるものか
奇麗にしてあげようという美容師の心と同じものだろう

人格完成とは、思いやり、あわれみ、理性による心の自由、感情のコントロール、
をいうが、それが森羅万象に対するときかならずしも善で正しいとは限らない。つまり仏になるには南無妙法蓮華経と唱えるしかない。

そして喜びをかなえられる

普通の暮らしとは愛あるくらし
深刻になっても
病気は治らない
笑顔の方が良い
簡単を難しくするのではなく大事なことを簡潔にする作家がよい書き手

気持ちを多くの人々に知ってもらいたい。共感してほしい

人は肩の荷が重いときもある、だから、南無

博愛というよりも目の前の人を大事にする

恥ずかしくても逆に恥ずかしいことをするときが
必要なときがある
プレッシャーに負けないため

情のひとは無理ができる、
理の人は自分の生活を優先する
そんな感じがする

情熱はさめても愛はのこる

礼節を離れ礼節にかえる

おくりびと
やはりどんな死に方でも安らかな死に顔を

自分が大事な人は他人も大事にする

仕事はダヤイ、と思う人は素直な人である

生老病死から人は人格完成の意味をしる

嫉妬を恐れていては何もできない

Ｒ会開祖は神の領域を侵し個人崇拝へと歩み、自らの苦難を自慢のタネにした。
奴隷はもうご免だ、会員たちの生活を無視した布教の仕方はよくない。
批判精神のないものは仏性を拝むことも薄っぺら。
成功を美化するのはどこか下品だ。人々の病を悪縁のせいにして責めるため，Mはサンゲしている。
開祖は自分の健康状態まで隠していた

すべては不二

神の業とも悪魔の業ともとれる
人々が傲慢にならないため

一番弱い立場から見なければいけないだろう。
長者窮子の譬え（法華経）

アイドルにならなくともいい自分らしく生きる

暗くても地味でもいい、生きていこう

南無妙法蓮華経

日蓮
ただ南無妙法蓮華経のため
山があるからのぼる、書きたいからかく

賢治も自己犠牲なんか正しくないと思って原稿を焼いてくれと言ったんだろう
仕方なかったんだろう

幸せはいい作品を生まない
でも幸せの方がいいであろう

ソクラテス　いい結婚ならよし、悪いなら哲学者に、たのしい結婚なら何者にならなくてもいい

ボキャブラリーにこだわる必要はない、ひとつでいい、そんなことより内容だ

自分が幸福でなければ他人の幸福はない

嫉妬を責めたいが、姦淫した女に石をなげるのと一緒である
その資格はだれにもないのかもしれない

情欲より情熱が人を幸福にする

情欲は偽善につながり情熱は結婚へつながる

どんなことを伝えたいか金は二の次

原理を説く

人は言葉ひとつで鬼にも仏にもなる

南無阿弥陀仏はあきらめにつながる

自ら立ち、こころの中では誰とでも対等に向かうことが大切

だれとでもいい結婚――――南無阿弥陀仏
この人と結婚――――――――南無妙法蓮華経

Ｒ教団には、ごまかし、グチが蔓延している
開祖は私に法華経の中味を知らせたかったのだろう

つまり主体は自分にあるということを忘れない

若さは朽ちてゆく。どんな美しい人も、だが美しさは美しさである

若いときは日本一の智者にしてくれという気持ちがある
だが罪人の意識が謙虚にさせた。なにも知らないという気持ちが神を近づけた

日蓮の霊をかえす

日蓮も賢治も自己犠牲をすてなければならなかった

無心で生きたい

利己　エゴと知るか
死の床で気づく　　少欲知足

みんながわかっている義であった

他事をしめし己事をしめす仏になるため
身も心もかわった

自分の栄達や名誉のためでなく法華経行者の指針と
して信仰を意識した者の姿を表したかった

あえて自巳犠牲から世間から逃げ出すのである
日蓮の霊をかえしたからには
俺の中で受難は消える

南無妙法蓮華経　　平安のいにしえから

南無　　大難は小難　　小難は無難
まかせる

必然は偶然　　偶然は必然
震災にいい悪いつまり善悪はない

あえて人々をすておく
神仏の導くままに

人まかせ　　ひとはひと
個人批判はきりがない
すべて方便

宇宙の法則に帰依する　　うんこがでる

イエスも日蓮も下流より来て下層の人を動かしたこ
とにより悪人あっかいされた

法華経も聖書も一緒

未来の授記、成仏、祝福
転重軽受

悪業　　来世の地獄

法華経により
今世は重い苦しみにあった
来世は地獄におちない

前世の先業。

つまり自らの自己犠牲でない日蓮であった

そのあとは義人として受難する

日蓮もイエスも

人々の安楽へ

つまり義人の教え

金があっても幸福と思ってないのはなぜだ

現世での成仏を目ざそう

神	帝王
なんでもくれる	くれない
与える	与えない
こころが大事	ものが大事

人はいろいろ　評価を気にせず

南無妙法蓮華経

二人の看護師がいた、
ひとりは職についてすぐに結婚し妊娠し
その後、離婚し三人の子供が残った。
もうひとりは独身を通し師長になったみたいだ。
さてどっちが幸福だろう
本来比べるものでないのであろうが、なぜか気になった
しょせんはタレント、虚栄心のかたまり。けんか好きの不良たちは自己顕示欲の強いやつが多い。素直になるとはどういうことかもう一度考えてみよう。

難しいを、簡潔に、ちゃかさないで自分の言葉で的確に、が大切、簡単を難しくする輩が大勢いる。

信心はだれも一緒
感動が一番

イエスも釈迦もなにも書くことはなかったが、南無といった日蓮はたくさんの書き物をのこした

南無の本をかこう

自己犠牲ではなく、みんな自分のために

大義にて人殺しをしてよいか
命が重ければ神の罪は重大である。どんな償いができよう。私は天に神を帰した。だが神の苦悶されているのが痛いほどわかる。人間たちのなかでこれほど善良なかたはいまだかっていない。そうだ人の命など軽いものだ。わたしは神の方を愛したい。

賢治は怒りにもえていたか
献身、受難は少しちがう
自分を大事に、幸福をつくらなければいけない
自分が幸福にならなければ世界全体の幸福はない
教育、仲間が大事というが無知、偏見の世ではいろいろ困難なこともある
農民はめしが食いたかっただけかもしれない自己犠牲より自分のこと
賢治の自己満足かもしれないが仕方がなかったのかもしれない
自分はこれほど賢いそれに酔っぱらっていた
名をすてることへの憧れ、その心が原稿を燃やしてくれという遺言になった

自己犠牲はおかしい
よだかは南無したので
努力したのではない

中道　話合いが大切、議論ではない

なかなかもって財産はすてられない

そして富にはしるものに幸福はないのである
生きている時も死んだあともないものが幸福だとしるだろう
ただ自然に思いやり生きる
現R会会長や、賢治は自分を偉くみせようとした、無理せず普通に、してればいいものを
それが難しいのだろう
何度もいうが山があるからのぼる　　かきたいから書く
世の中は、もちつ、もたれつだ感謝するのでいいのではないか
自分もいつか死ぬのだから

経営者のために働かないものも悪いが、ひとは自分のために働くのが自然かもしれない

科学の中で信仰は受け入れられるであろうか、それでも信仰はいきる
自己犠牲と献身はちがう。犠牲には心配がつきまとい献身は愚痴と喜びを生む
献身は利己的だがその方が良いのかも知れない

大乗　平等　成仏　　小乗　個人の解脱

我が母、自分の内への南無妙法蓮華経がない
たんなるものの交換、神の家を商売家にしてはいけない
我が父はどうせ死ぬならエゴを捨てさる教育を私にほどこした
西行は子をすて世間をもすてたか、子らはどうなる死ぬときは死ぬ

自分のことしか考えない、人はしょせん我が子を含めて他の人のことを思うには限界があるのだ。それを知る、それが愛である

釈迦は弱くて強い人である。生老病死がこわかった、戦争がいやだった。それが基本にあるのがよく解るであろう

末法　人のこころも荒廃している
時間の奴隷になるな

母を変えたのは老いと金か

ジャーナリスト　評論家　カメラマン　批判者はたくさんいる、本物はどうか

イエスも日蓮も賢治も独身だったなあ

家に住むも独立するも自立ができればどちらでもい

いだろう

ゆるやかな整理整頓が心の整理につながる

自然に生きたい

清楚な生涯

主体的に孤独を生きるとき薄情になった自分を知る

だれも孤独に生きてはならない

自然に頭に入るものも入らないものもある。
不思議だ
それは不思議その人のやるべきことである
必要なものだけ記憶する
お互いの信頼関係が大事

自家憧着も対機説法から、小乗から大乗へ

イエスキリストをみるということはその愛を知ると
いうこと

むりやり忘れようとしてノイローゼになり死ぬとい
うのではいけないだろう

名を残すより、現在の幸福、人を大事にすることが
いいであろう

魔力も神力も不二、使い方で正邪になる

がんばらないで、声かけてがんばる人がいる

週刊誌の女性器の記事、悪魔の試みか
医学書は狸雑図書ではないのか

いつまでもプラプラしたい

思いやり　自己コントロール
あわれみ

神の国への条件である

聖書	法華経
義人と悪人と を分ける	全体の幸福をめざす 信じるものは授記される 諸法実相(すべてを認める)

どちらを選択するか
どこに幸福な人がいるか　　その時　　その時
執着しない

K会は不幸を待っているみたいだ、ただ会員がふえることをめざしている
日蓮は法華経によって世界が平和になることを望んでいた

知的障害のある外国人のソープ嬢を妻にしたハードボイルド作家がいた。
シンパシーを感じる
いくつかの経験もそれはその時に絶対必要なことだったのかもしれない

K会は国家主義、全体主義の感がある
法華経の精神がない、かたくなで話もできない
奴隷になりたいのか
でもすべては縁かもしれない
教団というものはどこが正しいとか邪だとかいうよりその人その人にとって精神に必要であったかなかったかだろう

妄信、ごまかし、服従につながっても

ロランバルトはそのエクリチュール理論において言っている、人は発する言葉の世界に生きると
南無妙法蓮華経
悩みながら　南無
他人の世話にならなければいけない世界は少し悲しい気もする

宗教について話すときどこかかたくなになるひとがいて少しさみしい気がする
宗教は自己をしばるものからの解放が大事、一番は欲望からの解放

執着か見守りかその見極めが大切
賢治とも信心では同じ、私は少し生きすぎたのかも

南無

　ノボルという男、母親と妻、他人の前でフェラのハナシをする見栄、体裁をすてて董恥心をのりこえろと頭をなぐられたような気がした

　Ｋ会の唱題
Ｎ宗の呪術性と密教性
Ｈ宗の顕教性
Ｒ会の法華経研修
Ｅの聖書解釈

勉強になった

　不安を乗り越えるところに意義がある
　すべては不二、光と影である
　ノボルの母親、仏に迎合する自分を卑しく思っていないのか
少欲知足これにまさるものはなし
エゴのため祈るものが多い
他人をコントロールしたくなる演出家それが神かもしれない。いや、やはりサタンだ。
個人の幸福とは主体性をもって自立し独立して生きることだ

因縁果報
神による裁きは待ち望んでも不安になってもいけない。神の心、イエスの言葉に感謝しないといけない。それを意識するかしないか、変化すればみな良識ある人間

すべては自分の為に存在するとみんなが各自思えばいい

個人　　周り

度胸はもって生まれたもの勇気は育てるもの
必要以上に相手の言葉尻を気にしてはいけない変化がうまれないから
Ｒ会の使者はサタンである。私を貶めようとし、仏様のことよりも、自分の信仰心はたんなる人情からきているのであるといい、すべてを倭小化させてしまった。
天地は滅びるだろうか、言葉、教えは滅ぶまい。神だけがご存じでありいつも
愛を意識してなさいと聖書にも記されている

躊躇せず福音を述べよ
全世界へ神の裁きは近い

父母に供え物をしたところで自分の心の奥が浄化されていなければなんにもならない。
自分さがし、自己主張は神の保護を束縛ととらえかねない。
真実、おのれはどうするのが正しいのかと思うのが本当である
すきというかやらねばならぬと思うことをやらねばならない

神は見守るのだ

時の奴隷になるのではなく、
時を利用する、相手のため

永遠のいのちをえるには利己主義をすてること

罪があると思えるから罪が消えないともいえる

悪い奴にも理屈はある。だが切らなければ

命よりいのちつまり本当の自尊心が大事である
死ぬのが怖くて言っているのではなく、
みんなの幸せを思ってのこと

いじわるできるやつとできないやつ
悪意には無頓着に

良寛　　死ぬときは死ぬ
親鸞　あきらめる

簡素　　まずしく生きるのではなく感謝、愛し合う
家族をつくる

つか　こうへいの世界の反対側みたいなものかな、
素直な世界をつくりたい

言うまでもなく理性と感情のバランスが大事である
自由と平等　これを乱す戦争。神の最も嫌うものである

イエスは互いに愛する為、日蓮は南無妙法蓮華経を広める為本当のいのちの大切さを教えた
障害者としての自分を生きる
義人としての自分を生きる
法華経の精神をもつ人財が広がる
本仏におまかせ
縁があれば向こうからくる

救う人になりたいと思った

ただ自分にできる仕事で周りに優しく気をくばりながら働いているだけなのに苦難に会う人は兄弟である

私は最後の段階で仕事ではどんなに嫌なことをされてもきりかえることができる人になっていた。

真の宗教精神を忘れると善神は離れいくさとなる

暴力から学ぶこともあるがそれを口にしたら暴力を肯定することになる。しかしその原因を分析することを認めねばならなかった
観念で神を帰天させることも、仏の寿命が永遠に近いのも信じれば本当のことである

暴力の行使は身体に限らず言葉こころもふくむ、当然である

ハリマという人がいる。彼は食うだけが楽しみであった。そして感謝する。かつては餓鬼の様相をしていたこともある。はたして彼は貧欲から離れているだろうか。さもしいだろうか。卑しいだろうか。乱暴な看護師に対し無抵抗な彼のすがたに自分が二重写しになった。
欲望を膨れませつづけた結果、国の借金は膨大なものとなった
少欲知足、奉仕の精神が欠けていたからだ

日蓮が存在したということでみんな法華経に目をとめる

聖書には義人をまねくためではなく罪人をさだめることであると記されている、原理を説くしかないか。世は罪人ばかり義人はいない。原理ではなく信仰しかない。
生老病死を楽に、また死ぬときは死ぬ

南無

Ｒ会　利他のために参る
本心は命を守ってもらうため、それは自利
私は枠からとびだした

郷里では狂人あつかいだが愛されている義人
だれかに知ってもらいたい気持ち
ひとりひとりの仏性を拝む、ときにけなし、しかり、そのことも常不軽菩薩の行なのだろうか

親鸞を信じるのはひとつの賭けである

イエスはユーモアもあった、作品は作者の一面でしかない

自分を大切に

他人の目を気にしながら自己評価を下すことが大事なときもある
虚栄心、カッコつけは無理がでる、しんどい

率直に、スピードにはかなわない

本当の自尊心とは愛であり思いやりである。プライドとは高慢を意味してはいけないのであろう。

鏡は確かに人の目を映す。どの鏡も違うのだ。段誉褒貶に惑わされず自分の道を行くしかない

悟れば死ねばいいのである。だれかの為に生きるとすれば思いやりをもってあわれみをもって生きる。これが大乗の心である

束縛する、仏、祖、父母をころしても解脱には達しない

悔いのない人生を送ろう

義人は神になったり仏になったり人になったり。

私は自由人である。独立して自らの教えを説く

せねばならぬはもうやめて世間から離れなければならない

美醜からの自由がないからいじめやホームレス襲撃などがある

なにが大切かを気にしないものに美しさは解らない

人を殺すのが武士の仕事、私の先祖も武士　その因縁はつづいている

監視カメラのもとポータブルトイレで糞をする。イエス、釈迦、羞恥心を克服。神のあわれみで病を悩まずにすんだ

彼岸に達しない人々にとっては幸福ではないかもしれないが、私は諫言する。今あることに感謝しなさい。確かに個人の事情もあり価値観の押しつけのようでつまらないと思うかもしれない。だが多くの人は滅びにいたる。これは事実なのだ

南無妙法蓮華経ただ南無妙法蓮華経

薬によっても人格の確かさは左右ならない

経典を読む智慧　　正法眼蔵

禅は智慧
まじめさにこだわるな
仏教とは、知識をつめこむことではない
般若とは智慧のことである

今の日本はがんばるなでよい

達磨　目的があっては　無功徳　楽しくない

赤ん坊の笑顔が本当の善、なんの目的もない

仕事も因縁。学歴も因縁
優越感も劣等感ももつことはない。
不安な心などどこにもない。即ち安心
いかなるときも平気で死すではなく、いかなるとき
も平気で生きる。　子規
いちいち確かめなければいけないものなら仏性じゃ
ない
死なねばならぬときは死に、生きねばならぬときは
生きる
その時々の目の前の人を救う
仏様におまかせする。明らかにする

天の父、神が裁くこと
義人は寂光土をつくること人間だから
やりたい仕事を金に関係なくできたら幸福だ

仏教とは世闇の権威に従属したり迎合したりするも
のではない
何かをしなければならないというのは世間への迎合

ひとり祈るは慈悲からでるものである

解ったと思う。世間からでてまた世間にかえる
優しくなくていいよ

みんなが適当に好きなことをして富が公平、平等に
分配されるそんな世界をつくりたい

功徳をもとめてはだめではだめ　禅天魔

南無妙法蓮華経（功徳の元）

人はすべて例外者　　ベルジャーエフ

生きる意味はないが意義がある

その時、場合を生きる

南無妙法蓮華経、本当に必要な功徳あり

金あるなしにかかわらず主人公であれ、金に執着す
るな

自由をもとめまた愛にかえる
悟りからまた世間へかえるが少し違う本当の自分に
かえる

功徳がないならなんのための仏法だ。執着から離れ

真の幸福へ導いていくものであるはずだ。その時の
約束がすなわち功徳である

妻子をすてるのもひとつのエゴイズムかもしれな
い。西行は子供の呼ぶ声に耳を押さえて
振り逃げたのだ。

一番色欲が激しいのは 12 から 15 位だろう。
見たい奴、見たくない奴
不二である。

自分のことだけかんがえていてはだめだからこそ
自分のことを考える
すべて仏の心のまま、自らを忘れたとき本当の幸福
が訪れる
ゴッホは身重の娼婦を妻にしようとした。だがそれ
は有漏の善、無理してないかい
無漏の善とは赤ん坊の笑顔
有漏の善か無漏の善か解らないことがあるだから南
無妙法蓮華経
自分は自分、自分の出会い　気持ちを優先するしか
ない　自然に南無妙法蓮華経

好きなことして暮らすために
一緒にいてくれたオンナそれが最高の女なんだ
お互い迷惑をかけあい話し合うだからそれでいい
ときどきグチも悪口もある仕方がない

辛い思いをかけた人の分、辛さを背負わなければならないと思うとき
その人もただついてくるのである　　ゴッホの場合

人をほめるということは自分もほめられてもいいということだ
ほめないということはほめられなくてもいいということだ

仕事もなにも、その人の持ち分
幸福になりたいという気持ちを大事にしたい

武帝、民を苦しめ寺院をたてる無功徳
Ｒ会開祖には感謝するが子分でいるつもりはない。
自由に生きられなくなるから　　欲望からの自由
自由からの自由

Ｒ会開祖は私を育てるために生まれて来た
Ｋ会も俺のためにあった

善悪を知ろうと思ってもそれは人間には無理である
だが正義は規定できる

パートナーを信じる、首輪をかけ縛っておくわけに
はいかない　南無妙法蓮華経
死がこわくなくなる教育が必要だ、
暴力ではなく愛にて　死ぬまでは生きる
死がこわいから死にたくなるからだ
運命の人と出会わないから悟ろうとしたのかもしれ
ない
賢治は法華経に没頭して周りが見えなくなって苦し
んだが、よき死を迎えた。
南無妙法蓮華経　大難は小難　小難は無難
無漏の善ができる

聖書をもって、拝めばスカートをめくったという女
の子は好きな人ができ自分でなくなり本当の羞恥心
にきづき、なにか厭ににになって死んだのかもしれな
い。つまり愛に目覚めたのかもしれない

羞恥心を乗り越えるところに真実の愛がみえてく
る、たとえば老夫婦の愛
愛は反射する。だからだから聖書の義人になった。
情愛もすべて南無妙法蓮華経
自分を無くすような毒はやめたほうがいい。
たばこ　酒
したい女がいたらしてやる、それも仏。
私には逆にむつかしいが

一休は詩人といっても想像力が不足していた、へん

ずりでいい。
森女を愛しんだのも認めるが心が大事だ
パートナーと誠実につき合っているのならなぜ結婚しない
独身、離婚者は自由に性愛をたのしんでいいかというと、それはなぜか空しくなるだろう
子供、大人は年齢ではきめられない。周りの悟りの位置も大切
南無妙法蓮華経

自灯明とは自分が善を行い、悪を退けたいと願うこころ
法灯明とは南無のこころ　　つまり南無妙法蓮華経
すべての宗教団体は私ひとりの為にあった。みんながそう思えばいい

幸福にしばられると幸福になれない
よいことがあればいいが、ないときもそれでよしと思えるのが南無の心、結局よし

狂雲集(一休作)
森女は盲目であったゆえに、人々にもてあそばれた
だろう。一休の優しさに感謝した。
もちつもたれつの世界よかったかも。それが破戒で
あり、聖人とはほど遠く見えるが偽りともちがう新
しい世の前兆だったのかもしれない

公案も自分勝手にどうでもできる　　禅天魔
経典をよむ智慧が大切
Ｒ会、大事なことをみのがしてながしていいことを
気にする
願いをかなえる　罪障消滅　南無妙法蓮華経
一休はどこかで淫欲にはしる自分を見つめていた。
見失ったり、われを忘れたかったり客観していた。
おぼれながらみていた
仏に会えば仏をきり、鬼にあえば鬼をきる。だが南
無妙法蓮華経を唱題すればすべてから解放される。
一年一度のお守りはいらない
キリストの血により永遠に

私の行状ではなく私を好いてくれる人が大事
だがそれよりイエスキリストを信じるものが大切に
なった
親鸞　一休　日蓮のこころに愛があるかその一点だ

神も釈尊（仏陀）には参ったのかもしれない。釈尊
（仏陀）は無欲だった。苦行のあと中道つまり慈悲

にみちた普通のくらしが大事なのだと説いた
神は義人をつかって不具者、障害者として現れた
それは神も罪を感じていたからだ。
神は愛であるからだ。
義人は神の愛とヒューマニズムの板ばさみに悩む。
人を救うのは仏であり神であることを忘れてはならない
旧約、ヨナ書人々は悔い改めニネベはすくわれた
義人は喜ぶ、神は心を変えられる、しかし愛は変わらない

遊女たちも性愛の手ほどきをうけ喜びにかわっていったものもいるかもしれない
根っからの好きものの女もいたかもしれない
時代をみてもわかる純潔を守れるかは、すべて因縁の世界である。彼女たちに罪はない
ひとりひとりの人生を生きるしかない
遊女をかうなら明るく、か。私はいかないけど

旧約　コヘルトの言葉に［すべては空しい］という
ものがある。すべての幸福は一時的であり普通に飲
み食いし現実的に自分の魂を労苦させると。
しかし改革者のボンヘッファーは獄中よりいう。自
分の意志で選んだ恋愛、そして神に委ねる。それは
素晴らしい充足感を与える唯ひとつのものかも知れ
ないと男と女が助け合って共にいきる。
神はそれをお望みだ。

釈迦は享楽のなかで生老病死の苦がどうしたらなく
かるのか、その一点を考えていた。
経典は人を悩ませるためにあるともいえる。当たり
前のことが当たり前になるように
最良にポジティブ。南無妙法蓮華経

神は人となり人の弱さを知り、その優しさを知り、
自己犠牲の無意味さを知り、空しさを知った
名誉は本物か偽物かできまる
現実の金とか病気とかの悩み不安の世界、仏教が真
の幸福をつくる
舞台装置にごまかされ主体性のない人間はだまされ
ていく
内心のめざすものに違いがある　　ホームレス
腹がへったら水をのむ、女がほしけりゃへんずりを
こく、それでよし
仏を売り貧欲に仏法を商う俗僧が大勢、存在する
自分自身を信じず偏執的で分別くさく、損得にはし

り地位をもとめる信者も多い
ひけらかす材料がなくなり消えてゆくもの、つまり
死にゆくものもいる

神は自己顕示欲が強いと思っているかもしれない
悪人がたくらんだのが原爆はじめ戦争である

老人は時代おくれであるべし

禅天魔

一休のようなやつがでる
庶民はただ人生を送りたいだけ

義人は人間的な思いで何かをするとき、それは必ず
失敗する。人は神との約束、契約を信じる。
無心で信じると祝福がまっている

南無神

モーゼの十戒

1　あなたはわたしのほかになにものをも神としてはならない
2　あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない
3　あなたはあなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない
4　安息日を覚えてこれを聖とせよ
5　あなたの父と母を敬え
6　あなたは殺してはならない
7　あなたは姦淫してはならない
8　あなたは盗んではならない
9　あなたは隣人について偽証してはならない
10　あなたは隣人の家をむさぼってはならない

隣人を愛せ

人は神のために組織は人のために
義人はなるべく感情的、熱狂的にならぬよう思っている
理性を研ぎ澄まし神と感応する為である
神はそれぞれ個人と契約を結ばれているからだ
神は梵天　ブラフマンともいわれる
旧約イザヤ書　神は暗さと災いと繁栄をもたらす
　ヨブ　記　サタンの働きかけと神の意志

つまり神とサタンはある意味では連携しているようにも見える
人の罪性をみること神を畏れる智慧を失わないこと
釈迦は神の世界すなわち真如より来り、さとりをひらき神の勧請により
人々に法を説いた。久遠の本仏は神と一体、日蓮もまた神と一体にして
南無妙法蓮華経

サタンの社会体制も神の意志のうちにあり人間は自由に契約を選択できた。誘惑に負け愛を失うより、富をもつことより貧しいほうが安楽であり神の国に入ることができるのである。釈迦は餓死寸前までいったが中道をあゆむことでさとりに達した。そして人はひとりでは生きていけない。隣人を愛しその日暮らしのつもりで生きる。これが大事だ
蔵の財より身の財。それより心の財である。これすべて、その分において円満に南無妙法蓮華経
イエスキリストは神に対しある意味で逆らったのかもしれない[人間をこれ以上もてあそぶのはやめてくれ、みんな生きている]と、しかし天の父をイエスは本当に愛していたのだ

十戒を守るとはそんなに難しいことだろうか。これは人が生きていくうえで本当に幸福になるために神が我々に示されたものである。このとおりに生きれば人は美しく善く生きられるのである。　イエスは姦淫した女にローマの刑を行わなければいけないなと逡巡したのではなく残酷な石打ちの刑で殺すということが許しがたかったのだ。だから罪を犯したことのないものから石を投げよといった。女の罪を定めはしなかったが、なぜおまえたちは姦淫するなということを守れないのだと、苦しい心もちであったのだ。人は心の内で異性の裸体を、想像したりあられもない姿を思いうかべたりする。イエスはこれも姦淫だといった。つまり人々の中の罪性を気づかせ、憐

れみを浮かばせるためであったのだ。イエスにも自信はなかったのだろうか。だから女の罪も定めなかったのだろうか。いやイエスこそ無欲の心正しき人だったのである。神はイエスの命をかけた訴えに改心して日蓮となり南無妙法蓮華経を唱題したのである。つまり、現世、日蓮は前世での先業により法華経、観持品にいう受難をうけたのである。南無妙法蓮華経、後、すべてに幸せになる。宇宙とは唯識でいうように認識の世界である。創造主たる神は人間が言葉を発しあったときに生まれた。つまり[愛、なにかを生み出す存在]を人は神と名づけた。日蓮も身延山を霊鷲山にたとえそこで小宇宙をみいだした。久遠の本仏は所有者である。イエスの弟子になるのはなんの学問も資格もいらない。ただ信仰があればいい、そこが難信難解なのである。イエスキリストの自己犠牲たる十字架の死は、それに殉ずるたくさんの犠牲者をだした。神は愛でありそれを許さなかったがそれはそれ、わが子を不憫におもい復活させたのである。だが十字架の死はイエスにとっては栄光、喜びであり、犠牲ではなかったのである
そしてイエスキリストを信じるものはコマラナイということは、周りを大切にすれば大丈夫ということである。情けは人のためならずということともいえるのである。

つまりはイエスの父たる神への恋慕渇仰より起こったことであった。

旧約アモス書祭り、犠牲のむなしさが記されている
はなしが序を得てないように感じるかもしれないが
聖なるものとしてうけとめてほしい

釈迦はいった。自分が可愛いように他人も自分が可愛いだから優しくしなければと。私に義があるとするならば他人のいのちも自分のいのちと同様に扱わなくてはならないだろう。それが今、神、イエスから許されることではないか。それは若干、禁欲的となることであろう
スポーツにおいては選手たちの悲哀、辛苦に目をとめずに観戦、熱狂する人々がいる。これは、サタンと神がしくんだ出来レースであり神はその中で悪人を見出し、正しいとされる人も試されるのである
隣人を愛せよ、敵を憎むなということは法華経の提婆達多品につうじ、自ら人を憎めば地獄におちることになる。サタンの心はもちいずイエスキリストの心で向き合わなければならない
聖書、放蕩息子の譬えのように自らを罪人として悔い改めれば神は愛される。しかしそれでいいと思ったとたんに悪人となるのである
人は宗教のない世界では生きていかれないものなのだ。(唯心論)
古今東西、貧しいよりも金がある方が不幸になる確

率が高い、不幸というのは人と人との心が離反することである。貧しいものはこころをひとつにする。マイケルジャクソンはじめセレブといわれる人の不幸ははかりしれない。離婚、買春、ギャンブル、酒、薬物依存など、ここにサタンがはたらくのである。サタンは神の意志のあらわれであり、やはり神は罰しているようで愛を示し回心を促す。結局、愛の居所は各人の心中にある。
釈迦もイエスも人格の完成よりも生老病死に実際に苦しむ人々の思いを振り返って慮り、死んでいったのかもしれない。その苦しみを無くす為、日蓮はうまれ[現世利益]をめざした。イエスにしても復活してたんなる自己犠牲の空しいことを証明し信じるものの生活の保証をしたのである。ただモーゼの十戒を守り、やぶれば懺悔して、ただ日蓮とイエスを信じること。彼らは受難の中で本当に民衆の幸福を望み果敢に生きたものたちだからである
だがパリサイ人等、特権的ステータスの維持のため複雑にして厳密かした律法。順守できるものはいない。偽善者の温床が生まれた。イエスはそれを責め信仰をもたらし世の人を救おうとした。

法華経 20 品常不軽菩薩の行は経典をよまず、ひたすら相手の仏性を拝するとあるが、それは相手の長所だけみるのではなく、欠点をみよというものでもない。ただ南無妙法蓮華経と唱えるべし

イエスが十字架につけられたのも、神とサタンの出来レースによってであり苦痛はなかったのではないかというはなしもあるが、血の汗をながし決断にいたったイエスキリストはやはりメシアなのである。しかし自已犠牲というものには多分に偽善が含まれているということを示唆している。人がどうにもならなくなったときにでてくる言葉はバカヤローという叫びである。それが本当である。優しさを突き詰めるとそのことがわかる。だから南無妙法蓮華経

私はある女医を好きになったが彼女の魅力は外見もあるがその一途な強さにあった。しかしこれも信仰心がうまれなければ冷酷なゲシュタボの女監守になってしまったであろう。彼女は聖書の一節によると悪魔から生まれかわったとあった、救われたのであろう。そしてナチスドイツがユダヤ人を虐殺したのは誤った信仰心からかもしれない。生命の絶対尊重ということを、まずおかねばならないのだ。人は死ぬ。死というものは神仏の領域である、だれも殺してはならないのだ。

布施も自己犠牲の一種である。シビ王などの前生物語にある血なまぐささは仏陀になった釈迦による生命絶対尊重というさとりの重要性の強烈な反語となっているのだろう

ＩＱの高い人間だけで政治を行おうといい、民主主義は欠陥だといった怪しい哲学者がいたがそれは真逆であろう。ＩＱ云々は知らないが、優しさ、あわれみをもった人間たちだけで政治を行えばこの世界はどれだけかわるだろうか。計算高いやつらはきまって個人の富と地位と名誉が目的であることが多いのである。

すべて自分の宿命、持ち分が基準となってくる。神は義人を通じて精神障害者となり、永年人間を苦しめてきたという自責の念を償うと同時に因果応報の証明役をその手に引き受けられたのである

潔癖を正義感と混同してはいけない。思いやり、あわれみがないからだ。本当の正義とは愛の存在にかかっておりそれは社会に深く根ざし、弱い立場の人々の視点に立ったとき確実に見出せるものなのだ
童貞と処女が結婚すれば一番いいのであろう。しかしみな誘惑と欲情に負けそんな幸福もはなから吹き飛ばしてしまっている。そして嫉妬、猜疑心、不信が、醸成され、となりの芝生と比較し浮気、不倫などが生まれていく。悲しいことだ。だがここにこだわっていく間はなにも解決しないだろう。とらわれのない自由な気持ちは欲望、無明からの解脱にある、悩んだ人こそ安楽へと導かれるのだ
義人は思った。人は人に対してそんな大きな優しさ自已犠牲など望んでいないと、まだ逆に役にたちたいと願っているのだ。悪意さえなければ幸福はそこにあるのだと。恋はうまれ愛は歴史の中で育むもの。義人はハードボイルドで金のためといいながら金にこだわっていなかった。ただ生きてく上で理由づけがほしかったのだ
神と日蓮は義人より離れた。義人は義人の人生を歩むしかない
自已犠牲と違って人を大切にしなければいけない
義人は義人、義人の人生を送るのである
人は外見を気にする。ならばみな整形したらどうであろうか、だがきっと元の姿はどうだったかとか、さぐる手合いもでてくるかもしれない。そこで真に美しくあるためにはどうしたらいいかというと、ここ

ろ、魂で善いことを想うことがやはり大切である、それが相に表れてくるのである。　南無妙法蓮華経
森女は一休を嫌がっていたかもしれない。ただしかたなく身をまかせていたのかもしれない。とすると一休はやはり破戒僧だ
宗教は道徳ではないが究極の倫理という一面もある。ただ愛する人と生きていきたいと思うとき守るべきものは見えてくるのである。それだけである。そしてそれがわからないとき

南無妙法蓮華経

最近の不妊治療、優生に関する問題はおのれの欲望を優先する男女たちの想像力の欠如、それとともに神への不遜が根底にあると思う。すべては空というが色にかえったとき、生まれ来る赤ん坊のことを慮ったら安易なみちは歩めないはずだ

イエスは神と悪魔がそんなに関係が悪くないので、神は愛であると思い込もうとした。
イエスは真面目で悪魔の誘惑を嫌った。イエスは悪魔を炉に投げ込もうと思った。神は悪魔をもつかう度量を持ち、悪魔の淋しさもわかったのだろう

何が良いことなのか悪いことなのか分からないからこそ南無妙法蓮華経
悪魔を炉にくべるとは試みと誘惑のない世界をつくるということかもしれない
道徳は人をしばるものキリストや仏陀の教えは人を解放するもの。世は不倫を助長するふうでありながらいざ行ったものには声をあげて糾弾する。彼らの教えは、不倫は絶対してはいけないと強く戒め、及んだものには懺悔させかつ罪は定めないのだ。なぜなら教えは誹謗、中傷や好奇心を満足させるためにあるのではなく、人を安楽へ導くためにものであるからだ。

ホームレスは自分をも、この世から消し去りたいのだろう。自殺する意味、潔さももてずだが彼らは生きている。それが大切だ。ごめん俺の方が弱い男だ。世間をも捨てきれず、あなたがたのような生命力もない。崇高なる人たちよ。自分の弱さを自覚したものは真の勇者と呼ばれるだろう。神はあなたがたを神の国へ迎えられ祝福されるだろう。

犠牲者がでればそれに報いようとする。だから戦争は終わらないのだ
競争は自由参加、強制してはいけない
世の人々は愛されることばかりを望んで愛することをしない。
自分のことを分かってくれた、ただそれだけで操を

たてていける男女を神は祝福される
企業では家庭と違って二等兵、だれでもスイッチがきくと言われた、しかしこれは逆説で家庭での本人が本当に大切なのである
人生に意味、目的はないかもしれないが神のシナリオには役割があるのだ
山登りといっしょで滑落して死にかかるまでほっとくのが筋だと思うのだが
自分自身を嫌うということは仏様にたてつくことだ、自己肯定、なまけものにもできる努力である。そして安息と怠惰は違うのである
釈迦は地獄、畜生、餓鬼、修羅の世界を無くそうとはされなかった。あくまで解脱つまり逃げよと言われた
競争したいやつはすればいい、静かに安楽に暮らしたいやつは愛をもって神についていきなさい。それはイエスキリストを信じることである

サタンは人をしばるものでもある(道徳、常識、因習等)

世も無常なら人も無常。隣人を愛するが故に憎くなってはいけない

イエスはユダヤ人迫害が行われないよう。きびしく叱責したのである

関わりがないといいながら関わってしまうそんなひとを神は愛するのかも知れない

マザーテレサはなぜカルカッタの貧民救済でなければならなかったのか

プラトニックの延長線上にある性愛なら問題はないであろう

朝夕に[南無妙法蓮華経、神の御国がまいりますように]と感謝の祈りを捧げるといい

妄想とはいろいろ考えること、世には妄想を助長させる教団もある

キリストは善と悪の間をころころ変わる人々のためにも死んでくださった。キリストは義人を招くために現れたのではなく罪人を悔い改めさせるために降臨されたのである。だから義人はそれでいい。
自灯明　法灯明　主体性の確立　聖書の保証

天の配分によって恋愛はさだまってくる。性愛をあせると結果しらけることにもなる。相手に依存すれば離反され怒りの感情もわくかもしれない。その時の状況で辛い日々をおくらなければならないこともあるかもしれない、心の自由を忘れてはならない

聖書は義人が望むことにたいし未来を保証し守護し、また結果には褒め領解してくれ不都合がある場合にはいろいろなことをあらかじめ示唆してくれる。そしてけっして責めないのだ。それは彼が善きことを、つねに望んでいるからであり、本当にありがたいことである。
だから自由、自在の境涯を得ることができたのである

年老いて醜くなるのは欲情する介護人たちから辱めを受けないためなのかもしれない
人生は意味がないと思えば自由でいいが、愛をみつけなければさびしいだろう。
かかわるとつらいからかかわらない、薄情、うそつきとは違う
ただ相手の立場を考え、思いやる人間は神の国へ入る。それが真、善、美。
南無妙法蓮華経
人は人のために生きるために自分の為に生きる
富から徳は生じない。徳とはつまりイエスキリストを信じること

愛とはいついかなるときも愛するというもので、だれかれとなくするというものではない
処女性は大切である。これは人間のもつ精神性につながるものであり、結婚前は純潔を守るべきである。これは主体性の問題である。

自分の子供を愛することはだれでも行う、なぜならそれは利己愛だからである
理屈をこねるより、感情を優先し博愛をめざすことは人間の本質にも関わり、自分を客観する理性にも連動するのである
ある時期がくるまで親を敬わなければならない、だが利己的でありキリストの愛と反するなら決然と離れなければならない

人の幸福を願ったり、また不幸を望んだり人間はするものである。だからこそ自分自身のことを考えなければならない。それはひたすら我をわすれ南無することである。心に花が咲くであろう。
義人の中でイエスは観念的な死をむかえ復活し一体となった。ただ任せよ、水をやるものも育むものも報酬を得るであろう。
悪魔との和解　神にお願いする。（アングリマーラの譬え）
我々は神の作品である。誇ることのないように、行いが良いということより神を大切にすることの方が喜

ばれる。そして祝福はイエスキリストによって保証されているのである。
包容力は持続しないと期待されるのが不自由と感じるようになる

この不幸な世になぜ人間は子供を生み出す。中絶も神がイエスを見殺しにしたときから罪は消えてなくなったのだろうか。

聖書すなわちイエスキリストがいれば孤独ではないのだ、相、性、体に関係なく心の平安を神はつくりだす。誘惑、不信を退けられるよう神の子はつくられている
業縁によりイエスと義人は絶対性のある関係であり、イエスは実在するのである。

釈尊は乞食となり道端で腹が痛いと下痢をし、のたれ死にした立派な方です。
彼は弱く怖かったのでしょう、人生、立場、責任が。
小国の王になり富や権力や名誉の為に命のやりとりを行い、猜疑心、嫉妬などの悪感情。策略、謀略、裏切りなどの悪意のなか囲まれて生きることは決して幸福なことではないからです。彼はただ救われたかった。見栄も体裁も贅沢も妻子すらすてて正直に心の永遠の平和を求められたのですね。
私もそれを模範として生きてきました。悪霊に囲まれ心をのぞきこまれ、塩むすびしか受け付けなくな

り餓死を覚悟したとき、人々の本質が見えてきました。けど最後は思いやりと愛がのこりました消すことはできなかったのです。釈尊も慈悲の二文字をすてることはもはや生きる資格がないということとされたに違いありません。

私が統合失調症で入院する少し前にひとりの女が自死をした。いつも聖書を持ち歩き、禁止されていたスカートを身に付け、拝んだらそれをまくったそうだ。私は思った。この女はこの世を創った神の苦しい胸のうちを知ってかわって死んでくれたのだと。涙がこぼれた、ただこぼれた。
人は自分を大事にし、他人を大事にしないとと心にかたく誓いました。
神とヒューマニズムのはざまに私は今も立たされていますが自分らしく生きていきます。
聖書に帰依し、義が私にあるそうだからです。
神は簡潔でやさしい文章をよしとされます
正確無比や難解なのは悪魔の受け持ちです。
書きなぐりみたいでごめんなさい
悪魔はしつこく自身の最期を心配しているが、私は神ではない、預かりしらないことである。たぶん
神には深いお考えがあるのでしょう、みなさん平和に安楽に。私は逃げるのか、卑怯者と呼ばれても。

だれもが少年時代、年上の女性と大人の関係をもちたいと性愛に夢をはせたときがあったはずだ。法律

は法律、まず何が悪徳か見定めなければいけない。
人々の複雑さが芸術を生み出したのだ。
獣性と神性はしのぎあうのである。
何度もいうが羊の生贄は、もういいのである

神になったとき義のために殺人、大量殺鐵を行っていいものか悩みに悩みました。自分にはもうこの責務は無理だと思い神に天に帰っていただいたのです。

ある教えです。自分の非を認め他人の非をさだめないとする考えが大切。というのは一見、道徳的で正論のように思えるが、自分の非を認めることが非であるという矛盾におちいるやはりここは、神仏の眼、つまり智慧をもって客観的に、ふかん、検証して正邪を見極めなければならない。そしてまたそれにたどりつくための修練もしていかなくてはならないのである。
平和な暮らしをおくるよりもスポーツの花形になりたい、サムライとして死ぬ方が楽だと思うのはやはり考えものだと思うのだがどうであろうか。

実は私は賢治が好きでたまらないのです。宗教的精神性の高揚が民衆の救済につながるということはやはり捨て切れないのです。同悲同苦として
義人はけっして才長けた人間ではない。だが法華経、聖書によって絶大な救いが自らに訪れたと信ずるのです

日蓮ははるばるたずねてきた信者に懇切丁寧に教授したが、親鸞は南都の学僧のもとへ行けと突き放した。はやいはなし薄情に無視したような気もするのだ。やはり私にとっては冷たく感じる。

聖書は私を導き大事な場面で示唆し励まし教え領解してくれた。そして私を決して責めなかった。本当に優しい、親友である。
あわれみに目覚めても思い患ってはならない。

イエスは天の父を呼んだ［父ちゃん］と、神は優しい父ちゃんなのであろう。イエスは大工の長子、義人は酒屋のあんま（長男）。私の母は処女で結婚し初夜に私を身ごもった。祖母は不義の子だとののしった。私の父はハッキリと認知したのである。私は聖霊ガブリエルによってあかしをうけた。幼いころからだれかに見られている気がしていた。幾度も命の危機もあったが私は生き延びた。公園のすべり台に寝ころび青い空を見上げるのが好きだった。なぜだか。そしてたいして成績も運動神経も良くなかったがガキ大将になった。なぜかみんなすこし非道な私に従ってくれた。みんなにもうしわけなかったがカミとはそういう一面があったのかもしれない。

社会にでていろいろ苦労したが、いつか立派な社会人になるということが欺購に思えてきた。そうするうちに身も心も安楽に生きることが一番ではないか

と自然に思えてきた。それには思いやりと愛と感謝が必要であることが解った。それだけでいいのである。聖書と南無妙法蓮華経このふたつである。あとは［神の名があがめられますように、神の御国がまいりますように］これでいいのである。死しても生きても平安は確実である。

神は安息日の主である。いつまでもプラプラさせてくれるよう祈るしだいである。

内村鑑三先生に捧げます。

１９９９の年、７の月、恐怖の大王がそらから降ってくる。アンゴルモアの大王をよみがえらせるためにそのときマルスは平和の名において調整するであろう。

少々ギミックな話になりますが、ノストラダムスの予言です。期日が明記されたのはサタンが恐怖を、神が警告を発するためのひとつの策でした。マルスとは神の御使いたちで、私を養育、成長させるための聖霊、天使、諸天善神たちのことです。アンゴルモアの大王とは即ち獣性、神性をもつモンゴロイドの王、つまり私のことでした。
しかし恐怖の大王の出現はいまもって分からず、世の終わりに義人、悪人がよりわけられるということが聖書をひらく度にあらわれてきました。
この世のすべて、歴史もみな神と悪魔との、言葉は悪いですが出来レースであることは、旧約のヨブ記からもわかるとおりです。
私が発表したいと思ったのは我欲、自已顕示欲からではなく聖書からの示唆によるものでした。
きっと神もイエスもサタンさえも人間の幸、不幸をこえた大事な快楽、即ち愛を知って欲しかったのだと、思います。
カルト、詐欺教団の横行は人々におおきな不安を与え、安心をもたらすはずの宗教を皮肉にもその逆にすすめている現実があります。
イエスキリストは私の後頭部において自己犠牲の終

わりを告げるため精神的に抹殺しました。そしてまた復活して私と一体化したのです。神としての責務は私には重く天にお帰りいただきました。そして私の信仰の対象となったのです。釈尊はわが師であり、神も日蓮も崇敬しておりました。そして今わが身は聖霊ガブリエルにみたされております。
神はしかしこのような世界を創ったことを後悔もしておられ、人々と共に苦悶しているのです。
そして最も忌み嫌われる悪霊つきつまり精神疾患のかたちをとって、私を媒介としてイエスキリスト、日蓮、ガブリエルと共に示現されたのです。これが分裂気味の四位一体ということです。
人々は信仰の為、戒を無理なくアドヒアランスするために［南無妙法蓮華経、神の御国が参りますように］と祈ることが大事です。［心の平和］が一番の幸福であることが絶対であると知るべきなのだと認識しています。
この世の終わりなど私にはどうでもよく、慈悲深い神ならば大丈夫だろうと思われるかもしれませんが、良心だけでは生きていけない、この世はやはりどこかおかしいです。聖書の警告と訓戒が必要なのですね。

陳腐な戯言だと思われるかもしれませんがすべて本当のことです信じていただければ幸いです。

報愛抄

義人

Ｈ２９年３月

まえがき

日蓮の書きものに報恩抄がある。

泉下にある道善房のためにしたためたものである。

私は最近、忘れかけていた母への感謝が胸に湧いてくるようになった。

彼女が少しずつでも私を神として受け入れてくれるようになったからだと思う。

まずその前に母に対して否定的だった私の意識に変化が生じたからでもある。

夫を早くに亡くし幼い子供二人、女の手で重い酒の入った箱を運び、世間の人殺しや、ずる賢いやつらと渡り合う。大変である。根性がまがっても仕方がない。

母は容赦なく落ち着かないソチに罵声を浴びせかける。そのぞんざいさが今日まで生きてきたことの、証左であろう。

感情的な人だが本質は見抜いている。根に持つようで普段は忘れている。必要なこと以外は切り捨てる。そしてエゴイズム。

だがその献身的な姿勢と情けの深さは知るものは知る。

誰もが一緒なのかもしれないが、人によく言われたい。人の口に上りたくない。

そんな根性が、私の表白によって粉砕されたのである。

だがそんな母を私は誇りたい。彼女は善悪など根源的には考えたことはないだろ

う。社会通念上、非道なことはしていない。それで十分だったろう。そしてそのオーソドックスさが、妹を含めた親子3人をすくったのである。
その愛にどう報いたらいい。私がイエスキリストなら彼女は聖母マリアに違いない。
マリアが大工のおかみならば宗教画にあるような、上品な風雅なおもむきではあるまい。
基本的にいい意味でも悪い意味でも庶民的な価値観を持つ一人の在郷のおかみだったのではないだろうか。ときには格式ばって、感情的でまた雑な面があったのでは。
偏見、差別などの悪意は容赦なく抱いていたことは簡単に想像がつく。
だからこそ貞潔で、盗みもはたらかない。嘘もつかない。神もひたすら愛す。
そんな保守的な母親だったからこそイエスは神として自立できたのだろう。
そして今年ケアマネージャーの資格をとった妹も、私を支えてくれた。
若き日から社会正義に目覚め、白血病のドナー登録や、献眼を決め、今日に至っている。私と違い、幼きころから成績も良かった。頭がいいのだろう。
しかし欲がないので金儲けにも名誉にもはしろうとしない。
父親の影響だろうか、私たち二人はどうも義侠心が強すぎるみたいだ。

母はそこを嘆く。成功を幸福と信じる母は、今でも父との結婚を失敗だったと語る。
人の心はころころ変わる。私とてあの時こうしていたらとなんか考える。人の常である。
だが今、曲がりなりにも労働もせずに白い御飯が食べられる。これは最高の幸せである。母は何が欲しいのだろう。名誉だろうか。人に勝つより自分に克ことが大事だ。
そして大切な姪たち。真子、千華。
明るい未来がいたいけなすべての若き人たちに待ちうけるよう、この世のすべての愛に報いるため、私はまた私の愛を発信したいのです。

前略

感激です。先生ご自筆のご返事。またご講演録。祖父がいずこかから手にいれてきた緑の衣をまとった観世音菩薩様の御前にお供えし、しばし歓喜にあふれ手を合わせました。本来ならば日蓮上人の坐像が中央にあるお仏壇にもお供えしたかったのですが、我が家をずっと見守って下さった言わば家宝ともいえる観音様に

自然と心が向かいました。嬉しさに宗教界のノーベル賞と言われるテンプルトン賞をもらった以上の心持ちです。
実は、家に住み着いたノラネコだったソチという名のおてんば娘がワレコト（富山弁でいたずら）するので、お仏壇の扉を閉じてあるので。ありゃ、いやすいません。忘れていました。お仏壇にお供えしました。気が動転していたのでしょうね。まさかご返事がかえってくるとは思わなかったので。
本当は私の手紙を読まれて「お前の心得違いだ、わかっとらんな」とおしかりをうけるのではとビクビクしておりました。ご講演録を読み行くうちに先生もいろいろお間違いというと失礼ですけどあらせられて、またすぐ切り替えられここまでこられたのだと感心させていただきました。
布施の難しさ、とりあえず捨てるということでしょうかね、大事にしたいです。それと競争は悪なのはわかりますが必要だったのですね。私はリタイア組ですけど、やはりそのまんまが、大切なのですね。一芸に精通した者がいないと困りますものね。それもこれも、ご縁ですかね。
先生ありがとうございます。「法華経の世界」購いました。あとがきの冷たい水の譬え最高でした。わかりやすくて的を射、核心をついています。素晴らしい。
最後に南無妙法蓮華経と三度、私の日蓮上人と賢治への想いが少しばかり入って

いたのならいいなあととんでもないことを考えた次第です。
それと先生、はずかしながら恐縮なのですが、少しお目を拝借いたしたくて、それというも私が主治医の柴田真由子先生に提出していた、宗教、もちろん先生の影響を多分に受けた思想が、色濃く反映されたものを含める何枚かの書簡がありまして、それをご高覧していただきたくお願い申す次第なのであります。
まことに厚かましい限りではございますが。先生の教えに共鳴した、ひとりの末弟子の甘え事だと思ってくだされば結構です「ひろ　さちや先生に読んでもらった」それだけで幸福です。お時間の許されるとき、よろしくお願いいたします。
それでは先生暑くなります。体調にはどうかお気を付けになってください。お手紙どうもありがとうございました。では。

草々

〔かつてはこうも低姿勢だったのになあ。〕

ひろ　さちや様へ
「正法眼蔵」拝見させていただきました。始めてみる肉声を発せられる先生。宗教思想家と顕せられておられましたが、合掌するお姿。本物の宗教者の誇りが垣間見られました。そして暖かい感謝。お元気そうでなによりでした。
ＮＨＫのテキストも買わせて頂きました。[迷い即ち悟り]。
始めに私の見解を述べさせて頂くと。なぜこんな屁理屈めいたことをごしょう大事に取り上げるのだろう。それで巷にうごめく民衆たちが救われるのだろうか。
禅天魔。日蓮は言っています。
道元がいう「八大人覚」の教えの八番目、不戯論。つまりなんでも不可解な難しいものにしてしまうのはいけない。なにをいっているのか。自分が「正法眼蔵」という難解なものを作りあげたのだろう。専門家でさえ四苦八苦している.一般の人たちはどうしたらいい。
そして禅問答なんかはなんでもありの気分次第なものばかりじゃないか。
ひたすら禅を組み、胆を鍛える。武士の精神修養の方法か。本当に幸せになることとは乖離してくる。
四摂法。[布施、愛語、利行、同事]。先生はそのなかの布施について「へつらわないことも布施である。これはどういうことかというと、おべっかを使ったり権

力に媚びたりすることは、結局は出世したい、得をしたいという自分の欲望を満足させることにほかなりません。ですから、へつらうことは自分のための行動であり、へつらわないことが、他人のための布施になるのです。」おっしゃっています。

資料を提出した、私に言われたのかなと思いました。たしかに果実を得る目的がなかったかといえば否とはいえません。

しかし私の電話の言葉が的を射ていなかったのは、先生への敬愛のあまりからくる緊張がもたらしたものです。先生は忌避されるかもしれませんが、いたって日常生活においても優等生の障害者です。

あえて名乗りますが神として名誉欲、金銭欲、権勢欲を超えて人々に奉仕したいと決めたのです。

顔は見えなくて結構です。名もなく、貧しく、美しく生きていこうと思っています。

しかし今、私の作品たちが世にでなくてよいのでしょうか。コマーシャリズムかなにかが阻む、愛と思いやり。私の父親が言いたかったこと。尾崎豊が悩み苦しみもとめた自由と愛と安らぎ。イエス、釈尊の教えとは。自分に執着するな（頑張るな）。自分を卑しめてまで自らの益を渇望するな。しかし愛という概念があ

るならば人は愛を求めます。だが愛は与えることにしか見いだせません。
大安心のなか真実の思いやり(慈悲)を周りに向け自他ともに真の幸せをつかめ。
それには欲にまみれた世界から脱却し魂の変革をなすことです。私の思想は誤った罪悪感からの解放にあります。醜い渇愛から離れたところ、博愛と慈悲の中、享楽も禁欲も許されるのです。各位の志向です。そしてそれが本当の自由です。
名誉毀損にビビルようでは表現の自由が泣きます。発信しなくてはならない。命をかけて。ゴシップ記事をふんだんに載せる週刊誌には負けていられまい。

「私の福音を無代価で世界に、広げよ」聖書にある。私は就労施設で頂く工賃を三ヵ月間、缶コーヒーも飲まずに貯め製本に回してきた。
貧欲はいけない。
永遠のいのち、神の国のため、私の出番をかなえてください。
先生は多分私が浄土教を手厳しく攻撃し、法然、親鸞は悪魔だと切り捨てたことが不快でいらっしゃるのだと推察します。しかし持論はまげられません。南無妙法蓮華経を唱題するとき仏に包まれ神に愛されるのです。
宗教は知識ではなく境涯、実感です。すいません先生おひとりに申し上げているのではなく、私に共鳴し携わろうと思われる方が、いたならと期待するからです。

私の作品は心有る世の人の心に灯をともすでしょう。
先生、私ここでひとつ告げ口をします。R会のある教会長「ひろ　さちや　さんは、すべてに料金がたかくてなあ」先生の前では媚びていたみたいですよ。最近R会系の出版社から上梓する作品が多いみたいですけど、儲かりますか。
伊集院光さんみたいにものおじしない器量があったらいいのですけど。そしたらもっといろんな話ができるのに。
ここまで書いたら我々の間も終末ですよね。本当は親近感を作り信頼を育てたかった。残念です。
でも先生は浄土系だけではなく幅広く、仏教を啓蒙されているのを知って、これもほんとうの道、南無妙法蓮華経が真実なのだと確信するまでの道程だとエールを送ります。
先生、お身体くれぐれもご自愛下さい。
資料に御目をお通しいただき本当にありがとうございます。
ご家族ならびに周りの皆様のご多幸をお祈りいたし擱筆させていただきます。

合掌

義人

吉本先生様へ
この書類、提出しようと思うのですけど、なかなか聖書がＯＫをださなくて、いまに至りました。
なにか不都合があるか、あったのでしょうか。私としては大恩ある先生の御厚意を信じていままで贈らせていただかせてまいりました。
しかし貴院にたいしご迷惑をおかけしたのなら、本当に申しわけなく思います。
とは言っても私の杞憂で終わればとも思います。
聖書は特別なにか期待しないのなら傷つかずすむのではないかと気づかってくれます。
しかし「神と知りながら、その心は無知になり神と思わずむなしくなった」という聖旬が何度もあらわれました。
しかし、この書類の意味は後に解り明らかになるだろうともいっています。
私は進呈したくてかなわなかったのですが、あせり、媚び、へつらいがあってはならないと聖書はしめします。
ですから毅然とその場で部屋の片隅に放り投げられるのも覚悟してお出しします。それで良いみたいです。
認可のでない、先生宛ての封書が気にかかってかないませんでした。

先生へのこれまでの恩義を想い提示させていただきます。
後は野となれ山となれ。私の愛が理解され行き渡ることを祈念します。
私はいつも真摯であることを表明し、現在の心境を書かせていただきました。
それをお受けくださり、以上、宜しくお願い申し上げます。

吉本先生様
先だっては大変失礼な趣旨のＴＥＬを差し上げまして本当に申しわけありませんでした。
実は提出しようと考えていた冊子、モラルに関して微妙に踏み込んだ表現がございまして、各場所でハレーションを起こすのではないかと危惧いたしたのです。
そして進呈していたものが暫時、届かなくなる。
ご懸念とまではいかないけど、「どうしたのかな」ぐらいの、お気持ちはもたれると勝手に、推量し、ここで一応の着地点をお示しできればとＴＥＬ致しました。
先生は私の思った通り「読まれないなら、もう持ってきません」という伝言に、「忙しいから読めない」と厳しく答えられました。
受付のひともかなり嫌悪感を表出されておられ、私はその真意をこう推察しました。「読んでないわけがないじゃないか。そんなことを試すようなことをするな」

憤怒。
しかし真相は解りません。「利用者でもない男がいつまでも厚かましい。お前の書くものにどれだけの価値があって何様だと思っているのだ。読んでやっていたのだぞ」。
私の信じる、尊敬すべき吉本先生はオーソドックスで安定感があり、でもどこかイノセントで親近感があって、ときには威厳を感じる。そんな愛すべき精神科医でした。
けして詭弁を弄するのではなく、その人、その人に応じて薬を処方され、悩むものへ力になるお言葉をかけられました。
確かに私のＴＥＬは高飛車な物言いだったかもしれません。ごめんなさい。
先生が私の人生において特別の人であったように私も先生にとって別格の患者でありたいと思うのです。本当に感謝しています。
こんな病人もいるとなにかの参考にしていただければ身にあまる光栄です。
どうか誇大妄想。恋愛関係妄想の男が著した本たち、先生がたずさわられるこれからの御診療のなかでほんの少しでも活かされ貢献できたのなら本当に嬉しいです。
暗い顔ばっかりが精神障害者ではありません。

こんなやつもいるのです。
そこを大目にみて宜しくお願い申し上げます。
寒くなります。お身体ご自愛下さることを切に願っております。
最新作、入れさせて頂きました。
もしよかったら読んでみて下さい。
腹がたったら破り捨てて下さい。
ひとの意思まではどうもできません。
でも先生、お目を通して下さると嬉しいなあ。
お忙しいところ御騒がせしてすいません。
ではどうも――――。

義人

真子、千華へ、
とりあえず自分の愛を貫き通せ。解雇されたらその時だ。堂々、正義を忘れるな。誇りを失うな。愛とは懸命に励めというのではなくボチボチひとの心を理解しなさいということだよ。人間関係は頭で考えるからおかしくなる。肌で感じるそれを大切にすること。思いやりを良心で受け取ること。世の中には計算で生きている奴も沢山いる、だが愛のないものはそれだけでは生きられないものだ。悲しい

ね。己の正当性にとらわれず愛と思いやりを優先すべし、問題は解決に向かうだろう。ダメなら沈黙もよし。

わがうちを商売の家にしちゃいけないよ。祈りの家にしなくちゃね。うち祖母ちゃんの冥福を祈るんだよ。ご苦労されたんだからねえ。忘れちゃいけないよ。負けても損してもおおらかに、我欲にはしらず、みんなのために。幸せが舞い込むよ。人を祝福できないものは神からも祝福されない。自分にとらわれているものはすくなくない。人には付かず離れず。この人を幸せにしてあげたいという心が本当であり、自分が幸せになりたいからと結婚をするので結果、失敗することになる。的確な判断力が非情に見えることもある、悲しいね。でも相手のカになるように自分の価値観を活かそう。人には付かず離れずと言ったけど、愛と友情のため一命をかけるのも人生だ。正々堂々と。強くなれよ。真の仲間を大切にすること。利で動くひとが多いがどこか醜悪にみえる。義で生きるというのは頑なで独善的な人が大概だ。よく意見はきかないといけないが愛に優るものはなし。幻とリアルを感じることを大切にし、目に見えない世界を信じること。祈るんだよ。神であるおじちゃんは何があっても真子、千華の味方だよ、安心して生きるんだよ。仕事よりも仲間の心を優先せよ。さすれば安定し仕事はスムーズに運ぶ。

恋し、愛せよ。想い続けよ。祈り捧げよ。幸せは必ずやってくる。千華、お前

は何事も心に仕舞込む傾向がある。素直になり愛をもって弁は拙くても伝えよ。皆それを待っているからね。真子、優しい顔、柔和な心、愛情ある言葉でひとともに生きるそれができれば観音様だ。でもそんな難しいことではないだろう、目標だよ。おじちゃんは二人の幸福を心から祈っています。電通の事件は仕事のできる、できないなどの評価を気にしての悲劇だ。仕事より命は大切にしなければネ。出世すれば責任に縛られる。金もそうである。儲け。損得勘定にとらわれて生きることになる。美しいかい。盗まれぬ壊されない天に愛の倉を立てよ。増やせ愛。千華、何度も言うがひとは、褒めまわすこと。嘘はついたらいけないが、拡大して良いところを褒める。そしてさりげない贈り物。気持ちが伝わればいいねえ。仲間を大切にすること。ひとの美しい心の琴線に常に働きかけること誰かに叱られ意に沿わぬことを言われたら吟味し納得できなければ堂々、愛を持って持論を吐け。誇り高くかかる火の粉ははらわにゃならん。犠牲にならず相手を傷つけることになっても。正義とはそんなこと。愛を忘れずに。根に持たない。そして些細な言葉尻にとらわれてはいけないよ。思いやりを忘れず、流すときは流す。厳格と寛容だね。真子、議論して平行線になったら遠慮がちに引け、神経を使うのは無意味だ。だがお前に逆らうこともなかったが、切り捨てた奴こそがキーパーソンだ。

真子、千華へ

千華、仕事は無能と思われても良い。議論になりかけたら遠慮がちに引け。命にかかわること以外は寛容に構えること。熱いハートはうちに秘め利用者を大事に。事実のなかで見落とされている真実が大事だ。それが真理、愛ならいいねえ。おじちゃんが書いた本に暖かく示してある。是非、読んでみて下さい。人を侮辱することと尊敬されることは反比例する。気をつけよう。ものが溢れている昨今、ひとは利益より愛によって動くべきだ。そんな後ろ姿が人を引き付ける。そうだろう。千華、ひとは原罪を引きずり生存競争を繰り返す。おじちゃんはそこをずっと見つめてきた。答えは愛することこれしかない。たとえ損をしてもネ。真子、ひとの本質は競争ではない。皆のために助け合って生きる姿だ。じいちゃんに好くしてあげてね。千華にも話してあげてね。強くて優しい女性になるんだよ。夜遅くごめん。心を正し生活をただし愛をつくせ。でないと魔が入り、貧、病、争が生まれる。怒り、貪り、愚かしい、恥を知らない。三毒、仏教の戒めである。風邪ひかれんな、ごくろうさま。自由は自分勝手なものは下品であり、神のためのものは上品とされる。つまり愛をひろげるための自由が至高のものである。

いつも自分の身をまもるのが最優先だ。後、相手に理解能力があるようなら愛をもって正論をとけばいい。犠牲は絶対ダメだよ。いいね。ママに七冊の本をあ

げました。是非読んで観て下さい。多様な人生観、愛ある生き方、激しく、優しく。指針になると本当に嬉しいです。では。ときにはピエロになるもよし、だが過ぎると侮辱するやつがでてくる。青鬼や悪女みたい犠牲にならなくていい。自己満足は悲しいね。悪意に満ちた人間関係には無頓着になり距離をとれ。くれぐれも加害者になったりまた犠牲になったりしてはいけないよ。神は見ているからね。お疲れさま、きっと本当に自分のことを解ってくれるのは自分自身と神だけだと思う。そうするとひとも許せるよね。人生の伴侶は派手か無難のふたつに分かれるが勇気があって思慮深く優しくて愉しいのが一番だ。けして顔、金ではない。全方位外交は無理があり難しい。ただ素直になりすべての人の幸福を祈ることが大切だよ。真実と愛を語れ、届くところには届く。おじちゃんは今まで愛するお前たちに何もしてやれなかった。だから自分の言葉を贈るのだ。幸せになれよ。人を幸福にした分だけ、自分も幸福になれるから。だがひとに期待するから裏切られたと思う。悲しいけどね。負の連鎖ではなく愛のチェーンを形成しなくては。永遠に続く。パパを色んな意味で責めちゃいけないよ。おじちゃんと同じくお前たちを愛しているのだからねえ。真子、T君と会うのはそんなに嫌かい。彼もアトピーのあとがあって人の痛みの解る、思いやりのある理学療法士だ。挫折をし、組織の人間関係も解っているよ。千華、純潔をまもり愛するひとのため

操は大事にしなくてはいけないよ。信用の問題だ。男が愛していれば女性の想いを大切にするはずだ。だまされるなよ。
悲しいとき、苦しいときもあるだろう。それは自分の成長するとき。おじちゃんの姪なら絶対死んではいけないよ。助けを求めるのは恥じゃない。責任と責任感をごったにしてはいけない。愛に対しての責任はあるだろう。でも組織への責任感はいらない。苦しむな。

真子、千華へ
生活の心遣いと思いやりを混同してはいけない。少し解りにくいかもしれないが、そこに見返りを求めない愛が存在しているかどうかが大切です。夫婦は妻の方が主導権を握り誘導できる方がいい。でも本当に重大な局面において逃げない男が愛ある優しいやつだよ。おじちゃんはデスノートではなく幸福手帳を持っている。自分の本を読んだ人の名前。みんな幸せになっています。周りの人の想いを大切にする。読んでみてね。
千華、夜勤ごくろうさん。静かに構え自然体で利用者に関われ。真面目で健気な姿には心の中で、皆、手を合わすだろう。真子、ブレーンストーミングのときは各位の意見をどっしり構えて受けよう。うるさいかもしれないが、褒める。大事

なことだよ。自尊心は誰にもあるからね。真子、今日はありがとね。おふくろもテレビつけっぱなしで安眠している。いつもより穏やかな表情だ。本当にありがとう。千華、お勤めごくろうさん。昔話だが御守りを作ってくれたね。大事にしていたのに消えてしまった。その優しさは永遠に消えない世界、大切にしたいね。肉より霊から生まれなければならない。

物欲より心を大切にしなければならない。永遠のいのちのために。分析するな、冷静さをもつように見える薄情な専門家もいるし、色々勘ぐる人もいる。悲しいが皆、自分が可愛いのだね。仕方ないか、世の常だ。怒りを持ち続けることは、この世で一番大変で辛いことかもしれない。自己犠牲は偽善か自己満足である。そう得心するところに真の愛がある。とにかく毅然と真実から強く愛するひとを見つけよ。それには自已修養が大事だ。くれぐれも条件に騙されるな。どんな小さな贈り物にも、想い、愛がこもっている。ひとの気持ち大切にね。大丈夫だね。清廉潔白であることはかなり損なこともあり代償が必要とされる。辛いものだ。世の中、豆腐で渡れ。四角く柔らかく、崩れても旨い。弱さを憎んで優しさの意味を失ってはいけないよ。優しいそれがすべてだ。

そしてそれが本当に強いということだ。おじちゃんは、何故ひとは喰い、買い、抱き、傷つけ合うのか見つめていた。原罪だね。主体性を持ち、己の務めを果た

せ。愛しているよ。愛をもって人事を尽くしたその果ては、どうにでもなれと神にすべてを委ねること。でも諦めずにね。強い気持ちは忘れないこと。掟と言う時代は過ぎ去ったと信じたいです。人間は最低限の戒律を守り、最大限の自由を享受すべきだ。美しく。そして明るく、素直に暖かく、南無妙法蓮華経。上司には自分の手柄にこだわり、潰しにかかる者もいるかもしれない。そんなときは適度に神経と力を傾けよ。余裕を持って冷静に。何かの決断に迫られたときは躊躇せず愛を優先すべし、自分に素直に、後悔しないために。そこに神ははたらく。おじちゃんはいつも夢と愛を追い求めています。叶わなくてもね。でも美しい心でいればすべての出来事は、結果オーライだよ。成長にはそれで良かったのだよ。横柄に構えてひとをひとともに思わない者、彼等は評価が恐くてならないのだ。頼もしいなどと演出、舞台装置に騙されるな。怠惰で非情な奴が多いからね。世の中は負ければ負けるほどいい。人の痛みのわかる人間になれるからねえ。勝つことの無意味さと悪いことであるかもという面も理解するからだ。大丈夫だね。

真子、千華へ

本当の勝つことの意味は主体性を持ち続けるということだ。そして周りの人の意志も侮らず認めるということだ。邪魔するものが存在するとき、正義のなかで友

の前途、幸福を思うとき、苦しく良心の呵責に悩むときこそ、南無妙法蓮華経の意味を知るだろう。
恋ってもんは、グズグズ引きずるものよ。そうでないと本当に好きなのじゃない。でもいつかは自然に消えて行く。愛はどうかなあ。神のわざを信じ、愛するものはどんな望みもかなう。なぜか、それは美しく、正しい願いだからだ。真子、自分の意志は素直に恥ずかしがらずに発しなければならない。まず自分だ。T君はオクテだがいいやつだ。お前のカが必要な男だ。信仰心は大事だ、が、人間の誠心と相反するものはよくない。俗的になるのではと異論があるだろうが愛、慈悲、思いやりは、信仰心と必ず共にあるものです。出来るだけ卑怯なことはしないこと誠意をもって率直に局面に向かへ。損しても。後ろ姿を誰かが見ている。おじちゃんには失うものはなにもありません。自動車くらいです。ソチとおふくろは抜かして。だから無謀な恋に生きるのです。それも人生だ。
寂しくて悲しそうな友人には親切にせよ。無償の行いは誰が観てなくても神仏が観ている。心を美しくせよ。人は大きな命のなか生かされている。自分を信じ、やるべきことをなせ。罪悪感を持たず良心と愛に従って。人は互いの為に生きるべきだ。偽りもあるが。お疲れさま、仕事は自分を磨く修行だと思ってかかれ。忍耐力、集中力が向上するとき優しさも学ぶこと。強く生きよ。物欲にはしる空

しさを知り、質素、倹約、勤勉を旨とせよ。来るべき世において真実の愛がみつかりますよ.おじちゃんが保証します。
収入の1/3は蓄えに回し、1/3は消費、そしてのこりは人に施す。これにて健全な経済は生まれる。賢く考察せよ。人の為と書いて偽りとなると、相田　みつをさん。自分の為だけというのも淋しい気がするなあ。人を愛したら自分を信じきること。周りの嫉妬心などに負けないこと。理由のない裏切りなどは絶対せぬこと。正義を貫け。愛し抜け。おじちゃんはお前たちが生きていてくれるだけで嬉しい。だからお互いにそう思えるパートナーを見つけるのだ。どこかにコロガッテルサ。真理の御霊を皆、知らないが、お前たちには判る筈だ。私がいつもそこにはいるからである。願い、祈れ、美しいものなら必ずかなうだろう。人には親切、歓待の気持ちを忘れないこと。人を歓迎し傷つけない。これが解れば、おじちゃんの心が理解できるよ。大人だよ。
ときには愚痴も自慢もでる。世の常か。噂話と一緒で会話の大部分ともいえる。いいではないか、節度をもってそこに思いやりと真実があるのなら。お前たちはとにかく、まずは生きる術を身に付けよ。それから堂々と世間に向かい合い、本当に愛ある幸せをつかめ。気に入った若者には横柄に上から目線で語ってしまうが、別れ際にキズついたなら御免よといつも一声かける,だから皆に慕われる。

自慢、自負である。ホントかな。
　世の中には危機感を煽って個人、組織に都合のいいように従わせようとするカがある。おじちゃんが闘っている敵のひとつだ。臥竜。従順に見せて己の信条は心に潜め、やがて悪を裁くために世に出る.そこには愛がないと。お前たちもガンバレよ、気楽にね。

真子、千華へ
君達を侮辱するものが、自分の肥やしになるかもしれない。でも肌で感じろ。殺したい奴は心の中で殺せ。神はいついかなるときでも味方だ。自由に生きなさい、愛をもって。善意のような悪意もある。悪意に見える善意もある。正しいということは正しいことを考え行うことではない。ただ愛することである。恋は縁である。作為的になにかを仕掛けても機が熟してない結果は芳しくない。だがそれは確実に未来への布石になる。長丁場、覚悟せよ。愛するなら。仇とする敵であろうとまずは敵と扱うな。親睦を重ねるうちに反省し好意的になるかもしれないからだ。自らが目立った時、自慢は禁物である。配慮せよ。困っている良識ある友人が訪れたなら歓迎してあげること。笑うときは笑い泣くときは泣く、これにて善良な人間と呼ぶ。だが期待すると裏切られたと思うことが多々ある。欲深い者、

嫉妬深い者は敬遠せよ。自らは貪欲を捨て寛大に生きよ。主体性つまり行動を阻害されることくらい憤りにつながることはない。愛をもって受け流すか心の中で殺すしかない。度重なり重なっても、怒りは時間がたてば消える。しかし正義の憤りは消えない。そこをよく見定め心穏やかに生きよ。誰かが見ている。信じて。ワープロが故障したのでしばらくメッセージが送れない。寂しく思ってくれたら嬉しいなあ。明るく、素直に、温かくだね。心配になった。気にするな。辛いときは御国が参りますようと指を組み真剣に祈りを捧げよ。短くていい。深呼吸して。神であるおじちゃんが看ている。千華、仕事、勉強大変なのだね。おじちゃんに弱音吐いてもいいのだよ。声が聞けてうれしかったよ。マイペースでいいのだ、一生懸命やるな。それが正解。真子、些細なことでも本人にとっては重要なことがある。大丈夫だよ。おじちゃんがいるよ。大きい事なら他人が心配してくれる。原罪というものが生きていくうえでつきものなら、それはもはや罪ではない。イエスが証明した。安心して。苦しみ，悲しみに共感ができるようになると、素直にご免なさいがいえる。そしてまた苦しみを与えられると、静かに姿の美しさの現世利益も明らかに証明される。仕事が受けきれなかったら正直に上司に伝えるのだ。また新しい展開が生まれる。摩擦を恐れてはいけない。自分を大切にすることは皆の益になるのは確実だ。おじちゃんは生まれたときから酒屋だった。

全方位外交が必要である。だが組織はそれを許さない。誰かが視ている。思いやりある契りという正義を優先すべし。組織は人のるつぼだ。怠惰なやつ、計算高いやつ、嫉妬深いやつを含め悪感情を表すやつ。お前たちは本当の善人になるのだ。他人は他人の人生観で悪になる。素直に率直、柔らかく本当のことを伝えよ。邪心、恐怖心を抱いている人には組織的社会人という価値観のもつ残虐さを伝えよ。皆、善き人として生まれ変わってほしいなあ。ソチに「うちに来てくれてありがとう」と言ったら、噛みつき暴れだした。「ソチは家族だからな」。そう私は呟いた。おとなしくなり満足したみたいだ。ただ母の安眠だけは約束してくれるといいのだけどな。ある女性だが、愛のない見栄だけの人間だった。それでは幸せになれない。残念です。自らのことしか考えない人間は労苦を背負い、冷酷になる。そこに計算がはたらくからだ。お前たちは大丈夫だね。愛だよ。

山口さん、西村さんへ（エホバの証人、冒頭の名前が省略してあるのは御二方に送信したものです）
山口さんがソフトなムードになり片意地はったという。表現が悪いか。それが消えていく感触があり自然でお話しやすくなりました。西村さん、本日はどうもありがとう。優秀な宣教師をおよびだてする格好になって。誠に貴重でありがたく

思わせて頂いています。体調、お気を付けて。山口さん、流石です。面白くない、不快なメールでも全く気にしない。ありがとう。仲間同士になるのはいつかな。この疑問符は重たいです。様々な意味において。律法学者のように聖書の見解をかぶせ強いるのは高圧的で良くない。そして科学と神話。事実と真実は深い因縁の下に相違するのです。西村さんと平行線になることが多いのでこちらが遠慮がちに引きますが、山口さんの場合切り捨てられるのでその分、私の意図を理解されているのではと信じています。山口さん、疑問符の件、面白くなかったでしょう。私は自由をめざします。信仰に導かれ約束の地へ。始めに仲間ありきでは真理へ到達できません。静かな瞑想も大事です。山口さん、民主体制がなぜいけないか。来る世。自由意志は主体性を持ちながらも神の意志に変化する。なぜなら貧、病、争から永遠に離れるためである。独裁と呼ぶかな。山口さん、建設的と言うより生産的なお話合いといったほうが、実り、果実が多いニュアンスがありますね。お待ち申しております。山口さん、イエスの十字架の死は神への民の罪の贖いのお願いだったのではないでしょうか。科学だけを実証的とするのは誤っていると思います。山口さん、神の国は、心あるものにすでに訪れています。自覚があるのです。今日の私は人間的で神ではありませんでした。聖書はエホバの証人の会衆にあわれみをかけ、話を聞けと促します。尽力を認証せよと申します。

永遠のいのちを受けるのは聖書の本質的理解にある。つまり生き方であり、私だけとは違う。その志向性にある。聖書は互いの正邪を問うより、エホバの証人は彼等自身の道を行けばよい。私は傍観気味にたてばいいと言う。山口さん、自分を高くするものは低くされ低くするものは高くされる。今一度よく考えてみよう。人、自分の心は自分の中の神によって裁かれるに違いない。祈りを見つめる。そこに信仰、報いがある。党派は関係ない。事実のなかの真実。事実から派生した伝えたい真実それが大事では。研究会ですから双方の言い分大切に。聖書には天使、霊の存在に関して論争があったと書かれてあります。やはり私の固執からではありません。神に耳を傾けねばならないのでは。山口さん、聖書が神の霊感であることを科学で実証できますか、紙、文字、本、これは古くて正統性がある。こう分析するだけが科学です。

山口さん、信仰心は学問と違う。愛、誠心にあります。山口さん。ごめんなさい。２１時以降、大丈夫と聞いていたので。互いが熱くならない話でもと思ったのですけど残念です。夜中のＴＥＬ、腹立ちますよね。重ねてごめんなさい。聖書はキリスト者としての誠実な西村さんの姿勢が正しいと示します。しかし私が神であることは外れないし。日蓮から外れることはとんでもないことだとも。ただ信仰の仲間を大切にしろと示します。神、人、イエスは存在する価値において、

ある意味で平等です。エホバの証人のなかには人格的に共存するのが難しいおひともいらっしゃる筈です。すべては予定調和です。自ずと判る筈です。
西村さん、神というものは偉い位置につけられますが、それを否定します。私は驕るものには尊い存在であると示しましたが当人はあぐらをかいて車座になり他愛のない話を茶でも啜りながらするのが一番満足なのです。西村さん、私が特別であると思っている、と言われましたが、同時になぜ俺なのだろうと思っていました。特別と思っている人はたくさんいます。しかし本物は私だけみたいです。山口さん、神は何かに責任を委ねたりしません。神から離れることを勧めはしませんがそれも仕方ありません。神は最も善良なる存在です。神は権力とは無縁です。それを欲しがるのはサタンです。神は愛です。解るひとが判ればいい。イエスが言った、お互い愛し合いなさい。この意味が解るかどうかです。自己執着と欲望がある限り達成は難しいでしょう。神というものは便所の紙みたいなものかもしれません。世の中の糞を拭う。意味が解らないだろうな。尻拭い、つまり裁くことです。つまり私がエホバなら権力ではなく愛です。会衆の中へと聖書は促します。しかし見解の溝は埋めがたいものがあります。聖霊の仕業かワープロが印刷できません。よかったらお電話ください。少し話したいのです。どうかお願い申し上げます。非礼は詫びますが、私にこれ以上の親切はできません。あなた

方の道を歩んでください。訪問はあなた方の意思に任せます。ご自愛のほど祈っています。ヨハネによる福音書３章３３説そのあかしを受け入れるものは、神がまことであることを確かに認めたのである。３４節神のおつかわしになった方は神の言葉を語る。神は聖霊を限りなく賜うからである。三位一体の論拠となる聖句です。

顕正会、雄さん、なぜあなたが教義を信じ切れるのか、エホバと日蓮は同一です。このまま排他的な感覚を両団体とも進展させることが大事だと聖霊が保証しています。このままでいいのです。山口さん、エホバの証人が排他的、原理的になることは求心力を高め、確かな信仰心につながります。神が幸せを約束され各位、報われるのです。聖書が保証しています。雄さん、山口さん、エホバの証人、顕正会、行く末は幸せになれますよ。今はあえて一元化しなくていい。どちらも献身的だ。方便。いずれ友情、思いやりがあふれる。日蓮、エホバ。信仰対象を特化する。熱情に基づいての積極的勧誘、正統性の誇示。まだときではありません。しかし現在、この形態に意味があるのでしょう。山口さん、今の段階ではこの信仰の姿勢は必然性があるみたいです。聖書に基づいて見解を調整していかなければなりません。しかし実は見解なんかどうでもいいのかも。なぜかそれは神を愛すること隣人を愛することに尽きるからです。雄さん、せっかく作った本です。

よろしかったらもらってやってください。私の功徳になります。内容が許されないなら好きにしてください。でも私が正当です。真実です。おたがい乱暴なもの言いは避けましょう。尊重と敬愛と信頼を立場、信条をこえて大切にしたいです。ありがとう。また連絡下さい。

（第一章）姪にメッセージを送った後、なぜかこの世に真由子さんが生きていてくれるだけでいいと思った。そしたら涙がこみ上げてきた。ただ生きていてくれるだけでいい。もしかしたら私はゲーテが求めた理想の女性ベアトリーチェのように真由子さんを慕っているのでは。現実には幻想なのか。悲しい事実は聞きたくない。豊かさを求めるのと守銭奴のようになるのは一緒か。違うだろう。違うだろう。人にいちいち過剰に関わることはない。自愛を祈ること、それが必要だ。自らに愛があればよい。誠実だから相手に誠実を求めるという、ならば誠実でなくてもいいのか。それが世間か、たぶんそうなのだろう。独りにはなりたくないが、独りでもいい、誠実で孤独でも愛がもしかしたらあるかもしれない。私は侍でも商人でも僧侶でもない、ならば新たに呼称をつければいい。新しい概念の王ということか。正義とは何かと問われた。私は答えた「思いやりある契りである」と。神の国、住人に神への批判が許されるだろうか、愛に満ちた完全な体制であっても警察国家のようになってはいけない。だが批判は単なる軽口であろう。でないと初めから住人にはなれないからだ。エホバの証人はクリスマスを忌み嫌う。聖書を開いた。やはりクリスマスは大切だ。なぜか。愛がシンボライズされイエスの精神、心が多くの人に伝わると信じたいからだ。イエスは自らの死により、神への愛、隣人への愛を重要視してほしいと思っている。そして贖罪も大事だが

愛が生まれることも未来志向で大切なことである。今マスコミなどで受けているのは、ただ我欲を煽るものが多くそこからは真実は見えてこない。聖書を持つ者は愛に満ち、欲望にたいし距離を置かなければならない。本当に賢明な人というのは、静かに奥底に流れている醜さを直視しながらも自分は美しくあろうとするものである。

悪しき心で善をなすか、美しき心で悪をなすか、どちらも良くない。現在に感謝する。それも良い。幸せになろうと思う、夢があるのだろうか。私は自然体が大切だと思う。その時、その時、幸せは幸せ、不幸は不幸である。お釈迦様は腹をこわし下痢をされ、そして衰弱し亡くなった。イエスは十字架の上これでもかといわんばかりにとどめに両脇腹をやりで刺され死んだ。日蓮はフラフラになり動けなくなり去っていった。だが彼らは最期まで人々を想い案じていた。死は生き方が、輝けば輝くほど鮮烈になるみたいだ。安楽に死ぬ。どういう死に方がいいか。人は生きてきたように死ぬという。競争に負けても行き場所までは政府は教えてくれない。ただ気にしているのはＧＤＰ、失業率など指標、数字などの方向加減だけだ。土木作業員の青年に介護士ができるだろうか。ミスマッチでかたづけられる問題ではない。

なぜか人妻の本当の恋は、書かれているようで書かれていない、下世話なもの

が多く、美しいものが少ない。美しい想いを書かなければならない。エホバの証人は霊的であるものを特別な存在と解釈する。なぜかわからない。霊的になるということは欲望をもつ体がなくなる、変化するということである。つまり誰であろうが幸福になるため、霊的になれるのである。条件は愛があるかどうかである。つまりそれが特別というより、一般的な考えである。しかし彼らは肉体の永続性を説く。その恩恵はいつかエホバより与えられるという。否定はしない。そこを信じる者は心せねば。期待し外れたとき裏切られたと思い、気落ちするからだ。親鸞はいう。「毒消しがあると言って、気にせず毒を飲んではいけない」。だが当時、毒を飲むことの愉しさを知ったやつらは「もっと毒を飲もうぜ」といって安心し傍若無人に世を乱したのである。小乗仏教の成仏は泳いで太平洋を渡るようなもの、誰にも無理だという。それは意地悪なもの言いであろう。泳いでドーバー海峡を渡る女がいる。それに譬えられる、ある人たちは阿羅漢という、心を穏やかに保つ、サトリを開いたのではないだろうか。大きな船で太平洋を渡るという大乗仏教。そして船から降りた時点で元の木阿弥になるという教えもある。つまりプロセスが大切、方便が大事であるという。大きな船は原始仏教の原理に戻させないための詭弁、巧言のように聞こえる気もするのだが。今、大乗の教えは、皆で救われる、大船の意を汲んだ南無妙法蓮華経の唱題のみ。　宗教を商売にす

る。ウインウインの関係、お互い様とは言うが、目的がお金などの代価に向かうのならば当然いけない。すべては聖霊と神々、仏の意思である。それで成り立つ。聖書の神が人格神であり,ただ一人であることに疑問を持つ人もいるだろう。神の概念は話さなければいけない。気まぐれな善神と呼ばれる存在とは違い、最後まで案じ、働きかけ、見つめてくれるのがイエスを通した聖書の神なのである。もしくは八幡大菩薩をしかりつけた日蓮なのである。彼の優しさは出征する信徒に対しはらはら流した涙からも本当に伝わってくるものがある。　天皇とは重いことである。つまり単なる国王、君主ではない。「元首にしてしまえ」世俗的な権力機構に取り込もうとする勢力があるが、天皇は国民、文化の統合の象徴である。特別である。しかし国民の総意によってと憲法にはある。天皇は天皇である、神以外の誰かが決めるというのはおかしいといえばおかしい。総意とはただ象徴という立場を担保するだけのものである。王権神授説を私は支持する。左翼のいう「人間」としての存在。そういったことよりも天皇は深い愛、そう、愛なのである。だがそれがまた暴力の引き金にならないことを天皇は強く願われていると思う。国王、元首、大統領とは違う、天皇の意味をもう一度かみしめてみたい。そこにあるのは富でも名声でもない、幸せな国、国民のシンボルであり良心である。そしてそうありつづけなくてはいけない。また軍事国家の親分にさせられて

はいけないのだ。御名をあらわした証人になるため、あえて騒動に挑む。口論めいた争議に私は本を提出したこともある。聖書の道として示されたものだから。どんな悪いものにも良いところはあるし、どんなものにも例外はある。つまりそこに愛があるか否かである。今まで書いたものに矛盾点があればおっしゃってください。釈尊の対機説法と同じくその場、人、条件により表現は変わっています。各位の心の絃の張りを丁度いい具合に持ってゆき美しき愛のメロディーを奏でていただきたい。私はそのように著したつもりである。死ぬと言ってみたり、永遠に生き続けると言ったり、一体お前は何を言いたいのだと怒る方もいらっしゃるかと思います。いったい我々はどうなるのだ。実はいままで想定されるいろいろなパターンをあらわした。まず返答としては生き続けても死んでもどちらでもいいではないかということである。幸せは待っている。永遠の無より、楽しく美しい愛が存在する世界、神の国で永久に暮らせるなら、生き続けても、死んでもどちらでもいい問題である。人は皆、永遠に生き続けるということです。無という状態も一つの形態としてあったとしてもそれはそれでいいかもしれない。 あれほど絶対生命尊重を訴えた日蓮だが、なぜ法華経の予言であると嬉し泣きし竜ノ口、伊豆、佐渡、小松原、松葉ヶ谷などの法難という命にかかわるものを、歓迎するように受け取ったのだろう。そこには命=愛、すなわち高次の魂の救いが

あったのではないか。つまり成仏である。仏とは価値あるものという意味がある、死に際し（般涅槃）温かく、広い心が発生するのかもしれない。命が惜しい。本音かもしれないが極まると執着の醜い惨めな結果になるのである。命惜しむな名を惜しめという時代ではないかもしれない。だが、なぜかノスタルジーと伴に外せないものを感じる。命が重く名誉とイコールだからこそイエスの死も尊いのである。すべては法華経を信じ奉ずることそれが条件であり、寛容な精神の意義となる。日蓮の排他性とは矛盾してないのである。エホバの証人が言うように「イエスはどんな苦痛を受けても音を上げず悪魔に勝った」。それは違う。イエスは人々の原罪、重い罪を背負いゴルゴダの丘へ向かったのだ。背中に罪を表徴した十字架を背負い、よろめきながら一歩ずつゆっくりと進んだ。それが民の贖罪のためであり愛である。何か自分の欲望と引き換えに行う自己犠牲とは違う。突き詰めればイエスは民との和解、それだけを神に懇願していた。サタンはただイエスをバカにして嘲笑を浴びせかけて、してやった、ざまみろと、思っていただろう。イエスの行動の崇高さをサタンは理解できない、はじめから格が違うのである。　国が一番であること、国民が幸せであることは関係ない。私は全知全能である。「まあ、今日は相手の話を聞いてやるか、俺はまあいいから華を持たすか」これが神の心です。多分他の人を成長させるために人は死ぬのであろう。人々の

厚意を素直に感謝するようになる。それは自らの欲望を求める悪心を小さくすることから生まれる。そして人に布施することが喜びに変わる。聖霊、御使い、天使、父、ゆるい範疇である。そして独立した強い霊力を持って思いやりに満ちた自由意思を確実に発揮するのです。また神とのつながりは深く固い、これを自由な愛のための組織と呼ぶのである。エホバの証人との見解とは少し異なる。彼らの神は、天で威張っている。私の神は自由を大切にする。だが自らには厳しい条件がついてくる。牧童の譬えのように昼夜、飼っている羊を守らなければならない。でも決して羊を縛ってはいない。放牧しているのだ。そして一匹がいなくなると９９匹を残して探しに行く。こんなことがガチガチの組織にできることだろうか。　神は自分にかたどり人を作った。男、アダムである。そしてイエスの誕生。正義のヒーローはとりあえず一人である。天照大神と氏神のお札の注文を取る書類が回ってきた。私はどうすべきか聖書に尋ねた「もらわれ」両方とも「好きにしていいから母親に任され」。最終。母は「祖父の代から続いている」と言って両方ワンセットもらうことになった。私は夜０時近くになって反省会のつもりで聖書を開いた。いつもなら「よかったよ」と言ってくれるのだが今日は「ちょっともめたね」とでてきた。よくよく考えると御札の件であると気付いた。そして開いた使徒行伝のなか「私たち先祖の神があなたの選んだ御旨をしらせ、か

の義人を見させ、その口から声をお聞かせになった。」「それはあなたがその見聞きしたことにつき、すべての人に対して、彼の証人になるためである」。そういうことである。イエスは今日も人々の心の中に生きている。皆、心に湧いてくるサタンに負けるな。イエスを信じる者は美しい心の持ち主だ。南無妙法蓮華経を唱えるということは人を立てる、自分が下がるという修行を一回の唱題にて達成させるものである。元々有る性分を根こそぎ正してしまうからである。明るく素直に温かく。それが身につくと貧、病、争の問題はおのずから去っていくのである。世俗的なR会。法座修行と称しなにも悟れず愚痴をこぼして懺悔して改心しましたと宣言。その舌の根の乾かないうちにまた問題を引き起こす。目に見えない世界を信じ感謝する私の南無妙法蓮華経しか救われる道はないのだ。R会は修行と称し主体性をなくさせ、欺瞞に満ちた厚顔無恥な蒙昧である信者を作り、そこにつけこみお布施として高額なお宝を吐き出させる。また金のない奴はガス抜きとして利用されるのだ。聖書は霊感に基づく存在である。ただの書物と規定するのは狭い了見である。悪魔にも滅びのなわより解放され自由になる道は示されている。しかしそれをサタンは信じることができるだろうか。誘惑、疑惑がまとわりついたもの。だがサタンよ、心を入れ替えよ、皆の幸福のために。そして神の愛もそういうものでなくてはならないだろう。それは定まりの中にあるものか。

宗教の勧誘というのは名誉欲を満たすものであってはならない。ここで神としての厳格さも示さねばならない。聖句「神を知っているからむなしくなる」。私は今、自己顕示欲もそれほどない。しかし教えを広めなければ、やはり情欲の権化となり道を踏み外すものたちがたくさん出てきて、それをよしとするリベラルな雰囲気があまりにも安易に漂い広がるのではないだろうか、景色を見ると。イエスはロックンローラー。体制に向け、愛をがなった。イエスの十字架の死について、原罪とその贖い。その意味も大事だが、それより神の子は関係性を持ち、つまり愛で結びついていることをイエスは知ってほしかったのである。愛が最も重要であると皆に勧めたのである。それは仏教でいう布施しあうこと、助け合い。それが愛の完全をもってなる神の国である。聖書は霊感そのもの。ジッと時宜が来るのを待つ。神を信じよとは、とにかく目に見えない大いなる世界を受け感ぜよということである。父はアルコールを売って生きている身がつらくてアルコール依存の道を選んだ。そうせずに南無妙法蓮華経と唱えるべきだった。　なぜ無の世界を求めていたかというと私を締め上げる激しい罪悪感にあった。霊は存在する。水子もまた他の人として誕生すると聖書が示した。その贖罪された自覚とは、己が罪にとことん苦しみ、すくいの網をも拒絶したはてに、イエスキリストを信じることによりその愛によってすくわれたと確実に抱きしめたところの境

涯によるものである。エホバの証人、顕正会、所詮は人の集まり。戴くもの、正当性だけにこだわり頑迷になってしまっている老若男女。永遠のいのちを得るもの達は予定調和である。もはや決まっている。静かに分かち合う心。エホバの証人、「救われるのは義人さんだけということですか」聖書を活用し理解できるのは自分だけだといったところからである。ただ、報われるのは自己執着から離れた温かい、人を傷つけない人間たちである。まず手始めに私の思想に感化された人が報われるのは確実である。エホバの証人にもらった聖書、「心地よいかぐわしいにおいがした」。そう言うと会衆の男はあまりいい顔をせず悪魔の仕業だといった。そういう感性を否定したいみたいだ。私は自分の扱いなれた聖書を開いた。「その涼香は教義、考えを超えた、人の優しい思いがこもっているからだ」と示した。彼らが正しい云々というより神、イエスへの熱く美しく優しい愛がそこにはあるのだろう。と信じて語るエホバの証人は報われるだろう。

R会の法華三部経は何の香りもしない。あえて書くが、大人になってもなぜ孝養に努めるようつまりいい子でいさせようとするのか。気にせず悪い子であろう。主体性を持ち自分は自分の道を行くしかない。イエスを信じられるものは信じられる。どうして酒は体に悪いのだろう、不思議だ。　なぜ私が中国の体制を擁護するかというと、例えばアラブの春のように独裁体制が崩壊された場合、混乱が

訪れることも想像されるが、中国の場合、定期的に人民大会などを開き中央の正当性をとりあえずは周知させ、いまだプロレタリア独裁を支持し認める人も大勢いるからだ。私の知っている、スナックの中国人ママだが、「日本の政治はなかなか決まらない。中国はすぐ決まる」。なるほど民主化などせずに、お上の言うことを聞いていれば、平和で繁栄し暮らしがよくなる。一理ある。民主化運動はいつも若者から起こる。学生の考えることである。実質的なグリップ（把握）には問題がある。ＧＤＰが２位になった中国、大国の責任はある。締め付けがゆるくなれば、いつ、ウイグル族、チベット教がロシアのチェチェンやイスラム国のようになるかもしれない。そう思うと人口13億人、もっといるか、人々を抑える、というか治めるにはすこしの強権と体制に関する言論統制が必要であり、そうした執権があったほうが治安は定まることにむすびつくのではないだろうか。まず人民が食べられないとネ。そして心身ともに健康、それを目指しがんばっているのだろう。中国の歴史を見るに確かに王朝がいくつも変わり、日本の天皇制の歴史の延伸の方が素晴らしいとうたう人物たちもいないではないが戦後育った我々の中では少数派だろう。中国は偉大な国である。その文化、思想、宗教。日本に多大な教えを授けてきたのである。そこを踏まえ、話し合いをするのが常識の常識である。それが判らず、いや、目を逸らし手前のことしか考えないリア

リスト、ジャーナリスト。未来、世界の平和と進歩、絶対止めるな、といいたい。つまり皆、1位になりたい。そんなものＡＩＩＢ(アジアインフラ投資銀行)一帯一路、経済的流通の自由化へ向かう枠組み。日本は何位でもいいじゃないか。一番を目指さなくても。それとも釈迦国のように滅んでもいいのかい。明るく素直に温かく。異常な感情、興奮から離れる理性、その理性から生まれるセルフ、それなら民主主義もありか。自己犠牲と意識もせず身を挺すときそれは愛と呼ばれる。国を守るには、まず尊敬されることである。経済でも軍備でもない。美しい文化である。騒がしい東南アジア、そんな中、孤高をたもっている国民幸福度という素晴らしい価値観を有しているブータン。世界の国に一目置かれ平和に歩いているではないか。私は傲慢だろうか。「自分だけが正しい」。違うのだ。民主主義を嫌う。そこには愛から離れた我欲が基本にあるからだ。互いの意見を闘わせるのではなく思いやりをもって真実、真理により最高の果実、結果を見出す。そのための議論と違った話し合いは当然、認められる。エホバの証人のように見解に重大な瑕疵があるのに目を逸らさせたり、無視したり、詭弁で逃げたりするようなことをしてはいけない。分かち合い、尊重しあう会話にて、来たる世。小さな問題はすべて解決されるのである。紛糾しない、村の会合のように。まずは思いやりである。自己執着に満ちた世界からは離れなければならない。愛子までを

罰として死へと。神は果たしてとるに足らない人間などに優しくしてくれるだろうか。愛子イエスは神自身であり、神は自ら民の罪、神として民への罪を贖ったのである。信仰を捨てないということはどういうことだろうか。エホバの証人はイエスが苦痛に耐え悪魔に勝ったと言っているが真相は人類すべての罪を一身に背負いその贖いのため、自らの意思によるものであった。だからイエスが意識として苦痛を克服した時点で贖いのすべては終了した。彼が神であり、その意味を皆、自覚すればいい。あとは感謝があればいい。誰も最早、十字架につくことはないのだ。イエスは日蓮ともにいえる。体制から見れば悪人であった。釈尊も激しい修行をした。日蓮も法難にあいイエスも受難があった。真の聖人になるときすべからく過酷な回路、経験を通り過ぎなければならないのかもしれない。嘲笑のない世界。星を見てふと永遠性を感じる、心が動く。だがそれは本当か。物理的法則。星の移り変わりなどどうでも良い。永遠の愛を求めていきたい。人に優しさを求めるより、自分が優しさを与えられる人間になれ。そうでないと世の中が嫌になるからだ。愛、慈悲がわからないのなら人は存在理由がない。狂気とは最高の自尊心。崇高な狂気。　契約とは、この世の単なる書類上の結婚ではない。本当に愛する者同士のつながりが神の言う一体ということである。我欲で生きる。自らのことを考え、他と仲良くする。一理ある。満たされているうちは好

いだろう。だが不足になるとき不幸は始まる。聖書にはイエスがいる、私にもイエスがいる。そして神とは人間の姿としてあらわれ肉声を発するとき初めて存在が認識されるといえるのだ。賢い人は世のため木を植えたり水をやったりすることで神によってそれぞれ報酬を受けるであろう。大切なのは育てるのは神であるということだ。神のみが絶対的価値を持つ。そして神は宇宙一謙虚なのである。ヨハネによる福音書第１５章１４節あなた方に私が命じることを行うならば、あなた方は私の友である。１５節私はもう、あなた方を僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。私はあなた方を友と呼んだ。私の父から聞いたことを皆、あなた方に知らせたからである。１６節あなた方が私を選んだのではない。私があなた方を選んだのである。そして、あなた方を立てた。それはあなた方が行って実を結び、その実がいつまでも残るためであり、また、あなた方が私の名によって父に求めるものは何でも、父が与えて下さるためである。17節これらのことを命じるのは、あなた方が互いに愛し合うためである。18節もしこの世があなたを憎むならば、あなた方よりも先に私を憎んだことを、知っておくがよい。２５節それは「彼らは理由なしに私を憎んだ」と書いてある、彼らの律法の言葉が成就するためである。

（第二章）神の国。律法だから仕方なく従う。律法は自分自身の幸福のためにあるのか。法治国家。法は愛だ。律法などいらない。信仰が基本にある。イエスの愛を信じるものは多かった。だがイエスの「死なない」それは誰も信じられなかった。人は死ぬからだ。
サトリとは怒らないことではなく怒りに苦しむことはないということ。
宗論に負けても神は神である、聖書が保証している。つまり知識ではない。また神は宗論には負けない。
　これは本当に話すのが心苦しいが第二次大戦後、核の傘のおかげで冷戦はヒートアップしなかった。キューバ危機などもあったが戦争は回避された。日本はアメリカの核の傘の下で安閑としている。独立国なら潔く自ら核武装すべきだ。人間の業を思うとき、それをもって繰り返される戦争というものが終結されるなら。それが真に広島、長崎で犠牲になられた方の鎮魂となるのでは。絶対使用できない最終兵器の保持である。私も暴論であると思っている、ただ紛争を含めた戦争というものをなくしたいそれだけである。
　私は大乗仏教を否定する雰囲気を醸し出していると感じている人も多いだろう。皆の、貧、病、争を解決するには現世利益を訴える大乗仏教は必要である。しかし究極の目的は生老病死から離れることである。渇愛の滅却という方向性が

幸せに繋がるのは確実である。そして真の釈尊の道、有余涅槃、無余涅槃を目指す。恐怖による緊張という錯覚した矢も受けず、心の安定を得る。　欲望のコントロールを目的とし、欲望を意欲に繋げようとする大乗仏教。やはり仏教の究極の本質ではない。欲望があるから欲望を意識するからである。
諸経の王、法華経、南無妙法蓮華経、仏になって利他の精神で生きる。高尚すぎると言われても、私にとって過去の罪の償いのすべは他にはありえない。と同様に皆にも勧めたい。
　ＴＶ、ユーチューブ、ＳＮＳ。私は映像より活字を読むことを大事にするというか、好きだ。聖書がある意味では書物として存在し、活字としてあらわさられているからだろう。
統合失調症になってからも人格を磨こう、怒りから離れよう、貪りから逃れようと心がけ生きてきた。だが大切なのは人の心を見つめ思いやりを持って行動することであり、そのことの方が大事でそれが仏への道なのだと気付いた。喜びが生まれてくる。感謝である。そして肝心は南無妙法蓮華経を唱えること。
生きていく先が怖いという気持ちもわかる。だが命を失う最後まで死を意識してはならない。死に際、私もジタバタするかもしれない、だが今、心は青空のようだ。死ぬときは死ぬ。神仏に委ねよう。失望も欲望も絶望も希望も久遠の本仏に

委ねる。南無妙法蓮華経。

なぜ私が神であることにこだわるのか。施設での納涼祭。ある女性が言った「義人さんが神様ならいいねえ」私は正直、嬉しかったが、気恥ずかしくて「妄想だろう。ハハ」と笑い、そこから立ち去った。またある女性が「フランクソーセージが余っています。いかがですか」と呼びかけている。それを聞いて「俺が買う」と言うと「神様」とエールのように声をかけられた。冗談だろうか。私が神でありたいわけは今となってはただひとつ、ただ真由子さんに匹敵したいだけなのです。女と対等になりたいだけか、かなり軟弱な発想だ。でも神とはこれでいいのです。いつかの問診、「就職します」「仕事に就くのですね」真由子さんは嬉しそうだった。どういう意味だろう。しかし私が仕事についた時点で〈夜が明けると逃げ出せない渦が日の出と共にやってくる。学歴がやけに目につく〉。尾崎の「バウ」という曲の1節である。階級社会に組み入れられ、私はその底辺であえぐことになる。職業に貴賤はない。本当ですか。私は神でなければならない。他を圧倒するために。真由子さんに引けを取らないものとして。ただそれだけである。そうでなかったら神の仕事も糞くらえ。憐れんでください、こんな私を。情けないですけど。しかし世の中は職業で区別する馬鹿ばかりではないことも事実である。まず自分に誇りを持たなくては、それが正解。そうですね。ヨハネの手紙の

中、その御姿を見せるとされているのは、つまり義人は神の顕現であるという証左であろう。そうなったとき、人間以外の何ものでもないことを示されている。ペテロも私も人間である。同胞に教えを説くということに繋がっていく。私は裁く自分が、神であることを書いて来た。それはそれで意味があったのであろう。だが今度はそんなことより隣人を愛することを強調していこうと思う。私が神であろうがなかろうが、そんなことより、どうあった方がいいのか、どうあるべき姿が大切なのか。そのことを訴えていかなければならない。みんなのために。

来たる世、神はマツリゴトをする者たちの上で君臨もせず統治もしない。それが新体制だ。だが神による関与の余地はなければいけないだろう。神はある意味においては絶対善である。未来志向で愛を掲げているからである。私が神を標榜する。それが私から出るというよりは、ともにある神が訴えているのだ。私に罪がないとされている。それは私の自己顕示欲というものに罪があるなら、その弁解をせねばならなかった。だが表現の自由というものに基づいた行動が罪であろうか、ということか。堂々巡りだ。離れよう。すべて時宜ということだ。ようは負けるなという聖霊からのエールであり、俺を引き下げようとする人物たちに惑わされるなということだったのであろう。俺に覚悟を促しているのかもしれない。俺は因縁の中、その時、絶対でなければならない。サタンは死に場所を求めてい

るのかもしれない。きっと、そうであろう。私はサタンに感謝している。ここまでくるには、送り風より向い風が大事で必要だったからだ。　時代に対し日本国憲法が古くなったのではなく時代がまだ憲法の理念についていっていないのだ。引き続き良心として時代を、そして思想を中心とした世界をけん引していく使命が憲法にはある。宗教による貧、病、争の解決。皆、心を正さなければ解決はない。だがR会のように周囲との関係性に対し犠牲を強いる教えという指導ではうまく行くものは稀有になる。問題は引き続き起こる。

　応病与薬、釈尊なき今、自己執着をやめ、ただ、南無妙法蓮華経と唱題し久遠の本仏に身をまかせ、もたらされる功徳を有り難く頂戴し、心を日蓮、釈尊への感謝でいっぱいにする。このことが家族のあいだに平和をもたらし何よりも自らの身体が健やかになり、貧、病、争、は解決される。そして、その心持から、ひとつのサトリが生まれる。自分のことばかり考えている人には「少しは他人のことも考えよ」といい、他人のことばかり考えている人には「自分のことを考えろ」という。ただ科学的に正しいという事実だけでは物事の本質をとらえているとはいえない。始めから完璧な人などいない。何かと罪を犯す。これをことさら重大視する人もいれば、過小評価して罪のハードルを高くして罰から逃げようとする人もいる。そして確実に良心の呵責に苦しむ人はイエスを信じることで魂の安ら

ぎが訪れる。それが最善なのである。もしくは南無妙法蓮華経の唱題、全てを久遠の本仏につつんでもらえる、そんな魂の平安こそが欲望を追うことよりも一番よきものである事を解ってほしくて神仏は罪を一度犯させるのかもしれない。イエスの教えは釈尊の言う、矢の譬えと同じで一度受ける、そして痛い二本目の矢は受けない、そのことの意味は「馬鹿野郎、だれが矢を放った」そんなことより早く手当をすることである。怒りの感情から離れる。犯した罪からも離れられるだろう。一番弱い人でなければ一番弱い人の心はわからない。「なぜ書くのか」との問いに「何故、書いたらいけないのだ」と問う。　軍事能力が相手よりあると思うから行使したくなる。だが、なければないでなんとかなるものだ、ただ「平和」を祈念することだ。私はなぜエホバの証人はクリスマスより免れようとするのか、それはイエスの死だけを際立たせるため。と思ったが所詮は彼らの特化を図ろうとするエホバの証人の計略であり、やはり死ぬには誕生しなければならない。何らかの形で祝うのは当然である。イエスは死にたかった、あまりにも酷い党派心を持つ者たちの頑迷さに失望して。自分だけを大事にする人と、人の痛みが手に取るようにわかる人、この違いは大きい。神は世に愛子までを民のために下さり、そしてその神は贖罪のために命を投げうたれた。とするなら愛子ですらこんな仕打ちを受けるのだ、我々にはどんな災難が降りかかるだろうか。神はあ

る面で非情で残酷だという、ああ民衆はなぜこんなに神の真意を理解できぬほど頑迷で不従順なのであろうか。エホバの証人は相手の立場に立てない。疑似、似非人格者が多い。人の家でもコートをぬがない。滞在が短いからだと思う。一言あって然るべきだ。コートを脱ぐことは、聖書にある、永遠のいのちを与えられるのに邪魔になる、生活の心遣いか。礼儀にこだわる私が悪いか。そうか私の心得違いか。道徳より真実の愛か。納得したぞ。こと宗教に関しては比較、検証が必要だ。正しきものは私の教えであり、寛容性を含めてである。だが、ただ人も従順であるだけではあまりにも情けない。人の性分も、関係してくる。人は成長する時、悪魔の影響を受けさまよう。しかし神の子はその罪障の中においてもいつしか正規の道へ戻る。そんなとき、人は大いに成長している。そして幸せになっている。倦怠つまり不満足な心を起こして自らの魂の進歩の延滞を招く。倦怠、飽きは悪である。戒を守り、罪を犯さなかった者もいる。しかしそれは誇るものではなく感謝に繋がらなければならない。その現実と運と因縁に。

相田　みつを、(人の為と書いて偽りとなる。)だが人の為というのはありだと思う。しかしどこか犠牲の匂いがする。その幻影からは覚めなければならない。

日本はアジアでＮＯ２ではいけないのか、イギリスが原発の発注。そんな中、なぜか中国を国際的な悪者に持ち上げようとネガテブキャンペーンを行ってい

る一つの勢力がある。右向きで好戦的な人たちである。ＡＩＩＢ、インドネシアの高速鉄道、インフラ整備。中国が大国としての責任を果たそうとするたび日本は過敏に嫌中を掲げる。日蓮は悪人を救うことは否定しない。死に際、南無妙法蓮華経と二度唱えただけで武士が仏国土へ向かったと、導き手として保証している。　郵便局、非正規雇用で入った。解雇もおそれなかった。競争も。若者には尾崎ファンも多かった。エビリファイが処方された。ＥＤが治ってきた。私はこだわる自分を否定し誰でもいいからとにかく結婚しようと思い、年収もダブルワーキングをした分に少し水増しして民間の結婚相談所で書類に記入した。そうしたころから皆が悪魔に見えてきた。私はまたしても閉鎖病棟で薬づけにされた。私はＥＤを盛んに訴えた。起たないと女性は誰も相手にしてくれないだろうと焦り主体性を失った。そこには真宗の南無阿弥陀仏がついていた。人間の性は悪である、でも念仏を口称すればどんな悪人も許されるという教えである。魅かれていた。味噌も糞も一緒という価値観にどっぷり浸かっていた私。日蓮としての自覚を促すため、諸天善神は「ちょっとまて」と病棟という島へ、私を流すことを決めたのである。つまり「女なら誰でもいい」は寛容とは違い、誤りであった。そして真由子さんに出会った。因縁のなか、煩悩ではない。愛すべき人を愛す、それを神は、領解、承認されるのである。それが絶対善を見出した南無妙法蓮華

経なのである。なんといっても民主主義は採決で決まるのである。正しいから決まるのではない。少数の意見の中に真実があるかもしれない。しかし国民が高い意識をもち選択するならいいだろ。アメリカの大統領選は途中でやり直せばよかったと思う。ふたりを外して。いついかなる時も私が発する言葉がその場において最善なのである。神でないとしたら今までの道のりが無に帰す。それは絶対よくない。つまり私は神である。その霊格において。　イエスも日蓮も悪人とされた。「あの人は良い人だ」「いや世間を惑わせている」。母親ほど息子を侮辱するものはいない。　R会、法座修行。釈尊なき現在、愚痴とその解決のための方法論。そして社会資源の紹介に終わる。ただ仏の教えという薬の効能の説明だけが続き本質は見失われる。大事なのはその薬を飲ませ病状を回復させ根治させることだ。それには私の南無妙法蓮華経を服するしかない。食欲が存在すれば、当然、屠殺、鶏の首折りが必要となりこれに従事される、本当の意味での自己犠牲に生きていらっしゃる人たちは苦しみ続けることになる。食欲の存在など糞喰えと言いたい。フィリピンのストリートチルドレン、マカオのカジノで客取りに走る娼婦たち、強姦される罪もなき女性たち。児童ポルノ、リベンジポルノで苦しむ若者。つまり肉欲がなくなればいいのである。(食欲と肉欲)この二つが滅却されなければならない。地獄、飢餓からの解放のため。

民主主義は我欲に基づいて機能する。来たる世、絶対の真理が存在するなら自由意思はすべからく神の意志にすり替わる。何度も言うが雑然からは離れなければいけない。

本当の神の意志、愛で人々が覆われないと貧、病、争は解決されない。怪しい人の欲(所有欲、金銭欲)があっては簡素化された生活を、神が保証するのは無理だからだ。真実の神の意志とは隣人を愛する、それに尽きる。主体性を持ち主人公であり続けるのは間違っていないが、神の持つ美徳。明るく、素直に、温かく。真の協調性を有する世界を造る。神は人々の心の中にまなざしを向けるのである。愛をもって霊で満たすためである。

幸福が義務であるなら、永遠のいのちをえることは真面目に生きた人たちが神から授かった権利であり約束されたものなのである。それほど今、生きていることは大事である。そして幸福とは愛をもって春夏秋冬、様々な街の風景を眺めてみることができることであり、また自分が周囲からも見られるものだ。愛が愛を呼ぶ。止まらない。私の書きもの、我々が死ぬのか、生きるのか、わからないという人もいるだろう。ただわからないよりイエスは死んでも生きる。生きても死なないと言っている。それを推察すればいままでの形になってしまう。つまりどっちでもいいのでは。結局、生きるということだ。人は罰を与えられ、また罪を

犯す。聖書は示す、真由子さんは俺を愛していると。でもそれだけをぼっかけると煩悩に毒されていることになる。この愛の境涯を皆に知らしめなさい。これが真実である。人間義人は神の物差しを持った。お前のこれから後にとって、寒風の中、猫を死なせた方が互いに安楽であったのだ。お前はあえて苦難を背負った。神の声か。猫はサタンの使いか。だが私は感謝している。我が家の庭に迷い込んできてくれて。なぜか慈愛が深まってくるからだ。神はそれを踏まえているだろうか。無視、そんな薄情なことは私、義人にはできなかった。人としての良心、想いである。神は非情を勧めるのだろうか。真実は、猫は私の愛に生きる覚悟を試みるための神の御使いであった。「神と知って、無知になり感謝せず空しくなり心は暗くなった」いう聖句がある。何度も出る。「誰にも頭を下げたくない」職人気質の方も多いだろう。神に対して、なぜ頭を下げなければいけないのか。それはそれでいい。自然に神仏への感謝が生まれたとき気づけばいい。「俺は他人や、神仏など信じない。人のつながりを信じない」真実の幸福は見いだせないだろう。神として私は決して奉ってほしいとは思っていない。だがわずかでもいい、笑顔で敬意をもって話しかけてほしい。それだけで満足である。敬意とは神の子がお互いを思いやり尊重し合うということである。私にとってR会は比叡山のような仏教の総合大学であったと思う。たくさん本を購い読んだ。ある女性、

自慢をせずにはおれない性格。人の上にいないと気分が悪いみたいだ。独善的に「仲良しでいなくては」と押し付ける。なぜ嫁姑の仲がいいのを吹聴しなければいけないのか。「あんた達はダラだからうまくいかないのだ」「R会の教えを聞かんからだ」。洗脳されたのも気づかず、主体性を持ち一生懸命に生活している人たちを小馬鹿にする。同悲同苦はどこに行ったのか。彼女は他人の不幸をことのほか喜ぶ、心の貧しい女だ。舌の根も乾かぬうちに、健忘か変節かわからぬが教会長の受け売りを咀嚼もせず味噌も糞も一緒にして大声で広宣する。私が許せないのは彼女が仏の使いを標榜しているからである。そして彼女の人物、掲げる看板はR会にとっては決してプラスにはなっていない。古参の貧乏人の悪女の深情け、新人は忌避するだろう。「もうやめていって欲しい」そんな声も聞こえてきた。虚空に浮かんだ彼女。あまりにも哀れだ。今、修行として毎日営業のアポイントを取る仕事の因縁をもらっている。「あなたが自慢するような広い心はなくていいから、理屈だけは怒らず聞こうね。大同小異より悪の消去法の方が目に見えない精神世界では本質なのだよ。周りの人たちを下に見るのはもうやめようね。自分が認められない。知らないうちに侮辱するから侮辱されるのだよ。私はそれを教えるために示現しているのだよ。わざわざ偉そうにはなりたくなかったが。それほど聖書からの神の愛は深いのである。宗教をやっていることは、世間では

決して自慢にはなりません。むしろ自己決定できない情けない奴くらいに思われます。人々が争い、格闘する中、精神世界に遊戯しているのですから馬鹿にされても仕方ありません。富や名誉が一番という世間とは価値観が違うのです。そこを踏まえ仏様の価値観で社会に働きかけるときのストラテジー（戦略）は優しい顔、柔和な心、愛情ある言葉につきます。周りの人に振り向けてみて下さい。何かが変わりますから。私は気づいてほしいだけなのです。ものごとには、いろいろな見方、側面があるということを。教えを盲信して事後承諾で納得させられる。何度もいうが、自分たちだけが絶対正しい。会、中心に味噌も糞も一緒にする。独善的な馬鹿な教え、きれいさっぱりドブ川へ捨てちまえ。人の心に悪影響を与えると、あなたを責めるというより、これが導きの親だったあなたへの私からの恩返しなのです。本当に成仏して下さい。涙をのみ唇をかみしめお願いします。」私は一度、先の本で夫婦の愛ほどもろいものはないと記したが、だからこそ結びつけば最高の愛になるのである。私の目指す世界である。　真子、千華へ休日は安息日として大切にせよ。休養をたっぷり取ると、ともに自分を振り返ってみよう。何度も言うが目に見えない世界を大事にせよ。幸せがまいこむよ。おじちゃんを神すなわち愛だと信じるのだ。愛している。この輪を広げよ。

俺が日蓮だ、神だ。そんなことより日蓮、神の心が解るということが大事なの

だ。それが俺は日蓮、神、イエスだということである。人間関係は成熟しなければ話し合いは成り立たず喧嘩になるのがおちである。孤独を乗り越えればいいことだらけだ。人に依存、迎合しなくて済む。神仏の慈悲を感じる。そして愛を周りにそそぐのだ。真の友情の構築のため。イエスは愛と栄光のため死んだ。もう犠牲はいらない。ただ、彼に感謝するだけである。(涙) 真由子さんは愛を選択せず、ありきたりな夢、富、財産、責任感を選んだだけか。仕方ないか。神の愛。受け入れることが出来なかったのか。因縁か。それともそれが愛だったのか。ローマ人への手紙第3章3節「もし彼らのうちに不信実のものがあったとしたらその不信実によって神の真実は無になるであろうか。」神である私が他宗を信じる偽りものとして裁くのはここである。4節「断じてそうではない。あらゆる不信実なものを偽り者としている」偽り者とは。不信実、不従順にして頑迷なイエスに従わないもの達である。やみくもに邪教を信じる。もしくは興味を持つものである。引き続き4節神を真実なものとするべきである。それは「あなたが言葉を述べるときは、義とされ、あなたの裁きを受けるときに勝利を得るため」と聖書に書いてある通りである。つまり他宗の者の信心に対し神には責任はない。そして彼らは最後の審判において大きな負債を払わされる。だからこそ私は義を訴えるのである。自身のことより人々の行く末を案じているのだ。神を信じることが

出来るものが信じるだろう。美しい心をもって。母には肉親の情を超えてキリストの愛（アガペー）に包まれて、大きな想いを胸に抱き、ひたすら富を求めるだけという偽りの中にある人々に対し、自分は悔い改めイエスを信じ回心したという表明を、喜んでしてほしいのだが。まだ難しいかな。少しは理解できるか。すべては予定調和。神の子は定められている。心を美しく、真実の愛を。

（第三章）人は皆、罪人であるという意識を持つ。そんな自分の自然な心にすべてをまかす。そこから何かが始まるかもしれない。エホバの証人のある宣教師が「自分が説教するから集会場に来てくれ」という。犠牲という価値観を後生大事に抱く彼らが、自らの顕示欲を観に来い。矛盾だ。いや違う。欲望があるからこそ犠牲というものの意味があるのか。宣教とは皆のためにそれを喜びとし、共に至福な気分になれるよう、弁舌拙くても説かれることが大事である。自慢は一番いけないことだ。そこには自己分析し客観する自分がいない。幼い頃、父親と一軒一軒布教に回り、ある家で「なんで、こんな子供を連れて歩く。早く晩飯を食わせろ」「私は好きでやっているのです」彼はいつも聖書の文言を大事にしているが、聖書に記されてある内容も解らぬ子供が言い放った一言。このエピソードで聖書に込められた神の想いが幼き彼の心に広がっていたことが解る。文言より霊である。父親は「おまえ、よく言ったな」と褒めたという。だが彼は本質的な聖書の内容と、自らは弁が立つ優秀な宣教師なのだという傲慢なのぼせ上りがあるという矛盾を、現在気付いていない。気をつけよ、サタンは邪まな名誉欲を煽り、競わせ分裂を図る。そしていろんな悪い誘惑としてかかわってくる。謙遜、謙虚を心に抱いていないといけない。「きっと幼き君は、父親が大きな使命を果たしているのが理解でき少しでもいいから手助けになりたかったのだよ」。それ

が天の父とイエスの関係、想い、愛だよ、山口さん。　努力が必要なときもある。宴会で尾崎の「ロザーナ」を披露したい。ＣＤを買ってまだ３日目だ。一週間しか猶予期間は無い。でも聖書、神のご加護があるから大丈夫だ。もしかしたら日頃、皆の思っていることを書いているだけだ。私の本音である。恥ずかしげもなく愚かしく表現できるのは下流にいて、身の程を知らないからだろう。だが、正直な方がいい。ある意味で頭のいいやつは真実を知らないことが多い。弱者の優しさである。往往にして強者は富を大事にするが愛をないがしろにするからだ。日蓮、イエスが不遇という苦難を受けることは義人についても同じだった。世間様というものを代表した、権力者は「世を惑わすもの」と決めつけるのだ。つまり悪人とされる。義人の人妻への呼びかけ、この美しさも過ぎれば心の盗みになるという。でも私は真由子さんを理不尽にも慕っていた。そして何か裏側で無職の私を悪人として日蓮のように島流しにしたい連中がいるのではないだろうか。被害妄想か。　「悩まない。なぜかそれは自分の損になるから」。変わり身だけが早いＲ会の信者。結局、私が言いたいのは、己が罪に気づけということ。まずそこから始まる。宗教団体への布施は対価ではない。真由子さんを愛したからこそ自らへの執着から離れた。ただ彼女が幸せであることを祈る。たとえ報われなくても。多分これが究極の美しい愛なのだろう。渡辺淳一なんかぶっとばせ。官

能小説も踏みつけろ。俺はただ清らかな愛に生きる。上手くいこう。助かろう、生きようと思うから難しくしんどくなる。なるようになる。人事を尽くし天に委ねる。これでいい。真実の栄光のために命をかける。命は一番大切なものだから。布施と教団の経営というものが繋がる。信者は株主か。なぜ、組織の在り方まで考慮しなくてはならない。また「お布施すると何かいいことがある」。欲望の声がする。ギブアンドテイク。お互いの利益のため、手を結ぶ。バチカンとR会。そのために費やされる大量の穢れたお金。お布施から生まれたものである。子供が生まれれば、百万、新築したら二百万。ある女性はこの傍若無人さをすべて認める。自らも依頼されて支払った口だからだ。ノルマを持たされる支部長の気持ちが解ると言う。仏の手からこぼれる罰、逃れるためにマヒした頭で、自分の幸福が担保されると喜び、人には一文も施さずため込んだ財産を吐き出す。教団のカステラ販売に際しては職員の雇用のためだと容赦する。祈りの家を商売の家にしてはいけない。聖書には「福音を伝えるのは無代価、見返りを期待してはいけない」とある。そして生活の心遣いを嫌う。真の感謝が大事だからである。心、愛が大切である。本当の愛、慈悲、思いやりからならどんな寄付も神に許されよう。最近知った話。尾崎がイデー（理念）をぶつけ社会的責任を止揚させてくれと言っていたと聞いた。本当に嬉しかった。それは彼の息子が出演している特番

の放送のなかで語られたのである。やはり彼は社会を愛にて幸福へ向かわせるロックンローラーだった。イエス、日蓮と同じにおいがする。そして死すべき時を運命的に約束されていたのだろう。鮮烈にカリスマとなった。覚醒剤も、尾崎が愛したあらゆる不遇な人々の人生を思うとき実体験しなければならぬことだったのかもしれない。私の父もアルコール依存というみちを選択した。酒を売るという生業が辛かったのだろう。母が父の悪口を言う。あるとき朝、起きがけに父が殴ったという。「当たり前の顔をしている」きちがい水を売って生きている身でありながら罪悪感もなく淡々と己の感情だけで我を振りまくエゴイズムが鼻についたのだろう。母に「親父は尾崎豊だった」とはなした。母は「もう言うな。父ちゃんがかわいそうだ」と小声でいうと黙った。親父は真実の清らかな愛を追い求めていたのであろう。義侠心からくる友情。孤独死した安さんと小学校の裏の里山で楽しそうに一升瓶で酒を酌み交わしている写真がある。義兄弟。茶碗酒である。こんな温かい友情はいま存在するのだろうか。俺はどうなのか。冷酷でないか。誰でもいいから俺の寂しくて暖かい胸中を解ってくれるやつはいないか。そして酒を酌み交わしたい。心の底からそう思う。

　この世に存在し続けるか。死んであの世に行くか。私は二通りの道を示している。これは真摯に生きた人たちの為の道標である。どっちに転んでも幸せという

ことだ。満足が大事だ。自己満足と違う、真の満足。神の気持ちが解る。それがつまり神であることの証明なのか。懐疑的質問だが「前世がお前にはわかるのか」という問いかけに対して。シネマ、三丁目の夕日、続編だ。東京オリンピック開催される。バレーボール。東洋の魔女たちが評判を呼ぶ。そして数日後、子供たちは口々に「オリンピック飽きた、オリンピック飽きた」と路地を歩きながら月光仮面を待ち望む。また小さな自動車修理工場に勤める、青森から集団就職してきた工員の女性ろくちゃん。当時、悪行とされた、只で診療を娼婦ややくざに施す医師。そしてふたりは結婚することになる。梅ちゃん先生みたい。いい映画だなあ。高度成長期から衰退期、停滞期を得て成熟期に入って行く。競争云々より民進党の代表となった蓮舫さんが現在パホーマンスであったと呼ばれながらも、かつて見せてくれ、言ってくれた、事業仕分け「二番じゃダメなのですか」そうだ。中国に一番を譲ってやればよいではないか。向こうの方が歴史は古いし唐の律令制度などの政治体制を含め、海を越え色々な文化、思想が伝わって来たのだ。そこには尊敬し尊重し合う風土が生まれてこなくてはならない。アジアの盟主をゆずることで安全保障の問題が解決されるならそれはそれでよいではないか。私の言っていることは財力、体力のないところからくる、ルサンチマン(恨み)からだと思う人もいるかもしれない。しかし勝利と愛とどっちが欲しい、一時の栄光

と永遠の平和どっちがよいだろう。私はただ愛と平和に価値観を置く人を愛するのである。神だからである。いや人間としても。

私はかつて「激するさとり」の中で顕正会が愛よりも命を重視していることを批判的に書いたが、日蓮の生きていた時代、理不尽な死を迎える人達が大勢いたのであろう。だからこそ命のもろさからその大切さをうったえた。金と命。その当時、同次元でなかったかもしれない。いまはどうでしょうか。金の方が大事というやつもいるかもしれない。

ソチは傍若無人に何でも踏みつける。エホバの証人の心のこもった聖書も。

しかし私が活用している聖書は絶対踏まない。しかし私の書きものは遠慮もなく知らぬ顔で踏みつける。どうやら聖なるものは私の聖書だけみたいだ。素直に私の書いたものが売れればいいなあとは思う。散々苦しんだ。とらわれていた、私の書いたものは自己顕示欲だけのものでないかと。素直に、温かくそれでいい。

とはいっても私は困窮しているのであろうか。生活に困っているだろうか。やはり書きものの代価を求めるというのは間違っているのだ。変に迎合したり修正したりせねばならぬこともあるからである。製本するということは誰かに読んでほしいということ、最近気づいた。なんというのんびり屋だ。聖書の言うように富に毒されるのは良くないが金を増やすのはありみたい。誠実に。聖書はその存

在により、自分のこと、相手のこと、そういう関係性を通してフレンドリーな親近感を生み出させる。真由子さんにも一途にそれを訴える。人間は挫折すればするほど深くなる。結局私の本は内容からしても売れないだろう。それでいい。

なぜか私利私欲が許せなかったのだろうなあ。公益を考えていたのだろうか。私が組織を嫌うのは、人々は教え、真理より組織を重んじるようになるからである。本末転倒の典型である。　公私混同ＯＫ、それでなくて愛が成り立つわけはない。色々、いちいちうるさいことを言うから少子化になるのだ。でもセクハラは良くない、侮辱だからである。

素敵な場所へ行く、レストランに入る。一緒にケーキを食う。それもよい、だがそれは舞台装置だ。愛し合う、二人には静かな空間があった方がいいのかもしれない。いやどんな場所でも楽しいだろう。　自分の生活を心配しあたふたとし、教えを広めないというのは悪魔を喜ばすだけのことである。釈迦にとって宮殿での生活はいつも注目、管理され酷く辛かっただろう。自由への憧れは強い想いになっていっただろう。

聖書は展望として基本的には昨日を思うな、明日を語るな。と一日の始めにその日を考えよと示してくる。自分の書きものを自負することもある。しかし謙虚になるとき思う、みんな百も承知していることなのではないかと。私の書くこと

くらいは。

ある少年は小学６年生の法務省主催の作文コンクールで県代表になった。内容はコミュニティーを構築してみんなで問題を解決し犯罪の抑止力に発展させていこうというものらしい。私は直に読んだわけではないのでどうともいえない。役人が喜ぶオーソドックスなものを表現力豊かに著したのかもしれない。私は思う。どのようなものであっても少年時代の社会参加への意志と正義感は必要である。ただ、彼が不条理に見える世間、積もった問題に囲まれたとき執筆意欲をなくさずいいものを書いてほしいと勝手に期待し慮るのであった。金銭欲、権勢欲、悪と呼ばれてもＲ会は積極的と歓迎する。俺は思想家だ。結局いろいろ触手を伸ばしてみたが、俺は静かにしていればいいみたいだ。それでいい。悪の終わる世界。ただプラプラ漂う。それでいい。科学と信仰。諸行無常のマイナス部分に逆らいアンチエイジングに向かう科学。だがそこには現世利益に繋がる大乗仏教との接点がある。確かにそうだろうが諸行無常は変わらないだろう。

道元の「出家至上主義」、ある宗教思想家は「修行至上主義」という。そこには欲望にうまく向かえない既存の僧侶に対し、簡素で質素な暮らしをおくる。いわゆる阿羅漢へ向かう釈尊教団へと、理想を追う姿が感じられる。しかしここになにものにもこだわらない空という教えを用いたい。楽な生き方をしたい。それ

が庶民の求めていたくらし、姿であろう。南無妙法蓮華経という大きな船に乗り彼岸へ渡る。降りても法華経という身についたものがあるから困惑することはない。生きることが善きことだから生きているのだろうか。ただ生きているので仕方なく生きている。死ぬことも悪い事ではないかもしれない、死ぬから死ぬのである。因縁があればうまく生死を迎えられるだろう。なぜ人を殺してはいけないか、そこには恐怖という感情があるからだ。そうだろう。　R会の工作。傷つけた者より傷つけられた者が悪いと規定し盲目的で従順な人間を殖やしお布施と称するお宝を巻き上げる。信者達は気づかず自分が最高の人間だと思っている。

イエスは罪をなくすために現れたのではなく許すため。つまり姦淫した女に「これからは罪を犯さないように」というが、女はまた罪を犯すことが彼には解っていた。この世は罪を犯さずには生きていけない世であることは十分承知していたのである。だからこそ、許す。十字架は罪が許されるための表徴である。人は罪を犯さずには生きていけないが、心は善に向かわねばならない。十字架すなわち南無妙法蓮華経。つまり罪障消滅,そして。原罪からの解放。人の不幸により自らの幸福があると思ってはいけない。人の不幸を取り除く、それが幸福に通じていると信ぜよ。需要への供給がある。イエスは裁くために来たという。それは見えてない人が見えてないというよりは見えてない人が見えるということを

裁くと言っているのである。彼らがそれを確信していることが問題だと言うのである。つまり富、名誉、頑健、権勢が確かに依拠し信じられるものだと彼らは思っていると。彼らとは誰であろうか、あなたかもしれない。名もなく、清く、美しく、そこに愛がある。そして想像力と勇気とサムマネー。聖書を信じ、道標にして、心を正せば、衣、食、住、の心配は、本当になくなる。実感です。聖書の保証です。どうか皆様、目に見えない世界を信じてみて下さい。それが見えるということです。愛と正義を自分らしく追求するとき、必ず眼前に現れてきます。神という絶対者の愛が。コリント人の第一の手紙。1章25節神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人より強いからである。

言葉の宣教も霊と力の証明によったのである。森羅万象、衆生は互いに布施し合って生きているのである、それを見つめ感謝するものに栄光あれ。父を信じ、神のわざを信ずるものは何でもかなえられる。つまり清く、美しい願いは、必ずかなえられるのだ。それは神を信ずる者は心が美しいからだ。聖書がお前は臆病者ではないと示した。どうしてもイエスを裏切ってしまう姦淫した女。でもイエスの愛と善を信ずることによって報われます。南無妙法蓮華経。出家した釈尊。彼は悪意からの離脱も要因にあるかもしれないが、善意による締め付けからも解放されたかったのではないか。自由を夢見て。再び俺は臆病者かと聖書に聞いた。

断じてそうではないと示した。自信を持てと。
俺はついついあやふやになるけど、真由子さんを愛しているのは真実みたいだ。聖書は力強く認めてくれている。悪をなして南無阿弥陀仏、南無妙法蓮華経で悪をなしえず。信仰心ある科学は愛と平和をもたらすだろう。決して信仰心を科学で規定するものであってはならない。俺の本を読んだ人、真実と愛で立ち向かおうという気概を知った人が、ひとりでも現れれば大いに目的は達せられたと嬉しく思います。
日蓮が命にこだわったのは愛のためと殉教に走る風潮が神として犠牲に思え、容認できなかった。それはあの世の幸福のためであったからである。エホバの証人もこの世の幸せのため命というものを重視する。所詮、人とは命が大事だと思うことが自然なのであろう。恥ずべきことではないのかもしれない。コリント人への第一の手紙７章１１節(しかし万一分かれているなら結婚しないでいるか、それとも夫と和解するかなさい)また夫も妻も離婚してはならない。主が言っているのではなくパウロが言っている。身の程を知れ。神は真実の契約のことを結婚であるとしているのだ。政略結婚や金銭関係、脅しによる、世俗的、作為的な結婚は番外である。ただちに解消しなくてはならない。
Ｒ会。ある信者は善きことに使っていただくため布施したという。お金の使い

道、どこに呈出すれば良いのか判らなかったという。主体性を捨てず自分の金の用い方は自分で決めろと言いたい。お布施とは執着の心を取り除くためするものである、何か見返りが少しでも多く得るところに寄付申し上げます。という感覚の信者もいる。これでは営利団体への出資。当人はいいことしているつもりなのだろう。兎に角、はじめに教団ありき、これは絶対おかしい、マインドコントロールが不気味に漂っている。ガス抜きと党勢を示すための貧乏人からも集金される会費。塵も、積もれば山となる。まあ美味い仕組みだ。宗教界のネズミ講。急激に党勢を伸ばしているところは、多分にそういう経営感覚が発達したところが多いのだろう。あえて私は友を求めない。私の中にある、イエスキリストの心に感応してくる、自らの心を向き合わせる者だけが兄弟なのである。素晴らしくないかい。俺は探し続けなくてはならない。何度も書いているが私は真由子さんに対し背伸びをし、高下駄を履いて垣根の塀から見える山茶花をむしり取ろうとするためみたいにアンソロジーを腐心して創作してきた。なんとか聡明な真由子さんに近づきたい、そんな哀れな男心。本心はここにあり、ご理解ください。今日初めて聖書との対話において説得を試みた。納得してくれた。凄いターニングポイントになるかもしれない。そんなに浮かれていてはいけないなあ。エホバの証人は霊から生まれたものではなく肉より生まれたものになっている。日蓮は神と

して犠牲を志向するものに対して絶対的生命尊重を訴えた。　俺を傷つけたくないのなら、俺を愛しているということだろう。病院の経営とか大変なこともあるだろう。俺は真由子さんが生きているだけでいい。愛をバカにする人は馬鹿にされる愛しか見出すことはできない。エホバの証人は神に媚びている。なぜ強く責めぬ。もしかしたらサタンは損な役目にあったのかも。人間よ、善に目覚めよ、神からのメッセージである。日本人は先の大戦の不幸な経験により神、愛に対して謙虚にならなくてはいけないのだ。一等国とはどこの国のひとも思っているのだ。だが価値観が同じであれば、つまり富であれば順位はおのずとついてくるだろう。ブータンを尊べ、彼らはどこの牽制も干渉も受けていない。文化と信条を真の幸福において大切にしているからである。我々の未来はまだわからない。私は死ぬ、生きる。いろいろなパターンを書いてきた。だが幸せでありたい。その望みが絶望をもたらさず存在し続けることをみんなで祈ろう。きっと良き世界がそこには約束されているはずだ。ホメイニ師によるイラン革命を何故民衆が支持したか。大きな意味がある障害者は堂々と愛、正直を誇れ。誠実であれ、醜悪になるな。健常者にも受入れられるであろう。差別する人間はそのことにより皆に貶められるのである。時代のおかげである。日蓮が言うように当時、本当に生命は大切と訴えることが意味、意義があったのである。生命が非常に軽視されてい

たからだ。そして私はこれからまたあらためて示さねばならぬ道であると信じる。現在、命が軽いか重いか皆、素直に考えてほしい。私はいま皆に話さなければならない。私が理解され神と思われているなら、ひとりでも多くに人にお伝えください。福音というものはそういうことだからです。伝わらなければ意味がない。疑問があれば光のあるうちにお訪ね下さい。神は愛だからです。嘲笑のない世界。星が変わらず宇宙より地球を照らしている。百万年前、一万年前、千年、百年前。ほとんど何も変わらない。諸行無常。だが愛もそうであってほしい。変化はしているがそれはほとんど変わらない。それが信仰である。エホバの証人たちの言うは「物理の法則から外れることのない宗教であって科学で裏付けられているのだ」。はっきりいって馬鹿を言うな。そんな冷酷で乱暴な話があるか。神をどこまで愛から引き離すのだ。ネパール人で密教曼荼羅を描く、ラマちゃんが「結局、宗教というものをどうとらえますか」と質問を打ってきたのでミレーの「晩鐘」にことよせて「感謝の祈りも確かにあるのだろう」。「そして釈尊は一切が苦であると見通し生老病死からの解放のため執着と渇愛から離れる事が必要だと言われた」。「だがこのことから考えると神という外的要因、賭けにも等しい収穫への保証。釈尊もそんな苦しみから逃れたかったのでしょう」。「皆の求める教えは、現実的に返り、現世利益の延長線上に生老病死からの解放。いわゆる不老不死の

実現にあるのではないだろうか」。私はその前提から来たる世のあるべき姿を先本のなかに書いてきたのである。それが本当の宗教といえば納得できるのではないだろうか。私のこれまでの本の中で不老不死へのパターン。死後の世界への志向としてパラダイスに行くなどを呈示してきた。私は頭をかきむしり、格闘を繰り広げた。皆さんはどんな世界がいいですか。自由に思い描いてください。美しくネ。R会、説法。ある姑と嫁がいかに仲睦まじいかと発表するという。R会を蹴飛ばして本尊を引きはがした私。彼女たち二人は同レベルの幼稚で発達不足の良心と高慢さがほどなく同じ価値観で結びつくようになったのだろう。無知蒙昧同士のドタバタ喜劇の果てに。仲良しロンパールーム化。生活のため、命を張るとき主体性のもと、親子のいさかいは共に成長する段階において発生してくる。それで当然だ。彼女らは生活の不安が消えたことで自分の馬鹿さ加減も気にならなくなったのであろう。子供と道端で転がる小さな鬼である。謙虚になり神を敬うとき初めて本心から本当の義母、嫁になれるのである。そうでないと、甘え合いのはて、舌の根の乾かぬうちにボロを出すだろう。そんなに人々の優位に立ちたいか、弱ったなあ。さしでがましく、これみよがしな自慢はやめてくれ。面倒くさいから。法華経での出来事、実際のことではない。空想である。真実は仏の教えというものを譬えて、かみ砕いたり、咀嚼したり、オブラートに包みこんだ

りして人々に伝え、その良薬を善きものとして含ませようと腐心したものである。そして日蓮信者が拠りどころとする、神力品２１番「このひと決定して疑いあることなけん」という一節。法華経は上行菩薩の自覚をもった日蓮の成仏を明らかにし、南無妙法蓮華経の発明に寄与するのに存在した経典でもある。では聖書とは。もしかしてこれはイエスの生き方を通して表徴されたものを、現在、私の生き方の指針にしせるために、なにものかが用意したものではないのか。つまり架空のことかもしれない。イエスの存在。業績に比べ記録はあまりというか、ローマに残っていない。だからこそ聖書はあるのだ。そうか。神が書紀されたものなのだ。すべて神、私のための存在。それが人類全体の救済、幸福につながって行くよう私は祈っているのである。科学で物体を追い求めるとき愛はどんどん見えにくくなる。愛とは情緒的にみえる理性が目に見えない世界を信じ、留意し神仏に対し祈るとき実感されてくるものなのである。そして愛はアイデンティティーと同じくなにがあっても心ある個々に把握されている、確かな思いやり、信仰にも裏打ちされた情感である。神の自証する聖書。ルターは言った。聖書、聖句は各位の良心で判断すべきだ。正しく、ダイレクトに向き合い、ファクター(要因)、偏見、見解にとらわれてはいけない。これはだが私の出現までの猶予期間においてであった。聖書は私の示現を予言し、またイエスの再臨であるとも記している。

神の意志、聖書は真理、自由、平和、愛を神、イエス、聖霊、三位一体で光らせる。不安はなくなる。彼らを証明するのに父からつかわされた御霊（みたま）は私である。この関係性。四位一体であり私を構成するものなのである。尾崎は覚醒剤にはしらなかったら間違いなく心の病に罹っていただろう。アルコール依存症になった男がいた。優しすぎるということはもろいということなのかもしれない。父はきっと心に鬼と仏とが同居してないと一角の侠客にはなれないと悲観していたのだろう。自分には鬼が住めない。清流のような心があったからだ。しかし誠実は誠実を他人にも求め、疑り深くなり、裏を勘ぐって、嫉妬深くなる。やくざな世界にも身を置けず、憧れだった刑事はとてつもない夢だったのだろう。男らしく生きたい、男らしいとは優しいことだと、誰か言ってくれないか俺たち親子のために。　反社会的な組織にも関係する、ある男。夜の世界で成功しているみたいだ。彼は違っていた。ある意味で本当に凄い。中学の頃のエピソード。彼は遊びに来た友４人に父親が楽しみにしている晩酌用のビールを冷蔵庫から一本持ってくると、なんとふるまったのだ。彼は善悪を超えて最大級のおもてなしをしたのである。その少量だったがビールの味はいまだに忘れない。しかし二十代の頃「金がすべてだ」と言っていたのが気にかかる。詐欺で騙したお年寄りをあざ笑っていた。悪自慢したいだけだったのだろうか。なぜか会ってみたいよ

うな、２度と遭いたくないような、不思議な心持にさせられる。私を受け入れるものが神に選ばれたものなのである。使徒行伝第６章１０節（彼は知恵と御霊（みたま）とで語っていたので、それに対抗できなかった）
これは私の力の源泉を証明するものです。「八正道から離れていいのか。正念すれば素敵な彼女が現れる。馬鹿な、そんな煩悩めいた話が仏の教えであるか。では道から外れ、自由に生きるか、全てはイエスを信じれば許される」。おかしい聖書は反応しない。やはり釈尊の教えに基づく正しい生き方をしないと「そうである」聖書の声。すると最善の女性とは。でも、いかなる状況でも私には美しい心で愛した真由子さんしかいない。「そうだ」私は嬉しかった。「原罪は生きていくには仕方がないものであるなら、もはや罪とは呼べない」。それは人間を救うため、神の方便か。「違う」聖書は叫ぶ。
そこには葛藤がなければいけないのか。それだけではない。そんな中から愛を選んだものが神の国へ入るのである。気が狂うか。人のために尽くす。または死す（犠牲はいけない）。
釈尊も涅槃に入らなければ完全なる仏にはなれなかった。つまり生存するための欲の克服。来たる世、不老不死が成り立たなければ真の幸福はない。そのとき人は自分を支配する自由を得、純粋に愛し合いながら永遠の平和をつくりあげてい

くことになるであろう。明るく素直に温かく、日向ぼっこする猫のように暮らす。生活の心配は欲望への渇愛からくる。本当の幸福は欲望を活かして生きることではなく、悪感情とともに滅却させるところに生まれるものなのだ。とりあえず心ある人に、「この世では欲望を制御し小出しにして満足していくほかはないのでは」。と言われそうだ。

ノストラダムスの予言。アンゴルモアの大王とはモンゴロイドの王。すなわち日本の王ということです。イエスがユダヤの王の系統から出たことを。マタイによる福音書では冒頭で述べています。マルコによる福音書第１５章２節３節においてヘロデという王があったにもかかわらず、イエスはピラトの「お前は、ユダヤの王であるのか」という質問に対し「そうである」と答えている。そして２６節イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と示してあった。私の家系が王家につながっていること、天孫降臨、皇統が聖書の神につながっていること。離れられないのである。私は王である。すべてに愛をもって。仕方がないが.私も辛いとこなのである。散々、宗教団体を批判してきたがその独自の厳格な価値観。神はただの人格者ではない。　真子、千華、雪道、大丈夫だったか。神はお前たちのような、いたいけな人々を愛している。心配ない。この世を心温かに生きた人は幸せな永遠のいのちが待っている欲望を抑えられぬなら結婚するがよい。世は終末

である。神は独身を勧める。そのとき皆、神の御使いのようになる。安心して信ぜよ。聖句（もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら、しかし、それは今お前の目に隠されている。）「心はひろく果てしなく」と姪にメールを送信した。これは一般的な目に見える世界で生きていくためである。だが精神世界においては、人の魂を堕落させ地獄に追いやるような邪教には敢然と立ち向かわなければならない。これが（ずこいきり）、法華宗信者の志向、姿勢である。エホバの証人が言うような聖書の統一見解など必要ない。神の自証とはイエス、神などの位置づけなどは必要ないということだ。そしてルターの言うように自らの良心でよむ、理解する。そこで私と同じ思考回路さえ通れば真理がみえる、愛である。それを見出すことの出来る人に神の国は訪れるのである。山口さんへ、コリント人への手紙の中、パウロはキリストの名において分争がないようにしてくれ。でも歴史はまったく意に介さず血の臭いで穢れています。皆、独善的だからです。神だけが善きものです、イエスが言っています。私は賛美されるより敬意を払っていただければそれで充分です。互いの尊重が大事です。もし兄弟が罪を犯すならいさめなさい。我は神、イエスキリストを信じますと答えなさい。　酒とは不思議なものだ。不幸ももたらすが仲間と飲む。こぼれる話にわがことのように幸福な気分にさせられる。いいものか悪いものか、わかりかねる。

俺は酒を売って生きて、育った。陰で泣く人もいただろう。晩酌を楽しみに働く人も多かったであろう。実は酒は特別のものであり霊からくるものか、肉からくるものか、それは決めるのは飲む人の心がけ次第なのである。お神酒もあれば、アルコール依存者の一瞬で飲まれるカップ酒もある。「ケイゾウ、お前はどっちだった。心はきれいだったのか。お前の辛さを解ってやれなくて本当に悪かった。俺たちは早くから栄光を求めすぎたのだよ。愉しくやるだけで人生は正解だったのだ。でもよかったな、三人も娘がいて。別れたけど結婚できてよかったなあ。俺のおかげだぞ。忘れるなよ。そういわれれば礼を言われたことは一度もなかったなあ。まあいいか、俺たちずっと仲間でいようなあ。またな。」聖句にある。パウロが言う。「私はパプテスマを授けるために来たのではなく福音を述べ伝えに来たのである。それはイエスキリストの十字架の死が無駄にならないためである。つまり大切なのは形式よりも言葉、心である。律法を守ることを強制するより、異邦人に愛を勧めるのが大事なのである」。イエスへの帰依、信仰が救われる条件となった。では律法はなくなったのか。いやむしろユダヤ人と契約されたものとは違い、人類全体が幸福へと向かうため交わされる約束は厳格化されたかもしれない。それは愛すること、許すことである。それが信じるものとイエスとに結ばれた愛の契約である。神の奴隷を選択するより、味噌も糞も一緒にしない、

欲望を抑制した本質的な温かい博愛である。大きな枠組みで、それは義人とその仲間にしか理解できないものなのかもしれない。

（第四章）ペテロ第一の手紙第４章１８節また義人でさえ、かろうじて救われるのだとすれば、不信なるものや罪人(つみびと)はどうなるのであろうか。１９だから神の御旨(みむね)に従って苦しみを受ける人々は、善を行い、そして、真実であられる創造主に、自分のたましいをゆだねるがよい。　神はただひとりである。しかしそのふところにあってイエスも神と聖書では呼ばれている。そして神とイエスはまた一体化する。神の聖別と聖合である。愛という概念をもつ神は無代価で人々に報いを与えるのである。日本にも八百万の神。ローマ、ギリシャにも神々はあるが、欲望より人格というものにこだわった神は聖書の神だけである。つまり神格は人間性というものを超え絶対愛を見つけるとき完結する。ヨハネによる福音書７章１２節群衆の中に、イエスについていろいろ噂が立った。ある人々は「あれは良い人だ」といい、他の人々は「あれは群衆を惑わしている」といった。と。私と同様である。それは当然だが。私ほど良き人はいないと思う。自信、自負。判る人はわかるし解らない人はわからないだろう。明るく素直に温かく愛をもって生きるとき、私の心が見えてくるだろう。母は本当に慈悲深いのだろうか。弱さを憎み、エゴイステックに振る舞う。乱暴で感情的なところが錯覚をもたらす。優しいのだろうか。判らない。
あえてＲ会を批判し攻撃している。理由は私の中にある、寛容といえばよいがル

ーズな味噌も糞も一緒にしたR会の匂いを掻き消したいのである。また私を勧誘した女性のこれ見よがしの上から目線に耐えがたいものがあるからだ。しかし、いま煩悩の権化だった、開祖に感謝する。その権勢欲によりネズミ算的に津々浦々に出来上がった道場の存在がある。彼は生前中から開祖と呼ばせ会長退位後の位置づけを作った。老齢の身での会長職は難儀だったろう。しかし彼は世襲制に辿り着き安心したであろうか。私もR会の法華三部経をいまだに活用させてもらっている。意外に恩恵を受けているのである。しかし宗教というものに世俗的な権力者の継承があってはならない。本質が見え難くなる。煩悩は煩悩である。釈尊を尊ぶ、開祖を尊ぶ二股は通用しなくなる、どちらかだ。R会ちゃんと決めろ。権力の継承の重視、今の会長先生が偉い、だとさ。この金儲け主義が。十字架の死によりイエスはサタンに対し、どのような場合でも悪には屈しないということの象徴になった。たとえ気が狂い、泣き叫び、死にゆくとしても、愛に生きる。　苦しみ、誘惑にあう人々。私は常に彼らの納得のいく形で活動していきたい。世間に迎合するのではなく愛を貫きたい。呪いでも法はまがらない。畏敬と感謝、根源への眼差し。永遠のいのちに目覚める。祈りである。その心に幸福は宿る。私は政治には付かず離れずの姿勢である。神が許さないのは破戒するものより、他に非道を及ぼすものである。サタンに対し人にはそれぞれに抗する方法

がある。イエスのように真正面からぶつかるもよし、義人のように少し卑屈を演ずるもよし。そして潔白というものはいつも誰かを傷つけるものだ。辛いね。私はお上人に尋ねた、法華経２６番の陀羅尼を踏まえて。顕教をモットーとする法華宗、密教の匂いがする日蓮宗。この相違はどこからくるのか。「ちょっと待ってくれ」。そして一段落ついた頃、「陀羅尼は神々、鬼までが法華経を深く信奉し、いろいろなものから護るため呪文を唱えるのだ」。私に答えがひらめいた。「お上人様、私の疑問も解けました」つまり神々は陀羅尼によって法師を守ることを約束したのだ。ここに密教とは違う意味合いがある。日蓮が亡国と叫んだ真言密教、人間である法師が呪いを行う、信者は何かにお願いし欲望を膨らませ、現世利益を求めるものである。インドの昔から存在するバラモン教と同じニュアンスのものである。時が流れるうちに回帰したのだろう。インドでは仏教は土着宗教に吸収され換骨奪胎されヒンズー教に吸収された。つまり法華宗の正当性についての疑問が一つ解決した。そしてもう一つ「私も顕教の立場が正しいと思うが、なぜに日蓮宗は台密の流れがあるのか。法華宗には存在しない。本当の日蓮上人の教えはどうなのだ」ここにも禎山上人が的確にご教授された。つまり比叡山での修行はあらゆる教義を勉強しなければならない。総合大学である比叡山で日蓮は密教も修め、その後、本当の釈迦の教えは密教ではない、顕教たる法華経を奉ずる

他はないと確信したのである。　神の名をイエスは皆に知らせた。これからも続けるという。皆へ神を愛してほしいという。神がイエスを愛したからだ。そしてイエスが民の中に存在するからである.私をないがしろにすることは愛を踏みにじるということである。象徴天皇。日本国民と文化のシンボルであると、皆の総意がないと天皇は象徴ではないという。天皇はだれが選ぶ、問題だ。やはり民の精神世界に愛をもって支配することが必要なのだろう。君臨も統治もせぬが心に大きく存在する。そうである国民が支持するのだと思う。それが総意であろう。そうして象徴天皇は生まれる。　アメリカについて書く。こんなにバイタリティーあふれる国はない。それはそうだろう。祖先はヨーロッパ各地からの移民である。信教の自由、言論の自由、公平、平等。自由を求めることはいいことだ。だが、その多くは一山当てて金持ちになるため渡航した、犯罪者、逃亡者、ならず者、暴れ者、詐欺師たちである。そういったもの達が順繰り、順繰りに押し寄せ、自由の名のもと銃を片手に金と権力の奪いあいを繰り広げた国。それがアメリカ合衆国である。フロンティアスピリット(開拓者魂)いい響きだな。各地から流れ込んでくる、ならず者相手の商売女。娼婦もいる。ネイティブアメリカン（先住民）の虐殺。黒人たちへの非人道的で悪辣な、奴隷として、肉体への強制的酷使と精神への侮辱。こうして豊かな国は出来上がったのである。ただ貪欲であった

おかげで。彼らのいまと歴史を直視するとき人種差別が改善したとは思えない。いまだに黒人と白人の銃撃戦が行われている。彼らがロシアや中国に文句を言えるだろうか。また日本もそうである。北方四島はもともとアイヌの人達の土地だった。因縁の中ロシアが実効支配している。そこで生まれたロシア人たちもいる。島の日本への帰属はむつかしいだろう。ロシアになにか起こらないかぎり、商売のカードに使われるだけである。もし実現すれば住んでいたロシア人も言うだろう。「故郷を返せ」と。欲望の滅却云々よりも善意をもち自然に任す。それが欲望の抑制に繋がり静寂な心が留意されればよい。宗教。人々は各自、受け継いだ教えのように生きるのではないだろうか。勤勉に金儲けにはしれという教えもある。貧しく忙しく生きよという教えもある。自分らしく自由に生きよというのが私の教えである。愛をもって。自分は自分を支配するため聖書に委ねる。矛盾するようでこれほど確実なものはない。静かなサトリは誇りに満ち、誰も私の尊厳を奪うことはできない。自分の意思がはっきりしないとき聖書は無言になる。これは私が神によって生きている証明だろう。結局そういう時、聖書は最期、自然に任せよと示す。愛（アガペー）と欲望は当たり前に異なる。欲望が去った後、訪れる深い思いやりである。自由を追求する、佐竹君に言った。「サタケッチに喜んでもらえるような本を書こうと思ってよ」「そんなもんいいよ」私の表情が

くもると「好きなもの書けばいいさ」俺は笑顔になった。外出許可。病院に帰ってきた。つくねてあった布団がきれいにたたんであった。看護師に聞いても知らないという。もしや、長い髪の毛が一本あった。私は匂いを嗅いだ。リンスなのか香水なのか解らないがいい香りがした。幻臭か。あの人の香りだ。真由子さん、あなたでしょう。その後、私の過去があなたを苦しめたのですね。多分、愛は理性と深い情緒から生まれる。感情からではない。感情は悪に傾くことも多いからだ。理性から冷酷さが生まれないと信じたい。聖句にある。イエスは言った。あなたたちは僕（しもべ）ではなく友である。だがこのことは私もイエスと同様に世に憎まれるということだ。神の業を行えば新たなる信仰が生まれるのか。彼らは父である私さえも憎んでいる。ペテロも。パウロも殉教して福音を伝える役目が終わる。自らの命など惜しくないと言った。艱難に耐えたパウロは皆に愛された。「サウロ、サウロよ、なぜ私を迫害する。」「主はいったい誰なのですか」「私はあなたが迫害するイエスである」おかしな会話である。パウロはなぜか「迫害する」と言われた時点で主、イエスであることが理解できたのです。そして確認のため確かめるふりをする。迫害した、パウロの罪は重い。死に値するか。日蓮は絶対生命尊重「いのちのため命を大事にせよ」神も同じである。神のためとして安易に命を捨てるものたちは大勢いたであろう。ムスリムの過激派を注視すれば

解る。思いやりをもって、楽な方へ流れる。そんな人達を日蓮や神は好きなのである。そして日蓮は「法華経」一念三千、南無妙法蓮華経、功徳の集まりとして高らかに宣言した。何度もいうが努力とは自然に優しい顔、柔和な心、愛情ある言葉で人々に接することをいうのである。努力は必ず報われるのだ。使徒行伝。１７章２４，２５，２６節この世界と、その中にある万物とを造った神は天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。また何か不足でもあるかのように、人の手によって仕えられる必要もない。神はすべての人々に命と息と万物を与え、またひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれの時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。つまりイザナギ、イザナミの神も聖書の神へと辿りつく。国境を決めるとき、私は神託に仰ぐというのが最善だと思うのだが。尖閣を爆破するよりいいだろう。ジョンレノンの〔イマジン〕のように世界をひとつにするということは、どうも神は望んでいらっしゃらないみたいだ。味噌も糞も一緒になると神への愛がなくなるか、変節してしまうからだろう。コリント人への第一の手紙第２章４節そしてわたしの言葉もわたしの宣教も巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである。５それは、あなたがたの信仰が人の知恵にたよらないで、神の力によるものとなるためであった。９しかし聖書に書いてあるとおり「目も

また見ず、耳がまた聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のである。１０そして、それを（愛）を神は御霊(みたま)によって私たちに啓示して下さったのである。御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまできわめるのだからである。（御霊とは私のことである）

コリント人への第一の手紙第１章

２５　神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからである。

２９　どんな人間でも、神のみまえに誇ることがないためである。

３１　誇る者は主を誇れ。

神に選ばれたのは知者でも権力者でもなく底辺であえぐ弱者であった。富と名誉を追いかけ人を踏み台にして平気な人に真の愛が解るはずはないからだ。

所有欲からの解放。苦しみ続けさせる何か、それは自分の欲望だと気付いた釈尊。皆が殺し合いは嫌だと思えばいいのだ。神であったり人であったりイエス、日蓮の再来であったり。言葉遣いもその都度変わる。自在なのである。私の文章は人である場合は拙文であり、神として言えば、御書、霊感なるものである。聖書は聖書を読む人を救うのではない。イエスの生き方を倣う人を救うのだ。日蓮がもし道善房のもとでジッとしてれば南無妙法蓮華経の唱題は生まれなかった。Ｒ会

の開祖も一緒の気持ちで霊友会を出たのではないだろうか。つまり長者である父と卑屈だったが自信を培った子の譬えが法華経にはある。人はひとをどのくらい想うかで成仏は決まってくる。すべて自覚である。それが利他の精神から瞠目し、隣人を褒めたたえるなら比較も栄への裏口と言えるときもあるだろう。だがそれは一時のことで互いが主体性をなくし、互いに迎合しあうようなことがあってはいけない。神であることを信じなくても私は困らないのだ。困るのはあなた方なのである。それだけである。だが私を信じ、隣人を愛するものたちはきっと本当の幸福をつかむだろう。死んでも生きていても。愛をもつものはそれ以上に愛を与えられ、愛なきものはどんどん奪われ悲痛な叫び声をあげることになる。愛を見出せず泣いているものも私を見つけるならやがて笑うだろう。しかし今、富、財産を持ち、笑っているものはその愛の薄さのために泣くことになるこれが神の国の奥義である。神は人の上に立たず、下におらず。神は強いとか大きいとか、また弱いとか小さいとかそんな価値観の外側にいる。全知全能ということは愛を持つがゆえに悩むときは悩むということである。人の苦しみに共感できなかったことに対し「ごめんなさい」というために苦しみは与えられ、そして美しくなる。人格形成が悪というよりはそれを目指し、悟りを得たと錯覚し慢心し、人を傷つけるのが良くない。ありのままを認めるとき孤独に陥ることもある。そこに愛情

をどう表現し関わっていくかである。各位にある神が、全宇宙の悪と戦うのだ。きつい仕事をこなすヘルパーさんの楽しみとは、少しおいしいものを食べること。なんとささやかな。私は何も言えなくなった。

別れ際、「尾崎の卒業のように柴田先生から卒業しろ。卒業。卒業。」と言い放つと謗法の罪になるからと私の本を受け取らずに二千円を押し付けると軽四の助手席から雄さんは出ていった。私はフロントガラス越しに去って行く彼を見ながら微笑を浮かべた。「まずは先生がどう思うより、俺の愛が本物であり貫くことが大事だからだ。大切なのはこちらの姿勢である。雄さんは俺を顕正会へ誘おうとすることから卒業すべきだ。それはできないだろうけど。真由子さんに対し北方四島のように私は返還を呼びかけ無理を承知で期待をもつ。雄さん、なぜそこに気づかないかなあ。愛するとはそういうことだろう。」世俗の現今の王は「君臨はするが統治せず」というのが姿勢であり、民主国家の基本だ。しかし、神は君臨しないけど人々の精神世界を統治したいと思っている。愛をもってして。名前を前面に出す、世の教祖たちは名誉と権勢、金銭を求めるだけの厚顔無恥なもの達である。入ってくると算段して当てにしていた仕事や金が急に入らないとなると生活設計は立たず困窮することになる。神、人の良心が信じられなくなる。私はだれかを改宗させようと思ったことは一度もない。ただ皆に真実を知ってほ

しかっただけである。〔善人による隣人愛〕これしかない。日蓮がタフだったのはただ法華経への信心が本当に強固だったからであろう。無知は罪である。宗教は生きる、死ぬ、死後の世界、すべてに平和をもとめるものでなければならない。だからこそ私は正しく、また人には正しい教えが必要なのである。富は得ることができる。しかしそれは美しい心で欲望をコントロールできるようになってからの話である。そしてもはや富とは呼ばれず安心となり人々への寄与のためのものとなる。聖書には何があっても真由子さんは私を愛すだろうとある。私とて同様である。聖書が傷つき、刀折れ、矢も尽きて背表紙がぼろぼろになってきている。私はその因縁をおもうと涙が浮かんでくる。そしてその聖なるものを胸に柔らかく抱きしめた。友人宅から3千円を机の上に投げ出し、盗んできたとも言える、無造作に扱われた存在。長い放置の後、期間が明けこの手に結びついてからの酷使。私を救い、助け、成長をもたらし続けてくれた存在、聖書。ありがとう、ゆっくり休んでください。ギデオン協会に新しい聖書を求めた。贈呈してくれると言う。世話になり、ともに涙した友人。頼りになるボディーガード。私を導き育て、教育までも施す。ときにはとても鋭い軍師、それが私の聖書である。どんな形が一番善い処遇であり聖書がよろこんでくれ休ませてあげられるということなのだろうか。それは協会の方に絶対確認したい。聖書の熱き心と魂だけは神と

して伝えていくぞ。私の闘志にまた火がついた。聖書は書物ではなく神の霊感そのものだった。聖書に「今回、本にするメッセージはこれが最後だよ」というと納得してくれた。少し現実的で打算的で冷たく、感謝が足りなかったかなあ。まあいいか。それなら書くだけ書くしかない。疲れ切った聖書に「今回は無理でも、次に一番で書くから」といったら彼は「世の救い主よ、もういいのだ」と言った、小声で。そしたらわけもなく涙があふれてきた。健康にはあまり気を使わないのが一番である。ストレスからの解放になるからである。肉体には霊が詰まっている。ただそれを信じれば好い。健康な人を見よ。なぜか自信にあふれているではないか。何か揺るがない信じるものがあるのだろう。かつて私は祖母の影響で質素倹約を重んじ、たとえば高級な洋服などを購う人達を物欲にはしる俗物だと軽蔑していた。何にも執着しないのが仏教だ。そして求めない。それが真実だと考えていた。だがそれが幸福なことであろうか。誰も寄り付かない、ただの薄情、冷酷ともいえる。人の想いが解らない。だが人のぬくもりを知ってしまった。ここでキリスト教の教えにあると錯覚される、仏教で嫌う、愛(執着)を肯定しているようにも聞こえてくる。だがこの優しい愛は慈悲と同じニュアンスを持っており、美を求めるエロースより一段と深化したアガペー(大きな与える、隣人愛)である。なるほどと思った。私に欠けていたのは人としての情である、愛情(慈し

み)である。仏教では智慧がすべてを達観する。智慧と慈悲の両輪がないと仏の道は進めない。つまりどちらも思いやり、優しさは否定していないのだ。散々批判してきたR会の信者たち、そして「何回、鐘をうてば煩悩が消えるのだろう」と欲を深める、寺の門徒衆。無知を許す基準はあるのか。仏陀が入滅しても涙もこぼさない阿羅漢たち、人間釈尊が死んだとき号泣してあきれ返られたアーナンダ。結局どちらでもいいのだよと仏陀は言いたかったのでは。幼き頃から非道を行ってきた私は、情けなく友人に捨てられたのではないだろうか。数々の私の犯した大罪。声を大にして言いたい。出会いは大切だ。一期一会。すべての人が明るく素直に温かくこれを忘れず、自由にひとを傷つけず安らぎを手にしたとき、仏教もキリスト教も笑顔の中に一抹の寂しさを浮かべ、また陽気に去っていくのだろう。性感、おいしいという感覚を含めた食感、そしてさわやかな目覚め、これらが神の領域のものだということは解るだろう。生存することにおいて必要であるからだ。しかしそこに生まれる悪感情、渇愛、執着、隣の芝生が良く見える。これはサタンの領域に入っている。サタンも生存には一役かっている。神と連携しているように見えるゆえんである。だがやはり足りないものを満たすのが神であり、困窮させるのがサタンである。劣情に負けず飽食、惰眠などせず、正義と節制を心に抱くことが肝要である。「ある人からメールがきた。お金を使うとい

うことは快感です。明日からまた節約生活、始めます。慢性金欠病が始まりました。輸血を受けたい」。私は「禁欲的に生きるのもいいですよ。質素、倹約も慣れれば愉しく嬉しくなってきますよ。簡素だから生活がスッキリします」。と送ろうとしたのだが画面の封筒がこぼれ落ち送信できなかった。いつものことだ。聖霊がなにかを教えている。「お金を有意義にまわし経済が上手くいき貧困が解消されれば善いです」。今度は上手くいった。つまりこれが大乗仏教のこころであり皆で助け合って幸せになる。なんだ、結局は金だと言わせたいのか。
私は子供たち、お年寄り、いろいろな不具合を持つ人たちをおもうとき、世界の人々皆が平和と繁栄を謳歌してもらいたいと祈る。そしてそのためにはそこに愛がなければならない。自分だけのことだけを考えないでね。金があっても愛がなくて苦しんでいる人たちが大半ではないか。愛を心に抱いてこそ富を求める資格を得る。本末転倒はいけない。そして犠牲になるのは一番悪いことである。絶対になさらぬように。
真子、千華へメールは小休止する。編集のため。風邪など召すな。温かくして眠れ。雪道気を付けて。友情を大切に。家族だからな。人生を真面目に。とらわれると、死にたくなる。おじちゃんのような自由人もいる。自分らしく生きていいのだ。多様な価値観から真理を見出す。それは間違いなく、愛だよ。少し、さよ

うならだ。
社会主義は負けたわけじゃない。ただ人々の考え方心が善意に向けられなくては世界に未来はない。喜んで税金を出す人ばかりになれば世界は激変して善くなるだろう。貧困解決に向けて。聖書は「われはイエスである」と自称した。私もイエスだ。そして神とはその言行によって認められるものである。私が日蓮、イエス、神であることが羨ましいという人へ、馬鹿じゃないのか、こんなに辛いのに。愛に準じたのだから、まあいいか。あとは神としていい人たちと楽しくやりたい。寒気に対し負けると弱気になることがある。逆に心が強くなれば心も体もあたたかくなる。まず神の愛があるかが大切。生活の心遣いは聖書では禁止されている。愛が一番大事ということが見失われてしまい、すべてを無くすからである。神である私が他宗を偽り者として裁くのである
真子、千華へ雪道、積雪も少なくてよかったな。何度も言うように情欲よりはなれ独身を守れ、美しく清く生きたいのなら。主を愛し永遠のいのち、幸福を得る。本当に真宗の匂いをお前らの内から絶ちたいのだ。正義に生き、積極的に社会に関わるとき、悪と見えるものには、善で立ち向かえ、南無妙法蓮華経がそこにある。留意し銘記せよ。

（第五章）真の友達には誠を尽くせ。やがて夜明けは来る。それまでは意地で支えよ、夢一つ。負けるが価値ということもある。冷静に判断せよ。真宗、悪人だから皆、仲良くしましょう。これは嘘っぱちだ。罪人と自覚しイエスへの信仰心を持つ、その時、真実の善人に生まれ変わる。そこから道は拓ける。山口さん、ヨハネの手紙のページにはキリストの来臨と神の顕現と、それが私だとあらわされています。そしてすべてにリンクします。それを踏まえご来訪お決めください。です。山口さん、西村さん、私はイエスであり日蓮でありそして神エホバである。愛をないがしろにしてはいけないのと同様に私を粗略に扱ってはいけない。私は思想家ではない神である。つながっていなさい。永遠のいのちのため山口さん、コリント人への手紙の中パウロはキリストの名において分争ないようにしてくれと強く願います。しかし歴史は全く意に介さず血の臭いで汚れています。皆、独善的だからです。コリント人への第二の手紙第４章２節恥ずべきかくれたことを捨て去り、悪巧みによって歩かず、神の言(ことば)を曲げず、真理を明らかに。神のみまえに、すべての人の良心に自分を推薦するのである。５章１２節わたしたちはあなたがたに対して、またもや自己推薦しようとするのではない。ただわたしたちを誇る機会を、あなたがたに持たせ、心を誇るのではなくうわべだけを誇る人々に答えうるようにさせたいのである。７章１０節神のみ心に添う悲しみ

は、悔いのない救いを得させる悔い改めに導き、この世の悲しみは死を来たらせる。１１節神のみ心に添うその悲しみが、どんなに熱情をあなた方に起こさせたことか。また、弁明、義憤、恐れ、愛慕、熱意それから処罰に至らせたことか。

・他宗、団体を批判する私だがこの真の憤りは善なのである。

この世の悲しみとは生き死に富の有無にあり、神の悲しみとは愛がない。その一点である。

仏壇のご本尊の前、日蓮上人の坐像。ある日蓮宗の僧侶にお伺いした。それは亡くなった方の御遺影です。拝む対象ではありません。と返答を受けた。私の疑問は解決した。偶像崇拝ではなく坐像は慕わしく日蓮上人の面影を忍ぶものだったのである。

たぶん歴史は愛、心、思いやりにたどり着くために進んできたのであろう。唯愛史観である。貧、病、争は最終的かつ不可逆的に解決されなければならない。恒常的な愛を生み出すのだ。いままでの悲運の涙に報いる、温かさが必要となってくる。絶対愛である。そしてそれが安息という真実の目的につながることが歴史の宿命でなければならない。

またしてもパワーポリティクス。日露戦争の時代まで逆進するのではと思うほどロシア、中国、アメリカが内向きかつ牽制しあう様相を呈して来た。プーチンも

トランプも核を増強させるという。中国と台湾はどうなる。この波乱の中、日本丸の舵取りができるのは安倍しかいないとされる現実。そんな日本は不幸であろう。安倍は確かに諸問題に対し網羅した政策を打ち出している。しかし予算の膨張（いろいろ要因もあるが）赤字国債も７年ぶりに増えた。意気込みは買いたいが、まだオバマが在任中なのに次期大統領に決まったトランプにゴルフのパターをもっていそいそ一番に会いに行く、その節操の無さ。プーチンが「軽いやつだ信用できない」と観ても当然だろう。「北方四島はもう帰ってこないよ」間違いなく。ええ俺と真由子さんの場合とは違うぞ、そうだろう。（笑）

やはり俺は才覚がない。だが神である。記憶力、効率、計算力はかなり落ちる。が、慈悲、愛に関した発想力と理解力は並はずれている。妹がケアマネージャーの資格を取った。昔から比較されたが頭がいいのだろう。本一冊ペラペラと一読しただけで試験に受かるのである。私は基本的には緻密さや確実さを求められる職種が向いていない。妹は人に尽くすのが好きみたいだ。チャレンジ精神もある。１から１０までスムーズに歩く。私は３でとまったり引き返したりときにはマイナス５まで落ちてみたり、今度は一度に１００まで跳んだり、そしてどこで足踏みしようかと悩んでいる。果たして私は１０にたどり着けるのであろうか。たどり着けなくてもいいか。その場所で愛をもっていれば。

北方四島に生まれ育ったロシアの人達がどれだけいると思っている。返還とは、故郷を取り上げるのか。そしてそこにはロシアの大事な意味合いがある。シーレン確保、軍事的大事な拠点。だいたい北海道自体がアイヌのひとから奪ったものだろう。大和民族がそんな大きな顔して注文するわけにはいかないのでは。キリスト教というか神を思想で図るより人格神なら文学的な見地に立脚した方が解りやすいだろう。宗教思想家、つまり神学では神をとらえきれない。学問という科学から離れた経験値が大切だ。遠藤周作さんは語った、「女性を振ったり、またふられたりして複雑な思いをした年齢も５０歳を超えた頃にやっとキリストの教えが解ったような気がする」と。遠藤さんも自分を小さきもの、罪人と自覚して辛かったのだろうなあ。釈尊は厳格と寛容を見事に使い分けた。他の宗教者（外道）に罵られても「私が贈答品を受けとらなければどうなる」と返し、「もとに帰る」と怒りの空しさを納得させた。また説法中、居眠りをしたアナリツには厳しくたしなめられた。ある日蓮の流れを汲む宗教団体だが非難、怒り、批判、悟りを正統性の名目のもと剛腕にて主張している節がある。もし確かな理由のある正当な落ち着いた注釈なら皆が耳をかすのだろうが。エホバの証人の山口さんが「会衆になる覚悟がないのならもう来ない」と我が家の応接室で単調な中にも感情がこもった調子で言いはなった。私は「あなたは会衆としての見解を押し付

けようとしている。私には神としての正しき教えがある。エホバの証人の会衆が皆、助かる規格が私には解らない。資格とは、心の成熟とは、戒としてとらえた場合の従順さ、そしてイエスの死に際しての意味合いの把握、これは皆、各自、理解力、志向に差があって当たり前だ」。神は言う。「理解力は神から与えられる。富、名誉を追いかける人には見えない愛を見つけることが大事、これが理解力である。単に勉強ができる、偏差値が良かった、いい学校を卒業したなどまったく関係ない。それは財産と同じで重荷になったとしても、徳はなく真理から離れて行くことになる。」エホバの証人を批判した後すぐに私のワープロが不具合になった。大切な品である。夜半遅くテレした。電気屋さんも「わからん」という。聖書は「エホバの会衆になれば」といってくるかと思った。だが迎合する自身ではあってはいけない。見解が違うのに所属するのは私自身の否定につながる。私はそこまで行わないと神として示現し続ける意義がない。私は我欲だけを考えているのかと自問自答した。これが神は苦悶しているということだ。エホバの証人、彼らは確かに神を擁護するのだが人間には冷たい。私は神の立場で自省し自責の念に涙している。存在するテロリストのためにさえ。いやむしろ彼らの方が神の愛が必要なのだろう。ほんとうの道、南無妙法蓮華経を目指す私。私ははじめて皆に信じられなくてはどうすると思った。私はいつも公益を考えている。みんな

が幸福になるように。エホバの証人への世間の目は厳しい。他宗教での葬儀を禁じ香典をすべて懐に入れると言っている男がいた。本当なら神は完全に憤り怒るぞ。ワープロが壊れたのは縁を切れということだったのかもしれない。「そういえば、おふくろの歳を訊いていたなあ。元気かと、野郎、金目当てか」。宗教団体は金儲けにはしっているのが大勢である。盲目的に信じ、お宝を手渡す。目がみえないもの、目は開いていると言い切る、そこに問題があるのだ。母は先祖供養をして先祖に守ってもらっていると言っていたが、私は「そんなことより先祖の成仏は神仏にまかせ自分の性根を直すことが先だ」といった。しかし最近、仏壇の南無妙法蓮華経の曼荼羅から伝わってくる物凄いパワーに、先祖の想いが「がんばれ」との生きるものたちへのエールにあるのを感じた。そして伯父の形見の革ジャンをはおるとき（スクーターに乗り寒風の吹くなか勤め先のスミ屋から顔が真っ黒になって帰ってくる、伯父の姿が目に浮かんだ）運転中感じた変な違和感が消えた。伯父さんは、俺を守っている。素直にそう思った。命が軽視されるときは命の重さを。命が名利と同次元に陥るときは愛を。日蓮とイエスの答えである。年をとったのか母はとにかく根に持つ、イラつく。父母は謗ってはいけない。だがその不敬から殺してやりたいくらいだ。ここから解放されるには、何度も言うが捨てることだ。鬼の母は捨てる。それにかぎる。良心を痛めること

はキリストへの罪だ。聖句「その日あなたが何を望んでも父は私の名においてなんでもくれるだろう」。つまりその境涯にあるものが望むものは、ただ一つ美しい清らかな愛だけである。それが神の名ではなく、イエスの名より与えられることが意味深い。二人は同体であり分かち合っているのである。友の死とは逢えなくなる我が身が辛いのだ。死んだ、本人は天国かもしれない。献身も自覚に基づかなければならない。辛くなり仇になることもあるからだ。宗教においての正邪というものについては勧誘される本人の責任もあるが、仇になるかもという覚悟は、なす側にも必要だ。　唐突だが友の無念さを思うとこぼれる涙もある。上から目線も親しみ目線になる。かける言葉の持つ意味。本当の思いやりは大きい愛情があるかで決まる。

　イエスは人々の病を癒した。そして律法学者、祭祀者の嫉妬、民衆の期待外れのあざけりの中、命を落とした。その後、再臨した私はイエスがなし得なかった言葉の数量を重視したい。教えの数と質と正当性である。こう書くと他の宗教団体と一緒でないかと言われそうだが私はイエス、つまり神が言いたかったこと神の愛、隣人愛を、なるべく具体的にビビットに表したいのである。多分イエスも暖かな罪人が救われる言葉をおかけになったのだろうと思うが、聖書にはなぜか記述が少ない。私に書けということだろう。そう思った。だから使命をもって神

としての立場からあたたかい教えを素直に熱く書くつもりだ。まず仲間を大切にする。仲間とはいいものである。おふくろはシルバーの仕事をしている。室内清掃と書類の欄には書いてあった。メインはトイレ掃除である。８３歳、最高齢の、記念に冊子にて紹介される事になった。嫌だったそうだが無理強いされたみたいだ。大事なもの、その欄に家族、友達とあった。家族は俺一人、いや外に出ている妹、姪二人、飼い猫のソチも入るか。所詮ひとりといっていた母が友達と書いている。私は強い口調も彼女なりの愛情の表現なのだと理解するとともにその素朴さに目頭があつくなった。

皆がなまくらで生きていける世界それがいい。悪をなして南無阿弥陀仏。南無妙法蓮華経で悪をなさず。命は信仰の反映されたものでなければならない。だから命は尊い。悪の欲により占領された肉体はキリストによって滅せられたのだ。これより霊にて生きよ。苦しみ悩む者へいう。原罪というものが生きていくとき必ずあるものならもはやそれは罪ではない。キリストイエスがそれを証明した。もしくは罪であっても悪ではない。神、統合失調症、それもいいだろう。だがその前に、人としてどうあるべきかが大切だ。そうであれば神か病気かそんなものはどうでもいいのかもしれない。そしてそこに神であることの意味を知るであろう。それは俺のためというよりすべての愛のために。己が心の非道さに気づいたもの

はその非道さゆえに罰せられる。だがその非道さを知ったという善を確認したものはやがて幸福を知る。幸せはすべて自己執着より離れたところに生まれる。全てが良いとすれば味噌も糞も一緒になり善悪がなくなる。すべてにおいて善きものは神だけである。だが悪だから生きてはならぬというのも悪だろう。己を知り、愛に心を向けるとき悪もやがて善に変わるのである。

ある年賀状に、今度はテーマを決めて書いたらいいのではと有り難くアドバイスが記されてあった。私は批評家のような感じもしますが学者でもジャーナリストでもアナリスト(分析家)、当事者でもない。私は愛に基づいて自覚した神が書かせているのです。自動書紀といいます。私の価値観も次々と変容させられました。私が批判するということは、この世の不完全な人々と同次元に立つという事になります。私が侮られるのではなく、私が神の名のもと、裁くのです。これは正しい。我欲より離れ人々の安寧を祈り続ける人にとっては。でも皆、各位、善意にあれやこれやと判断を下す。裁くのは人の心中にいる私でなければならない。つまり愛をもった思いやり、神によってである。俺は統合失調症、神、どちらでも好い。俺は俺。人の評価は関係ない。薬が毒になるか効果的かはそこに携わる、全ての医療従事者の愛にかかっている。聖書には「義人でさえ救われないとしたら罪人はどうする」という聖句がある。親鸞は「善人さえ往生するのに悪人が往

生しないわけがないだろう」。この詭弁どう思いますか。神は私のためではなく、生きる人々のための名称である他の大乗経典とは違い、法華経は釈尊の舎利弗をはじめ弟子たちを貶めてはいないと思う。舎利弗は自らピエロを演じているが、仏陀に成仏できることを授記され本当に感謝している。仏とは思いやりの人、それが人々のためになる。そして各位の安心につながる。他人の痛みが解るどうしようもない性向。イエスは決して命を捧げたことを自慢しないだろう。確信する。皆、楽しく生きてほしい。それだけである。　あいつの自死、死ぬということよりも、皆に見捨てられる方が怖かったのか。　真子、千華へ、雪道、気を付けてね。交通安全祈ります。雪かきも大変です。やはり雪は降らない方がいいか。ご苦労様。ソチが今膝の上にいる。二日の年頭参りに際し、禎山上人が講義を酒席でされた。有り難かった。二つの疑問が解けた。法華経２６番陀羅尼品。薬王菩薩は法華経の説法者のために陀羅尼呪あたえてもってこれを守護すべしともうさく「法師を愍念し擁護するが故に説くのである」。勇施菩薩「法師、この陀羅尼を得るなら、夜叉をはじめ餓鬼までよく便りを得るだろう。」仏前に於いて呪を説いてもうさく、「世尊この神の力の言葉陀羅尼、ガンジス川の砂ほどいる仏の所説なり、また皆随喜したもう」。そのときに毘沙門天が仏にもうしてもうさく、「陀羅尼を説かん」と衆生のために陀羅尼を説いてもうした。またつぎつぎ

と鬼をふくめて陀羅尼を説くのである。つまり陀羅尼とは、欲望をかなえる呪文とは違う。神々の喜び。法華経行者を守護するというコミットメント(関与)の、誓い、約束だったのである。マザーテレサは貧しく道端で死んで行く人を目の前にして、各自に応じた葬儀めいたものを執り行ったという。カトリックとしてはまさに異例の前代未聞のことであった。葬式のやり方、埋葬は生前の希望に沿ったものである。極めて人類愛、ヒューマニズムに生きている。が、神の眼からすれば絶対真理を無視した、慈善事業と変わりはないのである。カトリックがお墨付きを下したのは彼女の好評判に対し押し切られ、負け、許さざるを得なかったからに違いない。資金を渡し成り行きを見ていた。そして彼女の生き方は多くのリベラリストの心に灯をともした。カトリックはそれを「肯定する」と姿勢の方向転換を始めた、自らの格式と寛容性を装うために変節したのである。しかし、弔われるすべての人達にとって本当の真実は一つである。〔善人の隣人愛〕と神を受け入れることである。死に際し各位が神の心を知り歓喜して教えを心におさめ、神の愛が、染み渡り、冥福に向かったのならどんなに善かっただろう。「人々は自分の世界観に合った宗教を選ぶ、これは悪ではない」。本当だろうか。その世界観が生まれた不幸の原因とは。人々は心に善、愛を持たねばならない。しかし宗教界を掻き乱す何かがあるのを否めない。マザーテレサのそこの割り切り方

は本当の愛だったのだろうか。カルカタで死にゆく人に対し、本当の神の教えを最期、福音として知らせてあげることこそ使命だったのではないか。まあ、所詮、バチカンには無理ではあろうけど。　アメリカの核の傘下にあるくらいなら日本は核武装すべきと暴論を吐いたが紛争を含め戦争というものをこの世からなくしたいからである。現実には核爆弾がなくなることはない。オバマが核廃絶をプラハで演説したこと、広島を訪問したこと、最近では習近平がトランプへのけん制と思うがダボス会議で核の削減に言及したことは大事なことである。トランプもトーンを落としてロシアの核削減によって制裁の解除ちらつかせている。これはいいことである。核の凍結(フリーズ)である。アメリカはこの先１００兆円、金をかけ新しい核弾頭の制御システムの整備を行うという。経済的な理由もあるだろう。しかしそれでいい。核削減を言い続けることで「二度と核を使用しない」という風潮と空気を広め、核爆弾があるから力での現状変更はやめようね。皆、滅びてしまうからね。と世界中に認識させる。核廃絶は始終、世界中で言われ続けなければならない。今の時点において、核弾頭はただ設置されているイースター島のモアイ像になればいい。と。モアイ像が写っている世界遺産の特集を組んだカレンダーを何度もあゆみちゃんは食料品店でもらってきたという。わたしは「わかったちゃ」というと就労施設カレー屋さんの店長は「親子みたい」と笑っ

た。父親を亡くしたあゆみちゃんと子供のいない私は平和なほほ笑みを浮かべた。オリジナルティある理論だが普遍性に裏付けられた論文だと思っている。でもまだまだ分析力が弱いのかもしれない。平和への祈りを込めて筆を休めます。　愛は犠牲から生まれてはならず、命より生まれる。命が大切だと伝え、命にとらわれない、イエスと日蓮の見解の一致である。ぼろぼろになりテープを張った聖書に「この先、製本の予算は捻出できるかな」ときいたら「大丈夫」という。でも力強さがない。再度訊くと「それよりいいものをかけ」と背中を叩かれた。寒い部屋だった。ひとり天眼鏡が乗せられた聖書。私は電気ストーブをつけると両手で温かくなれと聖書を手のひらでさするようにこすっていた。「ごめん、一人ぼっちにさせて」それから抱きしめ、泣いた。私を育て、まだ一人前には程遠いのに去ろうとするのか。満身創痍の紅色の霊感。遅い、依頼してから何日立つ、まあ商売でもないからのんびりしているのだろう。私には指針が必要だ。傷ついた存在をもう酷使できない。早く私の手元に新しい使者を送り届けて下さい。聖書を休ませてあげたいのです。それまであと少し未来を見通し、私の力になって下さい。またサタンに一緒に挑みましょう。小声を振り絞り両手でそれをつつみながら勇敢なる戦友に呟いた。　真子、千華へ人生はどんな時も善を求め積極的に生きよ。困難でも勇気をもって立ち向かえ。美しい心を忘れるな。先人の労苦に

感謝し報うのだ。誇り高く女性として。悪魔は欲望を鼓舞するが、それにとらわれない人が思慮深い教養人と呼べるだろうエホバの証人の崇拝。神はそんなに望んでいないがその姿勢を思うとき、むげにはできないのである。これは顕正会にも言える。彼らの謗法の罪というのは書物の思想のすり合わせというより霊的に受け付けないというものがあるみたいだ。罰も絡んでくる。二団体ともきわめて先鋭化している。顕正会の面々はひたすら日蓮を仏として信じている。「彼が生み出した南無妙法蓮華経の正統性さえ確保できれば信じ切って盲信してもよい。自分には生きる指針と呼べるものはないから」私は神である。エホバの証人のいたいけな崇拝、その信仰心に応えなければならない。それには私にしかできない聖書解釈の指導が必要になってくる。これほど現世に対しダイレクトに幸せを求めている宗教団体は二つが突出するだろう。一元化しなくてもそのことは大切である。まだときはきていない。が、私は各地で皆の心にしるしをあらわしているみたいだ。神の国は感じるものである。　真子、千華へ宗派の因縁というものは確かにある。でも気にすることはない。自分らしく自由に正しく生きよ。因縁に左右されることはない。おじちゃんが神と信ぜよ。義理は人情より重い。義とは神。人の想いより大切にしないといけない正義。恋の出る隙はない。辛くともね。観音様が心を見ている。神を愛するか想い人を愛するか。悩まなくてもいい。そ

ここには美しい神の清流がある。心配せず信念を持って生きよ。善き人は必ず現れるから。自分を磨くとは忍耐力を培い思いやりを深めることだ。いつの時代も危機の連続だ。ただ指針なる法華経に帰依せよ。大安心をもって堂々、世間を渡れる。神の義は愛である。苦しい選択はせずともいいのだ。自分に忠実。ものには確実。人には誠実に、これにて臨終の際は優しい微笑みを浮かべ天国に行けるよ。イエスは愛のため、神の栄光うけるため死んだ。もう犠牲はいいのだ。ただ彼に感謝するだけでいい。世の中は金もうけ、健康志向のハウツー本ばかりだ。美しく、清く、正直に正しく、少し貧しいことも感謝してワンカップでも買って孤独から解放される。天国が待っている。人を騙し大金を得よう。そんな人は生きても修羅道を歩き、死んだ果ては地獄に落ちる。「なぜあの人たちはかわいそうな目に遭ったの。日ごろの行いが悪いから、前世で何か悪いことをしたの」。イエスは「誰もが罪があるのだよ。原罪があり罰を受けるのだよ」と答えられ、また病む人には「神の業が下りるために悪霊がついたのだよ」と癒された。そして悲運から抜け出すには回心と正しい信仰しかないとおっしゃった。　新しい聖書が送られてきた。私が使っていた「ぼろぼろになった聖書はどうしてあげたらいいですか」「所詮、聖書は紙ですから」「それは違うでしょ」「まあ、とっておかれればいいのでは」電話の声色、口調からも薄情なビジネスライクな感じがした。

お前はいくら献金してくれるのだ。そんなことも考えていないみたいだ。想いがない。「近くの教会に行かれたら」「どこにあります」「うちはプロテスタントです」。そんな浮世をしり目に「俺にガムテープを張って使え」聖書のイエスは言った。そうかやはり悪と闘えということか、世界中のいたいけな人の為に。愛をもって。ヨハネによる福音書第１６章２３節その日には、あなた方がわたしに問うことは。何もないであろう。よくよくあなた方に言っておく。あなた方が父に求めているものは何でも、わたしの名によって下さるだろう。愛をもってして。

あとがき

一般的真宗門徒。「先祖から受け継いだものを悪く言われるのは気分があまり良くない。宗教はよく解らないけど、皆同じだろう。社会通念上仲良くせねば」。

自由民主主義。自民党、民進党、共産党。喧々諤々の議論。

パフオーマンスとしてもやらねばなるまい。

それは彼らも支持するみたいだ。

世俗的な人たちの和に彼らは果たして貢献しているだろうか。

人間の本質に係わる、宗教だからこそ違いは鮮明にしておかねばなるまい。

何度も言うが本質、真理を導き出すためである。

宗教は世俗との距離を思案しながら、精神世界を支配するものである。

自分と仲良くせよ。と言っている人の方が実はどうも短気で怪しげで好戦的である。
やはり虚心で、偏見をなくし感情も平らにして、
豊かな想像力と理解力を持ち、確かに検証し正しき道を見つける。これが大事。
話せばわかるか。
でも邪教に固執する人もいる。
R会は各家の神仏との併用を許容し認める。勧誘その一点。それだけが目的にあるからだ。
私は「改宗しなさい」とは頑迷な人には一言も発したことはない。
ただ日蓮、イエスの民衆を想う、熱き涙だけは知ってもらいたいのである。
私は理屈が解ってほしいだけである。
「みんな仲良くしなければいけないのだ」と喧嘩を売る人と、
「何が真理か、求めているのです」と頭を下げる人とどちらに平和があるだろうか。
皆、判るだろう。真理に対して、無視、無関心。
煩悩にまみれ極楽へいくという、教えの横暴な傲慢さが。
私は罪を憎んで人を憎まないでいこう。

私が神であり、父であることを忘れてはいけない。
親へは孝養を尽くすものだよ。
それが愛に報いるというものだ。
皆、解るだろう。

最後に生きているというだけで愛を与えてくれる、真由子さん。
そして愛すべき姪っ子、真子、千華に、母、妹、友人たち
今回私の慣れないパソコン操作にいろいろ関与して下さった方々。
そして読んで下さる大事な隣人達。そんな方たちの愛に報いるため、私は今回この本を作りました。ダラダラと起承転結がないとか言われそうだけど、いつものように神が全身全霊を注いで顕したものです。
皆、今回もご精読、本当にありがとうございました。ではね。

後談
仲良くしたい。
国家の間。経済、文化交流などの結びつきにおいて成そうとする。
その通り、妥当だと思う。

軍事が絡むと厄介だ。だが付きものだ。
いま私が語りたいのは宗教の在り方、姿勢についてである。
正当性を訴えている、排他的であるから危険だというのはおかしい。
みんな仲良しという美名のもとに先祖代々の本尊の粗末な扱い。
宗教協力といいながらR会にいなければ救われない。貧乏人にはお得だから。
マインドコントロールに遭う人は自分のことばかりを優先する。
欺瞞の枠組み、ただの互助会ではないのか。狭量な者の集いである。
精神世界において争いは禁物というのは暴力に訴えるなということである。当然である。
そして日蓮のように核心をズバリと突いた人が世に憎まれるのである。
イエスも同じく。彼らは絶対に正しいのである。もれる人はもれるのだろう。
先祖から伝わる宗派を守る。自由に俺は俺の宗教をえらぶ。宗教なんか俺には必要ない。
様々なわがままな声がする。宗教なんかなくてもいいか。暴言だなあ
皆に俺の心を見せつけてやりたいなあ。神の想いを教えたい。
どれだけ公平で公正な眼で見ているか。限りなく幸せを求めてきた、
俺が覚えたすべてを伝えたい。

ほんものの宗教は不断の努力から生まれる。確かな愛によって、
そこにはかならず報いられるという安心感が存在しなくてはならない。
こんな話をし、いつか皆様方には、私の姿が太陽、月に映り、
また心をお伝えすることができるようになることを
ここに祈って、筆を擱かせていただきます。
待った、もう一言。自由民主主義も一つの思想。「人を殺して金になるのなら殺していい」こんな神のいない暴論も可決されるかもしれない。いやもう実在しているじゃないか。戦争である。正しき真理に基づいて生きる。自分たちが絶対正しいと言う団体が当然、大勢だろう。だがそういう人たちの風貌、話し方、思い、行動より真実は判断されなければならない。正しき者たちはそんな大声では叫ばない。だが確かに声は上げる。もしかしたらいつも愛ある正論が通るとしたら、民主主義も悪くないのかも知れない。
私はすべての生きとし生けるものの恩愛に対し、この書きものをもって報いたいと思います。そして皆辛い。だからこそ愛はいつも育むものだと気付いてほしいのです。

義人

真子へ

千華へ

義人
Ｈ３０年３月

まえがき

「なんだ、早くも登場か。大人しくしてれば好いものを」。悪魔の呟き声がする。降雪、積雪。母がドンドン除雪をする。私はしない。私には解る、サタンの悪意が。私が、必死になって歯を食いしばり、生活と格闘することを悦に入って楽しもうとしているのだ。だから私は動かない。雪は必ずとける。ずっと冬籠りを続けよう。聖書が言う。「酒でものんどれ」。そうか、ジッと春の来るのを待つ。正解みたいだ。母は絶対参ったとは言わない。

ニーチェの馬というハンガリーの映画がある。確かタルベーラという監督のもの。大筋は唯一移動手段だった馬が動けなくなり最期、悪漢によって井戸に砂を入れられ食いものも尽き、孤立死に向かう父娘の話だった。ニーチェは狂う何日か前、荷車を引けず鞭で打たれて、いななく馬の首にすがり［私と一緒］だと号泣したという。何かに縛られる人間たち。神の懲罰、生老病死。立ち向かうことで名誉を付与され、また頑張る。皆、サタンが喜ぶことをいつも選択する。だが尽力する皆、ありがとう。ただ祈ることを忘れないで下さい。

来る世まで懸命に生きるのは仕方のないことなのかも知れない。なぜ、神を信じない。欲望を追うのではなく、愛をもってお互いを察し、目的を作らず人生を歩む。意地を張らず助けの声を挙げる。因縁と親切心があれば必ず愛をもって報

われる。人は思うより孤独ではない。ちょっとした行き違いと意志薄弱から人間関係はふらつく。そして逃げ出す者もいる。裏切りである。友情とはいかに。弱くてケチな人が大半だけど、人に対し過敏にならず皆、寛容に生きようよ、確かに神の国が待っている。取りあえず愛し合おう、すべての枠をこえて、きっと幸せになれる。自由、平和、愛。偽善者も多いから難しいけどね。

そしてたくさんの真子、千華が世界中にいる。愛すべき若者たちだ。ニーチェや尾崎豊のように束縛を感じ競争社会の中、自由を求め世間に黙し立ち向かった、そんな若者たちがいる。独りアパートで声を押し殺し泣いていた、いたいけな彼ら、彼女たちは救われなければならない。そして若者よ、いつも素直に生きよ、君達は一人じゃない。神が見ているのだ。天を仰ごう、また地を踏み、しっかり人に接しよう。壁に向かってぶつぶつ言うのは禁じ手だ。自分たちを虫けらたちなどと思わず本当の宝の山だと確信し、また周りに認知させよう。失業中、職業訓練の日、講師が「長所の無い人間などいない」と。「私には売りになるものは何もありません」と応えた。ただ働くだけが能じゃない、乞食のプロもいるだろう。いかに憐れに見せるか。インドでは親が生まれた赤ん坊の手足を切断するという。乞食の階級に生まれたからである。しかし自信をもとう。長所の無い我が身が悪いのではなく、そう信じ込ませた非人間的な組織が悪なのだ。サタンと戦

う、勇気あるホームレスは自由に生きる。また幸いにも労働から離れ乞食のように生きている人はたくさんいるだろう。それでいい。この書きものはそんな受け身の人にも勇気が与えられる。そんなものであったらいい。

第1章（真子へ、千華へ）　私に望みを抱いている者は私が清くあらわれるように我が身を清くすると新約ヨハネの第一の手紙にある。たとえ罪を犯しても清く正しい愛が神と隣人に対してあるなら、自らを清くすることから外れない。神への従順それが大切だ。

お布施に市場価値、金銭価値を持ち込むのはご法度。心からするなら金額は問題ではないのだ。貧者の一灯の譬え。額でなく温かさなのだ。できる範囲でね。仏陀が来られる。金持ちがたくさんの蝋燭を立てます。その段になって一本だけが消えません。貧しき老婆のものだ。仏陀はその心根に成仏を約束されたという。

ようはモチベーションがあり成績上位だった奴はわけもなく競争が好きである。のんびり優劣など念頭に置いてなかったやつは、今の世界では生きにくいのだ。　罰が当たった。その延長線上に幸福な預言者の赦しがある。念仏すれば地獄におちないことを信じる。逆に信じない方が良い。念仏の意味を知って悪を肯定した罪は、かなり大きい。　嫌な人と物理的に離れる。会話に対決的な悪意が

入るからだ。倫理から見てどうか。つまらぬ問題。気にするな。「自分は協調性がない冷たい人間なのでは」とか良心は痛めるな。本当、アホらしい問題である。南無妙法蓮華経の唱題、悪縁は去る。世の中は向い風が来たかと思うと送り風に背中を圧される。そのうちまた向かい風が吹く。ようは世間の評判など気にするなということだ。　自分を信じ進め。経済的な問題、世間体。婚姻を維持するモチベーションである。神の国では皆を縛る婚姻は無くなる。夫婦間の契りは悪く言えば破たんするのかもしれない。皆、神の御使いのようになる。　自慢をいつもする人がいるね。おじちゃんは嫌いでした。だけど自分にリスクがないのなら、それは知識の宝庫と言える。いい情報源だね、耳を澄ますことだ。　欲望というより自分の想いに忠実であれ。相手のことを思い、身を引くなど甘ったるいことを神は認めない。素直に生きよ。悲しい恋はなし、明るい歌をうたえ。　真子、忙しいのだって。無理をせず、楽な気持ちで根を詰めるな。重要なところだけやり、他は人に任せよ。長時間労働なるべくするな。第二の電通、高橋まつりさんには絶対なるなよ。　用事や体調不良で会社を休むか休まないか。即休め。サボっているのでなければ自分を優先させよ。私はたとえ地球が砕け散っても君達が無事ならそれでいい。　聖母マリアは鬼です。息子の為には献身的です。それが独立心の芽をそぎ、また散々侮辱し、彼を息子の位置から外さないのです。ある

意味しらけたイエスの心情が解ります。　本当に。真子ありがとう。声が聞けて嬉しかったよ。家族は遠慮がないから喧嘩も仕方ないさ。何にでも理想と現実はある。感謝を忘れずアプローチしなさい。(笑み)孤独を克服し楽しめと話した。「ひとりの孤独には耐えられるけど二人でいる独りには耐えられないから」、ある曲のフレーズだ。隣人を愛する、深い心中、矛盾してはいないのだ。周りの人の個性を視ながら、愛、思いやりといった共通性を感じる。これが仏教でいう智慧です。弱きものの気持ちが解るから、私たちは存在する意義があるのです。評価を得たい、脚光を浴びたい。自己嫌悪に陥らせるため、サタンが植え付ける、見当違いの欲望である。人は和やかに友情を深める。競争より、優しさが似合う。　科学技術が進歩する。そのモチベーションはポジティブな宗教観がベースにあると信じている。そして辛いときは音楽をならしなさい。尾崎から力をもらえるよ。必ず。　祈りの言葉を教えたね。玄関を出る時も入るときもわずかな時間でいいからしっかり祈ろう。家族の内に入り込んだサタンを追い出すため。効果てき面、笑顔が自然に。犠牲は絶対よくない。人にもそれを強いたくなるからである。喜びから生まれる奉仕の心が大切である。　パパとちゃんと話してみなさい。君たちを愛しているよ。家族がバラバラになる、イエスも言っている。真実の愛を見つけるため。君たちは人というものの悲しみを学ぶのだ。その時、君たちの

真実の眼は開かれるだろう。エデェプスコンプレックス。男子は父親を殺して主導権を握る。自然なことなのだよ。パパを邪険にしてはいけないよ。逆効果だ。心からねぎらいのお茶を入れてさしあげなさい。　周りを見れば侮辱してくる奴ばかりだ。そう思った時、成長する機会だ。孤独に耐え新しい友を見つけよ。神の愛を携えた美しい心の仲間。存在を信じている。　自分と次元の違う、思いやりがなく人を侮辱する人間とは、オサラバし、付き合うな。つまり低レベルで思慮のない依存的人間。また何かと否定してくる輩さ。良識ある友、大事にね。　正しいことがこの世の倫理から外れているように見えることもある。一番大事なのはそこにいたわりと愛が存在するかだよ。好きな人の子をうめ、女性の特権だよ。　戦いで死ぬより、座して死を待つという人が世界中に溢れれば真実の平和が生まれるだろう。高尚すぎるかな。不可能かな。いずれにせよ死ぬときは死ぬのになあ。　夢、希望は円滑な人間関係をつくるとき叶うだろう。しかし、人殺し、盗人とは同席できない。絶望に包まれそうだが、また愛に気付くこともある。善を懐いて生きなさい。きみたちはまだ博愛に生きるには若すぎる。周りから色んな関与の手が入るかも知れない。たった一人を選びたくなる。一人を求むからこそたくさんの男性が必要なのだ。　原罪から解放されるには、イエスの自由奔放、縦横無尽さへの気づきが重要でした。昨晩の苦しみはそのための陣痛でした。新

たな境地にはいつも苦が伴うのです。でも嬉しい、聖書も保証、神です。旧き概念よ、去れ。愛がすべてです。　病院勤務時代の話、決着をつける時が来た。「悩むから悩みになるのだ。正義とはそんなものすべては神が定められる。不遇にある人はそういう因縁なのだ。だからこそ、今、無理をせず非道を犯さない」。
　R会の信者は曲がりなりにも南無妙法蓮華経を御宝前で唱えている。組織、教義、代表者たちには懸念、懸案があるのも事実であるが、私もことさら信者の無知をことさらあげつらうのはやめよう。ただ南無妙法蓮華経の意義を解ってほしいだけなのになあ。ふたりとも悩んでいるか。悩みなさい。仕事、異性、家族、友人、悩みつくすとき怒りは持たない。解決は逃げ出すのが一番だと気付く。逃避するのだ、愛を忘れずに。人間関係、相手のクセを見抜け。絶対、弱みを見せたくない奴もいる。流し、面倒くさいから納得したふりをせよ。変な見栄をもつ者がいることを知るもよし。決して貪らない。貪欲は己に執着している証拠だからだ。他人の間ではケチでとおるだろう。そのえげつない態度に、人は眉間にしわを寄せるだろう。　おじちゃんの言う、義は人情とひとつに愛なのである。縛られる義理とは、けして一緒でなく、違うのだ。なぜ人は自然に優しく生きていけないのだろう。辛いね、本当に。勉強は新しき見知らぬ世界を知るためにする。それは困窮している人達のため。でもね、全て自分の為なのだよ。勉強しなさい。

善きものが見えるから。正義とは辛い。対象への攻撃になることもある。正義感をよく考えること。独善的でないかい。真実なら龍が臥すように時機を待つよう。

流れも変化する。くれぐれも短気を起こし無理をしてはいけない。お前たちの名誉棄損をおじちゃんが犯していると思うかい。そんなことをいうやつは嫉妬深いか、君達を通しての若者すべてへ向けての愛のメッセージだということが理解できてないのだ。堂々と生きよ。人生はただ一つオリジナルなものだ。君たちはもう解っていると思うが焦りを呼ぶ比較は必要ない。幸せな人が幸せなのだ。愛があるからだよ。ちょっと心配になったから。　仕事は大事だけど自分を無くしてはいけない。最後大切なのは自分だ。だからこそ仕事、仲間を大事にする。逃げだしていい、またスキルアップに向かうときも主体性を忘れない。君達にも頬を濡らした涙があるなら傷つけられたことは忘れなさい。そして少し高くても洒落た服を買って闊歩しなさい。心を整える。恋の足音が聞こえてくる。　おじちゃんはこのクリスマスまたしても失恋した。聖霊の仕組んだものみたいだ。わしは来たる世まで自分の為より周りの幸せに尽くさねばならぬみたいだ。聖書はエホバの証人のように文言だけの解釈ではだめ。思いやりをもち良心に従い想像するときイエスの愛は姿をあらわす。そこまでくれば神の心が解る。私は君達を守り続ける。恋愛、ふった、ふられた、ある。勝ち負けがあったように錯覚するが、

ふられた方が大人で純粋で人格が優れていることは多々ある。相応しい人を待ちなさい。生活のなかで、追立てられて、しんどい時、首をコキコキさせ、わしほどのものがと思おう。落ち着いてまた歩んでいこう。視界が広がるよ。君は君だよ。頑張れ。幸せはささやかであればあるほど天では光り輝いているのだ。それが解るときすべての問題は解決するだろう。神に感謝して生きてゆきなさい。愛を抱きしめて。俗的栄光は人々の妄念のためうす汚されることが多い。ただ回転ずしを持ち帰り家族で頂く障害者。幸せは歴然としている。優しくあれ、幸せは転がっている。メールは役に立っていないかもしれない。けど私にはどうしても伝えたいものがあるのだ。老婆心かも知れない。いつも君達を愛するものが存在することを忘れないでください。愚直なまでに生真面目で子供のように無防備。それがおじちゃんです。君たちは賢く生きて下さい。私は圧倒的静かな個性で神を生きたいと思う。本当に静かに。小さきことへの感謝が大きな喜びを育む。欲望少なくして、僅かな幸せを見つけ大切にする。それを天が神とともに記録するのだ。大きな欲望ほど醜いもの。天の記録とは祝福のことをいう。この世でどんな傍若無人に遭おうとも愛を失わず掲げよ。苦しみの果ての愛はいっそう輝くのだ。経験を、愛を人様に向けよ。わしは組織から離れ生活の決まりごともつくらず自由に生きている。　家族には自然に小言はやめる。自省を期待するが、実は

その小言は仲たがいするほど大事で必要なことだったのかな。夜分ごめん。ミスコンみたいな恋愛はやめよ。異性を優劣と損得で選択する。浅はかな陳腐な様相だ。まずは優しさで、人様に真心を込め御茶一服しんずる。そこからだ。　世の中おかしいことが多いね。人を殺してはいけないのを皆知っているのに、軍人が手柄を立てると名誉が授けられる。秩序とは何か考えてみよう。飲酒運転は本当に悪いかい、認知に問題のあるお年寄りについては。泥酔が良くないのだね。お年寄りについては自主返納である。どちらも危険なのにおかしいねえ。認知症より飲酒の方が安全な場合があるということだ。でも法律は飲酒の方が罪は重い。

真子、千華、気に病むことはない。わしが甘えていたみたいだ。お前たちは現役だ。ひたむきに仕事をこなさねばならぬ。だけど辛ければ必ずいつでも逃げ出せ。成仏とは心配がなくなること。夢とは外へ向かい欲望は内にて燃え盛る。その違いをいつもこころえよ。間違うなよ。夢は愛から生まれる。欲望は醜いもの。傷つけずには生きていけない世の中。あえて傷つけることになる選択、主張。明るく素直に温かく、傷つけられたなら相手を恨まない。その哀しみを噛みしめよう。　もう熟睡中かな。私はスナックへいった。不快な客がいたので私は友を残し帰宅しました。君達も自分を大切にすること。嫌なものは嫌でいい。君たちの守護神より。議論は人格の成熟がないと勝ち負け共に傷つくことになる。論争

が好きな人は修羅の巷が似合うのだ。君たちは逃げ出しなさい。愛を失わず、勝ちを譲ったりしてね。論争を好む人は傷つけ合いが大好きで極論としては、押し付けを目的とする。人格の成熟とは物事を客観し、愛を抱くことである。目指しなさい、君達の正論を。　義とは愛すること、不義とは欲望に駆られ愛さないこと。分裂をもたらす非情には天から罰が下されよう。神に従順であれ。幸せのために、神の御使いたれよ。　立派な人間などどうでもいいことだ。責任を果たすところから生まれるという。責任感は社会通念上仕方なく必要なだけ。無い方が幸せに近い。自由を求めたいね。雇用されるなら労働者としてマッチングするか大切だ。評判、情報を分析、精査し臨め。親は人生観を押し付けるだけだ。検証はできない。雄々しく自ら起て。おふくろは重い酒の箱を運び、爪に火を灯すようにしてわしを進学させてくれた。君たちの両親も一緒だ、感謝しなくてはね。きっとそこだよ。もう解るね、幸せの始まり。開放的になれ、皆、似たようなことをやっている。代弁者に親近感を持つ。損得を考えず素直に、人懐っこくなる。人の欠点も気にならなくなるよ。愛される。海猿、映画、君達も観たか。自己犠牲。違っている。それはやむにやまれぬ、心情から生まれた静かなる栄光へと向かう意思だ。君達も隣人には尽くせ。友情は生活不安を解消します。自分を大切にするということは、ただ自分を守ることばかり考えるのとは違う。会社、保身

より正義、愛を優先せよ。それが仕事に責任を持つということ。孤独に勝て。親、会社、宗教団体どんなものにも精神、肉体を縛られてはいけない。信じられるのは、天に裏付けられた、神仏だけだ。主体性を忘れず、宇宙の法に委ねて生きて行きなさいね。ひとり無愛想に超然としていてはいけない。生活者の一人だ。愛想も思いやり潤滑油だと思うこと。高く評価されるよ。神の国へどうぞ、いつまでも待つよ。私は。ソチと一緒の布団にくるまっている。昔のヒトは暖房に猫を抱いていたのかもしれないね。温かい二つの命が互いを感じている。幸せな気分のひと時だね。孤独ってあったかな。　わしは売れたい。金が欲しい、明るく素直に暖かく。聖書が認証する。美しい願いだからだ。友人の墓に献花したい。永遠の命、神の国へ多くの人を導きたい。皆、可能だから可能。不可能だから不可能。君達は運よくそれに気付いた。どんな地位、場所に居ても愛を抱いて目の前の道を歩いていけ、宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃えよ、ある人の座右の銘である。明るく素直に生きる時、故意でなくて傷つけることが多々ある。「悪いねえ」と、言葉にしなくても温かく思いやりを働かそう。難しいけどね。真心は伝わるさ。私の今までの人生の選択は間違ってなかった。あまりにも無防備な学生時代。計算に乗り切れなかった就職時代。だから俺は神になった。愛を抱いて、掲げて。人は一人では生きられない。努力にこだわる人に限ってそれが解ら

ない。鬼の形相になる前に自然に依頼すればいいのにねえ。そして感謝だね。安楽を求めなさい。聖書。あいつは人を惑わすものだ。いやあの人は善き人だ。神から来たものなら私の愛が解るだろう。すべては神の意志である。　自由と愛。掟から解放されよ。私は安易な結婚が許されなかった。でも良かったと思っている。社会には不義理かもしれないが人権上、許される。愛があったのは確かだ。だが未熟だった。君達はひたすら自らを研け。それは寛容になること、思いやりをもつこと。そして上品で個性的ないでたち。明るく素直に暖かく生きて行く。風の中で誰かが待っている。　君達の見る限りでは、この世に尊敬されるような親などいないかもしれない。覚えとけ、この世の親は、大概は、尊敬に値する。君達の五体満足が良き証拠だ。けして軽蔑などしてはいけない。もし短所があるとすれば反面教師とせよ。愛をもって理解せよ。恋をしたなら一直線。周りなんか気にするな。ひんしゅくをかっても。仕事なんかどうでもいい。命を燃やせ。

　これだけは忘れるな、人間は皆ケチである。友になりたかったら友と扱おう。裏切りの意味はいつか知る。完璧などない。自分が可愛い、そんな人が多い。恥ずかしくないことなのかもしれない。人に頭を下げるのは一回だけでいい。侮辱されないために。人の為に使った労力は高い利息を付けて返ってくる。でも決して計算高くなれとは言っていない。無償で人に尽くしなさい。嫌な過去は新聞紙

と同じ様に、棄てなさい。なんとか衣食住はある。貧困でも自由がいい。しがらみに囚われないからだ。財産はあればあるほど、喪失を恐れることになる、執着をもたない人なら造作もなく入れる神の国なのに金持ちほどラクダが針の穴に通れないように難しくなるのだ。　ある人が言う。おなじ場所に居て星を見るものと泥土を見る者がいる。でも私が思うに肝心なのはその対象に何を見出し学ぶかである。決して泥土を選択したからとて悪いわけではないのだ。　最初に、「嫌ならメールはいつでも止めるから心配、遠慮するな」。本題に入る。長いものには巻かれろ、愛があればそれは正しい。下部でただひとり苦しむのでは不平不満だけがつのり正義は生まれないだろう。大義は愛によって人間の尊厳のため仲間と結託するとき見つかるのかもしれないね。そしていつも神は愛に味方するのだ。犠牲にならなくてもいい。でも結果的に自分を傷つけるものならよく吟味しなさい。そしてもし他からの関与を了承したなら損することも泥の跳ね水くらいに笑って見過ごす覚悟をしなさい。　夫婦は経済的同志になるとき博愛に目覚めなければならない。自分を呼ぶ声に耳を澄まさねばならない。そこに美しい心があるなら愛は働く。嫉妬無き世界。祈るとき健康と健忘が旨い具合に顕れるだろう。すべてが正解に導かれる。人を傷つけることになるとき、内なる声に恥じぬなら許されるだろう。まず祈ろう。　おじちゃんが精神障害者で君達がメールによっ

て縁遠くなる。誰かが言う。私は神である。離れて行く男はそれだけの器だということだ。良縁を信じなさい。女性には絶対に自分は悪くないと信じる、羨ましい性癖をもつ者がいる。平気で人を傷つけ、その心中を訴えても痛みを知ることはない。君達はどうだい。　傷つけ、つけられても、すぐ忘れ参上し、また逆に拒絶もしない人がいる。幼稚だがなぜか気になり憎めない。すべて仏の世界。怒りは必ず滅却させ、愚痴に変化させてはいけないよ。雪、大丈夫か。三日前からソチが私と寝るようになった。温かい。生活不安に苦しむ、おふくろ。ソチは感じるのだろう。神と隣人を愛し信じる。不安は消えて行くのにね。愛をなして咎を受ける、誰かに叱責される。そんなこと想定済みだ。心で祈り、力強く生きよ。主体性を無くすな。天に記録され評価されているよ。夫婦はしがらみより想いだ。互いに小言は言わない。喧嘩、皆自分は悪くないと思うから。自覚を促すにはそのことが如何に合理的でなく醜いか知らせること。事実だけ伝え、感情にはしらずにね。　ソチが一緒に寝るようになって4日目だ。おふくろはテレビを観て昼寝している。堕ち込んでいるのは夢がないからだろう。可哀そうだが終活も考慮すべきだ。お袋は病と死ぬことを悩むほど恐れている。人生を振り返り成したことの一番は私を保護してくれたことだ。でも大事なのは神仏のおかげと感謝することです。最後に近づくにつれ温厚になり受容的な思いやりを持った年寄りにな

るべきです。腰が痛いのでしょう。まず地域包括センターへ、ママの出番はそれからだ。おふくろの頭の中、色んなものでいっぱいだ。恥、メンツ、健康願望。強情で独善から離れられない。年とともに心は整理されなければ。満杯だと愛を受けきれない。ニルバーナ、般涅槃。煩悩の炎が消えた状態。つまり死を意味し、また肉体からの自由を呼ぶ。これを彼岸に渡るという。君たち、怒りの炎は消しなさい。ニルバーナ、煩悩の炎が消された状態と記したが突き詰めると生命の灯が静かに燃え尽きる境界だ。皆いつか死ぬのだ。怨嫉は忘れる。幸せは待っている。　釈尊は供養された毒コケを食し入滅された。そして布施したその人を責めてはいけないと言われた。悲しくも生きることは他と傷つけ合うということだ。宿命なのだ。私は博愛を訴えてきた。だがその前に真実愛する人の為生きなければいけない。報われなくても尽くす喜びがある。そんな人達を愛するのが博愛である。　私の恋愛関係妄想は収まった。色々お騒がせしたが、いろんな別離がある中で心の整理がついてきた。私は真由子さんだけを愛している。真実の純情にて。真子、千華。私がどれだけお前たちを愛し大事に思っていたか、いつか判るだろう。金を追いかけるより愛を抱く方が絶対幸せになれるのだ。早く気付けよ。これがおじちゃんからの最後のメッセージとなるだろう。本音、声くらいは聞きたかった。お前たちは本当に愛を失ったのか。非情から暖かさは生まれない。私

の意を汲んだ妹が食事会の場をセッテングしてくれた。会計は義父つまり真子、千華のじいちゃんが払うという。このあたたかい席を母はまたお返しなど考え、断ろうとしていた。私は「俺が金を払うから真子、千華に会いたい」と言った。

席では千華には逢えなかった。ディズニーへ行ったという。木曜日の夜であった。真子、綺麗になったな。心が穏やかで美しい証拠だ。モードも上品で好感を持った。ただ仕事の疲れか明るさが今一つだったな。女性として成長を感じたよ。千華、お前はおじちゃんの罪が赦せないのだな。俺はこれからも苦しみ続けるだろう。だからこそお前は素直に愛に生きてほしい。世間に負けず純粋であれ。正義を打つとき人を傷つけるのは避けて通れない。また失望しても絶望はするな。

それは新たなる希望、境界への魁である。千華、自殺は絶対いけない。素晴らしい愛という価値観があることに必ず気付くから。真子、君はもう解るね。ふたりとも何があっても君達を愛している者が存在することを忘れないで下さい。まず女性なら人に恥ずかしくない想いを相手に持ちなさい。それは誠実と思いやりだ。そこに感謝する男性が最良の人なのだ。決して焦ってはいけないよ。婚姻にはとらわれてはいけないが、憧れることは悪いことではない。そこを上手に歩んでいきなさい。明るく上品に自分を見失わない。愛をもち自然に生きよ。勤勉、怠惰いろんな模様が見えるだろう。そこには不平不満を含め様々な思いがあるに

違いない。自然体で向き、何があっても愛を信じ、気に病んではいけない。公益を考える時、それが自分の為になると信じられればいいね。責任感は程々にしてね。自分を捨てず大切にね。犠牲からは何も生まれない。愛は栄光。お前たちを否定するものに耳をかすな。思惑が見え隠れする。奴隷ではない。自ら正しきものを選択せよ。愛に基づいて。侮辱に負けるな。私の言葉を信じよ。お前たち、私の姪なら極楽トンボということは絶対なく、むしろ石部金吉といった堅物だろう。それでいい。それを前提にメッセージを贈っているのだから。人間関係、健康、お金。この三つ、幸せを決める要件だという。愛がないと全てはありえない。欲望にはしらず美しく尽くす愛の発展の中に幸福は存在する。いろいろ牽制、干渉してくる奴がいるだろう。だけどそんな奴らを根こそぎ改心させるような一途な美しい恋をせよ。愛を響かせよ。お前たちの使命だ。自分を特別だと思うこと、そんなに悪いことかな。だからこそ己を大切にね。愛を抱き相手も特別に扱ってあげよう。敬意をもたれること間違いなし。愛すること。自分が特別だとしても、周りの人間に何の善なる影響を与えないとしたら、相手にすれば共感できず、ただのうどの大木とみるだろう。愛をもって対処せよ。ただ送られる、人の意見に翻弄されるな。真面目な自分を信じよ。愛と思いやりを忘れるな。自由平和が何より大切なものだ。邪魔をされてはいけない。ある人が言った。あなたは真面目

すぎる、明日は明日の風が吹くと。それはいい。大事なのは、蒔かぬ種は生えぬということ。愛を振りまけ、心配はやめて。おふくろのような自己中心的で相手の立場も考慮しない人間には沈黙で対処するしかない。優しい愛は理解できないからだ。私は諦めた。親子を辞めたい。おじちゃんは昼間から酒を飲んでいる。最高の幸せ者だ。紙飛行機、どれだけ飛んだかよりどこをどう飛んだのか、大切なのだ。いい言葉だ。心のまま風に向かえ。一時の気の迷いはしょっちゅうだ。親子は辞めるわけにはいかない。いざ君達をパパは命がけで守るだろう。おじちゃんも愛をもってそうありたいと思う。反抗が自由と平和の名の下に終焉したとき、当時者と保護者の間には美しき風紀が完成されなければならない。心が調整され穏やかな上品さが生まれ、愛が満ち、けして乱れない世界である。潔癖から派生する完璧。でもそんなものは幻想で存在しないのだ。目の前の人の言葉を大事にしなければいけない。心が見えるからね。愛ある配慮が全てだよ。いいか、どんな旨い話を聞いても自分の価値観を信じて前へ進め。真面目なお前たちは間違ってはいない。愛を信じ負けるな、私の姪ならば自分の声を信じよ。おふくろは地団駄を踏み、奥歯を噛み締める。自分が正しいと拘る処から客観し離れることが出来ない。怒りと思いの強さは伝わるが、自分勝手で独善的、周りは迷惑するよね。少しいつも損することを覚えなさい。さすれば貪欲より離れ寛容になれ

る。人の喜ぶ顔をいつも想像しなさい。そして布施。嬉しさが一つになり、幸せが倍増。　聖母マリアは鬼にも蛇にも、特に我が子イエスの為には夜叉となる。聖霊に操られている。心底は悪魔ではなく仏、神の愛があると信じている。献身的な我が母である。　神は最低の者であった。己の栄光と名誉のため、人間に善悪の判るようになる智慧の実、悪魔を使い食ませた。そして真実、後悔しイエスを民の贖いとして遣わした。イエスは神の罪も民の罪も背負って十字架についたことになる。この犠牲ではない愛の栄光。神は絶対である。そこからは外れないのである。いつも美しい願いをもちなさい。たとえば周りの人の平和。そして森羅万象に広がるように。さすれば身も清くなる。まず自己を忘れて。神が保証するからね。外からの関与に応えるのは許容できる範囲でいいのだ。優しい自分を大切にする。上司の叱責はデモストレーションの部分も大きい。仲間と共に気にするな。死んでまで仕事はできない。仕事は肝心、要だけ注意してあとは適当でいい。　真子、就職に際し、すべて世間の体制を守るため存在する。才能よりも愛、友情を大事にして生きなさい。幸せはそこに。受けを狙うな。描きたいものを描きなさい。千華、偏差値、知能指数、そして受験、就職すべてこのシステムは体制を守るため。だから優劣などよりも愛、友情を大切にして生きなさい。幸せはそこにある。生きて行くとき人間、利得と義理と人情にぶつかる。義理が重

たい世界という。イエスは言う。義は想い、信仰、愛であると。楽しく生きるには愛を重視することだ。ひとはいろいろ関与、牽制してくる。本当のように聞こえても不用意に自分を曲げるな。核を持ち意に沿わぬものは後で検証することにし取りあえずは流せ。悪口は神の批判しか認めたくない。神は深慮遠謀して言葉を発している。それは確実に対象の罰に通ずる。君達も批判したからには内容を覚えておく。愛の為。目に見えない世界。そこには権力につながる階級はない。しかし愛による霊格が歴然と存在する。それを否定する必要以上の富の獲得、神に好まれぬ戦いの名誉、愛から転回するように仕向ける勢力がある。それは許されない。サタンは排斥されるのだ。　泣きそうで、負けそうで消えてしまいたい日々もあるだろう。内なる声、神の声に耳を澄まそう。もうすぐだ、来たる世界。誰もが悲しい涙はない。ガンバレ。死の恐怖に打ち克つには夢をもつことだ。一番いいのは出来るだけ愛を振りまいて神の御心に添い死んでからは何の心配もない、天国へ行くと信じること。何のために結婚するかよく考えてみよう。結論から言うと愛する人と居たいからだ。決して世間体や見栄の為じゃない。まず仕事があることに感謝して。　イエスは天の父という演出を用いた。権威を落とされぬため、「崇めるように祈れ」。一方イエスは人間に示現し親友となり、牧童から皆と同じく羊となる。だが神性を帯びたものである。上品な姿をせよ。と、い

つも薦める。わざわざ人の眼は気にするな。見抜く奴は見抜く。上質に生きろ。明日が見えるだろう。君達の誠実さが伝わるぞ。真子、千華、素直に愛を持って生きるときこの世に恐いものはない。悪縁は去り、良縁が訪れる。人の善意を信じて行きなさい。またメール送る。おふくろは迷惑だと。でもありがとうの声がするんだ。

第２章（宗教者へ）　山口さん普通、正義は見方によって意味と価値は変遷する。愛が呪縛し所有を求めるものなら、互いが束縛で苦しむ。自由を認め信じる。博愛（アガペー）だけが平安に導くのである。義というものが思いやりなら博愛とマッチして人々の幸福に貢献していくだろう。つまり義は神の意志であるが、抽象的な愛、思いやりとして認識された方がいい。自由な愛を守るうえで。もしあなたが本当に神を愛し賛美するなら、私の話を虚心で聞くはずです。隣人を愛するなら私に受けた傷はもう赦すはずです。お待ち申します。サイトに（善良なる罪人）という作品を上げました。またよろしくお願い申し上げます。小野さんはエホバの証人の見解にとらわれず、是なら私に同調してくれる素直な心をもつ好青年だと思った。山口さん、反して負けず嫌いは不従順に繋がります。憐みのため、神の愛ははたらく。長く音信不通でしたね。話したいことは沢山あります。宗教関係の会話は大歓迎です。お待ち申しております。山口さん、なぜ布教を自己犠牲と呼ぶ。神の立場として褒めない「信者を増やしたい」という欲望から、対象の幸福を祈念するということへの方向転換。犠牲ではない無私から出る優しさの発露。「本心から教えを広めたい」それが真実の喜びと栄光に繋がるのでは。辛いのは基本的に良くない。分析が悪魔、同情が神の世界。体制の崩壊する日付の明示や、神とイエス、聖霊の関係を判別させようとするのは悪魔のやること。

「判らない」。これが最良なのです。真実の愛の行方のために。山口さん、解ってきたね。約束時刻なんかどうでもいいのだよ。期待を感じれば、誰にでも、いつでも、馳せ参じればいい、それが神の心、思いやりです。我々は時刻の奴隷になる必要はない。神、イエス、聖霊が歓迎される処にヨシトは存在する。会館への地ならしをお願いしてもいいですか。私は特別である。人の価値観では計られない真実の愛の為。岡田さん、いやな顔ひとつせず最後まで真摯な態度で私の話を聞いてくださったので本当に嬉しかった。意識的かわからないけれど、山口さんのつっこみの舌鋒に感謝します。これが真実の信仰の確立に向かえば嬉しいです。私は神として世界中の人にいろんな形で祈られ崇拝までもされています。人間義人の自己承認欲と名誉欲はこの気づきで消えました。だが大本の教えは伝えたい。それは私の書きものを多くの方に閲覧してもらうことである。山口さん、創生、神はいったい何を期待していたのでしょう。きっと愛を共有したかったのですね。この世界。神が悪いのか、自由意思をもった人間なのか。傲慢な人には神の意は添わないですね。その為崇拝を強いるのもありなのかもしれません。命の平等と神の公平さを伝えるという慈悲のために。イエスは聖書に著わされている以上に多くの愛をかたちにとらわれず浸透させようと行動にでました。人妻への声掛け、安息日の施術、お宮での大暴れなど。そしてエルサレム、「私が王に

なるのを反対したものを打ち殺してしまえ]。つまり神の心の解らないものへのクラクション（警笛）があります。私怨からくる殺意ではありません。これが愛なのです。不従順は自覚にしか救いがないからです。だからこそイエスは大衆から敵とみなされてしまう。親友、義兄弟、山口さんの厚意に少々甘えたいことがあるのです。わたしのサイトのＵＲＬを来訪されるもう御一方にお知らせ願いたいのです。これは私がお渡しできなかった場合のフォローとして、よろしくお願い申し上げます。そして私は今、神に立ち返り聖霊の宮となりました。人間義人としての自由意思は神からきています。理解力も。そして善き人、皆がそうなるとき体制はかわり、我が心に添うものは神の御使いとして永遠の命を生きるでしょう。神とイエスを別と考えるときイエスの十字架の死は自己犠牲となり復活も神が行ったものに感じる。しかし神とイエスが一体だとすれば、栄光がすべてであり、最早、人は犠牲になどならなくていい。それが十字架の死からシンボライズされ受け取れる。山口さん、現在、クリスマスが何の祝日なのかも知らない。つまり誰の誕生日であるかさえ知らない人たちがたくさんいます。あなた方エホバの証人は自説の「クリスマスは呪わしい」を流布する前に、このことは大きな問題となるのでは。もしかしたら北朝鮮のミサイル発射は可能性がだいぶ高いのかもしれない。終わりの日は近いのかも。心の準備をなさってください。イエス

の再臨、神ヨシトの福千年の到来です。すべての悲しみは消える。見方によっては人の不幸を望んでいるみたいですが、散々悩んだ果て、「美しく神を信じる者はいつまでも死をみない」という聖句に。「死すべき者は自業自得」としては、冷淡で厳しいですかな。山口さん、ご来訪、承知致しました。一方通行の連絡は少し不敬に感じ遺憾ですが赦しましょう。楽しみでした。お待ち申しております。楽しみは取っておくほうが得るモノは大きいと言うことですね。神は愛である。私は絶対である。目隠しが外されること祈ります。固定観念を打ち破られること願います。聖書を読むことと知ることは違います。安らぎに向けてね。山口さんありがとうございました。あなた方は本意ではないかもしれないが私をあざ笑う。イエスも嘲笑のなか死んだのです。私の真意を掴んで下さい。あなたはお解りのはずだと思いますけど、罰は存在するのです。聖書を勉強すればするほど真理は遠ざかるでしょう。イエスは言います。学者たちはただ尊敬されることを望んでいる。神学論争も愉しいが、自らの好ましいことを目指してほしい。新しい契約が交わされたなら旧約の概念は必要ない。私に好意的ならすぐに同調できることだ。今日のあなたの目的は果たされましたか。私には怒りも焦りもありません。永遠の命の為か組織の為なのか私にはあなたの態度が理解できません。正直になって下さい。教えを乞う、姿勢お待ちしています。いつまでも神を侮ってはいけ

ないよ。ひとつ言っときますが私は読み物としての聖書を全く否定するつもりはないということ。ただ解釈は神にしか正当性はないということ。聖書は霊感だから。台本には演出家が必要です。聖書には神にしかできない演出が必要です。それをなすのはイエスです。つまり私です。神の御使いたちを安らぎという幸福へ向けて、(アガペー) 博愛の下、導くためにです。旧約の概念が必要だとしたら、なぜ新しい契約を結ばねばならなかったか。旧約の意味合い、ここに関係ないと、必要ないということの違いが存在します。理解できますか。今、旧約聖書はイエスのキリストである所以にしか存在する意味はないと言える、キリストの因縁の為のみです。つまり関係はあるが、もはや、イエスの愛には必要ない。山口さん、イエスが辱め、嘲りを受け否定されても、その神性を信じながら、母親としてイエスの行く末を案じたマリア。その愛を軽く扱うのはクリスチャンとして非情だと思いませんか。聖母マリア信仰の誕生ですね。
プロテスタント信徒の藤山さんへ、温和な人柄に大変、好感をもたせて頂きました。歩んでこられた人生の悲哀、幾程かと思います。懇親を深め良き隣人になれるよう励みたいと思います。返信ありがとうございます。私へのご連絡はご随意で結構です。けど嬉しいです。くれぐれもご無理なさらぬほどにお付き合いください。色んなことで気苦労が絶えませんけど、ご指導、ご鞭撻のほど、ご負担に

ならぬ中よろしくお願い申し上げます。おはようございます。また歓談できるのを心待ちにしています。ご多忙のところ気ぜわしく感じられたら申し訳ありません。嬉しいです。友が生まれて。神を愛し隣人を愛する。クリスチャンというか、私にはひとつの妄想があります。隠すわけではありませんが、藤山さんとは入魂でありたくいずれ明らかにします。　徴税人、娼婦の譬えのごとく、己の罪を自覚するものが信仰により報われるのではないでしょうか。立派なクリスチャンなどいません。藤山さんは素晴らしい。藤山さん、自らが罪人だと懺悔し回心した者をイエスは赦し愛すると思います。オカリナで演奏されたアメージンググレース美しかったですよ。罪が深いと思う人ほど善人です。人は皆、罪人です。互いに寛容でなければ傷つけ合うことになります。この体制は傷つけずには生きていけません。そこに気付くと祝福されるのでは。私はイエスの生まれ変わり、神の顕現したものです。理解力は神から与えられます。藤山さんとは深いご縁で結ばれているみたいです。愛を掲げましょう。「自分は罪人でイエスに犠牲を強い迷惑をかけた」。そんな風に思うとイエスは残念に思いますよ。聖書に良心を痛めるのはキリストへの罪だとあります。明るく、素直に、温かく。イエスは栄光のために死んだのです。そしてイエスは復活した。善人として生き、隣人を愛することが大切ですよ。そうです。それだと思います。イエスを信じ神の御使いとし

て神の国で永遠の命を生きましょう。藤山さんありがとう。神、イエスの他に善はありません。それは愛です。イエスへの感謝、それだけが信仰です。苦しみ続け、ご自分を傷つけられるのはもうやめませんか。ありがとう。傷つけたならごめんなさいね。楽しい時間、ありがとう。　優しさを迫られるとき人は誰かを傷つける。避けられない罪人としての宿命。だから明るく素直に暖かく、イエスに感謝していきましょう。尚、返信はご随意に。イエスは罪を赦すため現れた。そして裁くため神として言葉を出された。私の言葉もその場、その時、最善なのです。信じて下さい。藤山さん、贖罪と永遠の命の為。神の御前に立つということは懺悔し真人間になるということでしょうか。神に愛される人は素直で美しい心を持つもの。神は親友であります。神の愛は赦すというより信仰によりおのずと救われるというものではないでしょうか。愛とは自分を含め思いやりで人を責めないということでは。つまり罪を憎んで人を憎まず。そして南無妙法蓮華経にたどり着く。イエスは律法学者、祭祀長など偽善者には容赦しませんでした。「私を王と認めないものを殺せ」とエルサレムへ向かう。愛を固定してはいけない。意味が大切。コヘルトの空という概念、善悪を問わない親鸞の教えと似ていると言われるか。親鸞は悪のまま、悪人には才覚がなくて善人より良い。そしてそのまま極楽へと言う。馬鹿な。才覚という信仰がなければ人は救われません。イエ

スの報いがある。あくまで永遠の命は善人のものです。固定と表現したのは愛というものを赦すものだと限定してはいけないと言いたかったのです。愛は善を信仰によって強いるものなのかもしれない。イエスの義であり深い思いやりの契りです。親鸞、釈迦、イエスを立派だと言われるか。親鸞は好色な俗人、釈迦は妻子を捨てた大悪人。イエスは娼婦と酒を酌み交わす掟破りの飾り大工職人。彼らはいつも自分に正直に素直に生きていただけなのです。愛、慈悲を真剣に考えて。立派でなくてもいいじゃないですか。偉くなくても。情けなくてもいい。人を踏み台にするな、さもしい見返りの期待などするな、そして嫉妬などするな。十字架についたイエスのように侮辱されさらし者にされた、アルコール依存症だった私の父親の教えです。

山口さん、クリスマスはやはり必要です。愛をシンボライズさせるからです。そして私は神として自らの報酬は捨てねばならぬことに気付きました。公益を求めて。自己犠牲とは違います。やむにやまれぬ心持。オスカーワイルドの「幸福の王子」のような生き方、祝福を受けるでしょう。そしてパラダイス（楽園）で誰の苦しみも悲しみも見ないでただ穏やかに暮らす、王子とつばめのように。来る世、生老病死、貧病争は姿を消すのである。

藤山さん「天の父の愛が崇められますように。御国が参りますように」。神は愛

です。観念の父の名は愛です。崇められますとは愛が広がってほしいということ。うんちくを語ってしまったけど、本当は就寝時の祈りの言葉、共に言えたらなあと思ったのです。お気に召さねばお許しください。隣人への祝福です。藤山さん、老齢の父君に障害を持たれたお子様がた。ご心労はいかほどかと御推察いたします。私への返信、ご随意に願います。御身、御大切にと祈ります。また宜しく。

「温泉へ家族で」。親孝行されたのですね。それは良かった。父君の肺炎もご回復されて。お正月を迎え私たちにまたイエスが微笑むように祈り、願います。皆、幸せになるよう祈り感謝します。藤山さん、おおとし如何お過ごしでいらっしゃいますか。父君は息災でいらっしゃいますか。ご家族のご多幸心より祈ります。また気晴らしに遊びにお越しくださるよう楽しみにお待ちしております。認知症の父君、御辛労お察しいたします。真実、神を信じて隣人を愛することです。そして天にすべて委ねる。無理をなさらず援助を乞うことです。そして気持ちが楽になるように祈りましょう。大丈夫です。藤山さん、年が明ける前にお神酒を飲んでしまいました。「アルチュウになる、祈りなさい」と聖書は示します。しかし私はイエスキリストですから大丈夫、心配御無用、自由を大事にしましょう。

悪魔をどう捉えればいいか。いい譬えがあります。神の子つまり実を結ぶはずの木々、それに悪さを仕掛ける雑草。雑草が悪魔です。一方仏の眼で見ると法華

経薬草諭品第五では雑草も木々を活かすために枯れ堆肥となる。命としては平等なものと言います。これらは二つとも正しい。悪魔とはそういうものなのである。父君が在宅、「テレは控えてくれ」。了解です。ではメールで。藤山さん、少し気を抜き羽目を外すことも仏陀の中道の如く大事ですよ。絃を張りすぎてはいけません。切れたら大騒動。今、大切です。そんな気がします。藤山さん、如何お過ごしですか。皆様の安穏なることとご息災を念じます。病は気からと申します。安易な物言いかもしれません。明るく素直に暖かく。藤山さん、「父君が心不全と肺炎で病院に搬送された」。それは大変ですね。病と寿命は別物。天寿を全うされるよう祈念します。神仏にすべて委ねてご自愛くださるよう切に願います。ご自身を大事に。すべてにおいて。

山口さん、富と名誉を求めるため悪魔に目隠しされている。それなのに見えているというあなたたち。神は自らを隠されている。見えるのは素直な愛に満ちた人々、真のクリスチャンと呼べるものです。前にも言ったように不寛容とは硬く凝り固まったドグマ（独善的教理）に囚われているあなた方のことだ。私にも独自性はある。それは神の義と愛から生まれるものです。すべからく。ヨハネによる福音書１０章３０節をみて下さい。「わたしと父とはひとつである」。さあどうとられますか。イエスと神はひとつ。イエスは神です。凄い演出家。

藤山さん、如何お過ごしですか。少しご心配申し上げております。
山口さん、今日は素でしたか。憐みはかけています。が、あなたは自らの信仰への懐疑は足りず、権威主義も否めません。私が会館に行くのも聖書は止めます。あなたにとって勧誘の目的とはなんですか。大切なのは実を結ぶため私という葡萄の木に繋がっていること、そして互いに愛し合うことです。あなたの真意は分かっている。私は嘘を言わない。永遠の命は保証する、あなたの家族皆様。あなたが舞台装置としがらみに囚われていた事が理解できれば正解。もっと世間に目を向けよ。帰属意識に慣らされずに、君ならできる。父子とご家族皆様と永遠の命を生きることができたらどんなに嬉しいでしょう。あなたの内の導く声大事にしてください。エホバの会衆のふりを続けよ。それでいい、エホバのために。だが山口さん、一言、またの訪問は未定だが、神を試すような侮辱した所作は金輪際やめられよ。地獄の門が待っている。聖霊があなた方の不誠実に憤るからである。気を付けて歩かれよ。いつも触発され感謝します。本当にありがとう。君たち、神を愛し隣人を愛する。だが、エホバの証人の学修は神への愛に特化されていると思う。永遠の命が欲しいばかりに迎合を覚えようとする。私はあなたのお姉さんの涙に神への敬愛を見出したなあ、神学なんかより。　永遠の命で神の国に生きる資格があるのは詐欺師のような巧言、装置をもって操作をする人間では

なく、イノセントで正直な幼子みたいな人に決まっている。人間としての限界を知り、行いを誇らず神に信仰をもってすべてを委ねる。祝福される資格です。まず私は友人の墓へ献花に参って神の国を述べ伝え復活を約束したい。サタンは罪深い人間を侵す。そんな罪を自覚した人間でないとサタンには勝てない。なぜならサタンは羞恥心に意地悪く働きかけるからである。しかし皆は愛を抱きサタンはあえて意識しない方が良い、心から遠ざけることが大切である。信仰への道、それがすべてです。山口さんの寛容なのはよく判っております。この夜分のメールを許容してくれる。あるレリジョン（宗教団体）の年配の女性。文句を言われました。寛容を学んでも身につかない性分です。やはり所属している団体の姿勢も信徒の人間性も神仏は観察します。私は２４時間、神仏のことを念じております。止暇断眠です。聖書は仏門をくぐった信徒でも先ほどの女性のようなものは仏法を信じ行ずる資質無き者、神の国に入る資格無き者。つまり義、無き者、縁を切れと示します。あなたは偉い。さすがエホバの証人だ。国の外交もそうなのだが、互いに譲れないものをもちながら、すり合わせてみる。三位一体は私が知覚体験したもの。エホバの証人は神イエスの聖別の演出をそのままただ目で追っているだけ、聖書の奥にある真意を読み込まなければいけない。私は頑なで憐れなあなた方に何度も声をかける。これが神の愛、慈悲である。解ってほしい。木

曜日の集会、参加できず後悔しています。イエスの愛について焦点、角度、我々に温度差がなかったと信じたい。そして期待すべきだった。いつもの「また裏切られたか」という感触を持つということを特別意識せずに。またの来訪お待ち申しております。モーゼの十戒、私以外のものを神としてはならない。つまり愛以外のものを高くおき、依存、拝してはならないということです。おかしな石、狐、鏡、天狗などのカミは沢山いる。選択が大事。そしてみだりに神の名を呼んではいけないことは、邪まな欲望の実現を神に対し迫ってはいけないということです。まずは悪意、悪感情より離れ心を美しくするとき、天の父、聖霊は微笑むのです。何を食べようか、何を着ようかこれらの心配はせずとも好いのです。神、即ち愛を心に抱いて下さい。それが全てです。ラザロ然りパウロの説教中に居眠りをし、三階から落下し、死んで一晩後生き返った若者。当人を介在した、霊の存在は確実です。生き返りは、人間のコピー。合理的な解釈だけを思わせる。基本的な質問をします。エホバの証人は宗教ですか。科学的な裏付けを求め目に見えない世界、たとえば心霊を魔術だと否定する。そして人は死なない、霊はない、人は死んでもコピーとして帰ってくる。都合の好い自説は科学に対し捨てない。如何ですか、非常に不具合であり、聖書に基づいてと言ってはいるが手前勝手な稚拙な教理だ。その単純さにあきれ返える。本物の宗教は科学の方向性を見出だし、ま

た科学はその道の跡をたどりくるものである。そして物質を追い求める限り精神世界は遠ざかり続け平安はけして訪れないだろう。そこに愛がないからである。悪魔が支配する体制のなか人間が生み出した自由民主制、欠陥もある。そして聖書解釈も完全でない人間が行ってきたのだ。唯一正しいのは私、神ヨシトの愛。頑迷はよくない。神の演出を知ることが大事です。会衆の中で児童虐待ともいえる行き過ぎたしつけがあると聞きました。真偽は解りませんがあなたに接するとき想像され納得します。天の父は優しいです。嫉妬、貪欲など醜い自意識には厳しいが、無垢な傷ついた孤独な人には本当に親友のように寛大です。愛とは優しいことが全てですね。醜い意識には厳しいですけど神は無垢な心を懐いているからです。人々の悪意、悪感情がなくなれば、世界は激変します。神の国へ永遠の命には善意があればいい。来週ご訪問下さる、ありがとう山口さん。風邪をひかないように暖かくして下さい。了解です。また連絡ください。嬉しいです。では。サタンは神に全ての悪いことの責任を被せようと目論んでいます。人の好い神は世界を創生したことに対し引け目を感じ、この責めに苦悶するのです。これほど善良な方は神だけです。愛による労働にて不老不死を担保する。自由が存在するなら酒を飲んで寝ている善人がいてもいいはずだ。安息を楽しむ。怠惰ではない。皆好きなことをする。全ては善意より生まれる。愛をもって。時代が複雑になっ

たけど、各場所に就業でき、またしている事実。職業選択の自由。ＡＩ（人工知能）により職が失われる。重要な話だ。だがそれでいいのかも。皆、好きなように生きる。それが神の国だ。山口さん、今夜は饒舌でごめん。神仏について語りだすと止まらなくなる。最後です。神話は神話。なるべき人が神になる。見渡せば一筋の寂寥感が横切る。孤独だ。なぜイエスは父、母、兄弟を捨てろと言ったか。それは比較、執着に繋がるエゴイズムとは違う博愛を知らしめるためでした。つまりアガペーですね。そしてやはり父母は敬わなければならない。だが精神は独立して大きな愛に向けて進んでいかなければならない。矛盾はしない。深い愛はどこかでつながっている。　ヨハネ１２章，３９、イザヤは言った、神は彼らの眼をくらまし心をかたくなさった。それは彼らが目で見、心で悟らず悔い改めていやされることがないからである。使徒行伝４章，１９ペテロとヨハネは言った。神に聞き従うより、あなた方に聞き従う方が神の前に正しいかどうか判断してもらいたい。山口さん、既定路線を行き、自らだけが永遠の命が欲しいだけにエホバを崇拝する。神を信じることは隣人に愛を捧げることです。神学ではなく信仰で救われるのです。神の義、大切。今日の訪問はエホバの証人の犠牲ではない喜びの親切。この解釈でよろしいでしょうか。私の質問に計算なく正直にお答えください。本音を知りたいからです。茶化さず、誤魔化さず。神がイエスとし

て現れたときイエスは霊的神でなくなったのだ。この意味解るかな。故に神が示現したヨシトもまた人間であり霊的神ではない。これは全て人々の為です。霊的神であっては不敬をもたらすことが多々あるからです。つまり人々は罪を犯す。ただ二人とも神性を帯びている。この意味解ってほしい。すべてはイエスキリストへの信仰を通して神から与えられる。己の利発さを誇ってはいけない。サタンは損得で計るよう仕向ける。真の善悪は人には解らないのだ。理性は大事だ。だが感情を無視しろとは心を捨てろということだ。情緒と互いの良心から生まれる最も大切な愛をないがしろにしている。反省されよ。神の国のために。私に対しすべてにおいて否定的な物言いは善くない。聖句「あなたの赦す罪は許され、赦さない罪は残るだろう」。つまり信仰において、厳格ではなく、寛容に、それが大事。山口さん、会のドグマではなく自分の頭、心でイエス、神を思い描いたことがありますか。愛、自由、平和そして幸福。きちんと信仰、聖書に基づき思索して下さい。　(雄さんが電話に出ない。何か異常があったのは確実である。愛を踏みにじれば仕方がないことに違いない。命に別状のないことを祈る)。
山口さん、神イエスが憐れんでいます。素直になり私の聖書解釈を聴きなさい。少なくとも真のクリスチャンを目指すならば。この地から世界へ発せよ。不思議だろ。笑顔の男が聖書に通じている。そこには自由な魂があるからだよ。既成概

念にとらわれず、愛を考察し感じて下さい。イエスの言いたいことです。赤い本読んでいます。命に至る門は狭くみすぼらしい、それを見出す人は少ない。【マタイ７章．１３，１４】差別、偏見なく私を理解して下さい。イエスはほとんどの既成組織を非難します。イエスは正しい。偽善者、毒蛇と譬えています。サタンを黒幕と憎むより、良心がうずく罪人にイエスの愛が光ることの方が大切である。命令を教理にするのは悪。天の父の意志を行うものが王国に入る。神が是としなければイエスによって「不法を行う者」とされる。聖書のイエスと私はいつも一緒にいる。

R会の新川さん、私はあの人のことを最低、最悪の人間だと思っている。智慧も慈悲もないちっぽけな鬼だ。家庭不和は続く、因縁だ。神の裁きと知りなさい。頑迷な蒙昧どもよ。私が傲慢なのはあなた方への対機説法にある。導きの親と語り、上から目線で、組織から抜けた私をいまだ侮辱する。R会で神仏の心が分かるのは障害者のあなたの息子ひとりだけだ。あなたより霊格は遥か上を行っている。開祖が偉いのではない。その裏には天狗不動がいる。法華経を流布させた功績はある。しかし南無妙法蓮華経を無視した大罪があるのだ。そして万骨枯れる。幾多の小幹部が流した汗と涙は報われず、名誉はすべて庭野一族へ。同情いたします。

第３章（本題）　昨晩、調子を少し崩した。そのことの意味を、今気づいた。イエスの自由奔放さ、縦横無尽さ。苦しみはそのことを知らせるための胎動からいたる、陣痛であった。イエスについて誤って伝えられた旧き概念よ、去れ、愛がすべてなのです。新たなる境地に達するにはいつも私には苦が伴います。だが嬉しい。聖書も保証、私は神です。　由美さんあなたのような優しくて献身的な女性はいません。愛を育むのは当然だったのですね。愛があれば戒律を超えても是とされる。しかし時期は過ぎました。少し欲望も落ち着いたみたいです。真実の愛なら眠らない。旦那さんと楽しく暮らしてください。そのことに猫は貢献してくれるでしょう。お休みなさい。色々お騒がせしてすいませんでした。ご迷惑おかけしました。私は聖霊の宮で神の意志で動いています。翻弄されるかもしれませんがお許しください。心はひとつところには留まりません。執着しないのです。欲望をもった時点で果たす、果たさない抜きにその後、すぐに移り変わるのです。しかしすべてに最善の意味があるのです。後に解るのかもしれません。こんなガサツな僕は愛される資格も無いね。ただ神はカリスマ性より親近感が大切だと思うのです。楽しい欲情ありがとう。人間に堕ちる神。風はどこから吹くのかな。聖霊のみぞ知る。だがあなたが神から出た者なら神の言葉に聞き従うものだ。あなた方は軽んじている。罪を取り去り自由に導く私、イエス、つまり神を。姦淫

という罪が嫉妬、束縛というものの裏付けがあるなら、それは取り払われなくてはならない。それが自由に繋がる。そこにあるのは博愛である。肉欲とは違う隣人愛である。そして精神的つながりの延長線上に抱擁がある。愛による権力、神はやはり崇拝されるべきものなのかもしれない。それはひとえに人々に謙虚になって頂くためである。その後、敬愛を神は望む。崇拝をここで持ち出したのは、神をおろそかに扱うものが多く存在する事実、そしてまた愛をおろそかにするものが生まれて来ないようにするためである。そして人と人との間でも互いに対し不信は生まれぬように邪険な扱いは禁じられる。神と人、侮辱しないものたちが神の国へ入る。神は自らの意志で罰をあたえたりはしない。それは私怨になるからである。天が自然と悪心をもった罪に対し罰を与えるのである。マリアはイエスに厭われる。彼を侮辱するからだ。神イエスを絶対善だと理解していない。ただの人間に引き込むことばかり考えている。ただ彼女は肉親の情に関しては深いものがあるのは事実だ。人間義人は煩悩を滅却しサトリを開いた。後、神ヨシトは彼を博愛へと導く。そして来たる世、皆、神の御使いになる。神は小さき声である。大きな声で席巻しようとするのはサタンである。神は愛である。愛は弱きものにそそがれる。だから知力、体力、能力は秀でない方がより愛が理解できるのである。　サセコ、見かけは御世辞にも器量良しとは言えない。目の不自由な

年齢の離れた整体師と二つ返事で一緒になった。かつて彼女と関係を持った「キモい」と一般には相手にされないと思えた男が心臓を悪くして死んだ。私は病院の階段の踊り場で彼女を抱きしめ泣いていた。「天使だ」。そこには彼女を褒めてやりたいＥＤがいた。何の見栄も計算もなくただ絡んでくる男の欲望を差別せず受け入れる。無償で。もちろん容姿になど拘らず。素直にどこであろうと要求にこたえる。女神とは彼女ではないか。黒澤明監督の作品、(どですかでん)、浮気をして近所の男たちの子を幾人も生む女。おっとりした夫は「とうさんだから、父ちゃんだろう」と馬鹿にされて泣く不義の子に優しく諭す。サセコの因縁はどうでしょうか。サセコは自分の子を深く愛しています。それとは別に嫉妬深い夫に覚悟を促しもせず、自らは縛られないのです。高い意識はないと思います。が、博愛が存在するのは確実です。本当に自分に正直で、またオトコに寛大だ。いつどこでも。人の眼も恥も外聞も乗り越えた寛容な精神障害者の中には彼女をパートナーにしたいと思っていた奴が結構いたことをお知らせしたい。その心は「あいつは気がいいよ」。昨今の条件ばかり高く設定する女性達より気が楽なのは確かだ。安らかでいいのでは。

　ソープランド嬢は天使かも知れない。誰かに搾取などされず明るく生きていると信じたい。ＥＤ状態でなくても、私のような分際では最早、一般女性とこと

たるには難儀があります。もしかして廉価でサービスを提供する彼女らは高い博愛の精神があるのではと感じ入るのであります。中川さんが鱒寿司とイカの黒作りを手土産に片山津、いつものソープ嬢指名に出かけた気持ち、解る気がします。私はやはり、たぶん行かないと思いますが。彼女らの安全と幸福を祈りたい。だが売春を正面から認めたわけではありません。しかしそこになんらかの愛が存在するのなら簡単に罪と切って捨てるわけには行かない事実があると思慮するのです。宮沢賢治は浅草で春画を大量に買い込み農林学校の生徒に性教育を施した。へんずりの推奨である。これは日蓮のような法華経行者でありたいが欲望に負けそうになる己の弱さを自覚して、将来、嫁も持てず生きて行かなければならない東北の寒村の次男、三男坊のため同情し立案したものである。賢治の肉欲の滅却という志は萎えてはいない。だが人に禁欲を強いたりはしない。賢治の中、異性に対して葛藤があったのも事実である。信仰と情欲。私同様、彼は正面切ってこの問題に向きあったのです。姦淫、盗み、人殺し、偽証、一概に極悪と断罪できないものもある。すべて特殊である。大事なのはそこに思いやり、愛が存在するかどうかである。すべてはイエスへの信仰にある。南無妙法蓮華経。何を書こうと味方でいてくれた孝子さんに感謝と敬意を表します。神に従順なのですね。つまり愛に。これからもお願いし、お礼に代えさせて頂きます。なぜこうも性には

後ろめたさが付きまとうのか。この後ろめたさがいいという男もいた。日本人特有か、外人は野外でも平気でことをなしている人たちもいるみたいだ。国民性か。日本人は生活のなか棲み分けさせている。巧妙な気もする。なぜ児童ポルノはいけない。大人が権力を行使するからか。なかには悦びを感じている少年少女たちもいるかも知れない。危険性か、また別問題だろう。性と暴力は。一緒くたになるものなのか。猟奇的犯罪に陥る人物は児童ポルノを、また違う場所から対象として見ているような気がしてならない。犯罪防止には暴力、ホラー映画を規制した方がいいだろう。私が言いたいのは性的興味が一番強くなるのは思春期から成人に向かう頃だということである。女性は解らないが需要、供給のバランスから行くと児童少年の世界は性に彩られているということだ。保護が必要なのは解るが変なミスマッチがあるのは事実である。婚期を逃してしまうのは社会的に学修時代が終わり経済的に安定する時期と性的モチベーションが強まった年代とにギャップがあるからではないのか。ズレが生じてきた世間に問題があるのではないだろうか。子供か大人であるかは年齢では決められない事実がある。いつの時代も互いが愛を育み、相手を思いやるようになる心の成熟度が一番重要なのである。それが適齢期だと思う。だが、一生に満足する伴侶を見つけ、結ばれるのは「無理だろう」という人が多いのではないか。結局、真実の愛に対する責任は自

らにある。良き人が現れ、時宜が訪れたのも見逃してしまう。独り身も運命か。自分の生活を送ることだけに甘んじている人々が許せるか。互いに愛し合うとはどういうことか。父も尾崎もそこに悩んでいたのではないか。愛というエゴイズムは人に対し、またパートナーに対しある意味犠牲を強いることになる。かつて［真由子先生に捧ぐ］の中に、ヘッセの【クラインとバァーグナー】という作品の一節を紹介した。「身を委ねることを学んだものは、楽に死に。やすやすと生まれるのだ。抵抗するものは、不安に苦しめられ、辛い死を迎え、いやいや生まれるのだ。いったん自己を放棄したら、運命に服従したら、いったん自分のあらゆる支えと、足元の地盤をすべて捨ててしまったら、自分の心の導き手の言葉に完全に耳を傾けたら、なにもかも得られるのだ。その時は何の不安も危機もない」。父と尾崎は真理を、自由と、愛というエゴイズムの中で模索していたのであろう、つまり本物の愛を。それが平和を求めることに繋がらなかったのは悲劇だったと言える。彼らは最期まで戦った、悪魔と。そして負けなかったより、勝利したと信じたい。聖句、「私を信じる者はいつまでも生きる。死ぬことはない。」これは、一時期、恥をかくことはあっても、絶対に出来事は失敗に終わることはないという意味もある。つまり信仰、イエスを信じることで自己肯定していく。祈ることが大事、真心から。私は多分イエスは日蓮と同じく周りを痛烈に批判していたの

だと思う。彼が律法から外れているというより、思いやり、愛に欠けた人々にはイエスの存在自体が目障りだった。「私に罪があるなら打ちなさい」。私と同じく愛を発信することによって憎まれたのであろう。理由もなく殺されはしない。怨嫉の匂いがプンプンする。霊を感じる世界、統合失調症は感応する。私が薬を止めても苦にならず大丈夫になる、それが神の国の到来である。心の無垢な、精神疾患の人に神の国に入る優先権があると聖書が繰り返し示した。死せずして新世界へと旅立てるのだ。愛と思いやりをもち献身的に生きる女性はそのことが特化されて、姿に顕れてくるのか、皆、同じ素晴らしい女性に見えてくる。皆、私にとって掛け替えのない、恋し愛すべき人たちなのである。自己犠牲を認めたら「悪魔に負けない」という苦しく耐える辛い立場になる。自己完結、肯定に向かうは「サタンに勝つ」となる。明るく素直に暖かく絶対善とは「問題が起こらない、また、あっても消える」というものではなく、「過去からずっと、これからに向けても絶対に善いことが続く、たとえ悪いことのように見えても」、ということである。ヨシトの教えとはキャッチコピーである。教えの流れは、「聖書に導かれて南無妙法蓮華経」にある、東西、世界の根本であり本当の教えがここにある。

　現在の私からは信じられない、そうなのかなあ。若い頃、発症以前、本気度の高い女性からのアプローチは幾つもあった。自分で言うのもなんだが、誠実と清

潔があったからだろう。ひとりを選ぶのは他の人に不憫で悩みました。苦しみました。すべて私に真実の愛がなかったのが原因といえます。そして外見、優劣、純潔が気にならなくなった今、大切なのは寛容で純真で優しい心だけ。結婚とは残酷なもの、愛から離れたとしても呪縛がある。経済的なことが一番に来る。私が望むのは私を好いてくれる良識ある人、愛をもつ人なら誰でも契りを交わしたいということです。日本の法律では重婚、罪です。ですから来たる世、博愛により婚姻制度をぶち壊し、皆、神の御使いとなることを示すのです。　アプローチ、沢山あったのは事実です。社会人になってからは清潔な結婚を前提とする交際が、いつも念頭にあったので破瓜に至ることは責任を感じ、戯れも人目も意識し妊娠も怖く、また心理的に幼き頃から信じ込まされた潔癖な道徳観念が存在し、女性と安易に肌を合わすことはできませんでした。欲望との葛藤。結局、神は一人だけを選択することはできないのです。宿命です。神があらわす思想に至るまで苦悶、懊悩しました。しかし天の啓示を受け博愛という素晴らしい概念にたどり着いたのです。私の歩んだ道は必然でした。私は聖霊の宮です。皆、神の御使いのようになり幸福に生きましょう。それまで神は達観するも苦悶し続けるのです。己が罪の意識に。自らの罪を赦してほしい人は神の罪も赦しましょう。　お元気ですか。孝子さん、まだ仕事中ですか。雪降りましたね。積もらなくてよかった。

何か私らしくなくつまらないメールでしょう。待てよ。いつもそんなに笑わせていたかなあ。ソチを胡坐の上に横たわらせています。いつまで一緒に暮らせるかはわかりませんが最後まで面倒看てやりたいと強く思います。安易に施設入居、私は出来ないと思うのです。タフで優しい孝子さん。ありがとう。寂しい夜に一服の昆布茶。家にはコーヒーがないもので。睡眠過多の私です。聖書はすべてに心配ないと言います。お転婆なソチに睡眠を削られる母も憐れです。今のところ母はいたって健康ですが。私は生きとし生けるものすべてが天寿を全うすることを願います。ソチの表情からなにか悲しみを察知したからです。かつての自らの境遇と同じく寒風の吹き荒ぶ深夜、鳴き続ける同輩がいることを同悲同苦し想っているのではないでしょうか。　由美さん、家から飛び出した猫は必ず優しいあなたの下へ帰ってきますよ。神を信じ、祈ることです。「愛が広がり神の国が参りますように」と。幸せがこの機に続くと思います。契機になればと信じます。愛しきもの達への幸せを念じます。神を信じる者には彼は気づきを与えますが困らせることはしませんから。あなたは女神です。少し前にお酒を頂きました。ケイタイの画面に抱きしめたいというフレーズが現れました。私が望むそのままです。憧れです。猫は家出したわけではないのですね。取りあえず寒さの心配はないのですね。良かった、良かった。　林さん、ごめん、孝子さんは存在しなけ

ればいけない所に存在した稀有な存在です。これも縁です。明日もよろしくお願いいたします。入院中の猫の幸せ祈ります。きっと人は負けず嫌いが大半なのでしょうね。そこから厳しさ優しさを学ぶ。孝子さんは良識と共に幾多の長所をもっておられる。頭が下がります。寒くなります。温かいメール欲しかったのですけど嬉しいです。　由美さん、家の中で、ノラ状態の猫は大丈夫ですか。私との距離感は意識しないで下さい。いい加減なやつですから。たぶんね。工賃ありがとうございます。くれぐれもいつものあなたでいて下さい。聖女に栄光あれ、心から祈ります。生き物を飼うときいろいろありますけど優しくこうべを撫で言い諭すことが一番効果ありますよ。神からの助言です。そして悪いところを含めすべてを愛す。それが大事です。心の調和が伝わりますからね。あなたは存在すべきところに存在した女神です。寒くないですか。「僕の胸はいつも熱く温かいよ。便りをおくれ。心から愛している。もう逃れられないここから、助け出してほしい。お前だけだよ」ちょっと感情移入しすぎですね。あなたの価値観が好きだ。ジブリが好きなこと、僕は嫌いだけど好きだという人を愛する自分がいる。きっと優しい人だと思うから。若者の利用者のなかにはあなたの意に沿わない奴もいるかも知れない、でもスルーして心を覗くと彼らの寂しさが解るんだ、いいやつらなんだよ。僕は多情です。神だからです。神が女性を既婚、未婚と差別する、

それはもはや神の博愛ではありません。一人一人が特別でかけがえのない人なのです。今はあなたに夢中です。神は一人に全力投球、そしてみんなに全力投球、けして矛盾していないのです。老若男女すべてに。だから何も気に病まず神にすべて委ねて欲しい。結果はそのとき表れます。あなたの心身の健康と安全のため神は貢献したいのです。それを分かって下さい。結婚制度というエゴイステックな親族関係が生まれる法体系に心ならずも自分を合わすのは愛を疎外するものである。ただ深い情緒から生まれた愛を持つものだけが神の前に兄弟として成り立つ。つまりこれが真実で、天から与えられた自然権から生まれるものである。人々は心も体も自由であるべきものである。法は誰かの思惑で操作、機能されてはいけない。神の愛によることのみ許されるのである。結婚というものがあるから姦淫の罪が存在するのである。心は自由であるべきなのに縛ろうとしている。思いやりある処に愛はいつも一緒にあらねばならない。　ありがとう。孝子さん、いつもなんか傷つけているような気がします。神は一人に全力投球、皆に全力投球、ごめんね。僕が思うよりあなたは凄い人なのかもね。孝子さん、愛します。取って付けたようにね。カップラーメンに釣られたわけじゃありませんよ。でも思いやりにありがとう。私は良識あるすべての女性を愛します。それが神の博愛です。でも私、神が愛されているかは判りません。だから愛せよと懇願して

いる。永遠の命の為です。サタケッチが笑みを浮かべていた。良かったと思う。人は興味のない話は聞かないものだ。あらためて思った。反省した。押し付けはダメなのだなあ。俺はいつも人を型にはめようとするところがあったのかも。皆さん、もうお気づきでしょう。この愛の変遷の裏には、真由子さんへの愛、それが優先され、反映されているのを。ただひたすら不倫をめざし未練たらしくぼっかけるみっともない男になるよりは、博愛という夢を抱き、新たな道を未来へ見出せば、本当の自由の姿が見えてくるのでは。周りをよく見ると、同じ想いをされている人は沢山いるみたいだ。夫、妻より自分を理解し、手を貸してくれた優しい人への愛。各位おのおの想いはあるみたいだが、フリーセックスは何か淋しい気もする、真実、私は真由子さんひとりと愛し合いたかったのは疑いのない事実である。この失恋から神の博愛は生まれ、人々が、神の御使いへと変化するみちが聖書に記してあると示しました。つまりまた聖句は成就されたのです。失恋も必然であった。　　もし私がその場で不敬な対象の人に「罰を与える」と言い実行されたらどうだろう。恣意的、完全にエゴイズムである。怒りにまかせなせば、後、悔やむかもしれない。恨みをもって罰を与えてはいけない。罰は天がその悪心を見抜き、公正に定め、そして与える。私に対し美辞麗句をもちい機嫌を取るより、皆様、心を清くして下さい。日蓮もイエスも姦淫の罪を犯してはなら

ぬと言う。それは当時、掟が社会的に必要であったのか。掟がある以上、それを破っては生きていけなかったからか。罪の意識、また罪そのものがなくなれば誰も苦しむことはない。愛の認識である。金にまかせての妾を囲ったりすることではなく、愛しく懸命に生きている女性を抱擁し添い寝してあげることは罪であろうか。明るく、素直に、温かく、ことに及ぶか否かは神が互い、心の美しさから判断してくれるだろう。姦淫の罪とは醜い欲望の果てに表れるものである。「自由とは、従順かい。自由を求めるってことは反抗するってことかい。自由に生きるってことは愛し合うってことじゃないかい」。自由が広がると無秩序になると信じている奴らがいる。神は平和、秩序の主である。自由を認めず人民に圧力をかける国にテロは起きる。無論自由を標榜する国でもテロと表現される殺戮は良くないのは当然である。自由は愛にて保障されなくてはいけない。誰かのエゴではなく博愛によって、一番自由と声が大きい、どこかの国では自由の為に銃を各々が所持し、差別のもと殺し合いが起きている。多様な価値観、存在が政治的に無秩序をもたらす。真実、勝ち負け、優劣を競わない優しい世界、自分を律する内なる自由にて目指さなければならない。自由とは意識されず、不自由と発信する必要がなくなった世界に存在する。何にも囚われず顕れる、自由に対しての無意識、無言の世界である。　仏になどなる必要はない。なぜなら何十億年に

一人出るか出ないかというものなら、はなから仏はいなくていいのでは。そこにはある意味、大乗仏教の意義がある。南無妙法蓮華経。現世、過去、未来そして欲界、色界、無色界、三界すべてが成仏する。即ち幸せになる。だからあえて私が色に狂ったように見えても、その博愛という意味を皆が納得し、幸福に向かうなら嬉しい。一休がそうであったように。つまり体と心、内外の自由。自分と他人が一緒の性分と思い込む人がいる。問題かもしれない。そして私の愛の回路は積極的、消極的の違いがあっても、皆、歩み続けなければならない。科学と宗教は対立するか。その関係は科学の裏付けを宗教がするのではなく宗教の裏付けを科学がするのである。食物連鎖,エコロジー体系などまず宗教的見地がすべてにある。だが真実、その根本のエネルギー、霊的世界は科学では判明しない。追えば追うほど見えなくなる。物質と精神が簡単に合致しないように。　姪御さんを引き取り血糖値にも気を配られる単身の伯母さん。オス猫も嫌いかな。ただ真面目だから繋がるきっかけが難しいのだろう。私の書きものを見てもらって話題はある。私の社会性にも危険は感じていないみたい。皆同じ女性だ。男性嫌悪などと勝手な決めつけはいけませんよね。介護疲れもあるかも。姪っ子の同僚だからか私には気さくでした。私はイエス、神です。愛を注入するのが役目。ただの男ではない。今すぐに伯母さんの労に報いたい。けして肉体関係を持つわけでは

ない。少し会話したいだけ。
　今日はまるで仕組まれたみたい。御使いたちに。君に今夜初めて女を感じました。最初のうたのモチーフは俺なの。君のお母さんの顔を思い浮かべる。何もしてあげなかった。でも今、君のそばにいて手を貸してあげることはできるのでは。お互い夢と理想はある。でも生活していく中で愛は変化していくでしょう。クリスマスイヴだね。心を清くするといろんな奇跡が起きてくる。君を始めて美しいと思った。君の今までの苦労を知っている。私には婚姻は無理だと思っていた。私の精神疾患のことだけでなく、色々と。でも純潔を守り続けた君。両親を看取った君。聖女。神は第一に愛する。もう彼のことは忘れなさい。テレで君の元気な声を聞いて私の想いが少しでも伝わった確信を得ました。テレ中、猫を呼ぶ母の声に邪魔されましたけど。メリークリスマス、君を愛している。なぜか涙がこみ上げてきてやみません。格好いい外車がウインドウに並ぶ街道筋、寒く暗い中、家路につく君。星は見えますか。大事なことを教えてくれた君。きっと強い君は泣いてなどいないよね。パソコンからキロロの「未来へ」、が聞こえています。僕の母は「愛を抱いて」とは言わなかった。けど生き方で示してくれました。「あなたの夢をあきらめないで」三歳の姪が口ずさんでいました。皆、頑張っているんだよね。「幸せを自分の腕で掴むよう」。やはりそれは愛する人と一緒になるこ

とだった。少し怖いんだ、返事、待っている。感性豊かな君のこと、僕の気持ち、想いはすべて伝わったね。僕は正直だ。だから何度も言う、君のすべてを、愛している。メールを送ったその後すぐテレした私はカブトムシに「好きな人がいる」と振られてしまいました。私の一言「クリスマスの夢にさせてもらうぜ」。やはり一時の感情の盛り上がりではなく、大人の愛は深い安らぎが存在するかが大事で、そこに価値があるみたいです。私は中川さんにメールを送った。「やはり来る者は拒まず、去る者は追わず、ですね」応えは「その通り」私は[さすが達人。私も幾度もの失恋の果て、やっとことさ、その思想に辿り着きました。あとはお互い自由でなければと思います。神がふさわしい人を与えるのでは]。「男も女も本能で生きている」という返信に「唯物論、無神論ですね。人生、恋もあり愛もある。そんなすてたものでもないでしょう」と私は送信したが、何も返ってはこなかった。神はぶざまであると前に書いた。つまり裁くとは悪口を言うことではないか。悪口も言わないということは無関心ということである。神は介在し悪口を言い。裁くのである。「やはり人は婚姻に至るまで性交渉はしてはいけない。そして結婚に至ったのなら姦淫は絶対にいけない」。そう誓う。その方向に行かなければ心が崩壊しそうだ。そして来たる世、皆、神の御使いとなる。それでいい。博愛に生きる。純愛に生きる。博愛に性が絡むと美しい何かが崩れて行きそ

うだ。信じていた自由を取り戻したい。ただ純粋に博愛に基づく思いやりに満ちた世界の誕生を待ちたい。　逆鱗に触れましたか。神から来たものなら、神の言葉に従うものです。私は幸福の王子のように愛の贈り物を困窮する人に届けなければいけない。宿命。申し訳ありません。伯母さんは一人の人間、諸行無常、気も変化します。取りあえず対人間は自由。迷惑はかけません。大人の歓談が目的です。現在、やはり、ねたみをはじめひがみ、そねみなどの悪感情を克服し、隣人として神の御使いになるのは、多くの人には無理があるみたいだ。世が縛り付けるのです。皆は一人のため、一人は皆のために。　純潔、ああ純潔、母の潔癖な教え、我が身の欲望。かつて苦しみ続けた。母の猥雑を好む傾向、貞潔は偽善ではないのか。私の心には猥雑はひとつとしてない断言できる。少しの軽口を抜かしては。親の教えに従っていれば危ない橋を渡らずに済んだかもしれない。何故、貞操を守るのは偽善ではなく処世術だと教えてくれなかったのか。そしたら厳しく染み付いていた私の潔癖な観念も否定できたのに。神にはなったが人間としては大人の女性に対し失格だったのかもしれない。　由美さん、率直に言って幸せかい。君は君だよ。返信待ちます。無かったら僕を愛していると信じます。ちょっと怖い感じだね。そんなことないからね。今、確信しました。私は幸福の王子のように愛というツバメを使い困窮する人へ贈り物を届けるのです。私はイ

エス、神なのです。博愛がモットーで良いのです。実は最近苦しかったのです。自分の多情が。聖書が告白を受けてくれるのはあなただと指名したのです。私はあなたが沢山の障害児の福祉にたずさわれた様に、人に関わり救おうと思います。言葉にて。あなたは私の証人になる人みたいです。一人を愛することが正義と信じてきました。けど私の多情と博愛とに整合性がとれたのです。明るく素直に暖かく。視野を広く、大きく。あの子はきっと優しいあなたに憧れていたのだね。愛していたのだよ。彼女の想いに添うとき涙がとめどもなく溢れてくる。幸せを祈っている。いつもあなたは問題児だったあの子を庇っていたよね。神は贔屓し贔屓せず贔屓する。「たった一人特別な人を見つける」。結局一番を求めるということであり、破たんは必ず訪れる。自然が一番、恋愛状況は今が取りあえずは最善と思わなきゃいけない。私はすべての困窮する女性たちの恋人でありたい。それでいいみたいだ。多情も自分の為でなく対象となる女性たちの為ならオーケー。博愛万歳、イエスに栄光あれ。アーメン。ちなみに既婚、未婚は関係ないみたいだ。内心の自由は誰にも妨げることはできない。亭主たちは自らを振り返ってみよう。愛に関して真剣に考えたことはあったかい。そこだよ。俺が悪い、じゃなくて亭主の意識の方に問題があるのだよ。あなたは俺を愛している、聖書も示す。でも俺は「傲慢ではないか」と意味もなく自信は砕け落ちる。一言、「愛する」。

ダメかい。信頼が手のひらからこぼれそうになるんだ。あなただけというのが当惑する原因でしょう。沢山の一人。それがいい。愛の温度差は多分感じないでしょう。愛は愛。嫌いなジブリを愛する君を愛する僕。沢山の人に博愛思いやりをもちたい僕を愛して下さい。天に名が記されるよう、御使いになり自由を享受しましょう。その時、障害者、貧、病、争、は消え、静かな平和が訪れる。君の頬の涙は乾く。君も優しさと献身でもって戦ってきたのだね。サタンと。もう心配ご無用、私は目覚めた。博愛とは、老若男女恋愛に限らず。　知的障害のある姉妹、姉は妹の心を込めたメッセージと携帯番号まで記してあるメモを渡してくれました。お姉さんの優しさが身に染みました。彼女こそ神に愛される女性だったのです。私は世界中で一番、愛されるべき男だ。「だってイエスキリストだぞ。当然ではないか」。その意味を皆、気付いてほしい。愛を信じますか。すべてに自分の名誉ではなく。由美さん、昨日は年末の気忙しい中、ご免なさい。私は感謝が足らないですね。メールにお目を通していただき、本当にありがとう。愛って広がるな。森羅万象、生きとし生けるものたちへ。一番小さく見えて大切な幸せとは愛し合うことだろう。それほど大事で必要であるからだ。あなたは私の生真面目さ、構えが消えたことに気付いているかな、自分回復。いい加減でまじめで酒、タバコと読書と映画が大好き、無防備で危うかった学生時代。深夜アルバ

イト。出席日数不足。行き止まりの毎日。恋に落ちて享楽し戯れた日々、優しさの意味さえ知らずに。まるで浜田省吾の「路地裏の少年」ですね。沢山送信しました。私への愛を信じます。あなたへの感謝はぎこちなさを強いられた社会に出てからの私に、自由と自信を取り戻させてくれたところから来ています。ありがとう。本当に君は女神だ。素直な君に乾杯。過激なメールに当惑されたでしょう。大晦日を迎える時期に。お正月ゆっくりされるよう祈ります。また来年宜しく。あなたとの関わりの中思想が生まれてきます。自分のことより関わりくる女性を含め沢山の人々たちの幸福が大事であります。しかしそれには相手の方がイエスの血肉を飲み食べなければいけない。つまり霊、水。それは私の思想を受け入れ、真実に目覚めるということです。それは怨嫉から離れ博愛に生きるということです。　由美さん、明けましておめでとうございます。旧年中はどうもありがとうございました。今年もよろしくお願い申し上げます。これではだめだと聖霊が送信を認めません。やはり「愛しています」。この文言を入れないといけないみたいだ。辛いな。　私と来るものが来たる世、善とされる。つまり神に従順であり自らに素直であること。秩序は大事だが道徳の奴隷になってはいけない。愛に向けて暖かく寛容であること。振ったり、振られたりはもう嫌だ。だから俺の思想に共鳴した人に対し絶対、邪険に振らないようにしよう。俺はそれでも振られ

てばかりだろうな。辛いね。神に皆、不従順だ。驕慢になってはいけないが自信は持っていなければならない。しかしこの世は信仰がなければサバイバルに陥り立ち行かなくなる。唯物論。唯物史観、あくまで実験的な思想である。カネ持ちを殺せば金の卵を産む鶏を殺すと同じ様に飢餓状態が広がる。そこでいいとこ取りをしようとしたのが何処の国にもいた唯物論者であり、そんな奴らが繰り広げた殺伐とした世界があった。基本的人権のとらえ方。各所、色んな思惑がある。共産党シンパの役名は付けられてなかったがリーダーとして君臨した女性。また病院勤務時代の話である。人権と一口にいうがどこまでその人の生活程度に猶予して幸福というものの実現に結びつけてあげることが出来るのか。人手不足のなか思うに、つなぎ服はそんなに悪いものだったのだろうか。胸に大きな名札を縫い付けた、病衣と同じものと考えれば身体介護が効率的に済み、当事者、介護人の負担は軽減し、また私のような、ある意味合理的な者には装着することは十分了承出来うるものだった。だがその女性には許せなかったみたいだ。人の想い、そこには温度差がある。介護者と当事者。つなぎ服は互いの人間性を著しく欠落させるものなのか。男と女の感覚、生活感の違い。つなぎ服を虐待と悪に特化するのを基本的人権の尊重というのか。もしかしたら彼女は「人間らしく」そんな悪い人で無かったかも。レセプト請求、仕事の出来た人。ちょっと待て、病

院はそんなに彼女がいつも口癖のように「お金、お金」と求めたほど内部留保をため込んでいたのか。個人病院は金儲け主義であることは否めないと思う。しかし埋蔵金については経営者サイド以外では集金される一部始終を知っていた彼女であっても判別しなかったのではないか。設備投資としてのボーリング。少ない人件費、お年寄りの負担には救いになるのか。彼女の金、物質に対する執着。そしてその嫉妬深さ。また他人に関与して影響を強めたいその意向はどこから来ていたのだろう。亭主の出世に資するお宝を稼ぐためと、また品行方正、良妻賢母を表出する女性にとって、その要件を部下へレクチャーして自己満足し、評価、尊敬を得たかったのであろうか。当時の私の若さが憎い。いじめに対し、人権を信じ続けた今なら、総婦長宅に乗り込んできっちり片を付けてくるのに。小心と辛抱を植え付けられた新卒の商社勤務。上司に逆らうのは絶対許されないことだった。その呪縛より解き放たれたのはここ最近になってからだ。人に依存せず、己の道を行け、今固く誓う。老人を食いものにした悪人達、誰も引き受けての無い痴呆症の徘徊老人を看取ってくれた安価な良心的施設、どちらが経営者サイドに生まれる本音であり、また世間の評判、評価であろうか。ただ私には自分の手は汚さず良心を捨て、出世と金、権力を誇らしいと錯覚する、醜い栄光だけを追いかけた彼女を軽蔑し、また憐れでもある。そんな己に固執した人が真の幸せを

掴むことができるのか、当時、彼女自身は何かに耐えながらも勤勉であった。なぜか少し神として複雑な気持ちになる、いま時を経て感じるのは、思想、信条。私と彼女、見方を変えればどちらにも意味はあったとも言える。信仰と科学、精神と物質、勤勉と怠惰。それが共にあゆみよりバランスよく存在したなら本当に良かった。寛容になり大人になった今思うのは、「豊かになりたい」、彼女には彼女なりの正義はあったということである。彼女にもまた家族を中心とした想い、愛が確実に存在したと恩讐を超えて感じるのだ。しかしどう繕っても彼女の底にある価値観、医師たちの給料と比較し憤るほどの、金への渇望と妄執。私のお金よりも心を重視した愛。人道主義からくる、絶対生命尊重という意志とは完全に相いれなかった。私に彼女を悪人に仕立て病院内のガス抜きを図りたいという思惑がまんざらなかったわけではない。私が怠惰な者への対極に表した異常ともいえた勤勉さは、単なる出世目当てのものと決めつけられ、労働者的見地からは悪人とされ、どうもその逆をやられていたみたいだ。働く者の好感は得られなかった。結局、皆、仕事より自分の生活が大事だ。自らにも存在した、その矛盾に私は苦悩した。彼女も必死だったろう、自分の位置、立場を守るのに。ずる賢い怠惰な者たちの機嫌を取り懐柔する。彼らもそこに付けこむ。既得権益が出来上がる。牽制し合ってはいるが公正さはない。だからこそ、その首は挿げ替えられな

くてはならない、それが私の当時の大義だった。強欲で怠惰な悪人どもは一括して葬る。私が護らねばならぬは彼女の家のふかふかのカーペットではなく、お年寄りに尽くしたいといういたいけな女の子たちの美しい純粋な奉仕の心であった。怠惰と苛酷どちらも非情が生まれる温床となる。そこで利用者たちの幸福がどこかで忘れられていなかったことを私は信じたい。この優しさ、甘さが私のすべての限界であった。私と彼女、斬首は己の一存、一手ではできない。上層部にも踏み切れない事情があったのだろう。彼女は私に宣言していたとおり勝鬨を挙げた。糸の切れた凧のようになった私。混乱し徘徊の後、精神科閉鎖病棟に放り込まれる。それらの背後にあった企てが実際のものか、幻なのか解らぬがサタンがいたことは確実である。悪魔の思惑は失敗に終わった。私は自分の宿命に目覚めることになる。神は怠惰の主ではなく安息日の主であるということです。神はなまけではなく皆で本当の安らぎを得ることが大切だと言っている。宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える。誰かの座右の銘である。今思うに彼女らはそんなに極悪人だったのか。またしても私の甘さである。彼女らは悪魔に心を売り渡していた。だがそれが世間である。私は俗的な勝負にこだわりメンツで彼女らにただ負けたくなく、勝ちたかっただけなのかもしれない。結局は同じ土俵に立っていた。つまらぬ意地を捨て素直になったとき聖なる道を目指さねばならぬ、神

としての立場に気付いた。すべての経験が今の幸せな境涯に確実に繋がっている、私の過去においての事件である。罪を憎んで人を憎まず。サタンの影響はその地においては終焉したのであろうか。悪評判が聞こえなくなった。悪魔が潜んでいないことを祈る。

聖書が何度も孝子さんとの婚姻を促すのです。でも何かが邪魔をするのです。無防備から一番遠い。つまりあなたは賢い。こんな笑顔だけが取り柄の神に相応しいでしょうか。疑問です。知的に障害のある子たちとのメール。「恋人だね」と確認する。こんな俺の存在を彼女たちは純粋に喜んでくれる。嬉しい。嫉妬などの悪心も持たない彼女たちの幸せに貢献したい。孝子さん、私の、博愛の多情に付いて来て下さいますか。寛大でむしろ祝福する人間愛が求められます。どうぞ正直に明るく素直に暖かく、嫌ならそれが自然です。でも、やがて寛容な心を迎えられるようお待ち申しております。「私の言葉を信じる者は絶対死なない」。聖句です。つまり私と孝子さんの人間関係は何があっても揺るがない。深い友情を伴った隣人関係。愛が基礎に存在するからです。私の思わせぶり、オオカミ少年。でもね、ひんしゅくをかっても、これで誰かと繋がるという実感があるのです。頭を抱えて埋没する前に逃げ込んでいる。男は見栄張で強がって、結局最後は一緒なのに。正直に生きるとき傷つくばかりだ。でも男女、見えない涙は拭わ

ねばならないね。サタンと闘う同志と思いたいから変なメール送りました。でも神はもはや侮辱には傷つかない。意味不明かと思いますが、人を傷つける、責任逃れ、誰かのバカ正直さは問題外。でも私は心が高揚するとノリで口から思わせぶりが滑るのです。サービス精神。エール。首尾一貫せずフェードアウトしていく恋愛の意向、障害者の戯言。でも意志薄弱は人を傷つけますね。孝子さんに対しては特に優柔不断になります。現実味が帯びてきて、旅立ちが怖いのでしょう。また独占、所有欲が強い人にはそれなりにしか向き合えない。私の博愛とはそんなものかも。実は元旦以来、孝子さんからはメールないんですね。なんかさみしい。酒飲んで、寝る。幸せなのかと思う。今年はいい年になりそうだ。哀しみはもういらない。R会、対人関係、「下がれ」という。つまり自分が訴える、了見、正義より平和を重んじるため勝ちを相手に譲れと。問題を収めるには、誠に最も効果的なものである。だがもって生まれた性分は誰も治らない。計算して上手くいけばいいが、我を曲げることと単純に受け取り、それを自らに強いれば自己犠牲となる。辛くなる。強情な人は多い。だからこそ仏様の目に見えない力に委ねることが必要となる。南無妙法蓮華経の唱題である。その時、犠牲ではなくすべて平和の中、正義も見出される。イエスは十字架の上から「あれが貴女の息子」「あれがあなたの母親」とマリアと、弟子に告げた。これより、マリアの愛はア

ガペー（博愛）へと昇華する。聖母マリアの誕生である。それを見届けたイエスは［私はかわく］と呟くと瞼を閉じ死んだ。結果的に私に徳がないから教えは広まらず、生活苦、所謂、寄付金も集まらない。早く結論を出し過ぎだというが、目に見えない世界。何かが生まれてもおかしくないはずだ。その予兆もない。強い自己承認欲か。自暴自棄とまでは行かずともやりきれなさを感じる。達成感の裏返しの失望感である。何かが違う。こんなリズム、一体何だったのだ。もっと速く、もっと強く、輝かなければ、風を感じて。生活不安に幕を引ければ。この本を書くモチベーションのひとつにはそこにある。引けないから書き続けなければいけない。いやどこかで信じる。安心して暮らせる世界とは自らの神を信じる事からしか生まれない、安楽、平安な世界。心配ない、もう、まじかだ、そんな気がするからだ。　戦が起こる。兵士がいる。戦が起こる。戦が起こる。兵士がいる。兵士がいるから戦が起こる。名誉がある。武勲がある。死体がある。頭を吹き飛ばされた少女がいる。汚れた野獣のような男たちに凌辱される娘がいる。英霊になりたくて兵士になったのか。軍神になりたくて兵士になったのか。ただ母親と幼い妹、弟たちのため十五で志願しました。お国を守り鬼畜どもを退治するため志願しました。でも違いました。兵隊に行くとは人を殺しに行くということです。私は赤い紙一枚の通知だけで銃剣を持たされました。突撃の際ポロッと

おとしてしまいました。故郷へ帰り非国民、卑怯者、失格者の烙印を押されました。鬼畜を殺すことは私にはできませんでした。頭がおかしいとされました。殺し合いに正義があり人の為になるのでしょうか。違いました。ずる賢い人殺しの棟梁と欲ボケ爺に引っ掻き回され乗せられたのです。死ななくていい、好い人たちがボロボロになって倒れて行く。涙さえも出てこない。心の痛みさえ麻痺していく。皆、「かあちゃん」と死んでいくけど、僕は言いたい。「お母さん、なんで僕を産んだの」、産めよ、殖やせよ、僕は人間です。何故生んだのですか。その隠れて流す涙の前に。誰か助けて。神はどうした。人には悪魔を選んだ自由意思がある。神は心に適った方を勝たせたいが責任はない。と私は庇う。神は逃げるのか。因果応報、戦争とはそんなもの。神は涙を流している。頭を抱え号泣している。だから皆、神を、愛を優先してくれ、相手のことを、少し立場をかえて知ってみよう。何かが見えるから。食いものは皆で分けよう。まずそんな心があれば、皆、飢えず戦は起こらない。変なメンツを重んじる輩はもういらない。死ぬなら一人で静かに死んでくれ。　武島さん、私の一存でカブトムシと三人で行く予定だったカラオケを中止し、武島さんには大変、不愉快にあると自覚します。カブトムシは、今若い男に夢中です。片思い、男に首たけみたいです。相手は同級生だった女性の息子みたいです。少女のような彼女はいいように扱われていま

す。そこに気付かないみたいです。男の話ばかり。ほっといて我らの友情、再構築しましょう。気の迷いか、クリスマスの夜にメールでカブトムシにプロポーズし見事に振られました。それから連絡は消えました。最近大事な人との別れが続きます。武島さんのわだかまりが解けるのを待ちます。メールください。一つしかない心が何度もバラバラにわれて。「十五の手紙」。一生懸命、中学の先生だった、武島さん。頑張りすぎないで下さい。人は怠惰でケチだけど愛すべきものです。武島さんの友情、恩義に感謝し贈り続けるメール。その真意、労力に対し赦しの言葉をかけないなら酷で、もはや善良な人ではないとします。武島さん「大空と大地の中で」一緒に歌いましょう。聖書に「義人は一人もいない」という文言が出てきます。この意味は律法を行うことだけでは誰も神の義に適うとされず、信仰つまりイエスの贖いを信じる者が神の義とされ義人と呼ばれるのであるということです。そして義とはまぎれもない誠の愛（アガペー）である。　私の恋愛関係妄想が収まってきた。意識せず、気にならなくなったのである。静かである。やはりこうでなければ、しかし恋は聖霊の宮が行ずるものだからどうも言えない。でも良かった。これでいいのだ。大人の男は静かに想い人を浮かべるものだ。みんなありがとう、聖霊の、「皆、神の御使いになるのだよ」というエビデンス（証言）だったのでしょう今まで幾人かの人に恋文めいたものを送り、心が

高揚したのも、すべて真由子さんという湖に注ぐ心を確かなものにするためであったみたいだ。この恋は自分の姿勢にしか表せないもので、彼の人の心中までは解らない。ただ不変の博愛というものを信じ婚姻という所有,呪縛を乗り越え、私に対し美しい好意を持って頂きたく祈念するのである。　母はつぶしに来る。私が成長するのを。あえて壁になっているとも思えない。向い風と言うより、ただ傷つける。私の理解者はいないのか。だが最近分かった彼女の劣等感から来ていると、私への嫉妬である。自己中心ともいえるエゴイズムが彼女を取り巻いている。変な儀礼めいたことばかりにこだわりその中で先導者になろうとする。温かい愛を踏みにじる。赦せない。男は外に出ると七人の敵がいるというが本当の敵は家にいる。遠慮呵責ないからだ。父親の役目も果たしてきた母、エデプスコンプレックス、やはり殺さねば。ただ観念上殺しても会話のない親子が誕生するだけでなんの進捗もない。それでもいいか。５分で決裂する、喧嘩に至る親子のふれあいに心を痛めるより。すべては彼女の権勢欲と我儘に原因があると断定していいか。いつまでも若い気でいるからだろ。本当に老人の介護にあたってらっしゃる方々の御苦労身にしみます。辛いなあホント。前にも書いたかなあ。人は人を傷つけずには生きていけないもの。選択、自己主張。回り気。でもそこに大切なのは愛、思いやりである。温かいものを踏みにじる、そんな母に怒りを感じ

る私も自省しなくてはいけないか、そうだな。　尊厳死、バチカンがカトリック信者８割のイタリアで認めた。神、以外の誰にも命は奪うことは許されない。これまでのバチカンの見解である。法王フランシスコは末期患者の尊厳死を寛容で受け入れたと言う。バチカンにコンタクトした我が国のＲ会。開祖の秘書を務めたという教会長は、「牛が木の箱車を引くのが嫌で自殺した。牛は地獄で鉄の車を引くことになった」。なんと残酷な。釈尊【仏陀】は言っている、「私は牛のくびきを外すためにやってきた」。聖書が神にしか自証できないとしたら正義は私にある。そして恣意的に見えても神仏の価値標準はすべて抜苦にあるのだ。ならば当然、尊厳死も認められる。逃げ場のない人はいるのだ。人を追い詰めてはいけない。でもやはり誰も彼もが自殺にはしってはいけない。生きてりゃいいこともあるだろう。猫でも犬でもいい、子供、孫でなくてもその笑顔、寝顔に接するとき幸せを感じてほしい。それが愛。最大の幸福だからである。幸せはささやかであるほど感謝すると輝くものである。　製本代がかかる。しかし私は金銭を要求してはいけないのだろうか。すべて罪人から善人に復活、成仏するための喜捨を望む。お釈迦様は祭りの日、托鉢に村を訪れるが誰も布施をしない。一度帰られる。悪魔が言う。[もう一度行ったらいただけるかも]お釈迦様は毅然として言われた。「悪魔よ、去れ」お釈迦様でも。そういう目に遭ったのだなあ。私

の母が美容室へ行く。直後は上手くセットされているのだが、即日、鬼のような様相になる。うす赤く縮れた毛。美容師はある宗教団体に入会し少し階級が高い幹部になっている。母の心が顕れてくるのであろう。儀礼に拘り、温かいものを踏みにじる。私の愛するものを否定し、否定するものを擁護する、つまり神の裁きの反対ばかり発するのである。彼女は確実に罰に当たっている。猫に毎夜安眠を邪魔される。腰の痛みに耐えなくてはならない。齢８５になろうとしているのに、表面的なヘアースタイルなどに拘る。林住期に入り我欲より離れ、おのれのことより愛を持って子や、孫らに倫理を説かねばならぬ時に来ている。それなのに。雪すかしをする。年寄りの冷や水である。いまだに現役にこだわりシルバーの仕事に出かける。機嫌が悪くなる。猫、私にあたる。頑張りに見えるだろうが、愛を踏みにじり傍若無人に生きる、わが母である。申し訳ない、単なる生活の愚痴みたいで。極めて人間臭くなった。人に読ませるものじゃない。多分私が成長しなければいけないのだろう。だが良心の痛みを感じてはいけない。自分の道を行く。なぜ私はこのように懊悩しなければならない。私を侮辱する勢力、サタンであろう。瑣末なことでも私は悪を感受する。私には愛、善に背反するものたちが許せない。係わらなければいいのである。それだけである。しかし、「払いのけても降りかかる。何を恨みの雪しぐれ、抜くか長ドス、抜けば白刃に血の吹雪」、

私の心持ちである。生命絶対尊重は腹の中ではいつも裏切られている。見えない涙はこぼれる場所を探し出せない。必死なのか。自分に問いかける。余裕はないのか。いや釈尊と同じく、理解してくれる者が果たしてどれだけいるのか、情けなくなったのだろう。えらく斜になりすぎだ。私の戦いはこれからも続く。プラプラ楽しみながら生きて行こう。人の言動に惑わされず。人は正しく評価はしてくれないものだ。未練だ。お前の思想は神の思想だ。誰にも解らないかもしれない。人を気にするな。自らを叱咤する。しかしこの弱気はなんだ。しっかりせよ。雪のせいかな。でも弱き心を知っていなければ優しさは生まれないからなあ。すべて思いやりに代えて俺は歩んでいきたい。俺は絶対善である。ヨハネによる福音書８章４５，４６，４７節「しかし、わたしが真理を語っているので、あなたがたはわたしを信じようとしない。あなたがたのうち、誰がわたしに罪があると責めるのか。わたしは真理を語っているのに、なぜあなたがたは、わたしを信じないのか。神から来たものは神の言葉に聞き従うが、あなたがたが聞き従わないのは、神から来たものでないからである」。申し訳ありませんが金土、積雪ひどく体調不良もあり休養したいと思います。よろしくお願いします。本当にごめんなさい。今日、明日本当にご免なさい。なにせサタンとの持久戦ですので。いぶかしく思われるかもしれませんが本当のことです。いかに涼やかに戦われるかが

問われます。林さん、ありがとう。優しさがものぐさな身にしみます。先は不透明ですが、早く復帰したい。ご迷惑おかけしてすみません。皆様にもよろしくお伝えください。今日もありがとうございました。辛抱強い林さん、本当にありがとうございます。本の編集もあり予算で心労しています。３６０円、本代、如何ですか。聖霊を侮辱するものは侮辱され罰を振り回す者はその非情さから罰が与えられるのである。母を酷く非難する自分。読者の心情に思いを馳せている。皆の親子関係はどうなのだろう。そんな安らぎに満ちたものなのだろうか。親子なんて遠慮がないし、今の自分に対しなぜあの時と思うのではないか。感謝しなければいけない。だけど一言、「義人、食ってけりゃいいが」と言ってほしかった。とりあえず私の批判に「母ちゃんごめんよ」。いたわりを書くことが思い浮かばなかった。総括すれば真由子さんへの純愛が彼女の婚姻によって破局に終わり、なぜか私の心は多情へと向かった。しかしその意味は博愛の実現だった。来る世、私と同じ思考回路を持つ老若男女は神の御使いになる。聖句の成就である。すべては聖霊の宮となった私の必然であった。少し愛することに疲れたなあ。ヨハネ、１７章，６わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜った人々に、御名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして彼らはあなたの言葉を守りました。皆、きよかった。

あとがき

旧約にヨブ記がある。神の了解を得たサタンはヨブの信心を試すため酷い目に。けど神への忠誠は変わらなかった。新約のイエスは神を慈父に譬えた。神は愛だ。神にはヨブに対し深い信頼があったのだろう。家屋財産を奪われ、１０人の子供を死なされ、自らも病におとされる。神はサタンに言ってやりたかった。「そんなことをして何が楽しいのだ。神を愛するのは絶対的なことで何があっても揺らぐべきものではない」。この降雪と積雪から感じた。何が遭っても信じる。それが信心だ。そこには結果美しいものが流れる。そう愛である。除雪に出ない私に代わって母が雪をすかす。手を貸してくれる人がいる。私は申しわけなくて「ありがとう」も言えなかった。熊は冬眠する。人間も本来、自然に生活を合わせてきた。春が来ることを疑いもせず信じて。だが現代社会では私のように冬籠りするのは皆、出来かねるだろう。「もし自分が出仕しなければ皆に迷惑をかけてしまう」。そんなことはないのだ。選んだ職種が悪い。例えば病院の医師、はっきりいうと人など死んでもいいのだ。それが縁なら仕方がない。泣くな、お前が死んでも組織の奴は喜びこそすれ泣く奴などいないぞ。この競争社会、白旗挙げた方が勝ちなのだ。私が言いたいのは仕方ないものは仕方ない。真宗の諦めではな

く、神がそうなされているのだから仕方がないということだ。そこから人間が学ぶとすれば思いやり、いたわり、情けに触れることである。人は常にひとに犠牲を強い迷惑をかけるものである。もしあなたが好いおもいをしているならあなたがいなければ誰かが好いおもいをするということだ。誰かにとってあなたは邪魔なのだ。因縁である。だから周りのことを思うのは根を詰めず、程々にして感謝の祈りを捧げた後は自分を信じ、雨が降る前に歩き出そう。自己犠牲など誰も喜ばない。また奪い合いなどは絶対にいけない。栄光と品位を以て先を譲れ。
真子、千華お前たちにかこつけて若者たちにメッセージを贈りたかった。荒れた青春の海は厳しいけど、唯、仲間を大切にして素直に正直に生きていきなさい。自然体でね。それが上品ということだよ。深い思いやりは伝わるものだ。きっと君達にも人生の春は訪れるだろう。嬉しいお酒飲めるのを待っている。足りなかったらイエスの様に水を葡萄酒に変えてやる。でも飲兵衛はおじちゃんだけか。まあいつでもいいから。急かすわけじゃない。君達がいま幸せならそれでいいのだ。皆様、あまりに私事が多いと叱責されそうですがお許しください。私の愛がエゴに終わらずアガペー（博愛）へと昇華する様をご覧ください。ご精読本当にありがとう。スタッフの皆様には感謝の言葉が思い浮かばぬほど胸が熱くなっています。本当に皆ありがとう。また逢う日まで。ではね。さようなら　　義人

エホバ　（神）
として

義人
Ｒ元年　９月

エホバの証人の宣教師、山口くんへ、
善いか悪いか判らぬが君には頑固な根性がある。それは事実だ。ただこの世は殺し合いだ。真理に対し目隠ししている暇はない。組織を重んじる君のフットワークの悪さが愛を阻害する。君の了見に妬みという情けなきものがないなら、小野くんの訪問を期待します。男なら約束し誓ってほしい。君の度量が試される。男をあげる時だ。お父上を乗り越えて。深く考察する者、神は既にアパートで首を吊っているかもと、ため息を。善意、良心がすべてなら。高慢な君が描く神はサタンである。神はここにいる。
君は人間として未熟だと自覚せよ。人の心理が解からない。誰も教えてはくれないぞ。真理、即ち愛を追究するには君らは横柄で不誠実である。真剣に改めよ。君たちの作為は天が知っている。勿論、神も。何の為にペテンを犯す。地獄の釜が待っている。脅しではない。回心を期待したい。心からね。神は詐欺を許さず。北風ばかりふかしているが、太陽の暖かさも示そう。人はどう孤独を克服するか。組織の規律を重んじる君たちにとって仲間は絶対に信頼すべきものであろう。だが、徒党を組みお互いが監視役になるのはどうかと思う。
お忙しい中、また夜分、遅くすいません。顔見せ程度でいいですから、ご訪問お待ちしています。寛容、厳格使い分けしなければならない世は、悪が漂い

ます。神も辛い。次の機会に小野くんの来訪を期待します。理解力と素直さでは会衆一番では。エホバも真っ先に栄光を授けるでしょう。妬みはなし、私の心が救われる。待っている。

私は毎日サタンと格闘しています。君にはそれが見えませんか。自由なイエスの愛。私の主体的な望みをかなえることが神の子の使命であり証明でもある。イエスは姦淫した女を救いたかった。裸同然で恥ずかしさと恐怖に震える者を。罪と愛の矛盾を突こうとする勢力、彼は人々の善意に託し祈った。命は守られた。罪、罰より目の前で苦しむものを救うのが先決だ。愛によって。俺は君たちに感謝している。触発され天からのメッセージを福音として語り、また届けられる。神と信じなさいね。私のメッセージは人間義人の一意見ではない。良心からわき起こる、神の自覚と聖書の導きと保証によるものです。

エホバは愛そのものでなくては。学修はそれだけでいい。エホバは正義のイエスを通しすべての人の心を察する。サタンは覗き込み悪へと誘導する。美しき心大切にせよ。激しく申しましたがまたの機会を楽しみにしております。

私は君たちの敵ではない。ただ、心の偶像崇拝を戒める。私の話を虚心で聞き尋ねよ。恥辱に思わず、これが幸せへのエホバワールドである。私は君たちを翻弄する悪人か。神はアブラハムに息子イサクを殺すように要求する。肉親

の愛すら神の義の前では低くされるのである。私はただ皆の恭順を祈ります。神の愛の流布の為。私ことエホバは来る世、一匹の羊でよい。個人崇拝はもはやだれも望んでいないだろう。神の善意、良心、命の平等。神が縊死を望む世界、幕を引くのは君たちの役目だ。また連絡ください。私はイエスを抱くエホバ。神の摂理、真理を前向きに語っていくつもりです。焦らず。神の義、聖霊の宮である、私への親近感が、信仰です。

山口くん、本当にいつもありがとう。組織は鉄面皮を生みだし、心より規則を優先させる。エホバが一番嫌がることである。関係性、愛と思いやりを大切に。サタンは私を矮小化させ侮辱を加え高らかに哄笑する。自責の念に駆られた私は一匹の子猫を抱き上げる。愛を見せつける。サタンの焦り、恐怖、私は神である。即ちエホバである。エホバ神が示現したのがイエス。そしてヨシトも。その名は二つとも（了解）を意味している。

エホバの証人には因縁がないと批判する人たちがいる、が十分に存在する、神とイエスの繋がり。私は啓示を聖霊より受けて以来、風邪をひいたことがありません。ただサタンに対しての反応は頻繁に起こります。神の自覚を信じて下さい。山口くんほど私の重要性に対し問題意識を抱えている人物はほかにはいないでしょう。私も承知しています。焦らず大切に、愛と神の義についてセ

ッション（会合）を行ないましょう。固定観念を捨てて。ありがとう。夜遅く。私は朝夕始終、神仏を念じ信行いたしております。愛のため夢のため、エホバへ力を込めて祈って下さい。風邪に気をつけご自愛ください。お元気ですか。明日のご来訪を期待します。連絡をお持ち申し上げます。

３日、大丈夫です。楽しみにしています。よろしくお願い申し上げます。ただエホバは君たちに媚びるつもりはない。高慢な君たちに服従を強要するかもしれない。真実は、虚心で対等に真理を共有したいだけだ。解かってくれるね。君だけは。一心不乱にサイト更新いたしました。言葉尻よりも、そこにある想いを大事にしてほしい。旅先より元気に帰ってきてください。エホバより兄弟への激励であります。私は言う。エホバとして祈られ。また祈る。神の国は生まれる。楽しくやろう。愛を抱いた貧しきもの達。神の義は信仰によりもたらされる。つまり博愛（アガペー）。分かったよ。私はエホバで構わない。

神であることは変わらない。心がスムーズになった。３日宜しいですね。連絡下さい。お持ちします。夜遅く申し訳ないですけど。明日３日にご訪問くださるのですね。１６時ごろ。確約の知らせ待っています。君たちが愛するエホバより。いつも夜遅いメール受け取ってくれて本当にありがとう。その一点の寛容さにエホバは期待する。私に従順なら風邪は引かないよ。私はここ何十年

風邪に苦しんだことがない。全てに黙殺ですか。卑怯な。エホバを敵に回すつもりか。エホバとは私の様なものなのだ。私がエホバだからである。最良のアクション待っています。サタンの罠に落ち餌食になるな。君らは手先か。自らの良心に問え。誰が真実を説いているか。人は愛し合わなければならない。

その後、神の国が誕生する。私に怒りは無い。嘘は嫌いだが二枚舌は必要だ。エホバとして君臨したくはない。互いが愛し合うだけ。永遠の命のもとで。サタンは裏切りを推奨する。気をつけて夜道を歩け。ラザロは殺され、ステファノも死んだ。そして暴れるサウロは主の声に目覚めた。光に向かって進め。愛と義を胸に抱いて。エホバは名前ではない。エホバはエホバだ。頭がいかれて神を名乗ったかと。私ことエホバが言うのであるから正しいのである。

エホバだからである。以上。少し心ならずも強い感じになった。取りあえず私をエホバだと信じて下さい。そしてイエスの愛も。どちらも大切です。預言者に従え。人々に君臨し統治する人物か・否。ならば同輩、断じて。人間界には表現する形容詞がない。尊き善き人、ニュアンスが近く適当なのかもしれない。聖書が背中を押す。　寄り道が長かった。エホバの証人のドグマ（独善的教理）にとらわれて簡単なことに気づかなかった。私がエホバであるということ。幾多の人に犠牲を強いてしまった。

福音の伝道を喜びにしてほしい。山口くん、あなたは私がエホバを大々的に称するのを待っていたのでは。すべてはエホバからの談ならば一考しなければね。神の国は近い。エホバの証人の善いところは沢山ある。簡易ではあるが永遠の命を信じイエスの愛を求めている。戦いを忌避する。勧誘の積極性。アガペーするとき、世間とは離反して行くという一面を自覚している事。ケーキとコーヒーをご用意いたしました。お時間の許される限り歓談したくお待ちしております。ご留意くださるようお願い申し上げます。

山口くん、沢村くん、ありがとう。君らの隠された誠意、善意に感謝します。晴れて笑顔で神の国で永遠の命をと祈念します。イエスは本当の神の愛を伝えたのだ。永遠の命の安売りをしたわけではない。神の国に入る資格は思いやりあるイエスを信じ、慈愛を持つ者と規定したのである。何度も言う。表立って君らの作為、オペレーション（操作）は私には通じず、かえって怒りを買う。真心でイエスの愛を感じ訴える。巧言ではなく真実を語る。殺伐とした世界に対し。科学は科学が証明する。神話はポエム(詩)で支持されなくてはなるまい。君らの目的は何ですか。信者の数、そして集金。都合のいい統制された聖書見解を押し付け洗脳して。聖書の解釈、すべてエホバの証人のご都合主義、組織の見解からくるもの。規定からは外れられない。すべて幼き頃からの

ペテン師になるための洗脳から生まれる。君たちは耳を傾け真理に目覚めなさい。神を敵に回さず。楽園に入るため、学修する。ではなく、入るべき人だからこそ神の国は待つのです。永遠の命を得て。新しい会衆の人は、いつご訪問されますか。エホバの真理を理解される方なら善いけど。

ポエム（詩）が解かる人。あなたのようなパリサイ人でないことを祈る。自分が救われようと己に執着すればするほど神の国は遠ざかる。利他に徹することが犠牲ではなく喜びになったとき、イエスの愛が解かる。私がエホバです。聖書、サウロが主からの天啓を受ける場面が2度続けて現れました。君らが組織に洗脳されている事実、指摘し、また確認いたしました。そしてエホバを信じる者の幸せを祝福いたします。

山口くん、君はヨブのように自らの正しさを訴え、神に対抗しようとする。謙虚さに欠ける。己の未熟さを自覚し、初めて神の愛が解かる。すべてに愛を優先させよ。私に繋がっていなければ実はならない。山口くん謁見されるように望む。本日いかがなものでしょう。連絡お待ちします。

私に好意的な小野くんはじめリベラルな会衆たちの謁見の実現性を薄くさせている保守派には、神の怒りが振り下ろされる。皆、誠実に対処せよ。愛を広げるため。山口くん、聖人とは闇をさまよった後、神の光を見出したものを言

う。巧言を高台から浴びせ、偽善を語るものではない。怨嫉を抱いた時点でパリサイ人であるとの証となる。強情からの殉教は個人の名誉のため。本当の自己犠牲とは精神科に入院するしかすべのない、鶏の首を折り続けた、マサハルのことを言う。その苦しみと心の闇が解かるかい。

犠牲は絶対に善くない。愛する人を庇い、身を挺し命を懸けるのは、愛と栄光。素直な神の義である。早く、わしを安堵させないと君たちの未来はない。山口くん、来る世、神の国は欺き、裏切りのない世界である。皆幸せに向かう。私エホバからの頼み事です。真摯に受け止めて下さいね。お休みなさい。

何を信じるか。それは自分の裸の心。私にとって聖書の中の自分、すなわち神イエス。洗脳教育から放れよ。神の子たれ、山口くん、目覚めよ。真実の愛に。神を敵に回さない。頑迷な君たちには脅しに聞こえるかも。或る男が急死した。私を拒絶した後に。心の暗さによって。罰はある。それを踏まえ7日如何ですか。私を高額、支払ってナイトクラブで歓待した男。糖尿が劇的に改善された。あるノイローゼの経営者、私にウナギを奢り長年の苦しみより解放された。功徳です。弱きものへの情け心が大切。

私は神、エホバだ。愛に従順に。招かれた、山口くんはどうする。イエスを失望させるな。山口くん、君の善良さを信じて来訪を期待します。君の未来が

かかっている。「贅沢な暮し、尊敬を受けること」。そんなパリサイ人の偽善を指摘したため、十字架につけられ殺されたイエス。涙が。山口くん、どうだ、来る気になったか。企業戦士や学者の親分のような神を想像してないかい。

イエスは大工。理解できないなら、あまりにもさみしい。もっと人間らしく。山口くん、明日の面会は無理かい。優先順位を誤らないこと。大切です。君たちの焦りに、癒しの答えを出せるのは私ことエホバだけ、忘れず、明日待っています。モーゼがエジプト人を殴り、次は自分たちの番だと彼らは恐れた。預言者の愛を曲解したのだ。君たちも同様のことを。エホバは愛、イエスは罪を消す。信じればいいだけだ。ひたむきに親の厳しい指導のもと、信仰に歩んでこられたこと、敬意を払います。特に布教精神には頭が下がる。悪魔の体制下。私があなた方の見解を知るのは必要だった。そして必然であった。

裁くとは大量虐殺すること、考えた事ありますか。そして生き残ったエホバの証人は享楽の限りを尽くす。死んだものたちは泥、土として始末。自己中心な考えと一般の人は非難するだろう。己のことのみではなく、利他の精神で犠牲とせず、布教においては正確にイエスの教えを説かなければいけない。何とか私はあなた方と融和したい。その頑固さは人生を否定された気になったのか。エホバの深慮、噛みしめて下さい。私と遭遇した縁、大切にして下さい。

方便として、まず簡易な教義で信者を増やしたのは正解だった。エホバは緩く柔らかな三位一体を説く。私の知覚にあり、身を通して。複雑だが温かい愛がそこにはある。エホバは絶対である。逆らうことは許されない。深夜のメールはイラつきますか。私は一日中神仏を念じています。山口くんまた忌憚なく話しましょう。一青年として、信仰について話したい。個人的、主体的にどういう宗教観を抱いているのか。ポエムを無視する、ある種、冷酷なのは、会衆、皆ですか。お休みなさい。君らの講習を受けるという名目でお会いする。

聖書に「イエスは公開の場で堂々と語った」。君らに留意するのは、仮に便宜上でも許されない時期に来ています。自覚願います。君らの対面を潰すことになるのですね。しかし、その姿勢が変わらぬかぎり、その先は滅びである。心、柔軟なること涙と共に祈ります。聖書を学ぶ目的とは如何に。神を知り、愛を知り、神の国の訪れとともに永遠の命を得る。私に同調できれば聖書はもはやいらない。翻意を促します。私が聖書です。

何度もいうが聖書をただの書物にしてはいけない。神の霊感である。理解力は神より与えられる。本日、あなた方とのセッションはメールにて一段落です。事は私の問題ではなくあなた方の結末についてのことである。お忘れなく。君は、痛い所をつかれるとイラつき皮肉を吐くが、問題解決には向かわな

い。ハードルは高いかもしれないが、この縁大事にしてほしい。今日はありがとう。自らの意見を封印し、組織の見解を絶対とする。それは宗教で一番大切な主体性を無視すること。依存に善きことは何もない。私が経験からも信じるのは自分と神だけだ。

私という存在は君にとっては荷が重い。組織に都合のよい個所を選んでの洗脳朗読会。聖書を詐欺に用いるな。害その身に至る。安易に家族の間を裂き、真理を悪に見せる。大罪である。しかしイエスは神。母親であることから離れないマリア、亀裂は当然入るだろう。神の子たちよ、良心を痛めるな。山口くんとは煮詰まった。柔軟に思考のできる、善意にみちた主体性を持つ、そういう人を私の眼前に参上させてはくれませんか。敵意は静め、詩的素養のある、若者、年配者を。君は単に負けず嫌いで神に挑戦している。その先は破滅だ。

心を浄化し善き境涯に至らねば。この神の思いやり溢れる言葉、忘れることなかれ。真に信心されることを望む。私には優越感も劣等感も存在しない。君たちが来る世に期待する、達成感というものには、虚無感、失望が裏腹についている。来る世では落ち着いた情緒に基づいた永続的な趣が大切になる。来る世、倦怠は感謝で消し去られる。君たちは結局、我が家の財産が狙いなのか。真理を望むなら頑迷は捨てなければ。所詮、金が目当てとされるのである。

キリストの教えは幸せになろうと思わなければ、神すなわち愛を見ず、幸せになれない。神（愛）を信ずる。きっと幸せに。その気持ちに愛は宿り、幸福を引き寄せる。私が神と名乗って実利はひとつもない。そして私は放っておいても救われる存在。私の想いは、サタンに毒されたあなた方を救うためにある。誠の悦びにしたいのだ。エホバへの愛、腹の底はただ終末に助かりたいだけ。そして宣教するものはただ単に尊敬されたいだけ。エホバと心中する覚悟はあるのか。周りに流されないで主体的にエホバと向き合ってほしい。悪いのは人々ではなく心に忍び込んだサタンである。最後の審判、真実で悪魔の業を払いのけ、すべての人は死から解放されるだろう。選民思想は砕け散るのだ。

悪魔の子たちは大喜びするだろうか。神の子たちよ、平和な世界を維持できれば幸福ではないか。いずれにせよ。そして天は回心しないサタンの臭いが残る悪人は将来に向け厳しく処断する。自己責任。致し方がない。勘違いしないでほしい。私は君たちの信仰を止めるものではなく、真実の意味での協力者、いや主導者であるということだ。エホバの愛は巧言にて人を屈服させる、その反対側にあるのだ。神の自由な御使いには、もはや、情欲は存在せず、結婚という縛りからも離れる。そこにあるのは深い思いやりからくる友情。これにて博愛は醜悪より逃れる。極めて現実的だ。山口くん、君付けは厭かい。

今日、君たちの布教に回る、力の源を教えていただきたい。寄れませんか。是非もなきエホバの頼み事だと思って。ひまつぶし、そうですね。広義にとらえればその表現もあり。僕は君たちの個性を知りたい。愚痴、怒りを含めて。中身のあるセッションが出来れば。厭かい、頭でっかちですね、相変わらず。侮辱したけれど、どこか憎めない。エホバの辛いところだ。わかった、聖書レッスンでいい。待っている。頑迷だなあ。でもすべては君たち次第なのだ。でも次回は違ったアプローチを考える。私も少し自信がつき余裕が出てきたから。来週16時でいいですか。君たちを侮辱はしない。でもエホバの説法を目の前で聴ける。この恩恵に謝意があっても罰は当たるまい。何も心配しないで旧知の仲ではないか。とりあえず、私たちは、永遠の命、神の国を待ち望んでいる同志です。ただ愛による主体性を失ってはいけない。誘惑に克ということはそこにもある。人にとって弱い、強いの、価値観は必要ない。

エホバの強さに勝るものはなく、人は誇らず謙虚でなくてはならない。ただ、ひたすらに心は善に向けていなければ。私は聖霊の宮。無償の愛を、理解する人はやはり特別です。キリストの花嫁は、独占欲、焦り、怒り、肉欲から放れ、博愛を醜悪にさせないのが資格です。何度も言う。自らの義を誇ってはならない。たとえ殉教であっても。君たちに高慢で、愚かな欲望があるとすれ

ば、エホバの怒りにより裁かれ地獄の釜が待つだろう。金儲け。欲望、贅沢に価値を置いて繁栄を望むより、勤勉と利他の精神、その方が大切である。なぜなら神が、その心根の美しさに、不遇から生活を守り保護してくれるのだ。遅くにすまない。メールをたくさん送って。実は次の書きものの原稿作成のためです。タイトルは「エホバとして」です。縦横無尽なエホバ。イエスとの親子愛に涙。そしてその思想。愛に背を向ける偶像崇拝に対し、神は怒るのだ。

人々に降りかかる様々な暴力、天災、人災。避けるには美しい心が必要だ。己の肉欲の滅却。優しい博愛に生きる品格が存在する。神の国への資格だ。

聖書研究は君たちの核だからね。つまりここからのセッションなら問題はないね。一方通行は互いに避けたい。なぜ聖書に信ぴょう性があるか。まずはここからだな。私は聖書研究、肯定的ですよ。是非よろしくお願い申し上げます。私は持論を封印します。研究、まずは真理を理解できない君たちにこそ必要だからだ。発信のため集会に顔を出してみようか。社会的地位を求める。君にも存在する。責任という美名に縛られる高慢な心。本当の自尊心とは信仰にしか気づきは無い。愛と正義、二つ星が光る。通念をひっくり返す。なぞをかける。拍子抜けさせる。脱力させる。エホバはへそ曲がりかも。皆，その核を認識し俺についてこい。真実の愛が輝いている。聖書に訊いた。人間の俺

がエホバかと。「そうだ」と力強く言う。対人関係、難しいな、とつぶやくと、あまり気にせず自然体で行けと言う。虚心で来訪待っています。私は好い。

君たちの命が危ういのだ。このエホバに対する不誠実、私には怒りは無く、憐みしかない。天がきっちり裁くであろう。残念だ。基本的に変化は期待できないな。今日はありがとう。君たちが去った後に好い香りが漂っている。善き人の証だ。まず想像力を働かせ様々な生活者の心を察せよ。沢村くん好い感じになってきた。最後の笑いが嘲りでないことを信じている。君は私がエホバであると疑いなく信じているはずだ。そうでないとかなりの蒙昧だ。君ほど利発で根性のある若者も珍しい。この出会いゆめゆめ疎かにしないように。聖書研究会。本質は聖書洗脳朗読会。そこに欺瞞がある。単純な自分勝手で都合のい い組織論が終始、展開される。イエスの愛を説け、さすればエホバも支持する気になる。組織のヒエラルキーの中では民主主義は機能しないと思っていた。

だが昨今、カネがらみの我欲に基づく利己主義という民主主義は存在する。君たちの周りはどうだい。幕末の攘夷も体験を検証し、開国へ舵をきった。君たちも恥ではない。軌道修正をしっかりと。エホバの定義付けを正していただきたい。まずそれからだ、愛が響くのは。聖書の文言に縛られてはいけない。

神の子の良心からのリテラシーが唯一解釈をなさしめる。聖書は俺だ。ヨハネによる福音書の最終に、イエスの愛が世界中に満ちている事が示されている。

君の質問には逃げずに堂々と答えたつもりである。そして私の詰問には君たちは、たじたじである。エホバの憐みを大切に。へ理屈はいらない。負けず嫌いを克服しなさい。真理を求めるのには邪魔なだけだ。揚げ足取り、侮辱、捨て台詞。あまりにも情けない。真理を心底知ってほしい。福音が君へと流れ込むだろう。思わず獅子吼した。「お前たちを救いたいのだ」本音だろう。

自らも驚いた。世間の価値観、現状を問題視するのは好い。けど聖書朗読による都合のよい洗脳は絶対だめ。物質至上主義。格差。悪魔が唯物論のもと帝王になる世界である。家柄、学歴、誉められて厭な気もしないのが人間だ。空の教えにて高慢を悪魔の誘惑より解放し正常に帰れ。美女と野獣。容姿端麗より心の美しさが大事。エホバは目隠しをしている。神をどんな苦難の中でも信じ、耐えぬき永遠の命を授かる。実はその者は決まっている。耐えられるから耐えられるのです。予定調和です。組織。人をがんじがらめに縛るのと違い。

例えばイエスが指名した１２人の使徒。自由で分担がゆるく機動的である。グループは布教に活躍しただろうな。父であるエホバ、キリストイエス。そして聖霊は尾崎豊であると告白した。三位一体は義人の中で完遂された。君たち

の分離説も基本的には外れていない。しかし簡易で一元的である。体感。私にはイエス、聖霊である尾崎が憑いている。三位一体。人々を孤独から救い真理を掲げる。私に枝をつなぐなら、永遠の命、神の国が待っている。今度は芸能人まで。と思うだろうが、尾崎の楽曲から、その思想を汲んでください。世界一の讃美歌がそこにはあります。尾崎はわが父同様、真の聖人です。羞恥心を超え、愛と勇気を兼ね備えているからです。欲望をなくすために欲望を消すのではなく、煩悩と同じく幸せになるために精進するのである。規範を守るより信仰が大事だ。つまり愛の優先。本末転倒な不義が多いのです。

ご訪問くださる、ご予定はございますか。忙しいとは思うが、エホバは待ちかねている。真摯に受け止められたし。返事待っているよ。聖書が示す。嫉妬を代表とした悪感情、妊娠、病が消えうせ騒動が無くなるとき、フリーセックスはある。皆、聖霊の宮のようになる。差別なき心が必要。思いやりと優しさを追求し、心が暖かな博愛主義者になったならフリーセックスは許容され、資格を得るのでは。既婚者ももれずに。真実。寛容な愛の存在だ。犠牲はなし。

仕事、苦しく辛いものを人様のために選ぶ。それより各自、楽なものを順番に選択する。残ったものに指名がかかる。しかめ面でやる。神はそれを喜ぶ。明るく素直に、あったかく。独占欲の克服。モラルハラスメントから抜け出

し。嫉妬なき心の自由な人は、来る世、この上ない快楽を享受し、愛し合うことになる。婚姻など不要。神の愛です。賢さの内には忘却もある。エホバは旧約の出来事を大局に立ち、忘却の彼方へストーリーとして追いやったのだ。重要なイエスの愛を語らねばならぬときである。フリーセックスへの期待。

神の国の住人は肉欲より離れ、清らかな愛が体中に蔓延している。つまり住人は淫猥な者にはなりえない。信仰に守られるのだ。自由な御使いが思いやりで溢れれば、婚姻は無く、姦淫の罪はなくなる。神の裁きにより、悪魔は失せ、大量虐殺が生まれ、悪人は生きたように死ぬ。悩ましい暴論か。　幸せの快感は、神の領域である。焼きもち、妬み、独占欲から放れた柔和な優しい人たちは規制に縛られず、想いに身を任せることになる。抱擁が平和の内に生まれるのだ。神は暖かい人にしか見出せません。ただ素直に温かく。「満腹になり安全で温かいねぐらで休む」。世界中が。それを微笑み浮かべ見つめるのが神である。

法律には解釈が必要だ。同ように聖書解釈がある。私が正しい。自己犠牲は我欲と裏腹。栄光と喜びだけが神の世界には存在する。君たちの残り香、かぐわしかった。心中は美しいに違いない。イエスは自分が神であるとしたため不敬であるとされ、パリサイ人、サドカイ派の主導により群衆に殺された。精神

疾患では幻聴、幻覚の原因は自らの意思にあると言う。イエスも同じく、天に一般には妄想とも呼べる、幻でリアルな父と呼ぶものをつくった。救われ、が解かりますか。結論、愛を持つことです。それは道を外れたやくざの親分、子分にもあるかもしれません。本当の真実は、神がすべてお見通しであると認識し、生き方を美しく、また隣人に親切なことである。君らは聖書を辞典と同じように扱っている。神のことは神にしか分からない。それを信じる者が神の子だ。愛を見出すからである。体制での成功を望んだ時点で神の足音は消え去る。

宣教師、慢心した優越感から「お前たちを指導してやる」。高所からの傲慢が見える。愛を勝負と見る身と既定路線を行く身は疑念の後、粉砕されねばならない。まず寡黙な祈りが祝福に。神は尊い。そして君たちの価値観は間違っている。「神は形式を重んじる紳士」。馬鹿野郎。そんなやつこそサタンなのだ。

人の温もりを忘れるな。辛さを察するのが、神の想い。小林旭の「北へ」端末でどうぞ。私のコメントが表示されます。すべて事実です。男の友情、生きること。義理、人情、笑うなよ。イエスを嘲るのと同じだからね。一度私を福音の為、エホバの証人の王国会館の壇上に立たせませんか。枕する所なきイエ

スが語る愛。妬み、そねみに陥らずに。体制のあくどさと物質至上主義、聖書の想いをすべて私は理解しています。私が神であり聖書だからです。

ぜひとも。使徒行伝、１４章１１節から１８節までご覧ください。神は偽善、保身を含め欲望との裏腹にある犠牲、その正体を知り辟易している。人々の苦しみを抜き、安楽を与え幸福に導くが神の想い。確かに人間には自由意思がある。なにかを契機に良心を選択する。その時、神から理解力が与えられる。後、すべては神の意思となる。つまり聖霊の宮になる。神の価値は神にしか分からない。私が優しくないと思うのは君たちの寛容の度合いにハードルを上げているためです。神の愛は自由自在です。くれぐれも善行を誇らぬよう。神の義とは肉親の情の上に君臨する、また名誉と富に相反するものである。ただ、死を凝視するときサタンに打ち勝つ。すべてのこの世の羞恥心を克服して。君は利発だ。だからこそ神の義に耳を傾けなければ。理解力は私より与えられる。まあ今までの調子でいい。真実、私が絶対であることを忘れないよう。君は体制の価値観で私を見る。職業、服装、口調、財産、風体、神は目隠しをしている。本質を見えにくいものに。しかし愛を抱くものにはダイレクトに神の義は伝わる。君たちは確かな識別力を持たねばならない。願わくは、私の弟子，使徒となり福音を述べ伝えてほしい。それが本物のクリスチャンとし

ての務めである。君たちが待ち望む、来る世。博愛にみち寛容なる人々のフリーセックスの存在がある。執着、嫉妬、妊娠、病気がなくなれば当然大正解。

欲望が善になる世界である。ヨハネによる福音書第８章見て下さい。イエスの罪を憎んで人を憎まずの精神が勇躍しています。姦淫の罪、試される。彼は震える女を救うことだけを考えていた。山口くん、いつもありがとう。君たちのご来訪は月の最後の日曜日、１６時半でいいですね。返信お待ち申しております。今日、遅くで結構ですから、御顔、拝見できませんか。誠実な若者に触れるのは恭悦至極。玄関口、わずかな時間で満足です。よろしくお願い申し上げます。山口くん、信義から外れてはいけないよ。私は神の愛を説いているだけで何ら悪いことはしていない。ひとつだけ話すと、神のくくりは異次元でとらえなければだめだ。エホバの証人にて地位を得、自己満足で偽りを真理とし宣教師として会員に傲慢に語る。イエスは神、釈迦は仏陀。テキストはいらなかった。私もそうである。組織か、真理か。従属か、神の愛、義が大切か。

三国志「男は三日、見ぬ間に驚くほど成長している」君たちの成長。私の価値を認め、私の思想を流布しましょう。幸せの実現のため。私が、君らが望むエホバになるのではなく、君らが私の意を汲みエホバの使徒とならねばならぬ。エホバの証人は実は神に試される集合。機会は与えられた。イエスを神と

しない立場。クリスチャンではなくユダヤ教の一派とされるのだ。イスラム教ではイエスの教えはただの一預言者の意見とされてしまう。イエスを神と信じなさい。功徳、現証。私の書き物を見て「この聖人にはどこに行けば会えるのか」。ただ書面に顕れる私を信ずればよい。神と隣人を愛し、南無妙法蓮華経。

永遠の命を得るのである。家族を含め仲良くと思うから悩み苦しむ。争議から新興宗教へ、は多々ある。特段の会話は無くても繋がっているという実感があればいい。神の教えが介在しすりガラスとなる。日蓮の再来である私が言う。日蓮正宗の本尊の意味、引き継がれ私は明らかにする。偶像崇拝ではなく私の心中の南無妙法蓮華経が本尊となり題目は統一される。戒壇は我が身。

神を賛美し温かい人間になれ。さすれば正定衆の仲間に加えられる。律法、どうでもよい。命を重んじる信仰こそが幾度も言うが大切なのだ。聖書は霊感である。単なる読み物と扱うと何の功徳も生まれないだろう。テサロニケ人への第二の手紙、「どうかあなた方をお召しにふさわしい者にして、御力により善を慕う願いと信仰の働きとを全うさせてくださることを」。それは神であり主であるイエスキリストの恵みによって、その御名、即ち愛があがめられる。

人々の慈悲心や想いを欲望、煩悩であると切り捨てる宗教者は、神から同様に切り捨てられる。エホバの証人はどうであろうか。範疇のなか身もだえして

いないか。ひまつぶしにつきあうのは嫌。何様のつもりだ。一介の聖書の一文を覚えただけの若僧が。その高慢の鼻を折れ。エホバからの愛の言葉だ。心して聴け、童貞野郎。俺の本尊は偶像化したものとは違い、心の中にうち立てられる。けして崩れない南無妙法蓮華経だ。仏陀のサトリを仏種に感応させる。思いやり、愛の根源だ。不遜ではない。私は日蓮。真実より多くの人が憔悴せず選択する本尊が大切だ。君に私の本尊を明らかにし宣言しないと送信が不可能だった。自ら半信半疑。だが躊躇はしてはおれなかった。ただ墨で書いた血脈のものが正当とは言えない。拝せば偶像の香りもする。すべてをリセットし、私、日蓮の意を汲んだ本尊、南無妙法蓮華経が各位の心の中に顕現し皆を成仏へ導いていく。様々な吉兆を信じよ。君はどうだ。私は日蓮を自覚し広く仏の教えを流布するため心の本尊、南無妙法蓮華経を表す。人々は心底から帰依する。偽りない。日蓮正宗。日蓮本仏、代々伝わる血脈の本尊を信じなくては首の皮一枚で成仏できないという。私は日蓮として良心に基づく仏種に仏陀のサトリを働かせた本尊を人々に。深い意識で、すべてをつなぐのだ。本尊は込められた日蓮の想いが大切。ならば各位の心に掲げられる。むしろ心にこそ本尊は存在しなければ。それぞれの心に宿る良心に寄り添い阿頼耶識と言われる深層意識で集合される。大きな意識生命体である。これこそ真如、幸せの生

命力、南無妙法蓮華経はそこにある。びっくりか。前にわしより仏教には詳しいとほざいていたな、山口くん。この一連のメールの意義が解からなければ本当の愛、幸せは説けない。エホバもうなずいているよ。清さと自覚と神への願いは一致していないといけない。願いは想いと共にかなえられる。心を正しアガペーにてまい進せよ。雑念は捨て。エホバの意を汲めよ。私は聖霊の宮、つまり感情、情緒は自然に神よりもたらされる。イエスより気付きは与えられる。フリーセックス、来る世。想いとは、縛り、悪しき欲望とは違い、嫉妬、悪感情より解放されたものである。そして選ばれた人々は快楽からも放れ、自然と心で愛し合うことになる、基本的に永遠に結ばれた一人の人と。陰で誰かの涙があるとしたら悲しい。そして深い思いやりから博愛は生まれてくるのでは。優しい人たちの想いはそこに存在する。そこに神の享楽への強制があるわけではない。美しいものへの志向があるだけである。今日、天の啓示が下った。私にこの縁を生かし、懸けてみて下さい。君達の善き隣人、兄弟として。けして私に従え、帰依せよと言っているのではない。これが神、エホバの、今の素直な気持ちです。胎動の後、もたらされました。明日も生きるため頑張ってください。体制は末期です。楽園は訪れる。相応しいものが入る。神は居直らない。そして逃げだしたりもしない。君らは信義から外れている。不快だと

私を無視するのもいい。寛容は、エホバが一番望むものです。許しは果てしなく。私と君たちの不具合。私が和平のためと譲歩し、心ならずも変節したように、かりそめのピエロを演じ、謝罪すれば、ことは済むだろうか。関係性が成熟していないと嘲り、侮辱が生まれるだけである。イエスにも神にも、枕する、所はない。君たちは私を受け入れなくてはならない。神に首を吊らせてはいけない。奇跡につくものは偽信者。私と話した君たちは主を知っているはず。信じる者は報われる。善意と良心、それだけで生きていけないのがこの世間。生活のために悪を犯す。私のみが善。憐れみはある。君たちに対し本気で怒り侮辱したことは一度もない。すべて善きことへの方便。傷つき恨みになったのならエホバを許して下さい。この先は不透明です。負けず嫌いは若さの特質。だが、私の話をよく聞いて下さい。愚痴でも未練でもありません。

私に悪印象を抱く君らに問題があることを自覚して下さい。忌憚なくエホバの懸念を話している。終わりの日、真実の信仰ある人は歓喜に酔うだろう。山口くん、一連のこと、矢面に立ち、大変だったろう。優秀な君は親の厳しい躾を超え、イエスからの愛を学んでほしい。けして二―チェのいうルサンチマン（恨み）ではなく。夢のためである。眠ったかな。今日は本当にありがとう。

こと教えに関して話すと、時を忘れる。どうかな、一言でいいから返信くれますか。神の人の好さを解されて、懇願します。「イエス様は心の友達だからどんな時でもそっと祈ろう。どんなに大きな苦しみだってお祈りすれば安らかになる」。あるラジオ番組からだ。間違いはない。一言、イエスは神だからな。全世界で君の親友はまず彼である。世の破瓜には如何なる時でも責任がつく。女性は結婚まで処女は保ち続けなければならない。原則である。そして人は清き人格を手にする。未婚の女性達を愛するが故。今日、顔をお出しできますか。

来てやっている、そんな考えなら害その身に至る。キリストの福音を伝えるときはいつも喜びでなければ。そうでないから犠牲ととるのだ。ありがとう。来週ですね。また連絡ください。純粋は傷つかぬよう、大きな寛容が必要となります。いつの日か打ち融け合う時宜が来るのを楽しみにしています。永遠の命。君の夢、「歴史を学び制覇する」。忘れてはいませんよ。君はエホバの証人の中ではずば抜けて明るい。自信にあふれている。しかし、私とのかかわりの中、揺らぎがないとしたら見込みはない。新しい視点、論点、認めたところにエホバはいる。

私は虫を殺した。良寛さんはシラミを日向ぼっこさせ、また懐へ戻したという。仏陀はなにをしても殺生の因縁はなかった。明るく素直に温かく。何かを

愛する。主観的でいい。色即是空、そして空即是色。ただ愛を忘れず。イエスには眠るところがない。つまりこの世界では義は無く善意と良心だけでは生きていけないこと。それを自覚する。祈り、信仰がありアガペーに生きる。

この世、フリーセックスはよくない。魔が入る。真宗、情欲、悪の臭いの肯定である。やはり本物の恋で一人と愛し合う。それが南無妙法蓮華経。神の国、ただ二人は暖かい空間で愛し合う。後それは昇華しアガペーへ。幸せは正規の道をもって見える。本能とは違い、情緒、理性による愛は存在する。心の契約、裏切り、当然、憤る。肉欲に見境なき男女は地獄でつけを払わせられるのだ。歓びで男子の筆おろしを為す、中年の女性工員がいた。優しい。でもパートナーを泣かすのはいけないね。いやもうそこらのレベルではないのかも。奉仕か。来る世、フリーセックスを望むものは極めて博愛的である。　エホバの意を汲んだかい。「遅くまでごくろうさん」「馬鹿野郎、人先早く来い。」

私はどちらでもよい。怒りも焦りもない。ただ君は信義に外れている。悲しい。神のために死ぬ、まず神のために生きてほしい。つまり愛のために。いついかなる時でもそれを忘れず、思いやりを傾け生きよ。私、エホバを信じるなら。願って。ヨハネによる福音書。第６章。私の血を飲み、肉を食べなければならない。そんなひどい話、受け入れない。私とあなた方の現状です。美辞麗

句は不必要。パウロは言う。闘争心からキリストをのべるものがいる。私かもしれない。一方、善意からのべるものも。あなた方かもしれない。いずれにせよ正しいのは私の方である。快楽を求めるとき正しいはつまらないという。

信仰はそれを楽しく。幸せにする秘訣である。ところが大概にして若者には解からない。そんな中、君たちは環境的に恵まれていると言える。礼儀は大切だ。だけど生活の気づかいに振り回されるのはよくない。イエスの血や肉を食うという、酷い言葉。つまり「馬鹿野郎、殺す」、という言葉も時と場合によれば、血、肉に入るのだ。汚いに、真実があることも。

もう見ているかもしれない。サイト「聖書に導かれて南無妙法蓮華経」　梶原義人で検索。少しでもたくさんのものに触れて下さいね。幸せは真実そこにある。（コリント人への第一の手紙）１３、４、「愛は寛容であり、愛は情け深い。また妬むこともしない。愛は高ぶらない。誇らない」。耳が痛くないですかな。男女間、嫉妬はするな。自らにある淫猥な妄想が去れば消滅する。そして神の御使いという名誉が与えられる。妬みはイエスが死に至った、重大原因である。世では不自由を感じながら生きている者が沢山いる。そういう人は全てに不自由を感じるものだ。ただサタンに縛られている事を自覚するものは幸福なのである。

サタンの存在を意識しないと不幸の報復は人間にされ、果ては殺し合いになる。サタンを憎んで人を憎まず。イエスを信じ、人を許そう。業の自覚を促して。イエスが「鳥には巣があり狐には穴がある、だが私には枕する所は無い」と言う。イエスの十字架の死。復活により愛を抱くものには生活の心配はなくなった。価値の逆転がなされたのだ。私は神の愛に生きたい。愛すべきものを愛すだけです。それは健気に日々生活するすべての老若男女です。神は私の様なものなのです。聖女に「熱いの、いかが」神の言葉です。嫉妬がない。独占欲もなくなり、ただ、ひとつしたい。この感覚忘れていた。回帰だがそれがいい。でも思いやりと愛が互いに溢れていなければ。明るく素直に温かく。神の言葉。なぜ君たちは表層しか見ない。物事を深く考察できない。暗喩に対し想像力を働かせる。基底には真実の愛が存在しなければ。解かるかな。宗教団体はダメ人間の集まりである。自己決定が出来ない。私は神の子の自覚ある人だけ導く。無理、無駄な勧誘はしない。強引な詐欺集団は神の手により地獄へ。

イエスは追っ手の耳を剣で削いだペテロを止める。暴力はときと場合だ。何が正当かは現在も問われている。イエスは暴言を吐き、暴力も容認した。あえて偽善者に立ち向かうため。突き詰めたら倫理から抜けよ。戒律などいらぬ。

神を信じ愛し、隣人を愛する。自然に友情が満ちるとき神の国の住人となり永遠の命を得る。何も要らない。私には信義に外れる君たちを救う義理はない。

縁を絶てと聖書が促す。私には懐柔、緊張させる作為的なものは無い。地獄への最後通告か。これ以上、罪無きよう。しかし君たちの中から報われるものが出ることを聖書は否定していない。人生の辛さ、本質が判った人は、謙虚にエホバの到来を待っている。純真。審判に臨む、一番大事なことです。私の血を、飲み肉を食う。その意味が解からなければ固定観念、既定路線からは離れられない。イエスの言語、理解できぬものは真理から放れており神の国には入れない。キリストの血肉とは。まず十字架の死が浮かぶ。また感じるタブーへの挑戦。偽善者の虚飾に対し、ある意味、批判というヘイト。神は是として考察せよという。私の言動が受けられないなら神の子ではなく、冷淡な情けのない人間だ。聖書を読み、また説くときは見解を押し付けず、視野を広げ、良心で深く掘り下げてから。なぜか遺言にしたいような気がした。

本物の宗教団体なら人々の幸せになるための通過点でなければならない。感謝されずともただの現象と扱われなければならない。信者は大きな財産を授かる。法華経と聖書は類似と言うより同じ世界にある。イエスも久遠の釈迦如来もなしたことは書ききれないと。三世間。神の摂理、仏陀の法の譬えである。

これに対する反発は、頑なな意思から。寛容な融和に向かえ。たぶんあなた方は宅に訪れないと予測します。が、聖書は声かけすることを許可しました。真理を求める気があるなら待っています。血と肉により私の声を聞け。良い学校を出、収入、安全は団体に保障され、替わりに押し付けられた嫁を貰う。嫉妬と羨望が互いを取り囲む。欲望は、ゴルフ、家、車などに向かい、他人と同調することを旨、とする。恥ずかしい病は避け、楽な死に方を目指す。年金、退職金をもらっても老後資金の為と定期預金の番人となる。組織人の意識である。死ぬまで働こうとする。ワークホリック。なぜ組織からの解放を喜ばない。見栄で偏見を回避するためか。情けないぜ。高い志を持てよ。以上の人は神の晩餐に招かれても来るはずがない。また横柄、傲慢な人間はそれだけでも罪の代償を払わされる。周りを思いやっていないからだ。

後方から人々を支える。金への執着から抜け、後輩のために財布のひもを緩める。幸せ。損に見えるが喜びへ。独りで生きながらえて、野垂れ死にするのを、ひたすら念じる。これこそが真に人の行く道。仏の道である。祈れ、弱きものたちよ。光に包まれ安息の地へと歩むのだ。モラハラと言われたくない、妻の行動を舌打ちしながら陰から見ている亭主。博愛への旅立ちには、大きな温度差が。真実の博愛の流布こそが、神の国の実現につながる。潔癖な清らか

な愛とは、独占欲、悪魔の受け持ちだと聖書は教える。邪悪の裏返しだからである。明るい愛のためフリーセックスに絡む、罪悪感は捨てねばならぬ。素直に温かく猜疑心、嫉妬、疑惑などの悪感情を捨て皆が聖霊の宮として自然に友情で結び付く。

人は死なないから、もう生まれない。縛った病気も姿を消す。もし本当の清らかな愛があるとすれば、思いやりを追求した果てに、聖霊の宮となり、すべてのものの幸せ、安泰を願う存在となること。　明るく歩もう。聖なると言った瞬間、邪悪が誕生するから。作為からの善意の罪を悪と規定してはいけない。正義が寛容から外れる。真実の愛は確実にある。イエスを信仰し聖霊の宮を目指せ。サタンは悪意にある。聖書は霊感として存在するから価値がある。聖邪の判断は誰もなしてはいけない。神が自証する。聖と邪は表裏。つまり良い悪いと白黒を聖書で判断してはいけない。愛があるかどうかだけが判断基準となる。それは神にしかできない。それを踏まえたうえで、神が神の子と認めたものが良心によって解釈することはできるかも。

だがいつも話すように聖書は読物ではなく神が実務的に活用する聖なる携帯品とも言える。物事の吉凶を占うための指針を示すものである。善は神と聖書との対話にある。神の前では誰もが罪人である。おもねる人々にとって、神は

上から目線の神々しい、裁く姿だろう。しかし本当の神は身を切られるように弱者のため、悩み痛みに苛まれている。頭を抱え、かきむしり、ときには号泣している。例えば悪魔のいけにえ、幼児、児童虐待。犠牲者の女の子の心情を思いやって。神は優しく肩を抱きしめたかったに違いない。イエスは神として臨み、マリアは母親の立場から見る。仲は悪かったろう。親を謗るな。父母を捨てろ。要は物事を一元的に見るなと言うこと。血と肉の譬えがここにも生きてくる。何を着るか、食べようかを考えたとき魂の死は始まる。

老後の金をためる。キリがない。神の摂理に身をゆだねるとき幸せになっている。神の国の到来。「年齢をとり、残りの日々楽に生きて行きたい」。ただ死を待つだけか。私は年齢をとるのに精神的苦痛は感じない。明日へ向かって想いをもって歩んでゆく。夢の実現と利他のため。我、日蓮は八幡大菩薩、天照大神。諸天と共に善神に守られている。義人はまた観世音菩薩、地蔵菩薩にも守られている。有難い。本当に感謝。報われないのは、すべてはエホバにたてつき、イエスの愛を信じない者たちの自己責任である。来る世がやってくる。もうすぐだ。神を恨むのは筋違いだ。

ご来訪されますか。お答えいただけたら嬉しいです。楽しい時間を過ごしましょう。憐れな。私は侮辱、嘲り、行き止まり、窮乏を喜んで引き受けよう。

弱さを誇ろう。なぜ私の話を聞かない。イエスの教えは学問ではない。無知に神をないがしろにするのはもうやめよ。自己顕示、自己承認、人が生まれ来る限りはそれを求めるのは恥ではない。むしろ社会貢献になれば喝采される。

神は優しく落ちゆくものを「信仰せよ」と抱きとめる。私が製本し広く頒布したいと思うのは、働くことにより自己実現を図り社会貢献に向かうのと一緒。醜い煩悩とは違う。すべては利他のため。サタンは、悪しき人間に地獄を見せる。神に謙虚で従順な人々には関係ない。あえて対決姿勢をとった私は間違っていた。信仰によりサタンにつけ入らせる隙をつくらず、心を陥落されるな。それは戒律の順守より、愛に重点を置くことである。

イエスは愛という信仰で形骸化した戒から人々を解放しようとした。おおらか。そしてイスラムは再び神の奴隷であることを是とし、善とした。

私は悪意からあなた方を謗ったことは一度もない。独りよがりな礼拝、わざとらしい謙遜より離れ、不品行、情欲、貪欲はもはや捨てなくてはならない。聖母マリアは仕事のため「汚い前かけ」をし、日々生活と闘い、家族の暮らしを支えた無学で立派な女。イエスは神として母親を捨てろという大悪党。十字架で叫ぶ「あなたの息子はあの男」。イエスの愛、複雑な心持ちが痛い。

私の想いとイエスの教え、齟齬があるように思うだろう。しかしすべては預言者に従うとき真実となる。一元的に捉えず、愛を信じ時宜を計る。君達は嫌悪の前に考察を。あの人は良い人だ。いや群衆を惑わしている。私は神の言葉を語っている。私、すなわち神から出たものなら真実かどうか一目瞭然だろう。君はどうだろうか。ピリピ人への手紙第二章五節から七節。神であるキリストイエスの人間としてのあり方が記されている。八節イエスは死ぬまで人として従順であった。私も同様である。「十月頃、本を刊行、店頭にならべる。自らの自由と平和が失われるのを危惧し躊躇していましたが、聖霊が後押しをします。腹を決め布教に対し遠慮せず積極にと。信心に対し呼び水になればと思います」。しかしやはり虚栄である。最後、聖書は刊行の取りやめを善とした。

私は従う。来る世、真のエホバの証人が選別される。君たちの中のパリサイ人、偽善者が抜き去られ、純然とした信者が報われる。私もその中のひとりだと聖書が示してくる。ヨハネ福音書３章３６節「御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は命に預かることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」。いつまでも去らないマリアに十字架のイエスは自分を神として認めない姿を見、群衆の代表の様で、怒りと歯がゆさを感じた。最後、愛はエゴと違うと叫んだ。イエスは「神の愛の前ではくだらぬこと」マリアの

母親としての情愛を切り捨てたのだろうか。誰よりも優しい彼は最後までマリアの愛は心に留めていただろう。「妬みや闘争心からであっても、キリストを見栄、党派心に関わらず伝えることは認められます」。パウロは大喜びをしている。キリストの愛がはっきり見える。ただ教えが広がることが大事。

聖書と法華経の世界観。仏陀もイエスも、なしたことは書ききれない。意味は久遠の本仏、神の摂理、同じだ。悪感情でキリストをのべても、失格によりかえって愛の証明を為す。聖書は王家の筋にイエスが生まれた経緯をマタイの福音書で表している。つまり因縁を大いに認めている。法華経と同等である。

それを思えないのは頭が固いだけ。マリアはやはり悪であった。七つの悪霊を引き連れる。宿した胎。乳房。「いや神の言葉を守るものが祝福される」。イエスが十字架についてもその真意はマリアには解からなかった。悪とは神を裏切ったことに尽きる。君は私に逆らうが上役にはどうだい。君たちは完全に的外れ。害その身に至る。神に従順それが善であり愛の証人である。山口くん、やはり人は愛がないと幸せにはなれない。富は無用だ。ただ神を愛し隣人を愛する。そして艱難にたえよ。美しい、思いやる心を忘れるな。真実。イエスは限りなく許せという。だがイエスは寛容だろうか。彼は責める、パリサイ派、サドカイ派、宮での商売人、荒れる波まで、あらゆる偽善、逆らうものたち

を。山口くんありがとう。一冊本が出来そうだ。タイトルは「エホバとして」出来あがったら会館の郵便受けに入れとくよ。俺には私怨のないことを伝えておく。ただ聖書は私の話を理解するのはエホバの証人しかいないという。

何か打開策はないものか。私はこのままでもと思うが、聖書には一家言あるみたいだ。自分が正しいと思う道を行く。情けないと感じるときがる。だが良心を痛めてはいけない。情けないと思う自分がいるだけだから。まずは、一切は空。色即是空、空即是色。真実は南無妙法蓮華経という絶対愛にある。放蕩息子の譬え、フリーセックス、極限まで思索しないと翻って真理へは到達しない。聖書から放れ自ら愛を考察せよ。父の想いが安らぎとともに現れる。つまり愛しき慈愛に満ちてひとりの人と楽しい空間をつくり幸せになる。またそこから博愛に移りフリーセックスを生きる。これは神の強制ではない。私が言いたいのは嫉妬などの悪感情。妊娠、病気が無くなる、来る世では神による戒、規制はもはやないということだ。つまり各々が自由にその志向によって生きるのです。神の国への条件は愛と思いやりを持つ柔和な人です。それには祈ることだけです。

日蓮正宗を信じ、破折、折伏という布教に燃える貫井へ。

聖書が示します。久遠元初の自受用身、暖かい気、聖書の神が、イエス、日蓮

へと示現し、愛を訴えた。これが十字架、復活、南無妙法蓮華経です。すべては人々の苦しみを抜くためです。宇宙の法である、久遠実成の釈迦如来、神の摂理、一体。まだこの実相が解からぬか。頭の固い奴だ。私を妄想癖と、ならば日蓮もそうか。理解力は神仏である日蓮よりもたらされる。精進されよ。君に私と日蓮が結び付かないのは結びつける意思がないだけだ。愛と思いやりを受け取るつもりがない可能性も。新しい顕正会批判の資料は必ず渡す。これからは彼の家の郵便受けにいれたらどうだ。悪いが俺には興味がない。睡眠薬を服用している。真夜中、早朝のメールは控えてくれ。悪いが、悪影響がある。実際に。俺は神だ。

この世は醜悪で頑迷、不浄なものが多いため、薬がなければ正常な肉体は確保できない。因縁から真由子さんの愛に救われた。解かるかな。神の深慮。すべては摂理。因縁とは齟齬しない。貫井、俺のサイトがある。必ず全部読んでくれ。永遠の命に向け。約束は必ず全部、果たすから。それからだ。神は全知全能。腐るものでもなし。渡す頃合いを見計らっている。瑣末なことに心煩わさず大局を見よ。大事なのは意地ではない。小競り合いは不毛な自己執着である。「読点をつけよ」。コラムのようにうまく字数を合わす為、付けないこともある。

指摘ありがとう。取りあえず、おおらかに行こう。南無妙法蓮華経だ。明るく、善に向け温かく。それでいい。雄さんが、俺に対する不敬から持病の糖尿が悪化

したおそれあり。携帯が繋がらない。君から一報入れてほしい。安否確認、頼む。忙しいとこ、お世話かけます。貫井、頼むよ。連絡とってやってくれ。彼が心配なのだ。彼が酒を私に奢れば済む話。布施だ。まあ君にはどうでもいいことか。

南無妙法蓮華経を打て、そしたら返信があるということか。元気なら。正解だ。南無妙法蓮華経を無視できないからな。ありがとう。流石だ。またよろしく。

彼は元気でした。良きアドバイスありがとう。だが彼は信心がズレすぎる。頭は固いのに女には節操がない。君みたいに深くはない。　まず盲信は俺には出来ない。主体性という金剛がある。自律と信仰大事です。ネットで日蓮正宗の豊田さんと顕正会の対決を見た。不毛な論争は好きではない。豊田さんが独善的なのは当然だが少しご都合主義。けど御書をはじめ文献に精通し駆使する、たいしたものだ。

わしとはスタンスが違うけど。文書ってそんなに絶対的なものかなあ。不立文字、拈華微笑ということもある。実は本住坊と喧嘩をした。性格上、脅迫は許せないので。奴の身が心配だ。不敬、侮辱に対し宗門に罰はくる。南無妙法蓮華経。俺を否定する本住坊とは縁を切れ。貫井、君には本当に感謝している。金に対する執着が取れた、すべて君のお陰だ。ありがとう。俺は日蓮として新たなる本尊をつくる。俺の本尊は偶像化したものとは違い、心の中にうち立てる。

けして崩れない南無妙法蓮華経だ。仏陀のサトリを仏種に感応させる。思いやり、愛の根源だ。血脈から外れた本尊は悪鬼がすむという。だが日蓮正宗とは違う、本門流八品派の家系にある俺。本住坊には先程の見解を伝えた。恫喝してきた。怒鳴り返しテレを切った。私の思想は日蓮本仏論が出始めた頃と同じ様相である。不遜ではなく真実、多くの人が憔悴せず選択する本尊が大切だ。

君に「私の本尊」の文字を入れないと送信が不可能だった。遠慮しているわけにはいかないみたいだ。私、日蓮の意を汲んだ本尊、南無妙法蓮華経を各自の心中に顕現させ、成仏へと導く。様々な不思議を信じよ。君はどうだ。私は日蓮を自覚し、広く仏の教えを流布するため、心の本尊、南無妙法蓮華経を表す。私は良心に基づく仏種に仏陀のサトリを働かせた本尊を人々に。深い意識ですべてをつなぐのだ。わざわざ足を運んでくれてかたじけない。カレーハウスにいた。

君の教えは百も承知だ。俺には組織にとらわれない自由な境界がある。貫井は、(ブラームスは真の自由は制約の中にある)と。人間の中には自律できないものも確かにいるだろう。内村鑑三は「真実は独立を求め、虚偽は依頼で生きる」と言っている。今以上の制約があってたまるか。自由がないと感じるのは生老病死があるからだ。自由という成仏は、日蓮を信じる。この縁を活かし俺に懸けてみるということだ。必ず善き伴侶、不老不死が訪れる。あきらめるな。つねちゃん

素直になれ。俺に従えとか帰依しろとか言ってはいない。いつまでも善き友人、兄弟でいてくれ。俺を信じて。そうでないと少しさみしいぜ。

聖書と法華経。両所を比較したとき、法、摂理から示現した、釈尊（仏陀）、イエスがいる。勿論、日蓮はイエスであり仏である。政治、経済、人口、世間は欲望を鼓舞するから成り立つ一面がある。しかし金銭欲、名誉欲、自己顕示欲、食欲、性欲。奔放になれば危険性大、煩悩の炎、守銭奴が生まれ、戦争へと。南無妙法蓮華経、心のヘドロをとった後の愛の注入が必要。欲望に制御をかけるのが宗教である。また幸せのためには金がいる。経済を回さねば。イノベーションのたび、楽になるはずの生活は複雑になり労働時間が延び、精神疾患の温床、自殺の原因となる。南無妙法蓮華経を文字ととらえれば御書、文書尊重も解かる。だが南無妙法蓮華経は仏陀の教えを仏性に刻む仏法の魂である。学問、言葉にこだわってはいけない。思いやりです。

南無妙法蓮華経は南無妙法蓮華経だということです。「全知全能の神がなぜ自殺できない。だから神を信じない」と言ったね。神はトータルでパーフェクトなのだ。自殺は善知善能の神にはナンセンスだ。殺されかけても、自殺しない。日蓮もそうであった。貫井、死ぬなよ。死んだら俺が泣いてやるけどな。誰かを論破したところで得になることはない。相手は屈辱感と怒りを持つだけ。

人に勝つことを望んでいる限りサトリは遠い。我々はそこに南無妙法蓮華経。釈尊は王子に生まれたプライドとも戦わなければいけなかったのでは。裸で四つん這いになり獣のようにうろつくことも。その修行は虚栄心の克服にあったのではないかと思う。論破が折伏であると。それでは顕正会の彼の方が一枚上手だ。へ理屈のこね合い。論議のための論議、確かに潔く、正しきに負けを認める姿勢は大切だ。

世界が混乱している原因は感情にあるからだ。奉安堂の耐震性にしろ、戒壇の本尊までもが私には枝葉末節、本末転倒に思えてくる。争えば争うほど南無妙法蓮華経から放れて行く。日蓮を悪しく、敬うか。南無妙法蓮華経は仏陀のサトリを仏種に結ぶ仏法にある。すなわち空になった後に愛を注入する。本尊を深層意識の最も奥まったところ阿頼耶識に植え込み、皆、繋がる。唱題が響き渡る。大音声。私の南無妙法蓮華経である。それでいい。けして崩れない本尊はユングのいう集合的無意識、つまり阿頼耶識の根源、真如に集められ、それを皆が共有する。南無妙法蓮華経、すべてを包み込み浸透する。大音声。日蓮の再来である俺が神通を明らかにする。常楽我浄、いつも楽しく美しい。この境地が仏である。

日蓮は取り囲む念仏に対しあえて傲慢を演じた。仏法は殺伐としない温かなものだ。日蓮の戦闘的ではなく、書状から、その暖かさ、情理そろった傑物の姿が

見えてくる。南無妙法蓮華経が万国に広がれば功徳として不老不死は現実に生まれる。エホバ、日蓮同体だ。求心力の為、排他性はいずれも必要だった。久遠元初の気、神、仏である日蓮。日蓮系、エホバの証人、ドグマ（独善的教理）にて頭上に頂き、排他的で求心力を高めるもの。彼らの神輿が同じものであったことを私は告げるのである。

親しき役人(もうひとりと三人で飲んだ)優しい君のことだから、つぶれかけのばあさんのスナックを利用しているのだな。部下の満足度はどうだ。ほっとさせやがって。退院からやっとつながった、トシオの身内は「お前、働いとらんねけ、付き合いせんじゃ」と冷酷に裏切った。尋ねる、私の存在は君の査定に障るかな。昔から一方通行だった。君は沢山の恨み、不満を腹に、私に合わせていた。私は寛容な君が、すべての品行を清濁併せのんでいると思い、疑念も浮かばなかった。電話一本すらない。

消極的より嫌っているとしか思えない。振り返ればかつての私の所業からは当然だろう。そして今、君へのアドバイスだがいつも素でいることが大事だ。仕事に集中でき人間関係に無頓着になる。七人の侍の菊千代を忘れるな。火のついた水車小屋に赤ん坊を救うために飛び出す。刺され、抱き歩いた母親が彼

に託す。「こいつは俺だ」グッと来たな。　俺は君に赦しを望んでいるのだろう。

今の俺にあるのは自由な時間だ。だがけして孤独ではない。現在、君の迷惑にならねば善い。君の存在本当に大きかった。ありがとう君の家は近在だが私にとってはとても遠い。私の意図を汲もうとするなら、利害からは判明しないだろう。ありきたりではない。いつまでも俺にとっては無二の親友だ。社会的地位を求める。君にも存在する。責任という美名に縛られる高慢な心。本当の自尊心は信仰する所にしか気づかれない。愛と正義、二つ星が光る。危険性とダイナミック、君は私と距離をとる。私はこの世の本質を見定める。国民栄誉賞などいらない。眼前の友を愛する。君の思想は周りに同調するだけなのか。

わしを侮辱すること慎むべし。害その身に至る。枝を断つ決心をした。君とは前にも後にも赤の他人だった。愛し合う機会は失せた。　ご多忙ななかありがとう。了解しました。楽しみです。私は酒を飲まないので。好ければ君と待ち合わせいたし同乗したいです。ご都合ご連絡ください。私の様な見苦しき風体の男が親しき仲であっては沽券にかかわるか。歓迎されないなら誘わずとも好い。君の思い通りにしたらいい。それでいい。私は己の卑屈さを聖書に指摘された。

私は宗教家ではなく神である。宴に参加したく、君との待ち合わせ場所、時刻、連絡ください。私は特に注文の儀は無く。聖書の応え、迷惑になっているようだ。やはり住む世界が違う。君は自分の生活を守るがいい。言葉足らずは君の冷たさか。サタンの配下で無きことを祈ります。今、休憩に入りました。

了解しました。楽しみにしています。多忙ななかありがとう。いささか伺うが、駐車場の会計に懸念がある。君のことだから卒は無いと思うが、急な坂、らせんには抵抗があります。回避したく、希望する。場所は予想がついた。会計は出口で現金払いですか。今はどこも別場所での清算だから。駅前はなれぬところ。厄介おかけします。よろしく。何せ、駐車場の件は着いてからですむこと。効率の悪い話で申し訳なかったが友情とはそんなもの。割り切れない。それでいい。お忘れなく、大事なこと。提案です、スナックは今回遠慮させてもらって、駅前カラオケにいきませんか。流れですが会話に違和感があるより盛り上がりを選択したい。意向の一致があれば。新聞しか読めない身になった。金ではないぞ。一般書の感情表現は妄想に思えるから。事件、事案の客観しか受け付けない。君は神の子かも、人格者になったのが解かる。

公務員からみた社会、方針、認識、許される範囲で教わりたかったよ。あいつは野心と欲望と不安と責任と焦りで五重苦なっている。煩悩を何とかせね

ば、幸せにはなれない。タクシー運転手さんへの配慮などを疎かにして。横柄で傲慢な態度、何様の気でいる。今日最後のメールにする。友の幸せ、歓びを友と笑い、憂い悲しみには共に泣く。素直に温かく。永遠の命を得、神の国で心配なく暮らす。きっとな。無二の親友は過去の反省をし、君しかいない。

君の優しい心根が沁みてくる。君の母親の命を奪った世間。俺は対する。意味が解かる人間は神の国へ。杞憂であればよい。大阪吹田市の事件はサタンの仕業、君の友情はどうだい。試されている。あまり私を邪険にすると障害者の差別を禁止した法律への抵触につながる。自己防衛ばかり考えていてはにっちもさっちもいかなくなるぞ。君は大丈夫だ。堂々と暮らされよ。朝乃山、八村、競技批判を繰りだす私に、対抗から牽制、嫌がらせを仕掛けるサタン。仕組まれた世間。神の愛が絶対です。もう確かに俺を信じているな。矢面に立つ君。悪魔の気配は幾度となく感じただろう。上昇志向から逸脱した幸福、認識しているだろう。錯覚した者は相手にするな。君の平和を祈っている。

君たちしかいない。永遠の命を生きよう。あいつの横柄、傲慢な態度、奴の人の好さだ。君も高慢、嫉妬なぞに負けず善良なる自分を打ち出せ。そしてかみさんに感謝。あいつのスナックでの暴言。他の客と暴力沙汰になってもおかしくない。君はただ保身に走っているわけじゃないな。職権の全責任を担う。

俺が何か言えた義理じゃない。すまぬ。人は上からものを語りたいのが大勢だ。でも複眼をもたねば意見は通らない。君の受容的献身は解かる者には判る。失言に気をつけ行政長官を見事に。ご自愛を。忙しいなかわるい。

今考えると私の演劇は若さゆえの戯れ事だが、宗教は積み上げた末の空論ではない。聖なるものは目に見えない世界に存在する。君なら分かるだろう。込み入った話などするつもりはない。ただ声が聞きたかった。選挙管理で忙しいだろう。悪かった。手が空いたときにメール下さい。ご随意で結構ですからね。心配するな。心優しきものは、必ずサタンを見る。君よ。君が救われる道はひとつしかない。変わらぬ友と信じ。私は軽蔑される輩ではない。誇らしく。浄土真宗にとらわれず南無妙法蓮華経を唱えて下さい。心に本尊を思い描いて。もともと戒律順守は関係ないね。いつも楽しく、美しく幸せになる。即、成仏するため。選挙の騒々しさは一段落かい。ご苦労さん。私に繋がり、よき葡萄であってくれ。

私が君を愛したように互いは愛し合ってほしい。緑内障で片目の視力を失った君だが、そこから優しさを知り心の盲人から救われた。俺が見た世界。君が見たかは判らない。自殺者２０２０年１月発表１９年度２００００人の現実。

砂漠、地獄に生きる人々。君も闘っているな。責任を無視できず。俺は君に迷惑はかけない。心配いらない。

俺はエールを送っているだけだ。危険性は全くない。ただ案じる。お前の立場、相当のストレスがあろう。あまり懸命にやらぬ方が。弦を緩め。あいつには俺が虫の知らせでテレした。こんな時こそ香典代わりに好きなだけ飲ませてやりたい。母親は長患いの果ての死だったから。いつものように君の遠慮は薄情に見える。奴は語りたいのだ。

少し書いてみた。

幸せの快感は、神の領域である。嫉妬、妬み、独占欲から放れた柔和な優しい人らは規制がなく、想いに身を任せることになる。抱擁が平和の内に生まれるのだ。すべては自然のままに。聖霊の宮は、すべからく明るく素直で暖かい関係を結ぶことになる。この高次な愛を理解するものは何人いるだろうか。現時点で、互いの愛を確かめるにはそれ相応の覚悟が必要になる。パートナーに対する裏切りではない、その想い、思想、寛容な愛は選ばれし者にしか理解できない。私の欲望は利己的な情欲からではなく、一生懸命生活している女性を慈しむためです。私を信じねば勃起はしません。皆さま、美しき心、望みま

す。硬く、熱く。現在、過渡期だと思います。自分の女性に対する意識の変化。神としてアガペーに生きるのが筋。優しく強い男女には理解できる。

神は誰よりもそうした賢い人達を深い眼で見つめている。皆に神の国の住人になってほしい。愛と思いやりを抱いて下さい。それがすべてです。皆、アガペーに生きてほしい。人を傷つけず、真由子さんにとって私はあまたの中のひとりだったのだろうか。私の存在は利用者、有象無象のなかにあるのか。もしかしたらこれが私の求めたものであって、これでいいのかもしれない。真由子先生は「すべての患者さんに医師としての想いはある」と吐露。これで二人の関係は、精一杯である。そしてここに高次な博愛が成り立つ。皆が博愛（アガペー）の意識を持つ。自由と平和が生まれる。私は肉欲などと切り捨てたいが、かなり前に経験したオルガスムスの快感を求め、その対象は自然と、或る聖なる女性に向けられる。聖句「キリストの肢体を遊女にしてはいけない。

主とひとつとなるとき霊もひとつとなる」。つまり私の想いに従順になれということ。幸いはそこにある。当惑、困惑されたかも。しかしあなたの寛容な大きな器で受けて下さい。私の甘えにも見える、想いです。

あなたは私が勃起する唯一の人。献身的で聖なる存在だ。卑猥な発言は貶めにはならずその逆をいきます。神の夢を実現させることがキリストの花嫁の務

めである。あなたの息災を祈っている男が独り存在する。とりあえず忘れずに。孤独な時には想うから。僕を念じて下さい。たとえ不義とされても。私は真由子さんへの失恋から操縦不能、空中分解。「私の発信した卑猥で非常識なメールに不快感を持たれたすべての女性にお詫び申し上げます。ごめんなさい。また善き縁に。猛省し、今後無きよう努めます。暑い夏、熱い日が続きます。

ご自愛ください。皆様のご多幸祈ります」。真由子さんへの失恋、これが本道だったのではないか。求婚したのは勢いから、断られた反動で「転院します」と返してしまった。彼女は「来るなとは言ってない。今までと同様の診察が続くだけである」と。「今の状態に変化は訪れない。しかし患者に対する医師としての想いは皆に持っている」。私は特別な感情が欲しかったが。肉欲ではなく、ただ繋がっていたかったのならこれまでと変わらない関係が一番いいのでは。つまらぬ恪気もない。真由子さんに私心から遠慮していた。これからはもっと自由に女性とも接することが出来る訳だ。それでいい。転院はやめよう。これまで以上に清く正しく美しい関係を築いて行こう。明るく素直に温かくで。僕は知的障害のある子たちから人に勝つという価値観から離れ、ただ優しくありたい、を学びました。

ある人は「他人に勝とう、よく見られよう」、向上心に繋がるという。だが見栄だけが大きく立ちはだかるのだ。誰かの作った枠組みの中で勝負にこだわる。刺激があり幸せを感じるという。幕末、明治期「いくさほど面白きものはない」と放言した川路利良がいた。女、子供に塗炭の苦しみを味あわせる、男の面子とは如何なるものなのだろうか。見栄、誇示、鍛錬。糞食らえ、そこを追い続ける限り真の幸福は遠く離れて行く。永遠の安らぎを求め愛に生きたい。そして真由子さんは「辛いんでしょう」と繰り返し愛を確かめる。

皆、神の御使いとなり自由に暮らす。私は博愛を美しく打ち出そう。それが平和のシンボルであると信じるから。パートナーとの楽しい空間。そこにある愛が大きなものに昇華して行くよう私は祈りたい。人は縛られる夫婦であっては幸せになれない。モラルハラスメントを蹴散らし、この世間、与えられた運命に感謝しつつ、自然体で暮らそう。それでいいのさ。学歴、富、容姿、他人に評価されるものは結局、どうでもいい。戦うのを止めたとき、優しさが広がり幸せは見つかる。燃えるような恋の果てに結ばれた人たちは、その執着に気づくだろうか。アクシデントから恋をあきらめざるを得なかった人はアガペー(博愛)を知ることになる。もう女性を振ることは私にはない。(残念だったな。ここまで暖かいパートナーに出逢えなかったか。自己責任は厳しいか。取りあ

えず勇気を持って素直に生きることが大切だよ。この世の価値観に生きていないかい。「量るものはその秤で量られる」君の求めるものが人生を決めるのだよ。静かに傍らを見よう。ほら花が咲いている。名前は解からないが長持ちする菊の種類だ。それを柔らかく摘んでみよう。きっと幸せの香りがするから。平和な神の国、暖かな永遠の命を包摂するものはすべからく美しい。見た目からも伝わる本当の清らかさ、真実つまり愛が大事だと告げる)。

真由子さん、あなたへの愛はアガペーに昇華しすべてとフラットになりました。果たして正解か？彼女は神の愛を試したか。それは許されない。

唐突だがヨセフションペーターが言う。資本主義は行きつく先、寡占により社会主義を誕生させると。しかし世は独禁法を含め競争を仕向け、中小を苦しめるばかりだ。アメリカの貧民を想うとき中国の体制がなぜか俄然、説得力を持ってくる。安定、公務員に憧れる。解からないでもないな。でもけして愛を失うな。

義人（エホバ）

エホバ（神）
として
２

義人

令和２年１月

エホバの証人の宣教師山口くん。
暑い中、宣教に回っているのだね。冷たい麦茶でもしんずる。遅くてもお寄りになること期待したい。私は健在です。ご苦労様です。またの訪問の機会を楽しみにします。ご自愛と神のご加護を祈念いたし。では近日。えらく媚びたけど、君に無理があるなら、本日は君のお父上はいかがですか。是非に。　生きとし生けるもの、原罪に苦しむ。全て、エホバという大海に流れ込む運命にあった。大きな河、よどみも急流もある。どぶ、小川のせせらぎ、清き湧き水も。その中で、愛を忘れず生活を営んだ、神を信じたものへの報い、私は今、ここに生きている。
戦争など、利に大義がつく。ホームレス救済など純粋な義に予算がつかないのが世間。キリスト者はいつも神の義を優先します。弱者への愛です。すると自分に情けが回って返ってきます。イエスは偽善者たちには不寛容だった。
何度も言う。神イエスとは俺みたいなもの。同意できないのは、盲人であり世間の富、名誉などの価値観を捨てきれないからだ。私に好意的になるとき、生活は百八十度、好転するだろう。神から理解力が与えられ、真実の愛と勇気が備わり聖霊の宮となる。神を敵に回さず、主体性を保ち、義を学ぶこと、心底望む。明日は来られますか。暑いので軽装でお寄りになれば。君の尊顔が懐かしい。神

の義と愛の流布、使命を果たす為、君の変化の模様を展望したい。期待します。
山口くん、君の近況を知りたい。それだけ。邪推せずご来訪下さい。雑談の中から真理が見えたらいい。私怨はない。君もと信じている。有意義な会話を楽しみに。体調を整え、ご自愛ください。今後私たちに恩賞が天から下されるよう、愛を抱き歩みたいです。その為には私の言葉に耳を傾けよということです。
そして現在、あなた方に媚び、控え目に譲歩した書き込みは、送信が聖霊により却下されます。私はエホバである。遠慮どころか主導的、積極的に関与せずにはおれない。法輪を転ずる、君の役目でもある。気付きを早く願います。私も神として日々影響力が強くなっています。私に怒り焦りはありません。あるのは憐れみだけです。幼児、児童虐待等、正義の憤りと涙は別にして。
神仏は罰を与えるか。神をおろそかにした、邪な心、理不尽な言動は悪魔を喜ばせ。それを天が裁くのです。人は自覚し、罰を契機に心を善に向けねばならぬ。俺は自身がエホバだと自慢したいわけではない。真実の教えである為には、保証として神は必要だった。ことさら私が神を謳うことはない。愛の極致。そこに跳ぶためには踏み台がいる。それがエホバ、(在るもの)の存在意義だ。山口くん、深く考察せよ。
イエスの愛を説かずに、永遠の命を願っても本末転倒。正しく聖書を活用でき

ないのに、人々を神の国に導こうとは。善意と良心を確認せよ。人生、すべてにつけ紆余曲折、だが予定調和だ。事件の都度、私は善を選んだか。いや神にとっての安楽、愛を選択したのだ。私を始め神の子の宿命である。自然に生きた結果です。私はヨハネの手紙の義人です。聖書の証。少し旧来の神の概念とはニュアンスが違ってくる。神は今、人間ならば生活がある。だからこそ現実的に、善意、良心だけの霊的神とは違い、四苦八苦、欲望を持つ人間の忖度も可能になる。

私は純粋だが、ある意味、安楽に生きたい。人間としての目算も共存する。だからといって、聖霊の宮も離れない。自覚せずとも神の意思が言動に表れる。昨今、振り返り確実にそう思う。神の資質だけではこの世に居場所がなくなるか。

本質、世は愛によって回っているのだ。サタンの体制、利他に生きるとき、祈ればてきめんに周囲の環境は変化する。そして最早、心配無用。来る世は、愛の法則だけの世界。アクシンデント、不具合は起こりえない。私は私への信仰から確信しました。王国会館、日曜の午後は八尾の集会があるのですね。事情を知らずごめんなさい。

「エホバ（神）として」二冊投函しました。皆にご覧いただきたく願います。神を愛し隣人を愛す。希望します。そしてあなた方の義より私の愛を選択しなければ明日はない。今回、君は私への説明責任を果たすことで、私をエホバと認め

ることになるのを恐れ、宅への訪問、取りやめに至ったのでは。寂しい。私は君達を愛したい。仕事を持ちながらの活動は大変だと思います。誘惑との格闘。真理を求め、幸せに至るため宗教はある。真実、幸せとは。

エホバこと私の話に耳を貸しなさい。携帯の呼び出し音が鳴るなら吉報だと聖書が示します。拒絶ではないからだ。多忙な中、仕事の疲れもあるのに、王国のために尽くされる。あなた方が去ったあと、いつも好き香りが立ち込めます。将来への希望。聖書に祈る、すべては円滑にゆきます。これは聖書を信じる各位の愛の自覚に、神よりもたらされる善の境界です。終末の光景は君達の見解が正解だろうか。でも私の愛、教え、外してはいけないよ。真実の信仰は、嘘で凝り固まった既成を、否決し正しさを訴える。私は神自身の愛を説く。つまり君達の原則論で私に立ち向かうとき、神は怒りではなく、憐れみでいっぱいになる。自らを絶対にしないこと。全知全能とは私だけである。利で人を選択していないかい。

利己欲に応じるものを優先する、都合の悪いものは排他する。このつけは必ず払わされる。まず人は神と同じく善良でなければ。絶対は神だけ。私の他はない。私の愛に敵うものはないからだ。本日、好かったら顔見せ程度でも。私の憐れみを受けて下さい。待っています、君を。謙虚を学び。今、幸せですか。神は愛であり、善意、良心である。君達の聖書見解、辻褄合わせの資料は頭に入らないの

だ。エホバの証人は神の肩を持ち過ぎ人間に冷たい。当然の見解か。神は寛容で優しく思いやりに満ちた方です。倦怠は感謝でいなす。これは来る世においては必然。しかし現体制では神が人なら私も向上心という化け物に飲み込まれる可能性は大いにありえた。基本的に優劣を競うのは善くない。私は仕事を辞めパソコン教室へ。向上心。私の思想と齟齬が。これは悪魔の欲望。メラメラ燃える煩悩ではないのか、あったかい南無妙法蓮華経なのか。そして目的を追うときパワハラという横暴に遭った。教える側にしては手法なのかもしれないが、愛と平和を常に求めたい私としては耐え難くそこを辞した。やたらに走る向上心は悪夢を生む。私の思想は正しかった。山口くん、待っとるよ。お顔を拝見したく思います。神の意に逆らうのは良くないなあ。玄関先で、互いの息災を確認できれば、待っています。手を上げておれの顔を見る。ヨシト、おう、後はニッコリ。これが信仰、心からが大切。間違いなく成仏、神の国への祝福、永遠の命は確実となるのだ。親近感が信仰であり真実の愛である、確実である。愛想も布施のひとつ。

ニッコリ笑えば幸せに。笑顔の似合わない人は本質的にいないから。笑いなさい。神は神であり愛の特質を持つ。故に自動的に人々の支持を得る。けして媚びたり遠慮したりせず毅然と生きるだけ。人は神の意を汲むとき幸せになるのだ。

山口くん、もうすぐだ。皆の涙は去る。私が神であることがネットで作為的に

無視されている。逆にその反応から、広がりを確信する。神イエスは復活し昇天した。ヨシトの存在は、霊者ではなくイエスと同じく人間だ。人としての幸福を追求する。勇気、想像力、サムマネー。俺は神であり人間である。つまり、イエスも日蓮も人間。人として自由を望む、愛を以て平和を願う。利他の為、金が欲しい。勿論、俺は人間だ。行動の阻害という悪も否定するためにも。肉欲は、妊娠、病気、悪感情が生ずることから騒動になる。問題の根源が失せたとき、享楽は報われる。肉欲は、罪を生む要件が消え、博愛となる。イエスは横暴で暴力が好きだったのではない。神イエスは絶対善である。愛を強制する立場。偽善者が意志を遮断するのは許されない。アガペーは万物に向けられる。では選択を迫られたとき、一人に向ける愛とは。偽善（嘘）からの解放をなし、神の義を与えるものであれば、主観的なアガペー（博愛）は成り立つ。神は100匹の羊のうち1匹でも迷えば探しに行く、後を残して、それが公平な神の愛である。

一人は皆のために、皆は一人のために。神の義とは思いやりと言える。モーゼがエジプト人を殴り、次は自分たちにくると民は曲解した。私は金が欲しい。利他のため聖書も認可している。神を曲解する人、結局、富が欲しいのかと私を疑う。神は自分のために金を必要としているのではない。すべて利他のため。世の為、人の為である。神の自殺。善意と良心の塊、神は世間で生きていけないか。

法華経方便品第二のなか十如是の教え。十界互具、一念三千。仏も神も悪心を持っている。でも使うことはできず、使いたいとも思わない。今、神は人間なり。

インフルに罹った。念仏批判。神を忘れた間隙、阿弥陀は空虚だが悪鬼が忍び込むのだ。気をつけよ。何度も言う。この世は愛で回っている。法則に従い、本日お待ち申し上げます。なぜイエスとマリアは仲が悪いか。エホバに母親の概念はないからである。私は母親の声を聴くことすら嫌悪を感じるときがある。母は感情的だが、馬鹿正直で、献身的だ。責任感も強い。もっと人に依頼してもと。

堕落すると思い、何事も自ら為そうとする。俺は見守るつもりだ。恩があるのは確かだ。だがその勝手さは尋常ではない。つられて怒りを持ってしまう。年齢ではなく性格であろう。粘着質、ソチがさらされる。母は眠りを妨げるソチに暴言を吐く。だが彼女に情けがないわけではない。私は空腹で苦しんだことがない。

潔癖で強情、誠意の塊、母のおかげだ。親子喧嘩の解決は母が私を神と認め、私が彼女を母親として立てること。彼女は私が神の思想を語ると、自らの正当化ばかりを口にする。何かしら勘違いし。責めを受けていると感じ、どう処理していいか分らぬみたいだ。　むくちゃんがいた。精神科開放病棟の窓から飛び降り死んだ。この世界をつくった神の罪の償い、贖罪のために、神に代わって死んでくれたのだ。この混乱した世界を創った責任に自殺を考えた神である私は、今も

涙を禁じ得ない。彼女は本当のエホバの証人であった。聖書を持ち歩き、拝むと禁じられていたスカートをまくった。「ズボンをはきなよ」。「あなたが買ってはかせて下さる」。

山口くん、「エホバ（神）として2」を書き始めています。前回よりさらに充実した内容だと自負しています。バージョンアップしたエホバを堪能して下さるよう願います。親鸞は、「死ねば極楽へ、阿弥陀にランダムに救われすべて仏になる。葬儀は無用、死体は賀茂川の魚のえさにせよ」。念仏を説いた。親鸞は極楽さえも「法然に騙されているかもしれない」、ある意味信頼していない。そして悪の肯定、無神論。在るのか無いのか判らぬ極楽浄土への賭け。阿弥陀如来の救済、遠く西方浄土の仏様である。釈尊が亡くなり遺骨を八万に分けストゥーパ（塔）を建てた。その守役から後の大乗と呼ばれる教えが説かれる。出家とは趣が違い、在家から生まれたものだ。釈尊の遺骨に愛着を持つことは温かい感情を持つことに繋がります。執着とは違う、大乗の精神、慈悲です。多くの人が望むのは、現実に釈尊が生まれた、この娑婆で幸せになりたい。仏の意義はそこにある。

僧侶が確信持てぬものを安易に奨めてはいけない。みんなで救われる大乗の精神からも大きく外れて行く。目に見えない神仏の法則からは放れてはいけない。

それは一閻浮提（全宇宙）に遍満する、久遠実成の釈迦如来に帰依すること。

仏種に仏陀の覚りを貼り付ける仏法、日蓮の南無妙法蓮華経に愛はある。日蓮は信徒に、「親に頂いた大切な体。報恩。感謝を忘れず、先祖供養を」と勧める。

（携帯用の法華経を忘れた富木常忍。日蓮は弟子に母親の成仏の知らせも託し後を追わせます。受けた常忍は大事な体を授け育んでくれた父母に感謝し、しばし涙にむせびます。辛い生業を知る大工のイエスと同様、庶民出身の日蓮だからこその逸話だと思います）。釈尊は生まれたばかりの赤子を含め、父、養母、妻、一族郎党すべてを捨て出家した。その心持、私は一匹の猫さえも捨てられない。儒学者は彼を責めるが、真実を知らない。自由、愛、平和を求めた釈尊の志を。

先述したように念仏は極楽が存在するか、また往けるか往けないか判らない賭けの世界である。親鸞は「我は地獄に行くしかない身、法然に騙されても念仏、阿弥陀如来を信じるしかない」と言う。彼岸に対し此岸（この世）の功徳、現証は誰一人として念仏にはない。だから此岸、いろいろ考えるなと言う。宗教への無感動、無関心。真実から目をそらせる悪魔の魂胆がある。「毒消しがあるからといって毒を飲んではいけない」わけが解からない。毒消しがあるのなら、旨く、気持の好い毒なら誰もが飲みたいだろう。おかしな話だ。念仏は悪を肯定する。

盗んでも、殺しても、犯しても死に際に南無阿弥陀仏、いっぺん称えれば成仏できる。「いや、もはや阿弥陀の方から救ってくれるのだからいっぺんの南無阿

弥陀仏さえいらない」。絶対他力、親鸞の言葉である。「まして善人と呼ばれる者たちは色んな計らいを持ち、善行というものを人間の価値観に基づいて行なう。

が、悪人は自然に生き、虚栄心がない。仏の目で見れば悪人の方が己に従順で救われる。」これに反論する。真の善人とは突き詰めれば、善を求め続け、幾多の涙と情けを経験し、神からもたらされた資格、聖霊の宮として在る者。その言動は神の意志である。悪人は悪魔の子。やはり救われない。南無妙法蓮華経と縁がないからである。山口くん、またの来訪楽しみにしています。自律、自制、神のモットーです。楽しみにしています。連絡を下さい。祈ります。未来の幸福のため。私を悪魔だと思っていないかい。光の天使に化けたサタンの手下になる工程で私を拒絶していることに、早く気付くのだ。良心を深くするのだ、神の心の域まで。私の意味が見える。念仏は己だけが助かればよい。真言密教は各自勝手に秘儀によって救われればいい。南無妙法蓮華経は皆ですべてに救われよう。

どこに愛があるか、一目瞭然である。私が君を負の要因で充たすとコンタクトを取らないのか。私を悪魔だと拒絶するか。いずれにせよ無視からは何も生まれない。悪意、私の排除、それが目的なのか。何と愚かな。使徒行伝、「神があなたを選び義人の声を聴かせた。あなたがそのことの証人になるためである」。己の使命を忘れないで下さい。盲人の自覚を促し、パウロのように福音をもたらし

人々を救わねばならない。来る世、妊娠がない。つまり性欲は言葉としてなくなる。繰り返す、肉欲が善くないのは、嫌悪感または嫉妬などの悪感情が付きまとったからだ。歓びを享受するため、明るく素直に温かく、神の選民とは、楽しく美しく享楽を生きるもの。私はやはり皮膚感からもたらされる快楽は捨てきれない。いつ愛に基づき夢はかなうのだろう。この道徳的な世界で享楽は悪とされる懸念が否めない。道徳は果たして善なのか。釈尊出家の要因のひとつ、醜い饗宴とは。その釈尊の忌避する感覚は私を捉えて離さない。しかし抱擁への志向はますます盛んになる。矛盾している。すべての人の心の中にも神とサタンが混ざり合い併存している。欲望と平安、快楽と嫌悪。仏陀の智慧と慈悲があれば解決される。来る世、執着を絶ち博愛を抱き、裏切りなどと憔悴せず、パートナーの思いやりの交流を是とする。簡単なことだ。焼きもちを焼くな。

各地に美しき抱擁が暖かく生まれる。不老不死の実現。来る世、幸せの快感とはオルガスムスを超え、もっと凄いものが。信仰、帰依する。その前に、イエスも釈尊（仏陀）も「私を見ずに信じる者は幸いである、神の摂理、仏陀の法を知る」。大切なのは、絶対的な個人崇拝ではなく、真実の教えへの心の在り方である。個人崇拝は命の平等性も損なうことになる。偶像崇拝が許されないわけは、自己放棄し意味も解らぬものにひたすら頭をたれ拝む（石，狐、鏡、天狗等）、

願望成就のため。釈尊が禁じた他に依拠するものだ。温かい人間になり、聖霊の宮になる、神仏からの最終目的は達成されない。聖霊の宮とは仏を意味している。

（ケイゾウ、どこで聴いている。マユカにもうすぐ赤ちゃんが出来るぞ。男の子だそうだ。三人娘の次女だった身、えらく喜んでいたぞ。初孫だな。死んで12年になるか。早くに死んだ俺の親父と同じくアルコール依存になっちまって。だけど薬依存の障害者の俺にも解かってきた、親父とお前の気持ちが。この世のありように悩んでいたのだな。お前の若くして死んだお母さん、「特別、歌がうまくなくても笑顔があればいい」お前、子供のころ歌い手になろうと思っていたな。

「上を向いて歩こう」みんなその音痴を冷やかしていたけど、２０年後、商盛会のカラオケでは泣く奴も現れたな。気の好いお前を、さんざん侮辱したけど、お前に嫁さんを世話した、俺が一番の親友だったのだよ。俺の親父と天国でうまい酒を飲んでくれ。最近死んだばかりの町会議員だった、お前の親父さんはそこにいるか心配だ。本当にお前がうたうのは「上を向いて歩こう」だけだった。十八番。俺は「泣きながら歩く、独りぼっちの夜」我が儘なおふくろに手を焼いている。いずれにせよ、どんな形か解らぬが、また再会できる。サタンの体制は終わりを告げる。神の国、幸せな楽園で、みんなで暮らすのだ。もう変な上昇志向はいらない。優越感も、劣等感も。それでいいのさ。お前が背を向けた信仰。解

かるときは来たか。永遠の命をどう使う、かつて消防団で現場に人先、駆けつけた、お前。喜んでくれ。神の国ではもう災難はない。愛ですべてが保護され、回るのだ。これで万事オーケーだ。もう少しだ、ケイゾウ。もうすぐだ。)

山口くん。

ローマ人への手紙第2章第4節神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その慈愛と忍耐と寛容との富を軽んじるのか。5節あなたのかたくなな、悔い改めのない心のゆえに、あなたは神の正しい裁きの現れる怒りの日のために、神の怒りを、自分の身に積んでいるのである。6節神は、おのおのに、そのわざに従って報いられる。7節すなわち一方では、耐え忍んで善を行なって、光栄とほまれと朽ちぬものを求める人に、永遠の命が与えられ、8節他方では、党派心を抱き、真理に従わないで不義に従う人に、怒りと激しい憤りが加えられる。(天罰必中ですな)。

(考察)

神は恣意的な私怨でアダムとイヴに罰を与えたのか。裏切って知恵の実を食べて善悪を判断する。罰はもちろんだが、自由意思を持った人間には、神から放れた生活を体験させることが必要だった。案の定、神にとって代わろうとするサタ

ンを戴いた人間たちは、歴史の中、散々酷い目に遭っている。それでも人々は、神に背を向けて拝金、物質至上主義に走る。利他、愛に、気づき、目覚めたとき、幸せはおのずから訪れる。やはり人は真面目に生きないと。周りを大切に、感謝を忘れない。差し伸べられる手を払わず優しく握り返す。たぐり寄せたりなどせず。人は助け合いだ。そのことに気づくとき神仏は微笑む。人が人を助けるのは神に対する義務である。じつは自然権、基本権、人権は哲学者が持ち出す前に神は強く人間に賦与している。天の父の愛を訴えたイエスは、人間に生まれ、贖罪した後、復活し祝福を証したのである。幸せになる為には私はなんでもありの自由民主主義の罠に陥らずに心に神（愛）を抱き思いやりを持って生きることを人々に勧め、求めるのです。王権神授説、これを妥当だとするからこそ、専制と敵対せず人権も神より授かったと、同様に言えるのだ。自然権。神も、イエスも、日蓮も聖なるものとして一体化し、一閻浮提に遍満し流れている。私がアガペーの広報を誰かに委託する、差配は天の法、神の摂理からもたらされる。　お互いが厳格にて裏切りを防ぐ、つまり人を疑り、監視機関を作りけん制しあう。これは辛いです。何事も隠ぺいする体質が生まれ、告げ口が生まれ、疑心暗鬼の温床になる。そこからサバイバル、王家から出家した釈尊の気持ちが俄然、理解される。出家とは元来、厭世的意識がなければいけない。生き残りゲームを楽しむス

ポーツ観戦。それは悪魔の世界そのものである。サタンの背後に光明を放って、神は愛を持って生きよと、人々の心が誠実な理性で良心に向くのを、首を長くして待っている。だから皆、とにかく愛を忘れずにいてくれ。それだけだ。南無妙法蓮華経。

山口くん。

メンタリティーはどうですか。使徒行伝第11章17節「私のようなものがどうして神を妨げるようなことができようか」。イエスは天にあげられた。訪問、待っています。

（お世話になった近所の女性）

理屈ではなく宗派を超え素直に家族、特に息子の無事を、仏を信じ祈る。世話人。布施を大事に。臨終の相は美しかった。信心に生きた人。享年九十八

南無妙法蓮華経。

（考察）

結局、どこでも素直に神仏を求めるものは、節操なきと呼ばれるより、その正直さに神仏は微笑む。純真な心が幸せを。目に見えぬ、幻でリアルな世界を信じるかどうかである。先程からも言っているが、善意と良心だけの神は生きられない世間。サタンの支配体制。負けるな、同志諸君。夜明けはもうすぐだ。尾崎は

体制には非常に危険な人物だった。サタンの支配体制、権威主義に対し自由、愛を訴えた人物たちは排斥されたが、死をもって栄光となった。魂は受け継がれていく。イエス、日蓮、尾崎豊、は代表者。幾多の天に記された無名の愛の戦士。優しくて雄々しい勇者たち。俺は彼らの夢をかなえる。

山口くん。

かつて君に永遠の命を約束したね。いまだ君は二心を抱き会衆という被害者に対し偽物を宣教している。時期を迎えた。嘘、二枚舌は使えない。神の子と臆病者のどちらを選ぶ。ヨハネによる福音書第１９章２０節から２８節迄が何度開いても現れます。ランダムに３０回。最終の記述は「聖書が全うされるため」。終末なのか。何かが確実に起こる。枝を断つなよ。ひさしぶりエホバの証人、西村さん。あなたが言った、「来る世にも倦怠はある」。かつて私は感謝でいなすと裁いた。

だが来る世、道徳はいらないと気付いた。アダムとイヴが楽園にあったころ、殺人をはじめ盗み、偽証、利己的願望、性に関する悪感情、隣人との諍いは概念すらも存在しなかった。当然、神を疑うことも。しかし事件は起こり、神が戒律を設けなければ人間界において悪意から悪徳がはびこり収拾がつかなくなった

のだ。来る世、楽園には道徳も倫理もいらない。すべてが神の意志。聖霊の宮、神の御使いになるからである。楽しく暮らすだけである。

雄さん。

日蓮は神だ。仏でもある。今回の本で念仏をいつもの様に正直に批判した。

南無妙法蓮華経を唱える神の子たちはひとつになる。大石寺、功徳の根源、本門戒壇の本尊、奉安堂の耐震性。崩れる因縁ならば、究極の当体ではない。心に開く永遠の本尊が本物。戒壇は我が身。私のサイト「エホバ（神）として」開いてください。貫井に言った。「お前の成した大事、俺を大石寺に連れましたことだ」。雄さんの使命は俺に南無妙法蓮華経との因縁を確認させ、また鼓舞することにあった。ご苦労様です。二人とも仏国土、神の国建設のため尽力期待します。

不老不死、永遠の命は絵空事ではない。私は王国の主です。信仰つまり親近感が決めて。私は愛しき美女を抱擁すること、それだけが夢。かつて（ニッポン人への手紙）のなかで神とサタンはこの世で出来レースを演じていると記した。本当か、聖書に尋ねるしかない。「そうではない。が、そう見えるかもしれない。」

どんなものでも善玉、悪役、はある。悪魔が残虐であればあるほど神の優しさ、慈悲深さが際立つのである。神がけして望んだものではない。サタンはこの道理

を理解しているのか。大義名分を持たせた戦争を代表とした悪を善に見せかける。
そして親しき人の私への裏切りから私が傷つくと喜んでいる。人間には自由意志がある。サタンは欲望という名の光の天使を装い、神から離反した人間たちを陥落させようと躍起になる。そのような非道が長く続いた。神は結審する。嘘と人々の疑心暗鬼にまみれたサタンの世は終わりにしなければならない。
看板だった（義人の教え）、かつてある人から「おこがましくないか」といわれ「神が人間に遠慮するのはおかしい。また偉い偉くないとか、上下の価値判断は神の世界では無意味であり、それにつながる悪感情も存在しない」。と答えた。ただ間違ってはいないのだが、神は自らの勝手に甘んじた感になり、本当に人間を救いたいのならまずその意識の位置まで辿って行かなければと認識した。新たな気づきがあった。私は方法論ではなく（義人の想い）純粋な神の気持ちつまり愛を訴えるなら、上から目線は誰も受け付けないことを留意し覚知しなければならなかった。認められないのは私の徳のなさからだ。「主体性に関与されるのは気分が悪い」、それが誰しもの自然な気持ちだ。私が偉そうに見えてはいけない。
私の愛の想い、込められた念が、岩石に窪みをつける水滴のように、皆の心に浸透して行くのを期待したい。愛は、教えより想い、それが適切である。神が偉い、そんな意識より、愛という理想を、私の言動から人々が洗脳ではなく主体的

に捉えてくれると信じている。私に愛と義が存在するからである。そしてそんな私が唯一、聖なる尊きものである。理解してほしい。

千華。

「千華の愛が本物なら、おじちゃんはイエスのように水をぶどう酒に変えてやる」。そして注がれたワインはとてもおいしかった。つまりそれは千華の愛の美しさの証だった。聖書の婚礼の譬えは千華の愛をあらわすエビデンスでもある。千華へ、「この祝儀は年金ではなくおじちゃんが時給８２０円から貯めたものだ。惜しくはない。ただいつも人の想いの分かる女性でいて下さい。蛇足のようだが祝辞です」。「前にゆるい礼儀が必要だと言ったね。もたらされたものは君たちの幸福を祈ってなされたものばかりだ。ひとつひとつ大事にして感謝の意思を示しなさい。それが大人の女性、また母親だよ」。「夜遅くごめん。おやじのことを考えていた。きちがい水。酒乱、常習、依存につながる。おやじは酒を売って生きている自分を責め、自ら依存症の道を選ぶ。優しい父に悲しい自己犠牲が光る」。「おじちゃんがかつて重んじた義、友情について迷う。割り勘はやめよ。線引きされたような気がする。心で生きよ。（真由子先生に捧ぐ）父と子の想い、人生の悲哀、サイトご覧ください」。「千華、祝いをあげたからって君たちの負担と

見返りなどは期待していない。ただ出逢うものに心から親切にしてあげてください。それでいい。仲良く、からだ大切に」。

山口くん。

神が僕（しもべ）を送ったのは、人々を悪から立ち返らせ信仰に導くためであった。イエスは死人の中から、ラザロをよみがえらせる。さすがにこの奇跡は凄い。瞠目する。ヨハネによる福音書１２章３９節多くは奇跡を見ても神を信じられなかった。神は目隠しをしている。君はパリサイ人をはばかって正しい声を出せない。会館、会衆から追放される恐怖に。君たちは会則を幼き頃より順守し立派なクリスチャンになるよう教育された。でもイエスは感受性豊かなナイスガイ。

彼を知る都度そう思う。私にはそれが分かる。同情をふまえた愛が是。冷たい分析に基づいた作為、説教を、人々に千里浜の砂の数ほどするより、情けに溢れてこぼれる涙。イエスは神として君を真実、祝福するだろう。これ見よがしは嫌だが、私の予言は当たった。震災、空襲２０万人が亡くなった地、東京。地獄、餓鬼、畜生、修羅の四悪道に落ちた者たちが繰り広げる悪の祭典オリンピック。

台風19号は、善神が彼方に去ったことの証左である。南無妙法蓮華経。元気ですか。人々の原罪の意識には温度差がある。優しい人ほど苦しむ。律法よりイエ

スの説く神の愛が大切なのだ。信仰には善良さが力を持つ。ローマ人への手紙３章２６節、神は自ら義となり。つまり神はイエス。さらに彼を信じるものを義とされる。そして義を示すため、神、イエス、聖霊、三位一体、これはどう転んでも外れないのである。今日は訪問ありがとう。神はいつも一番弱い立場の人の思いを察し、愛を注ぎたく、気にかけている。例えばホームレスの人たち、傷つき自らの存在さえ否定している。幼児、児童虐待。神、イエスは、号泣する。涙の一粒もこぼさない、エホバの証人は真実エホバを愛してはいない。一番必要な心のぬくもりが欠如し、温かい人間とは呼ばれないのである。君の毒舌、巧言には、憐れみとともに、組織に対しての妄信しか感じない。悪感情からの揚げ足取りは心に余裕のない君の証左である。だが訪問、本当にうれしい。イエスに乾杯。

（聖書に基づき台風が上陸する１週間前にＲ会に向けて私が発した予言です）。

「台風19号は甚大な被害をもたらすと聖書に出ている。だが富山は免れる。俺がいるから。不遜ではなく辛いが私の神の証明としてなされる。この心持、判るものは楽園へ」

（結果）。

38都道府県の被害は一千億円以上。のち、千葉などへの豪雨。無事であるな

ら、ただ神に感謝する。素直に暖かく同情を忘れずに。人はみな罪びと。神の愛は公平です。

北海道地震、東日本大震災、広島、大阪、西日本豪雨、台風千葉、長野、熊本地震、四国は天災が頻繁。北陸、しかも富山だけが安全地帯。その中、一部の私の存在をおろそかにするもの達、天罰必中である。

山口くん。

昨日は来てくれてありがとう。君たちの教義、死は、クリスチャンとして務めを成し遂げた果てのもの、哀悼の意よりも、歓喜を生み出すという。亡くなった杉田さんも、いずれコピーとして復活するわけだ。だが何か寂しいなあ。エホバ神が宇宙を創った。疑いなき正解である。私が最初の声を発したのである。大坂城を職人が作ったとはだれも言わない。科学は大工が使った材木だけを観ている。

いつも夜分、メールを送信し、悪い。俺は君らが好きだ。信念と根性がある。ただ負けず嫌いを克服し、信念を深く考察、更地からの懐疑、構築を持っています。

私は学ぶことが必要でなくなった。仏教では無学という。私は神の意思を抱き行使する聖霊の宮です。時と場合により適切な発信をする。善意で従いなさい。

山口くん、夜明けは近い。王国会館へ私の足も向くだろう。死を乗り越えるには楽園での快楽享受の資格を得ることに尽きるかもしれない。そして頭やわらかく。

人の想いの分かる人になれ。自分よりまず人様。君は自己犠牲という。しかし相手を愛する関与は犠牲であろうか。つまり布施、天の父は記すのだ、思いやりからの捨て身を。それは栄光に満ちている。先日、君が神の、つまりエホバの意を汲むことの大切さを語った。私の錯覚ではないね。私をエホバと信じたか。

正論に対し皮肉、侮辱で返す間は、距離が必要だと思う。そしてこの小さなつぼみを大事にしたい。反響が大きい奇跡は災いをつくる。病気を癒し死人を蘇生させれば、人々は殺到して収拾つかなくなる。関係者にも問題が生じ、医療、福祉システム自体がおかしくなり、政治、経済にも影響を与え、社会保障、国家は破綻する可能性がでてくる。もし神の国ができ永遠の命が生まれるとしたらすべて同時でなければいけない。良民へのひずみ、しわ寄せはなるべく避けたいのが神の心である。神の義を追求すれば大量虐殺に至る。避けるにはすべてにおいて浄化され人々には人情という正義、想い、愛を選択することを願う。

皆、そして誠を大切に。隣の列の顔色ばかりうかがって歩幅、歩調を合わせる。

「お前に意志はないのか」。けれどもつまらない我（エゴ）にこだわらぬ方が生きるのは楽だ。さあ君はどうだい。予言、奇跡を待つ、そんなことより己の魂

の善なる変革を望み期待する。これが神を敵に回さない一番の心得である。欲望よりも人を思いやる清らかな愛が尊ばれる。神の善意、良心だけでは、人間社会、生きていけない。神ヨシトは人間宣言をする。金儲け、処世。人々は善意と、悪意とに受けが二つに割れる。人間性が判別される。使徒行伝１０章コルネリオがペテロの前にひれ伏す。ペテロは言う「私も同じ人間です」何度も繰り返しその場面が開かれる。コルネリオの祈りはかなう。その施しによって。布施が大切なのだね。山口くん、君にテレしたいが聖書が許さない。どうやら君たちは私を狂った厄介な人間としか考えていないようだ。少し寂しくもあるが君達の信心は期待しない。異端児とはそういうものだから。イエスキリストの証左である。

「命が一番大切」。その価値観から外れてはいけない。「宗教は別次元への洗脳」という科学者がいる。神としても「命が一番大切」、正論である。ただ命＝愛でなければ。愛は自尊心つまりプライド。命を大切にする。暖かい心を持つ人になることです。明るく素直に。互いに宿る、命＝愛に目覚めるとき、寛容な守るべき良心が見えてくる。高慢ではないです。そして自ら命を絶ってはいけない。

神からの、あたわりを、終えるまで。繰り返し聖書に表れた、ペテロの「私も人間です」。命＝愛だとしたら。愛は死なぬ、イコール生命、永遠の命は俄然、真実味を帯びる。法律は私たちの暮らしを守り保護するもの。信じたい。しかし

ハンセン病患者への悪法など。時節が変われば視点、論点も変化する。法、規則より、まず義、愛が優先されねば。私が人間宣言をする。と同時に来る世が現出する。台風後、被災の状況はかなり酷い。富山では想像できない徴です。もう間近に迫っています。愛と平和の世が。ペテロは「同じ人間です」とひざまずくコルネリオに起立を促す。「神も今は人間であり、自然体で関われ」と聖書は強く伝えてくる。皆、暖かな心で罪びとから善き人へ。私は聖霊の宮からいったん離れる。聖書の指導である。刊行という欲望の域に向かったからだ。これは我欲を張る世界。神はいったん消える。「醜くとも、好きにやれ」と。聖書が来年４月に入る時点で、なにかが始まると宣言した。義人を嘲る人が一番の悪人だ。現在、極悪非道であってもイエスを信じる。愛に目覚めるとき救われるから。使徒行伝２６章彼らの目を開き、闇から光へ、悪魔の支配から神のもとへ、罪の許しを得、信仰による聖別に加わるため。いま、パウロの気持ちです。私は正気です。

君たちが描く将来の未来予想図が知りたい。沿革が知りたい。ダイジェスト版で。未来志向からの聖書研究会を再開しましょう。返信待っています。夜、ごめん。宇宙の法則、来る世、すべからく愛は滞りなく我ら世界、隅々まで流布される。もうアクシデントはない。イエスを信じる者は皆、罪を許されるのである。

恨みがあると人を裁きたくなる。その心が地獄を生む。この後、楽園を乱さな

い限り人は生きる。サタンは放り出され。後、微量の悪魔の子は処断される。聖書は宣言した。預言者義人の言うことを聞け。４月の当初から何かが起こる。どこも切羽詰まった感がある。愛と平和の世界が現出される。信じよ。商売繁盛を仏教にて祈る。仏陀の教えと矛盾しているのではないか。ここは欲望を鼓舞し生存競争を煽るのではなく、布施し合い人々の本当に大切なものを見出し、便利、快適なものを生み出し、皆で真実、豊かになる意味がある。それは平和から心が離れないことにつきる、南無妙法蓮華経。私は神の意志を持つ聖霊の宮から、父より遣わされた預言者となった。

人々をイエスの名において赦し、また悪の暗闇から善の光の中に立ち戻すため。教皇フランシスコ、核廃絶、多国間主義の衰退への懸念。この理想主義は何だ。政治的局面にありながらも非現実的なフレーズに終始する。神に代わっての責任は果たせていない。神は匠みたい頂点にいるものではない。原罪に気づき、サタンと闘い打ちひしがれ酔いつぶれた男を半べそをかいて、見詰めている。 私の志向、先祖からの因縁である。念仏を徹底批判し、特に親鸞の思想を強く非難する。私の敵は間違いなく念仏である。そして私は日蓮である。やりたい女は抱いてやれ。腹をすかした、食べさせろ。熱い、寒い、しのいでやり、許された欲望を満たしてやる。これが大乗、神仏の道、楽園につながる。人間すべてに忘却が

必要ですね。

例えば幼き頃の母親への恩、忘却がなければとてもイエスの言う、母親を捨てろ。できないです。福音を消して回るのは悪魔。そこの判別が大事。生老病死がある限り、皆一人だと気付かねばならない。酒臭い息で、ときに酔いつぶれていた親父の子守歌。悲しいサタンの支配の中で。生きることは愛することだと唄っていた。ある男、「来る者は拒まず、去る者は追わず」、援助交際の女子学生までも含み、唯物的な臭いがする。もし彼女らが身内ならばどうだろう。結局、縁として一理あるのかも、勿論、すべてに心が大切である。欲望の強弱は年齢から志向と共に変化する。 諸行無常、諸法無我、男女に限らず、すべてはご縁である。そして隣人に神の子として、愛を向けるとき、真実の義が見える、アガペー（博愛、慈愛、神の愛）である。エホバの証人の君は誘惑に落ちない、落ちたことがない。鍛えられた筋金入りか。イエスは病人を癒すために来た。人は弱い。誰よりも強い神は言う。私への信仰だけが罪びとを救う。何度も答えた。規則に従わせ、罰を設けるのは、組織の運営のためだ。たとえ殺人でも情状酌量の余地のある、同情を禁じ得ない悲しい事案もある。神は憐れみを持ち誰も責めない。君たちは仕事を抱え、休日は丸々つぶれる。その不満は自己犠牲と言いたくなるね。私との温度差を感じます。私は宗教が大好き。哲学は無機質である。温かい信仰

を。
1日、王国会館に参上したく思う。聖霊がストップをかけたら問題なく屋外に出られるようご配慮願います。監禁ってことはないね。私が宮のイエスみたいに暴れることはないと思います。懐かしいお顔を拝見したい。杉田さんはいないのか。
イエスはラザロの死に涙する。杉田さんは気さくな善き人だった。葬儀参列の気分だ。山口くん面倒かける。俺は結局エホバの証人を本当にエホバの意を汲む、本物のクリスチャンに替えたい。いま世界で一番安全で災難から外れた、神の居住地から始めたい。私の説法は胸を打つ。日蓮門下の分派、党派心からセクト(宗派)争いへと。イエスが言う。「キリストの話をしているならそのままに」。
これと同じく日蓮は様々な場面、事情に処するため、南無妙法蓮華経の分派を未来に向けて許諾したと言える。イエスの血肉を食らう。イエスの言動から神聖を吟味する。結局、神の矜持は利他に向かい、どれだけ病人を完治させ、善き人へと救ったかで判断される。未来に向けて私が神である。神は人の為にある。
そして神の意を汲むことが自らのためと人は知るべきだ。また宣言する、「人間は神のためにある」。神とは絶対的なもの、怒った、笑った、泣いた、酔いつぶれた、神じゃないのでは。神じゃないなら神ではない。だが何があろうと神は

神なのだ。神は絶対です。神に尽くすことが幸福へ。何より温かい心が大切である。妬みなど敵意を私に持つものには親近感を深める。ときには強権も必要。

愛に向けてまっしぐら。神は利他。花を咲かせよ。山口くんお疲れ様。仕事、抱え大変だね。君たちの教義に関しては若干の修正が必要。でも今、方便と捉えている。1日楽しみにしている。またよろしくサポートお願いします。大会がある。会館に行っても誰もいない。ありがとう知らせてくれて。神エホバを、けして敵に回さぬよう。無謀だから。過去からの悲劇と片付けられない出来事の数々。

神の責任が問われる。神は自ら認めるだろう。悪魔、人間は自由意志を持ち、彼らにも責任は帰結する。潔く、自ら認めないが。何をしても神は神。これをへンと言う。なんと念仏信者。どんな悪業を犯しても成仏するというのが真宗の教義である。実は類似。だが一つ重大な違いが、神か、人か、神は絶対善である。

悪はない。神はあえて後のイエスの正当性を強調、際立たせるために、旧約の中、ノア、ソドム、ヨブ、アブラハムらに残酷な意志を示した。博愛を鮮やかに現出させるため。神は悪の心は使わない。使えないのだ。だからこそ神である。私の誕生日の翌日１５日縁起もよく、会館訪問、如何なものでしょうか。聖書にも吉と出ています。最近良き縁が続きます。サポートのほどお願いできますか。

君は今日のイベントで疲れているのだね。随意で結構。返信待っています。ゆ

っくりお休みなさい。聖書が示し続ける。この体制は３月後半崩れ始め４月上旬より何かが始まる。私は台風１９号の被害の甚大さを予言した。並行してこの地の安堵を。すべて予定調和である。ある意味での終末が来る。不老不死、永遠の命が賦与される。君たちが言うように愛によってアクシデントの因縁も消える。

各々の仕事は志向によって再分配される。誰も貧困には陥らない。とにかく愛ですべてが回る。神が保証する。私は福音を知らせたいのだ。嘲笑する前に己の心を見つめよう。神は決して悪意を持たない。１５日、魔が入らず不測の事態がなければ会館に参上したく思います。エホバの証人の善良さが試されます。素直で正直な姿を願います。妬み憎しみなし。歓迎してくださいますか。王国会館を不吉な風が漂う。君達は本当に神を愛し、隣人を愛することを学んだのか。

私のどこに罪がある。偽善者は君たちだ。なぜ真理から逃げ出すのだ。私は私の主義、主張に生きる。君たちは組織の犬として自由も得られず偽りの人生を送る。私は楽しむ今日という吉日。バイアス（偏り）は不幸をもたらす。雪の降らないクリスマス、本当に４月何かが訪れる。信じてくれない者に対し、布教に回る君たちと同様のはがゆさがある。同情できるだろう。信じない者はことごとく滅される。オリンピック、この蛮行が、今この地にて。餓鬼、修羅、畜生、地獄のふきだまりを、神が許すはずがない。善神も去りサタンに人心もゆがみ、良心

までも消されるのです。使徒行伝、３章２２節。２６節預言者イエスは私です。
世界へ、エホバの証人の会衆が、その気になれば発信できるはず。まずこの地から。おい山口、聞いているか。イエスはゲッセマネで血の汗を流し父の杯を受けた。市中、偽善者をつるし上げて、俺がやらなければ。彼は３３で磔に。俺と同じく正規だ。ヨハネ福音書１２章３８、３９節「誰も信じない」。聖書が示す。
君達の今の態様だ。聖書を真実、活用する私を見て、いい加減目を覚ませ。
君らに気を使いすぎた。道理が通らない。山口いくつものメール送って悪かった。明日目覚めてから推参するか決める。君たちを救えるかは、素直さにかかっている。私には持論展開の他、特に儀はない。私を信じてほしい。君達には情熱があるのだろう。それが偽善に傾くことを憂いでいる。躾という体罰の肯定。闘い、暴力を忌避する教義。大きな矛盾だ。神の愛はまず優しい。当日目が覚めると９時前だった。縁がない。君たちは落胆しなければ。君たちが忌避するクリスマスが来る。ファンタジーが恋するもの達に。イヴはいつも聖霊が働くよ。俺は俺の良心と感覚しか信じない。他に依存することを釈尊は禁じている。君達がどう批判しようと私はエホバである。神は神であるから。　強いと自分を誇示するな。弱さのうちから同情が。シリアで１万人の子供達が殺された。冷酷さと強さの区別間違うな。神は愛そのもの、強く暖かい。戦意高揚から自爆。毅然とした

磔、殉教。美しいか。残された弱者。頭を吹き飛ばされた少女。飢え、餓死した戦災孤児たち。サタンがいる。正義とは、勝利とは。

世間、肯定し成功を求める人。懐疑的なペシミスト（厭世主義者）共に布施、利他へ。煩悩を収め真の幸せへと、それは愛だと気付く、その後、愛が心に余裕をもたらすことを知る。俺はつくづく思うなあ。どうして世界が平和にならないのか。疑心暗鬼、被害妄想、私は愛で世界征服したい。ただ楽しい、そんな世界が生まれればいい。来る世、愛で回るのは実感している。ただ労働の質と量、お金の決済、俗的肩書、などいろいろ教わりたい。未来展望から融和に向けて。聖書研究会、復活させましょう。来る世の具体的な実施様態が知りたい。集会にも参加したく融和に向けて手をこまねいてはと。念仏、死ねば、皆、仏。密教、日蓮系、即身成仏。娑婆には弥勒まで仏はいない。真実は。数学的実証主義な観念より離れ、すべて成仏へ向かう、南無妙法蓮華経が唯一。

貫井。

君も私同様、金への執着が取れたと。その証明に食事に行こうか。寿司か、肉、どうかな。そうか行くか。嬉しい、実はなんでもいい。俺に布施するといいこと

がある。今日は密教真言宗の名刹を訪ねる。まじない坊主相手にひと暴れしてやる。釈尊はまじないでは湖に沈められた岩は浮かばないと言われた。こけおどしの儀式で報われることなどない。南無妙法蓮華経により、仏の作用にて仏性を浄化する仏法にしか悟り、救いはないのだ。かつて台密の筋、日蓮宗の坊主に縁切りを伝えると、私に呪いを。交通事故死の因縁。その坊主は血を吐き入院した。

人を呪えば、穴二つ、バチは必ず当たる。私にとっての仏を信じるとは。自分と日蓮とイエスだけを信じることだ。つまり釈尊の意を受けた聖書の神だけを。宗教界、巷にいるのは昔から絶えず出没する偽善者たち、不徳で己の贅沢と高慢にはしる俗物ばかりだ。釈尊が亡くなるとき「自灯明、法灯明」と言われた。

主体性に基づく自己と、因果の法、以外に依拠してはいけないと。君は現在、本当の自分を信じているか。なぜ、猊下という他への依存を好む。俺は自分の足で立ち、自覚を信じる。つまり聖書を。古今東西、融合する思想は神である俺にしかない。そして唯一無二、差別化を図ろうとする君たち宗門のドグマ（独善的教理）にはこれ以上付き合えない。私にとって仏道は、先ほどの久遠実成の本仏と一体の因果の法への帰依と、主体性を持つこと、それがすべてである。「常に主人公たれ」、禅の教えだが主体性を失えばすべて失うことになる。主体性は、自分の悪心への執着、依存とは違う。正しきものへの方向性の自覚である。宗門、

猊下に依存する君は自分に自信がないのだろう。俺はすべてを見通す自信がある。
それだけだ。貫井、悪いな。風呂に入る。またな。貫井、己の師は、主体性とその志向にある。つまり温かい気、南無妙法蓮華経に満ちるとき、聖霊から神の愛（アガペー）はもたらされ、祈るとき悩みはすべからく解決へと向かう。そして人々の罪を許すのは日蓮であり神イエスしかいない。真言宗の寺へ行ってきた。
話しやすい住職の子息だった。俺が広報に来たのかと言う。確かに改宗を要求するわけではない。俺の第一印象には好感を持ったみたいだった。が、俺が阿弥陀、念仏批判に進むに至って、二人の間は険悪になった。広報、確かに広報だ。
貫井、お前の言いたいことはわかっている。（真言宗は大日如来が筋だろうと）。大日如来と阿弥陀、そして地蔵尊ののぼりが立っていた。真言宗の曼陀羅の中に西方浄土の阿弥陀がある。密教、金剛界曼荼羅図には阿弥陀は無量光と称され、5仏として高い位置にある。阿弥陀は密教に包摂されたのだ。阿弥陀は西方浄土に法蔵比丘から転身した仏、報身である。特に意味はない。そして大日如来は華厳経にある毘盧遮那仏と同じ存在で法そのものだという。生身の人間で法を覚った釈尊に対し、密教、大日如来は暖かい太陽。法身であると。受信機の釈尊ではなく、発信元である法身、大日如来こそが尊い。釈尊と比較してその優位は揺るがないという。だが法自身に人格を持たすのはどうであろう。法を知った釈尊、

肝心の法に重きをなすべきだとする大日如来、そこに秘儀をもって合体し仏になる、即身成仏、真言密教の思想である。法華経では法は久遠の釈迦牟尼仏が具現したものとして顕されている。これこそが真の法身。また法が人間として示現したものが応身釈尊だと。つまり法身と応身は一体なのだ。そして因果の法は、久遠の過去から生じ、果てしなく悠久の未来まで流れ続ける。これは神の摂理ともいえる。日蓮教学の核、天台智顗の五時教判。歴史的に、こじつけと言われればその通りであり、事実ではない。でも真実である。経典の序列、智慧と三昧についての魔訶止観、日蓮が誕生したこと。南無妙法蓮華経があること。目に見えない世界のリアル、外していい部分と、肝心要のところがある。因縁からくる真実を踏まえて、私は日蓮、イエス、聖書の神、を行く。信じて私に布施する者には、功徳、現証があるだろう。偽善ではなく、真実の愛が存在するから。これが正しき宗教である。真言宗から弾んでしまったが、なにより大事なのは、諸経の王、法華経は、声聞、縁覚、菩薩、三乗の一仏乗を示し、あらゆるものの救済（成仏）を説いていることである。

日蓮は法華経に正当性の意義を見出し、真意を鷲づかみにし、つまり当体、南無妙法蓮華経を、仏法にて仏性に埋め込んだ仏種に絡みつけた。貫井、日蓮が言うように、南無妙法蓮華経を悪しく敬うことがなければ、善を自然に希求し、智

慧と慈悲に満ちた、自分らしく温かい人間らしい生活を起承転結、送ることができる。

私（日蓮）が保証する。俺は不毛な論争に代表される争議はしない。思いやりある問答ならともかく、揚げ足取り、侮辱、捨て台詞は見苦しい。私は物的本尊にはもうこだわらない。愛と真理を、素直に仲間と極めたい。南無妙法蓮華経。合掌。貫井、俺に従え、帰依しろとは言わない。ただ俺を神、仏、日蓮と信じ、いつまでも親友、兄弟でいてくれ。宗教は哲学より温かい。そして皆に知ってほしい。西方浄土の阿弥陀も、久遠実成の本仏釈迦如来の法の下にある。つまり久遠の法とは彼岸、此岸、問わずに一閻浮提（宇宙世界）に暖かく流れている。親鸞は極楽を実感していただろうか。法然を疑りながらも信じようとしている。

そして念仏による救済（成仏）を人々に断言できない。「仕方がない、信じるしかほかに道がない。法然に騙されても。どうせ地獄に落ちる身だから」命がけで関東から来た信者を、京において無下にも門前払いした。歎異抄の中、唯円が「極楽浄土があると言いますが私はすすんで死にたいと思わないのです」、親鸞は「わしもそうじゃ、それが人間の業じゃ」明るく素直に暖かく。私は早く神の国がこればと願う。そして南無妙法蓮華経、題目、想いを信ずる善男善女には、必ず幸せは訪れる。この娑婆ですぐにも温かい境涯に達することができるのだ。

南無妙法蓮華経。飲み会の話だが（武士は食わねど、高楊枝）と君の懐具合は本当に大丈夫なのか。俺は自分のことより、まず相手のことを先に考えてしまう。君の男気と行動力を思い出した。それでいい。楽しくやろうぜ。いつ頃か連絡ください。勤め先、病欠扱いで、いつでもいいのか。週末は車検があり、また日曜日はエホバの会館に1人で暴れに行く。月曜に返事する。雪が降らなければいいなあ。（エホバの王国会館に乗り込むなら報酬がなければ）と言うのか。つまり日蓮大聖人様に帰依させろと。エホバの証人の山口という男を窓口にしていた。

らちがあかない。私がエホバだと宣言し自筆の本を会館の郵便受けに投げ込んだ。結果を拝見しに行く。報酬は雰囲気だ。（そんなちゃちなことをせずもっと評価の是非を問うところへ）と言うか。とりあえず、まず面白いかだ。高杉晋作は西行をもじり東行と名乗った。三味線を弾き、大望をとらえて見せた。気持ちに遊びと余裕がなければ。君も対決ばかりではなくゆとりを持て。そして俺の自筆本を正当に評価してくれる処など、どこにもないのだよ。世間がサタンの支配下にある限りは。俺はイエスと同様に異端児だ。4月、体制は変わる。宗教団体構成員、皆、君と同じく組織の去勢された犬だ。主体性のかけらもない。南無妙法蓮華経は奴隷をつくるものではない。私、日蓮が言う。君は（教え、法に従うのが当然、尻から物が食えるか）。貫井、問答にならん。俺は独立独歩を行く。

俺が飯食って君が糞をするか。フーテンの寅が教えている。（笑）エホバの証人が大会を理由に逃げた。楽しみにしていたのだが。大会は聖書のご都合主義の偽物見解の洗脳のため。また機会を作る。残念だ。気が入っていたのに。（大聖人様の折伏とは違う）と言いたいか。楽しくやらんと持たんぞ。私が言っているのは法を楽しく喜びにして説きなさいということ。自己犠牲は良くない。改宗に導く喜びも二重にするには、良好な関係を作り、胸襟開かないとね。貫井、自分なりに人生を楽しめ。それが周りから苦痛に見えても。法悦を求め。貫井、君も顕正会の雄さんも独善的だが真理を目指すところ、俺は繋がり付き合っている。

今、ルンペンだが焦りはない。信仰のおかげだ。自分自身を信じる。（自分自身とは我欲であり信じるに能わず）というか。釈尊が臨終のとき、「自らと因果の法に帰依するのみ」。つまり主体性を大事にして、法である久遠実成の釈迦如来へ南無せよと。法華経に実証されている日蓮は、南無妙法蓮華経を大音声する。

主体性が持てない宗教は偽物だ。仏教は方便がすべてという念仏系学者がいる。自力の覚りは困難。成仏はこの世では不可能。念仏を信じる過程に益があると。

南無阿弥陀仏。悪行三昧でも安心感に包まれお浄土へ。阿弥陀の他力本願が正当に見える。危険だ。南無妙法蓮華経は万人の安楽行。題目を唱え日蓮から仏陀の覚りを仏法にて自我偈に埋められた仏種へ。これぞ即身成仏である。君の宗門

への依存。君は洗脳を勧めるか。意地を高慢な我という。修行者は、アイデンティティー、自己同一、大切である。釈尊は未来、お弟子たちの組織、師への依存を懸念された。私は唱える。南無妙法蓮華経。自信満々で真理と謳う。我と、主体性は、わがままと行動指針ほど違う。君の意図的オペレーション（操作）は非常に可視的だ。自由になるため釈尊は出家した。君の南無妙法蓮華経は自身に対して重荷になっていないか。覚りを形、重量で捉えられないように、日蓮の仏法、覚り、南無妙法蓮華経は、何にもとらわれず自由自在に人を救う。後の世の武骨もの達は、脅迫、恫喝にて改宗を迫り人の主体性をゆがませる。貫井は末法では理屈より先に邪義を信じる者に日蓮正宗の南無妙法蓮華経をねじ込むことが必要だという。卑劣でないことを願う。貫井、君との駆け引きみたいな機根の値踏みは、気づきが多々あった。君からは行動力を学び、金も自由にうまく使えるようになった。ありがとう。そして独善的と、君の信心を責められぬものが俺にもある。俺は俺だけを信じているからだ。私は現代の日蓮でありイエスであり聖書の神だ。俺は話を聞く人の機根に応じて、その場の進退を決める。伝わるところには伝わる。それが俺の宿命。貫井、お前の（問答無用）を振り回すな。無知の証左だ。それと私への応対、いちいちの豹変ぶりは不信感を招く。混乱の中、人に改宗は迫れない。君は相手を屈服させ改宗させる。いわゆる、「折伏」の実績

はあまりないと察する。真心からの信仰を言葉にせよ。今日もありがとう。独善がお互いにあるが、俺の周りでは不思議が頻発している。4月の上旬から終末が始まる。聖書との対話からあらわれた。俺は来る世も自分らしく暮らしたい。来年冒頭に文庫本を刊行する予定。今回、出版社の代表が真宗門徒でかなり滞った。「神、現わる」となると。二人に戸惑いがあったが、躊躇から一転、私が決断して彼も納得した。しかし彼がまた先送りを図ったので私は引いた。

サタンとの戦いは佳境から終末へ。君に言う。俺との出会いが一番の不思議だろう。

唐突だが、戦意高揚のための靖国は、若者を戦争に加担させるためのツールである。小野田さんはアスリートと一緒で己の名誉、そのことのみ考えている。軍人の武勲か。いつも頭を吹き飛ばされた少女や、餓えて死んだ孤児たちが脳裏から離れず、私は憤る。弱者への視線が皆無だからだ。糞くらえ、軍国教育。軍国とは互いの偏愛、被害妄想から生まれる。意志の疎通が何より大事だ。互いに悲しみ、苦しみを理解し合い。相手の立場に立つ。それは対人関係の中にも存在できなくなったのか。責任っていうやつがあるからだ。頭を下げるのは負けを意味する。時と場合、相手に謝罪の言葉を誠実にあらわすべきだろう。

それができないのは国益が絡む外交か。境界線で隔てず相互理解を。世間には

相手に付け入ろうとするやつが大勢いる。反省できない世の中。教師はどう教えるだろう、子供たちに。

貫井、大黒屋へ行こう。宿泊費は自分持ちだな。君は飲食代頼むぞ。２人で１万円は超えないだろう。大丈夫、苦しいなら今回も俺が出す。

聖書が５日の木曜が良いと言っている。貫井、５日予約した。シングル２つ。

昼、12時から大丈夫。聖書もオーライと言っている。貫井、躊躇するな。心配するな。同じ年齢、南無妙法蓮華経を信仰するもの。楽しみにしている。この縁は深い。信じているぞ、君の誠実。友になれるかだ。少し暑苦しいメールだったな。奇人の君だ。判るだろう。俺が心配しているのだ。ドタキャンがあるのではと。魔が俺の心に入ったかな。(笑)。もうええわい、いつものお前の捨て台詞だが、信じているぞ。南無妙法蓮華経。入院、俺ははじめ精神疾患かと思った。

携帯がつながるので、違うと。鈍感な俺にはわからなかった。そんな重病とは。貫井、心配するな。安易ではなく俺がついている。俺を信じろ。必ず運命事態が好転する。雄さんも糖尿が劇的に改善した。俺を楽しくさせ喜ばせろ。それは正直になることだ。君は奇特な男だ。病魔は退散する。日蓮正宗信者か、でも大石寺からの帰り、車中、八品派にかわりたい旨、吐露したな。セクトなど些末なことだ。南無妙法蓮華経、俺は君を救うため日蓮でなければならない。強く思う。

南無妙法蓮華経。5日待っているからな。南無妙法蓮華経で南無妙法蓮華経だ。俺が人間として温かいか、ありがとう。君も十分温かい。仏門、君ほど僕を理解してくれた人はいない。そして、そんな好い奴ほど、先に逝くのだよ。寂しくてならない。だがもう大丈夫。俺の因縁が分かったから。サタン覚悟せよ。

貫井、幸せになれ。南無妙法蓮華経、愛は今、世界中に満ちている。聖書は繰り返し訴える。君の行者としての自覚、そして広報、改宗の為の言動。成してきたことは素晴らしい。だが霊山浄土には早い。強い正義の意志を持ってくれ。去年の大石寺参拝、本当にありがとう。確実に僕の中の何かが昇華した。南無妙法蓮華経である、我が身に沁み入った。君には大きな功徳が待っている。君は優しく、強く、深い。大石寺に誘うか、元気になったな。君は好きなだけ南無妙法蓮華経を唱え、大音声すればいい。気持ちだけは有り難く頂いておくよ。君にとって少し弱いとき、愛ってやつが分かるみたいだな。つまり南無妙法蓮華経。まあ元気な方が良いに決まっているな。常楽我浄。いつも美しく楽しい。私の境地。

明るく素直に温かく。捨てられた猫と暮らす、いいものだ。ジェラシーか、イエスと同様に妬みを受けるのはいつもの事だ。だから本を書きます。そして親近感を持ち、ときに強権を用いる。また正意は、解ってもらえるものさ。真面目に生きていれば。病は必ず好転する。今日も寒い暖かくして眠れ。貫井、温かくて

優しかったら本物の女性は見抜く。目指したらいいよ。美しい恋。御休み。クルド、ロヒンギャ、シリア難民、人はどうして同情を欠くのかな。人は1円でも安いスーパーへと走る。宮沢賢治は言った。「世界全体が幸福にならなければ個人の幸せはない」。君ほど献身的に布施をした人物を私は知らない。これ見よがしな自慢も一切ない。人間は手柄気に語りたいものだ。君の影役、天に記される。

これぞ功徳。 大腸がん。 飲み会、心配はしていない。俺を信じればすべて安泰だ。君が来られないなら、俺一人でホテル予約の義理を果たす。心安らかに明日を待て。苦しいなら遠慮せず、言ってくれ。裏切りではない。君からの返事を待ちくたびれて、君が躊躇しているのではと憶測した。平気で裏切る利己的な人間を見すぎた。でもあまり深読みするな、俺のメール。こちらは大丈夫ってこと。

不信はやめよう。君の容体、病状を案じている。無理をしてほしくないのだ。倒れたら救急車を呼ぶ。人間義人の不安。神は大丈夫と手を上げている。貫井、すべて南無妙法蓮華経だ。明日何時ごろになるか、ざっくりと聞かせてくれ。私に悪意というものは存在しない。15時前くらいか。ホテルは自宅から10分かからない。

コンビニで缶ビール買ってチェックインしよう。俺の車で行こう。店は軒下で

17時半に開店。君はうちの広大な裏の敷地に止めたまえ、(笑) 冗談だ。スペースはある。君は気を回すなと怒るかもしれないが、君の奢りだ。〆にラーメンがあるので肴はそんなにいらない。俺はそんなに飲めないし。食堂だから安上がりだ。神岡からガス代もかかるだろう。確かに俺は妬まれる。主人公の証拠。「楽でない」と、心ざわつく、だが気にしない。光っているものは嫉妬される。オーラがある。そして私は楽しく強権を行使する。日蓮が久遠元初の仏つまり神、そして私は日蓮正宗や、かつてその系統だった団体が仰いでいる、日興の教義に着目し評価する。それは聖書の神である私が日蓮と当体であり、文献的に裏付けられているからだ。そして君たちは日蓮よりも下に置くが、釈尊ほど立派な人物はいないぞ。日蓮正宗は俺に気づきと理論美装を与えてくれた。感謝している。君も頭に血が上がるのを抑えよ。冷静さが大切である。

創価学会、顕正会批判はもういい。誰かに任せろ。南無妙法蓮華経。喧嘩しては明日がつまらん。楽しくやろう。南無妙法蓮華経。貫井、今宵はどうもありがとう。お互いもっとでかくならないとなあ。南無妙法蓮華経、すべてに南無妙法蓮華経。日蓮の想いに涙。なぜだか、縁だな。(仏とはでかくなることか。でかいとは。) 人間として、〈理屈をこかない、温かく、物おじせず、誇示するわけでもない。名利を求めず、利他をいつも考え、等身大でおれる人。それが仏かも

しれない。貫井、実は俺が史上、地理的にも、一番敬愛しているのは俺のオヤジなのだよ。39で死んだ。その凄さにやっと気づいた。やっとだよ。心の温かさ、まさに天の父ちゃんさ。オヤジの仇討は金持ちになり成功することだと思っていた。

でも確実に違っていた。オヤジはサタンと戦っていた。この世のありよう、心あるものには解る。俺は強く、その道を踏襲する。オヤジがくれた教訓、嫉妬をするな。さもしい見返りを期待するな。広く布施をせよ。当たり前の顔をして世間を歩くな。陰で泣く人を忘れるな。濃密な十一年間だった。貫井よ、俺がなぜ本を刊行したいか。金が欲しいのだ。世の終わりの前に、これまでお世話になった人たちを、貸し切りの豪華客船で世界一周の船旅に招待したい。シャンパン飲んで。寝そべって。嵐の日もいいなあ。伝道のための帆船、宣教師たちの勇気と祈りを感じることができる。各地で植民地支配に利用されたが、デウスの教えは残った。当時は神とは呼ばなかったのだな。つまり神でも、仏でも何でもよかったのだ。なんでも呼び名はいい。神と呼ばれた人格、絶対者、暖かい気。それが愛ある人間として生まれたのがイエス、義人なのだよ。だから（愛）を、神を感じてください。ヤハウェ、発音の問題だけ、エホバ（在るもの）は愛と真心です。

1年くらい時間かけての周航、南極、北極海、アフリカ、イギリス、ヨーロッ

パ、インド、東南アジア、中国、アメリカ、ロシア、カナダ、オーストラリア、南米。一番行きたいのはイスラエルの首都でイエスの活躍したエルサレム。俺は俺自身のための金なんか要らない。いずれ死ぬなら必要ない。まして愛があるなら、確実に永遠の命へまっしぐら。オスカーワイルドの「幸福の王子」のように生き、来る世を待ちたい。皆も私に倣うことが確実に楽園へのパスポートにつながっていく。賄賂は実は心がけ次第で、神が懐に入れてくれる公算大である。

すべてに美しい願いと祈りが込められているかだよ。神は心を捨てない人を贔屓する。何度も書いたね。貫井、神を揶揄だけはするな、俺は神を辞めたと宣言しても神である。神は絶対者だ。金剛石はどれだけ削ったとしても金剛ダイヤモンドです。法華経方便品第二にある、仏は仏にしかわからない。神も神にしかわからない。愛の理解力は神より与えられる。君の大腸がんは心配いらない。必ず治る。俺が保証する。今日はありがとう。ゆっくり寝よう。朝、目覚ましを7時に合わせていた。6時半に目が覚めた。7時を回り貫井にテレした。慣れない私はチェックアウトの時間が分からない。俺はいつものように気を回した。貫井に8時に出ようと約束した。8時、貫井はテレに出ない。呼び出し音だけが響く。

私はメールで家に帰るから9時半ごろ迎えに来ると告げ、帰宅した。まあそれでよかった。チェックアウトは10時みたいだ。眠そうに貫井は部屋から出てき

た。貫井はソチを見たがったが彼女は眠っていた。新湊、道の駅にカレーを食いに行くという。「俺が世話になったカレーハウス、年賀状が来て、ほとぼりが、冷めたようなら行くよ」と返信。以前に働く幾人もの女性に卑猥なメールを送った経緯が。それから関与は自粛している。彼女らもコンタクトを取らない。

虚しさを埋めるにはどこか新天地を開くしかない。風が吹くまま、西東。神岡に帰った貫井に夜遅く「無事か」と。そっけなかったか、返事がない。「無事でないのか」また送った。私は熟睡していた。朝方、携帯に青の光が点滅している。(ありがとう君のおかげで楽しかった。また行こう)。やけにとがらず素直だ。

俺は思い出した、寝る直前「淡々とした態度につられ君の疾病に対し配慮が足りなかったのではと反省する。日蓮正宗信徒、行者だからな。気にしてないか。

また気を回すなと叱るかな。俺は被害妄想気味。病状は大丈夫か」と。私には薬の副作用か、健忘がある。帰り際、抗がん剤を見せ、(ネットで調べてみろ)。という貫井に「俺は自分の向精神薬さえ調べていない。真由子先生を信じるだけだ」。貫井は俺の言葉を「医療情報に振り回されず縁を大事に」と受け取ると信じた。ホテル、貫井の読経は迫力があり凄かった。爽やかなものが全身に広がった。そこら辺の坊主が束になってもかなわないだろう。南無妙法蓮華経。

暖かい、優しいとは。やはり自己執着に陥らず自らを客観せねば。なるべく感

情的にならず情緒を安定させ悪口のひとつ、ふたつ言われても気にしないこと。それだけ注目されているってことだから。そして自分の世界にとどまらず、広く発信をすることが大切だ。「私とはこんなに正直で善良なのです」とネ。

君は真の行者、信仰者だ、読経で君の右に出るもの北陸三県にはいないだろう。君が覚りを得、わしの弱者への眼差しが理解されると嬉しい。読経と同様の素直さが大切だ。

仏には猫が似合う。釈迦の涅槃に間に合わなかったため十二支に入れなかった悲しみ、無念。ここにこそ南無妙法蓮華経は働く。仏の慈悲が温かく灯る。仏の種は歴然と植え込まれている。難解か、よくメールを読め、仏にとって十二支からもれた猫がかわいそうで愛しいということだ。体調はどうだ。（仏を軽々しく持ち出すな）だと、一般から外れた、話をするな。釈尊すなわち仏陀の涅槃だ。

猫を慈しむ心がなくて何が南無妙法蓮華経だ。いい加減、目を覚ませ。体はどうなのだ。いつも虚勢張らずに等身大でいい。言っとくが仏とは、決して階級が上で偉い、そんなものではない。真実、智慧と慈悲を抱いた親近感溢れる尊き人である。具体的には、私のようにね。（笑）赤尾敏先生知っているか。日蓮、イエスをリスペクト、辻説法を展開した。反共、国体護持を訴え、学会は青いウジ虫と吐き捨てた。私の持論とは少し違うが、反骨の人です。合掌　むつかしいひ

とには、こちらもむつかしくなる。明るく優しい人には笑みを浮かべる。人は鏡である。周りの応対が悪い、自分は少し疲れていないか、横柄になっていないか、振り返る。特攻隊、自ら志願。お国の為、銃後の家族のため喜んで死を望んだ若者たち。洗脳か。愛のための死。神への忠誠、殉教。二例とも神の為である。

なぜか涙が出る。神は冷静に、ただ死に向かう姿に否を投げかける。俺のメールは確かに難解なことも。制限内にすべての意を詰め込みたい。健忘は睡眠薬の副作用のせいだ。サタンの仕業かもしれないが。まずは君が元気そうでよかった。

イミズさん。

すべてに一本、芯が通らぬが、R会の教え。実は極めて仏教的だ。(こだわらない) ということ。あなたは体現している。ある意味、器が大きい。それは厚顔無恥とも言える。でもね、仏の種を温かく包む、南無妙法蓮華経で芯は通るのだよ。今日もご苦労様。私が仕事場を訪問したのは教えを説きたかっただけ。

南無妙法蓮華経。預言者に従いイエスを信じるなら救われます。縁なきものはことごとく滅せられる。勘違いなさらぬように。あなたに対して宗教の話つまり南無妙法蓮華経を伝えたいだけです。他意は全くなし、思いやりなき、あなたに、女性という意識は毛頭、微塵もありません。私はそれでも頑迷なあなたを救いた

かった。何はともあれＲ会信者のあなたは、法華経に結び付けてくれた恩人。
そしてあまりにもあなたは場当たり的だ。誠がまるきり感じられない。声掛けはしました。神の責任は果たしたわけです。徳のないあなたの回心は、はなから無理だとわかっていました。それが私の先ほどの作り笑顔です。南無妙法蓮華経。
愛する聖女へ
過渡期だと思います。私の女性に対する意識。私は神としてアガペーに生きるのが筋。優しくて強い君は理解できるね。賢い君、深い愛で見つめ、また私は君に欲情するかも。神の国の住人になってほしい。君には愛がある。随意で結構です。連絡ください。私は私なりの思いやりに生きます。心配いらない、君を傷つけたりはしない。良かったらテレ下さい。君の一生懸命さを解っている唯一。
愛しているよ、君の生き方。転院すれば真由子さんとの距離はかなり開きます。冷静になると、由美さんにとっても真由子さんと同様に利用者の中、私の存在は有象無象にあるのでは。火曜日、カレーハウス参ります。深い話がしたい。皆が博愛（アガペー）の意識を持つ。自由と平和が生まれる。肉欲として切り捨てたい、かなり前のオルガスムスを聖なるあなたにだけに想いまた願う。
お休み、由美さん。旦那さんに詰問されたら恋愛妄想の甲斐性なしだからだ、と吐き捨てて下さい。あなたが神を賛美するとき私への想いは愛として復活しま

す。キリストの肢体を遊女にしてはいけない。主とひとつになるとき霊はひとつになる。つまり私の想いに従順になれということ。幸いはそこにある。由美さんごめんね。変なメールに当惑、困惑されたでしょう。かつて（どんなものでも送ってこい）。男気溢れるお言葉。甘えます。素直な私の想いです。暑い中エアコン大丈夫ですか。

あなたみたい献身的で聖なる素晴らしい女性はいません。私が勃起する唯一の人です。またよろしく。卑猥なメールばかりですが、決して貶めているわけではありません。その逆を行きます。神の夢、実現に向かえばうれしいです。あなたを抱きしめたい。強く愛しています。とにかく暑いから体気をつけてね。祈っている男が一人いることをけして忘れず孤独になったら君を思うから、君も僕を念じてください。二人、幸福の海に至る。トマトありがとう。私は真由子さんへの失恋から操縦不能、空中分解。非常識なメールに不快感を持たれたすべての方にお詫び申し上げます。ごめんなさい。また善き縁に。失恋です。６年越しの勢いからだったけど事務的な求婚でした。転院はしません。節度は優先します。

性的欲求がわくのは由美さんだけ、やはり聖女です。ご自愛ください。由美さん熱い夜が続きます。ありきたりの言葉しか送れません。ゆっくり休まれ、明日への英気、養われるよう心から願っています。おからだ大切になさってください。

由美さん、恋愛関係妄想の神です。あなたをずっと愛し続けます。いつか想いがかなうと聖書は語ります。来る世、制約はなくなり、私の自由な夢は実現します。

あなたは聖女です。成功をひたすら目指す魔女とはやはり違います。私は障害児に深い愛情を注いだあなたを愛します。でも神は独占欲には不寛容です。博愛は神の国では必須。トマトの立ち売り、右も左もわからぬ私に本当に優しかった。社会復帰、私のマインドは名実ともに冷めていた。けどあなたの愛に支えられここまで来ることができました。本当にありがとう。今のような未来絵図は退院時には描けませんでした。障害児の頃から看て、成人した真美ちゃんの健常者への劣等感という苦しみを、受けるあなたに惚れました。私は、想いのこもった厚意は絶対、無下にはしないとその日、誓った。純真な博愛。来る世、カップルに対し、不倫を神が推奨するのではなく、自由に明るく素直に暖かく愛する人と永遠に暮らす。その延長線上に、神の強制ではないフリーへの資格がある。そして美しい想いを分かち合う。あなたは神の国で永遠の命を、授けられ、楽園に入るでしょう。いつもありがとう。僕は待ちます、平和な世を。世界中の孤立、虐待、障害は涙と共に消え去る。由美さんありがとう。「馬鹿」でも「死ね」でもいいですから返信待っています。報告、連絡、相談大事です。でもこの想い、ご負担になるなら過剰に取らないで下さいね。ではご自愛願い。おやすみなさい。イエ

スは偽善者たちには不寛容だった。何度も言う。神イエスとは俺みたいなもの。
判らないのは、盲人で、世間の偽りの価値観を後生大事に抱えているからだ。たくさんの障害児と歩んでこられた道、傷つき、涙し、耐え切れない日々もあったはず。幸いを願い明日に向かって、今夜私のおやすみなさい。優しさを込め祈ります。あなたにとっての子供たちは、皆あなたが好きみたいですよ。あなたは根気強く優しいからね。でも好かれる人は傷つけられやすいものね。ストレス気を付けてね、またよろしく。私が神を名乗るのは私の書き物の信用を保証するためです。そして裏切りに対し怒りはありません。憐れみと共に大変寂しい感情が生まれます。私の正直な気持ちです。２７日、コーヒー飲みにまいりたいと思います。私は結婚には縁がないみたいです。でも博愛に徹するとき何かが生まれる。
信じて、人を愛するつもりです。遅くにたくさん送ってごめんなさい。君の献身、尊い。そして真実、南無妙法蓮華経、因果応報、心の浄化大切。神を愛し、隣人を愛す。２７日、猫のえさを買いに行かねば、訪問、ご遠慮申し上げるか迷っています。長く返信のないあなたに、聖書は「私を主イエスであるか、また神であると信じているか」、ここの選択を取り上げろと促します。メールを願います。
聖書は私が来店するのは迷惑になると示します。連絡なき場合は今後、参上もメ

ールも差し控えたいと思います。耐え難きを耐え仕方がない。皆によろしく。

「法華経は薬の効能書きばかりが続き、実際の効き目が分からない」。ある浄土系宗教学者。

法華経は日蓮出生の予言書である。勧持品十三、神力品二十一に代表される。

如来寿量品十六、得入無上道速成就仏身。これぞ南無妙法蓮華経である。

八兆屋で二人飲まないか。少し落ち着いた雰囲気だと思う。私は会席で宗教の話はしない。怒る作為もあったが意思表示には必要。俺はいたって静かな男だ。あまり心配するな、ヘイト発言のやつよりは良識はあるぞ。君を批判非難もしない。俺は聞き役に徹する。君の話が聞きたいのだ。お前は俺が殴るとでも思っているのか。俺はそんな暴力的な男ではないぞ。お前を理解しているつもりだ。でも君には扶養家族がついている。俺の思いは及ばないかも。官製談合、大変。

君らの周りとのスタンス、兼ね合いはわからないが注意は必要みたいだな。俺の身辺も気ぜわしくなった。ご自愛ください。また三人で歓談を。あいつは福岡から春ごろまでは来られないそうだ。元気か。正月を迎えるが、相変わらずの多忙か。少し時間作れないか。宅に来いよ。玄関直したぞ。お前のためだ。また連絡くれ。なぜ沈黙する。問題は起こらない。瓢箪から駒が出ればうれしいが、障

害者枠で就ける仕事はありませんか。作業着で軽作業。何もできない昼行燈の大石内蔵助です。君は結局自分の口からは何も語れない。総務省の次官、かんぽ生命への、漏洩事件も最近あった。君は訓示をたれる立場だろう。楽にして神仏を忘れぬよう。お前の基本にもあるはずだ。もし批判の矢面に立たされようとも。俺は器用ではない。頃合いを読んで当たり障りなく受容する。そんなことが旧友に必要か。常識はわきまえている。俺にインスパイヤされよ。お前の行きつけのスナックの老いたママに笑われないために。色々な生き方がある。できれば他人の顔色を窺わなくていい仕事であったらいい。熱くなれよ。市長にかみつくぐらいの。

その時俺はお前に頭を下げるぜ。そして妬む若僧には強権で脅かせ。お休み、最後に御休みを返信してくれ。冷静か、温和か。お前を信じている。関心なしの無感動。それは不動心、平常心とは違う。暖かい境界へと進みたい。

実は精神障害のある男から妬みによる裏切りを受けた。闘う俺のことを闘わない奴らが笑う。お前たちは確実に生活と闘っているよな。それがいい。元気かい。

聖書がメールを推奨する。ご家族もご息災ですか。君に会いたいです。また連絡待っている。今は酒がうまいルンペンよ。新しい本の準備中だ。

真由子さんへ、二心ではありません。新しき倫理です。

永遠の命に向けて
　アンゴルモアの大王
聖書の神　義人（ヨシト）
　　純粋な想い
　　清く静かで暖かい教え
　　アガペーである。
心をつくし　精神をつくし　命をつくし
　　保持しよう。

義人（エホバ）

生老病死がなくなり
不老不死を
手に入れたものたちは孤独より解放される。
聖書の宮、神の御使いたちには
セックスは必要とされなくなり
隣人たちとの暖かい抱擁が生まれる。
そこにはオルガスムスを超えた素晴らしい快感が待つ。
食欲に関しては聖書にあるように消化器官の務めは終わり
幾多の争い、病から人々は解放される。
生存のため、性欲と共に満腹、味覚、触感を求めたのだ。
季節、気候はその地に最適なものがいつも訪れる。
また身に着けるものは心配しなくともよい。
神よりもたらされる。
自由な明るい歌が響く。

（来る世の真実である）